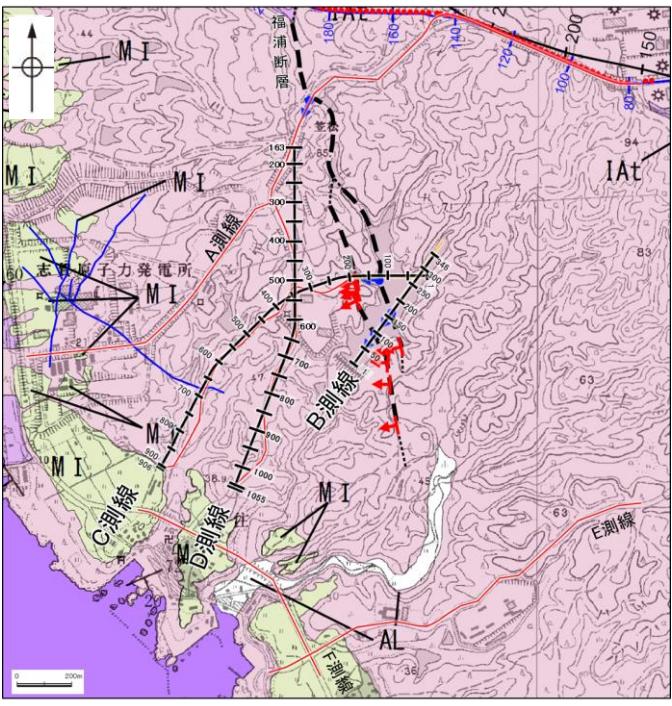
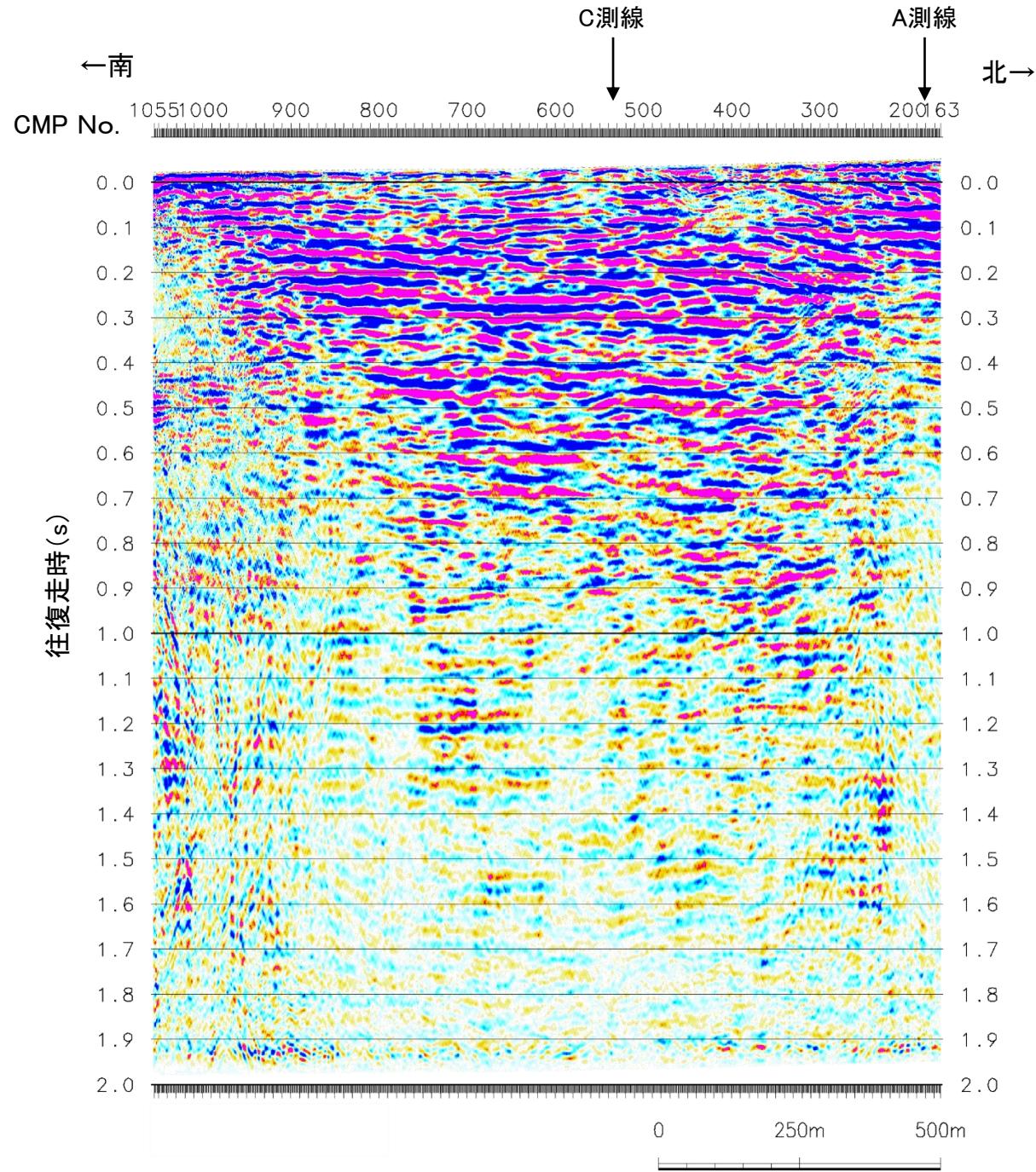


【時間断面(D測線)(マイグレーション前)】



【地質】	
地質時代の名称	地層・岩石名
第四紀	AL 沖積層
更新世	QF 古湖相状地堆積層
中新世	M1 中位段丘I 基堆積層
新第三紀	IAn 別所岳安山岩類 安山岩
	IAt 別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)
	IAt 別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩(凝灰岩)

反射法地震探査測線

- 受振測線(陸域)
- 受振測線(湖内)
- 重合測線(CMP)

【記号】

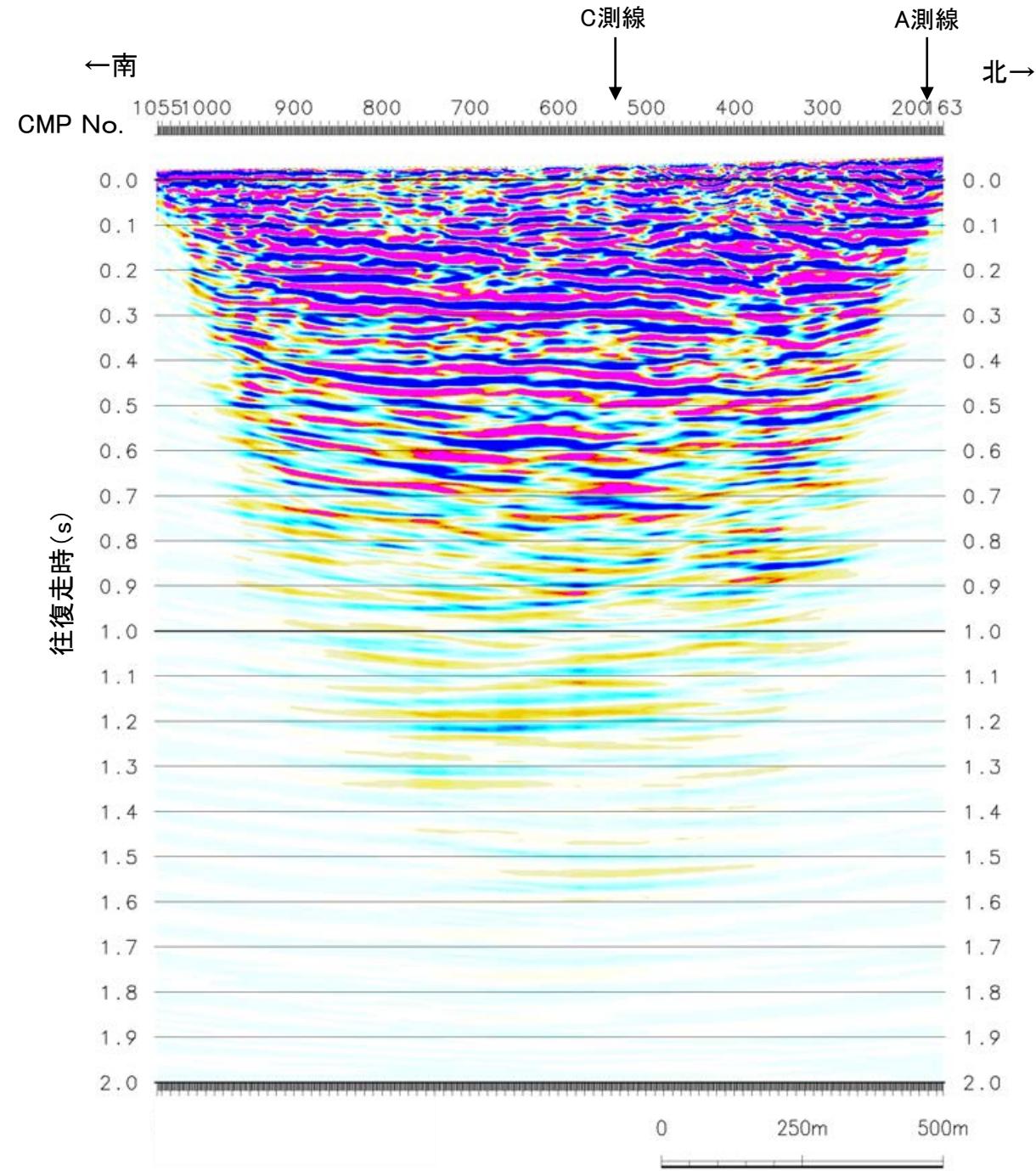
- 地層の走向・傾斜
- 地層境界
- 断層確認位置
- 反射法地震探査での断層確認位置
- 断層位置
- 推定区画

【敷地内断層】

測線位置図

D測線(時間断面 マイグレーション前)

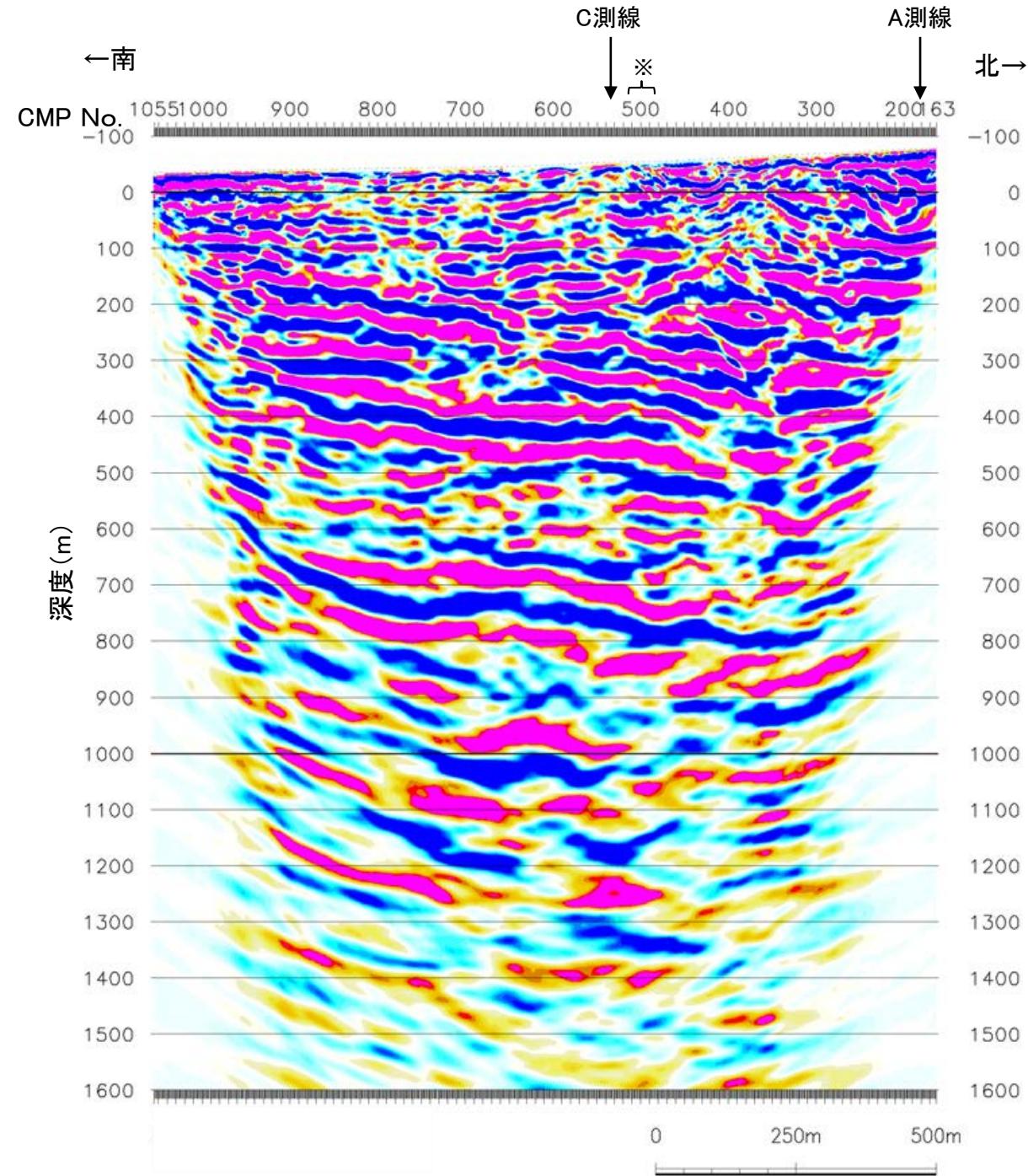
【時間断面(D測線)(マイグレーション後)】



D測線(時間断面 マイグレーション後)

【深度断面(D測線)】

○福浦断層と敷地との間のD測線において、福浦断層から分岐、派生する断層を示すような反射面の系統的な乱れや不連続は認められない。



※ 大坪川ダム右岸北道路法面で認められた
破碎部 (N84° W / 86° NE) (P.79) の延
長位置において、地表付近から深部まで
連続するような断層は認められない。

D測線(深度断面)

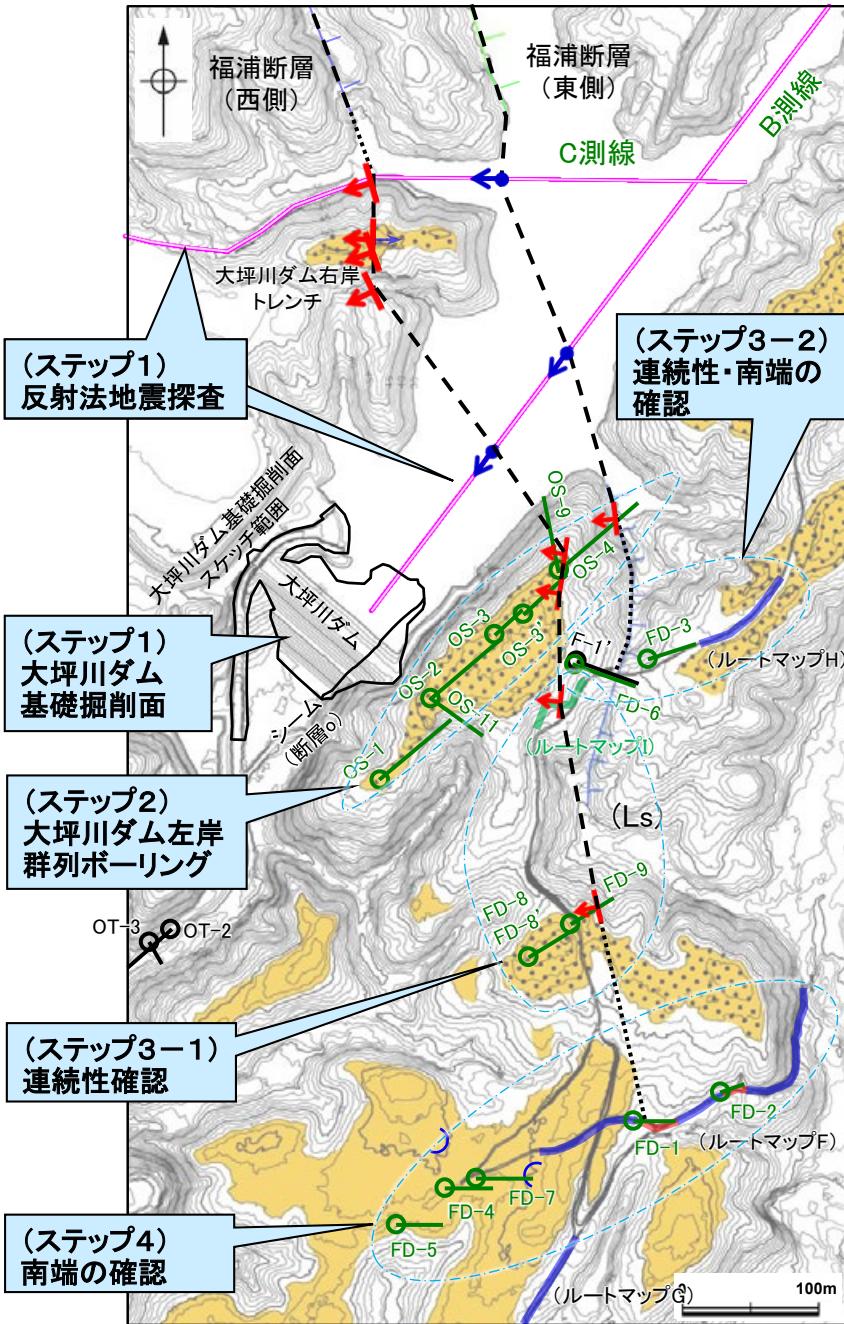
2.2.1 (6) 福浦断層南部の分布 — 追加調査の考え方と評価の流れ —

○福浦断層南部の断層の分布を詳細に確認するために追加調査を行った。追加調査の考え方と評価の流れを以下に示す。

【追加調査の考え方】

- ・大坪川ダム右岸で2条(西側・東側)並走する福浦断層が、ダム湖内～ダム左岸～端部にかけて(北から南に向かって)、どのように連続するのかについて、反射法地震探査、ボーリング調査、表土はぎ調査を組み合わせ、詳細に追跡する。
- ・ボーリング調査、表土はぎ調査における福浦断層南部の認定の考え方は、次頁に示す。
- ・なお、福浦断層に対応する破砕部以外に破砕部が確認された場合は、それらについても連続性等について確認する。

【評価の流れ】



④ : 断層確認位置
 ⑤ : 反射法地震探査での断層確認位置
 --- : 断層位置推定区間

福浦断層南端付近 調査位置図

(ステップ1) 大坪川ダム付近での反射法地震探査(B測線・C測線)及び大坪川ダム基礎掘削面観察 (P.126～134, 252, 253)

- ・大坪川ダム右岸で判読した2本のリニアメント・変動地形に対応する断層(福浦断層(西側)・福浦断層(東側))の連続性を確認するために、大坪川ダム湖内において反射法地震探査(B測線), 湖内・陸域を横断して反射法地震探査(C測線)を実施。
 - ・断層が大坪川下流方向に連続するかどうかを確認するために、大坪川ダム基礎掘削面のデータを確認。
- ⇒大坪川ダム湖内に、高角(約65～80°)で西傾斜する2本の断層が推定される。大坪川ダム基礎掘削面には福浦断層に対応する断層は認められない※1。

※1:大坪川ダム基礎掘削面スケッチにおいて、安山岩と凝灰角礫岩の境界にNE-SW方向のシーム(断層o)を確認した。断層oは、文献調査及び空中写真判読のいずれにおいても抽出されないものの、敷地近傍にあることを考慮して、活動性及び長さの詳細調査、評価を行った(2.2.2項)。

(ステップ2) 大坪川ダム左岸での群列ボーリング調査 (P.140～143, 150, 151)

- ・ステップ1を踏まえると、福浦断層は大坪川下流方向には連続しないことから、福浦断層の連続性を確認するために、大坪川ダム左岸において群列ボーリング調査(OS-1～OS-4孔)を実施。
- ⇒OS-3'孔, OS-2孔で福浦断層(西側), OS-4孔で福浦断層(東側)に対応する破砕部を確認した。

(ステップ3-1) 福浦断層(西側)の連続性確認 (P.152～156)

- ・福浦断層(西側)の連続性を確認するために、断層の延長位置において、追加の表土はぎ調査(ルートマップI), ボーリング調査(FD-8孔, FD-8'孔, FD-9孔)を実施。
- ⇒福浦断層(西側)の延長位置にあたり、福浦断層と走向・傾斜が調和的な破砕部を福浦断層(西側)に対応すると評価。

(ステップ3-2) 福浦断層(東側)の連続性・南端の確認 (P.140, 144～148)

- ・福浦断層(東側)の連続性を確認するために、大坪川ダム左岸で判読したリニアメント・変動地形周辺において、既存のボーリング(F-1'孔)及び表土はぎ調査(ルートマップH)に加えて、追加のボーリング調査(FD-6孔※2, FD-3孔)を実施。
- ⇒福浦断層(東側)に対応する断層は認められない。
 なお、仮に福浦断層(東側)のトレースが西に振れてルートマップIに連続し、その南方の段丘面に認められる鞍部の方向へ連続した場合でも、鞍部付近で実施したボーリング調査(FD-4孔, FD-5孔, FD-7孔)の結果、対応する断層は認められない。

※2:F-1'孔で確認した破砕部が不明瞭であることから、ほぼ同じ位置でボーリングFD-6孔を実施。

(ステップ4) 福浦断層(西側)の南端の確認 (P.186, 187, 199～203, 206～209)

- ・ステップ3-1で福浦断層(西側)に対応すると評価した断層について、南方に位置する既存の表土はぎ調査(ルートマップF)に加えて、その露欠区間において追加のボーリング調査(FD-1孔, FD-2孔), 南西方にある鞍部及び谷地形の位置付近において追加のボーリング調査(FD-4孔, FD-5孔, FD-7孔)を実施し、対応する断層の有無を確認。
 - ・さらに南方延長において反射法地震探査(E測線・F測線)を実施し、断層の有無を確認。
- ⇒福浦断層(西側)の延長位置に、福浦断層に対応する断層は認められない。

ステップ2～4で実施したボーリングにおいて、福浦断層に対応すると評価した破砕部以外にも破砕部を確認している。これらのうち、福浦断層と走向・傾斜が対応する破砕部について、性状の比較、隣接孔等への連続性の検討を行った。その結果、これらの破砕部はいずれも連続性に乏しいこと等を確認した(P.157～160)。

【ボーリング調査, 表土はぎ調査における福浦断層南部の認定の考え方】

○福浦断層のリニアメント・変動地形が認められなくなる大坪川ダム以南での断層の追跡においては、リニアメント・変動地形が連続的に分布する大坪川ダム以北の調査で確認された福浦断層の特徴に基づき、確認した破碎部が福浦断層に対応するか、その他の破碎部であるかを以下の考え方により評価した。

- ・リニアメント・変動地形の分布及び反射法地震探査の結果から、福浦断層の走向・傾斜の基準をNS/70° Wとし、これに調和的な破碎部(走向:±30°, 傾斜:±15° ※1)及びその範囲に近接する破碎部について、破碎部の幅にかかわらず、性状(未固結な破碎部の有無等)、連続性の観点から、福浦断層に対応するか確認した。
- ・破碎部の連続性は、対象とする破碎部の想定延長に位置する隣接孔等の破碎部の有無により確認した。隣接孔の想定延長範囲については、反射法地震探査での福浦断層の傾斜のばらつきを考慮し、検討断面における破碎部位置(偽傾斜を考慮)から傾斜±10° の範囲とした。想定延長範囲に破碎部が認められる場合は、性状、走向・傾斜(走向:±30°, 傾斜:±15°)を比較し、対応する破碎部か確認した。

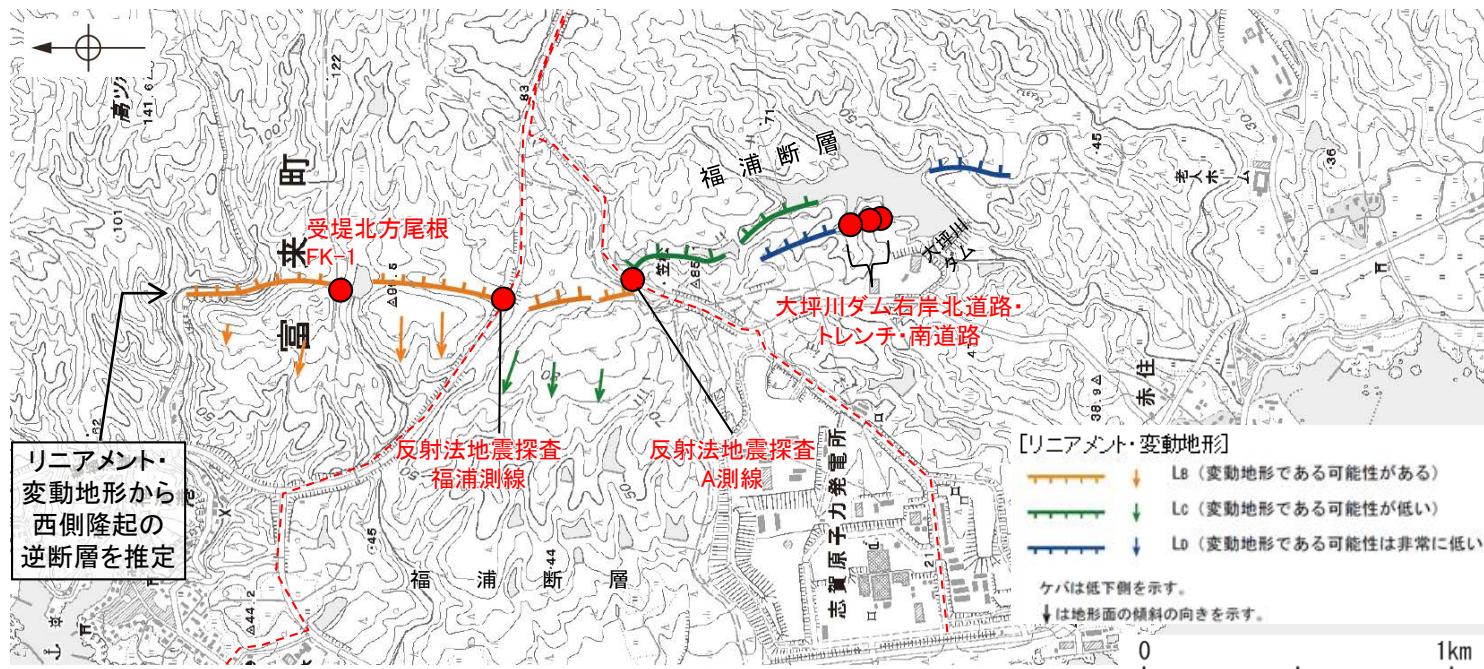
※1: 走向は、大坪川ダム以北における福浦断層の断層トレースの走向データ、傾斜は、反射法地震探査等で確認した傾斜データに基づき、それぞれのばらつきに余裕を考慮して、走向:±30°, 傾斜:±15° のアンジュレーションを設定した。

□福浦断層について大坪川ダム以北の調査で確認された特徴

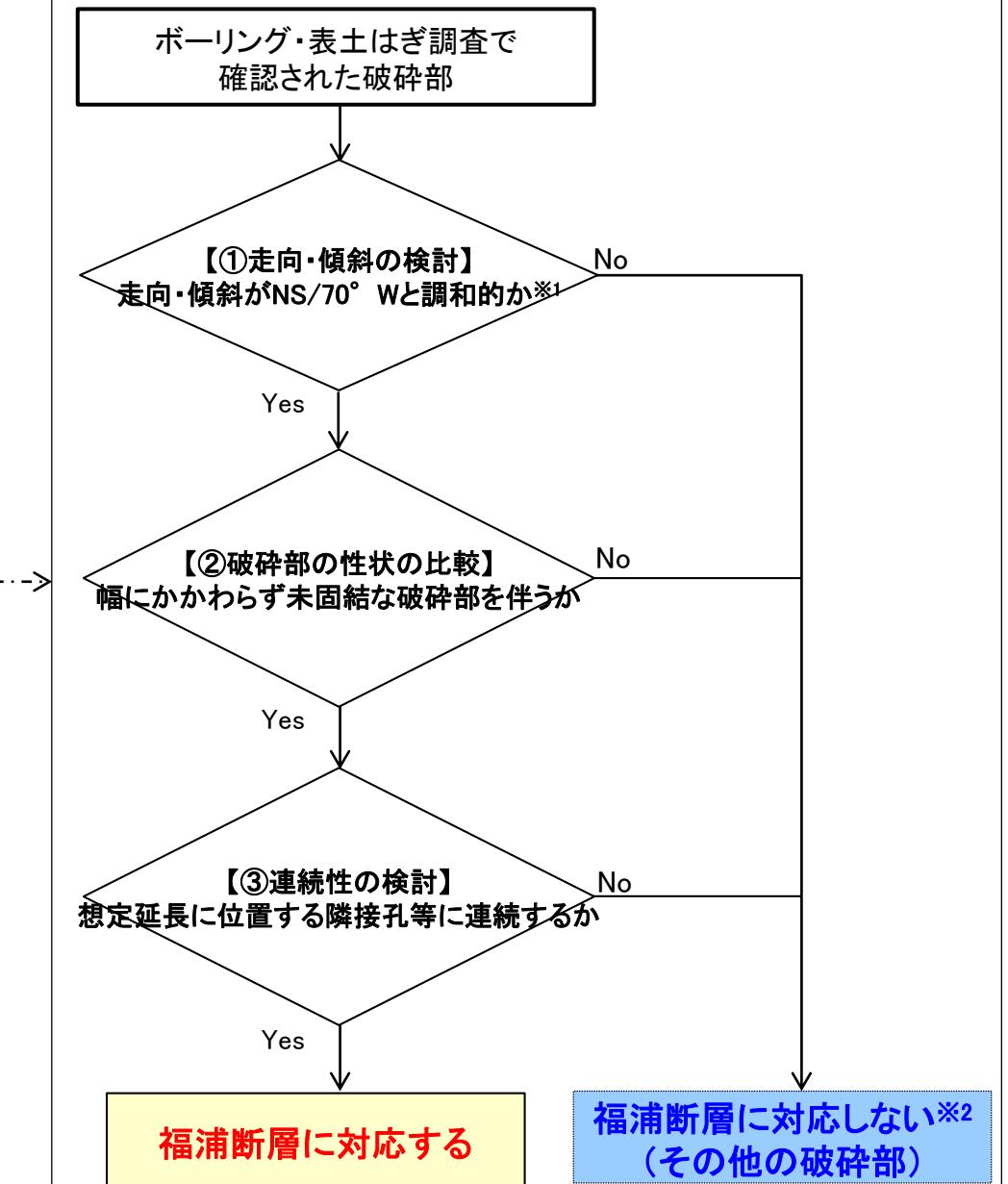
項目	特徴
走向・傾斜	<ul style="list-style-type: none"> ■ リニアメント・変動地形はおおむね南北走向である。 ■ 反射法地震探査で確認された断層傾斜角の平均値は、約70度の西傾斜である。
破碎部の性状	<ul style="list-style-type: none"> ■ 破碎部全体の幅は1~35cmである。 ■ 幅1-2cmの未固結な粘土状破碎部を伴う。
連続性	<ul style="list-style-type: none"> ■ リニアメント・変動地形付近に連続的に認められる。

福浦断層の性状一覧表						
福浦断層						
名称	確認位置 確認深度(m)	標高(m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	未固結な破碎部	
					粘土状破碎部の幅 (cm)	砂状・角礫状破碎部の幅 (cm)
受堤北方尾根	地表	EL87付近	N2W/80SW	1.0	1.0	—
FK-1	52.48~52.55	EL 57.37~57.32	N4W/69SW	6.5	1.0	—
反射法地震探査 福浦測線	CMP380付近	—	約75度西傾斜	—	—	—
反射法地震探査 A測線	CMP1030付近	—	約70度西傾斜	—	—	—
大坪川ダム 右岸北道路	地表	EL35付近	N16W/48~72SW	6.5	1.5	—
大坪川ダム 右岸トレンチ	地表	EL48付近	N2E/74NW	35	1.0	—
大坪川ダム 右岸南道路	地表	EL43付近	N26W/60SW	20~30	2.0	—

紫字: 第1168回審査会合以降の変更箇所

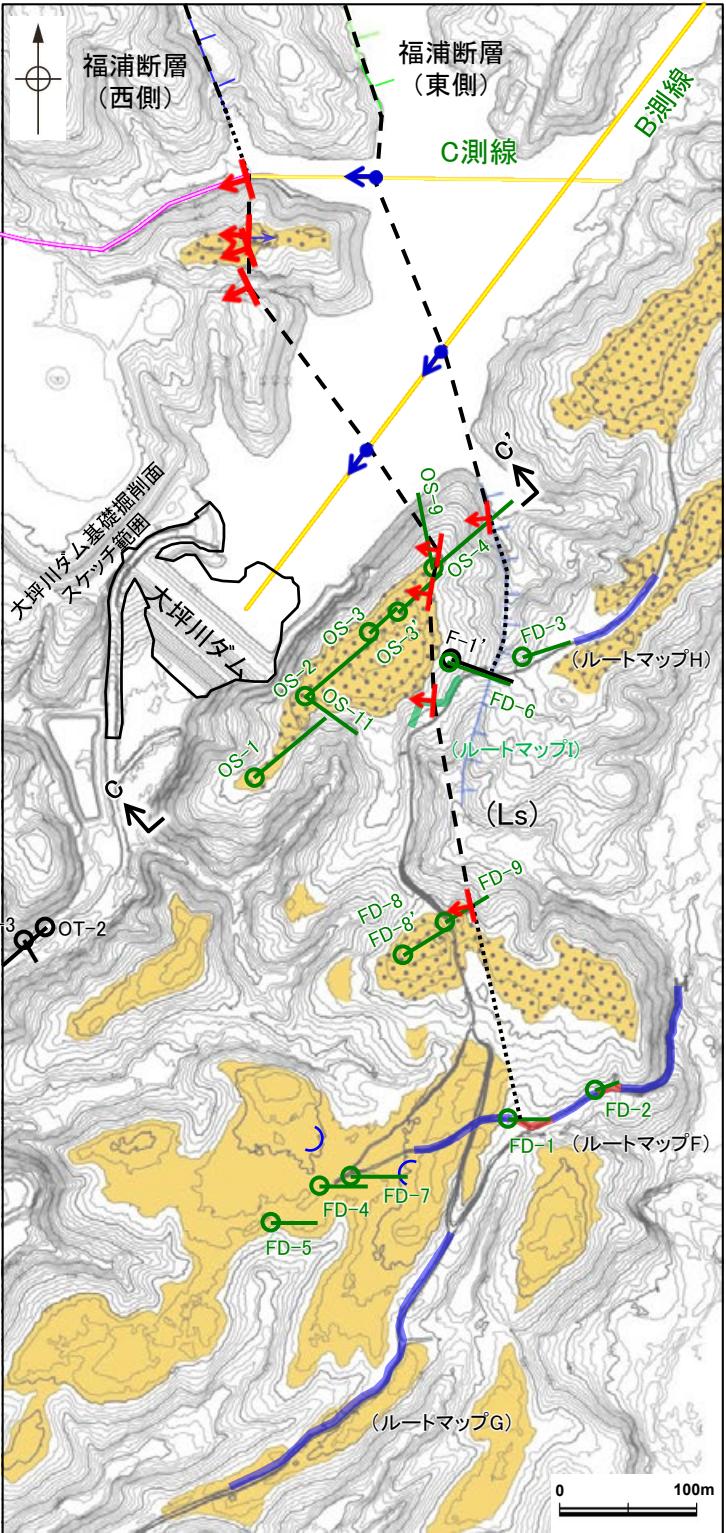


■ボーリング・表土はぎ調査で確認された破碎部について福浦断層に対応するか否かを評価する考え方



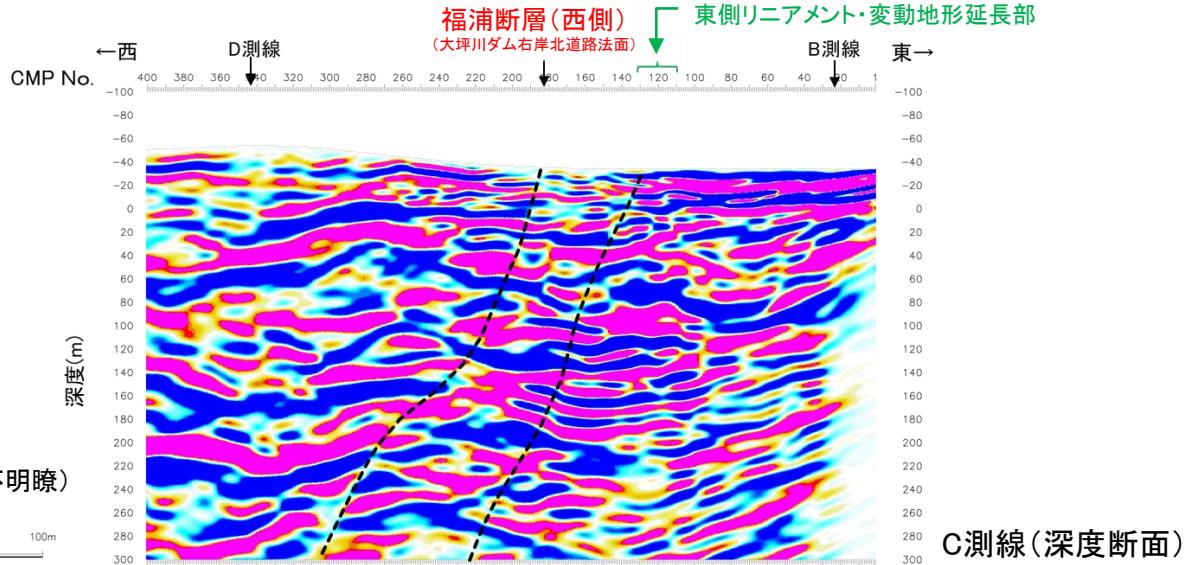
※2: なお、福浦断層に対応しないと考えられる破碎部についても、当該破碎部が断層端部付近に位置する場合は、リニアメント・変動地形との位置関係等も踏まえて、保守的な観点から再検討する。

【大坪川ダム左岸付近の調査 断面図(1/2)】

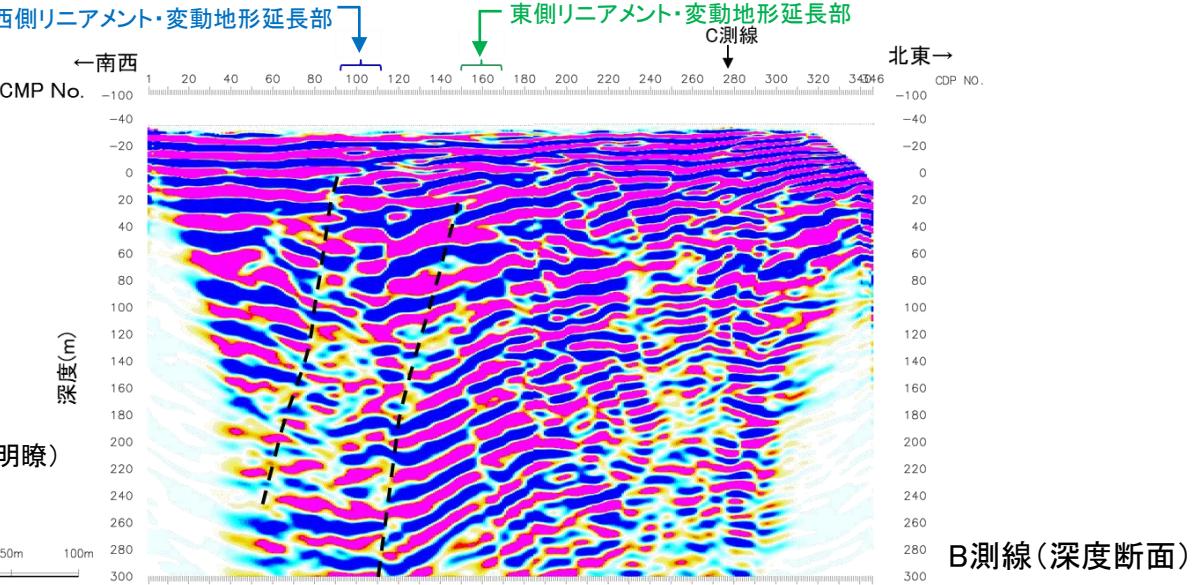


福浦断層南端付近 調査位置図

- 凡例
- 高丘陵1面
 - 断層確認位置(傾斜を考慮して地表付近に上げた位置)
 - 断層位置
 - 反射法地震探査(陸域)
 - 反射法地震探査(湖内)
 - 表土はき調査
 - 段丘面に認められる軟部
 - 群列ボーリング
 - トレースが西に振れた場合の断層推定位置
 - 傾斜ボーリング
 - 緑色は現地調査以降に実施した調査

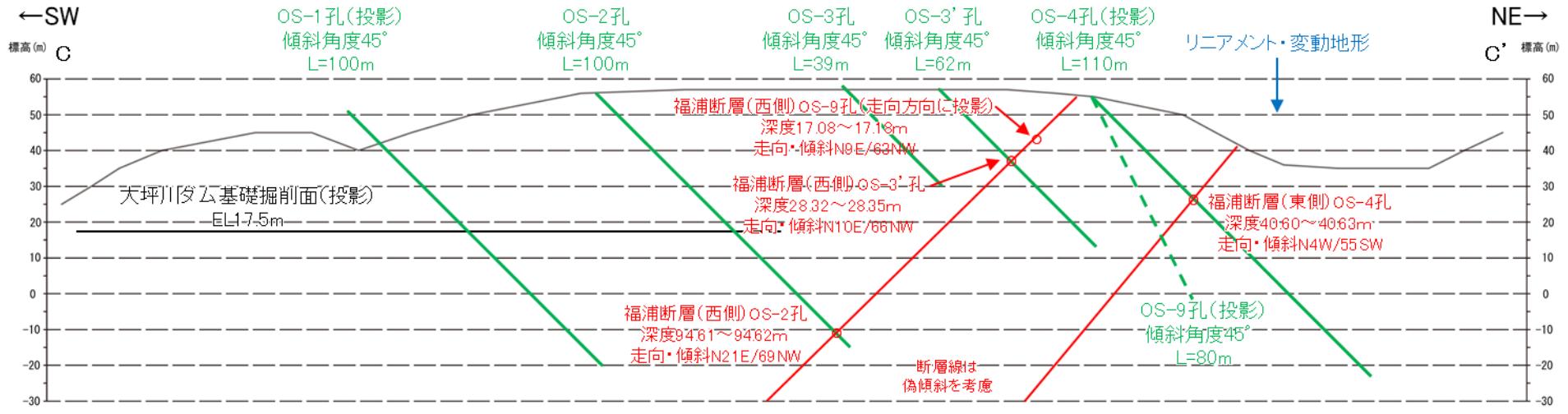


C測線(深度断面)



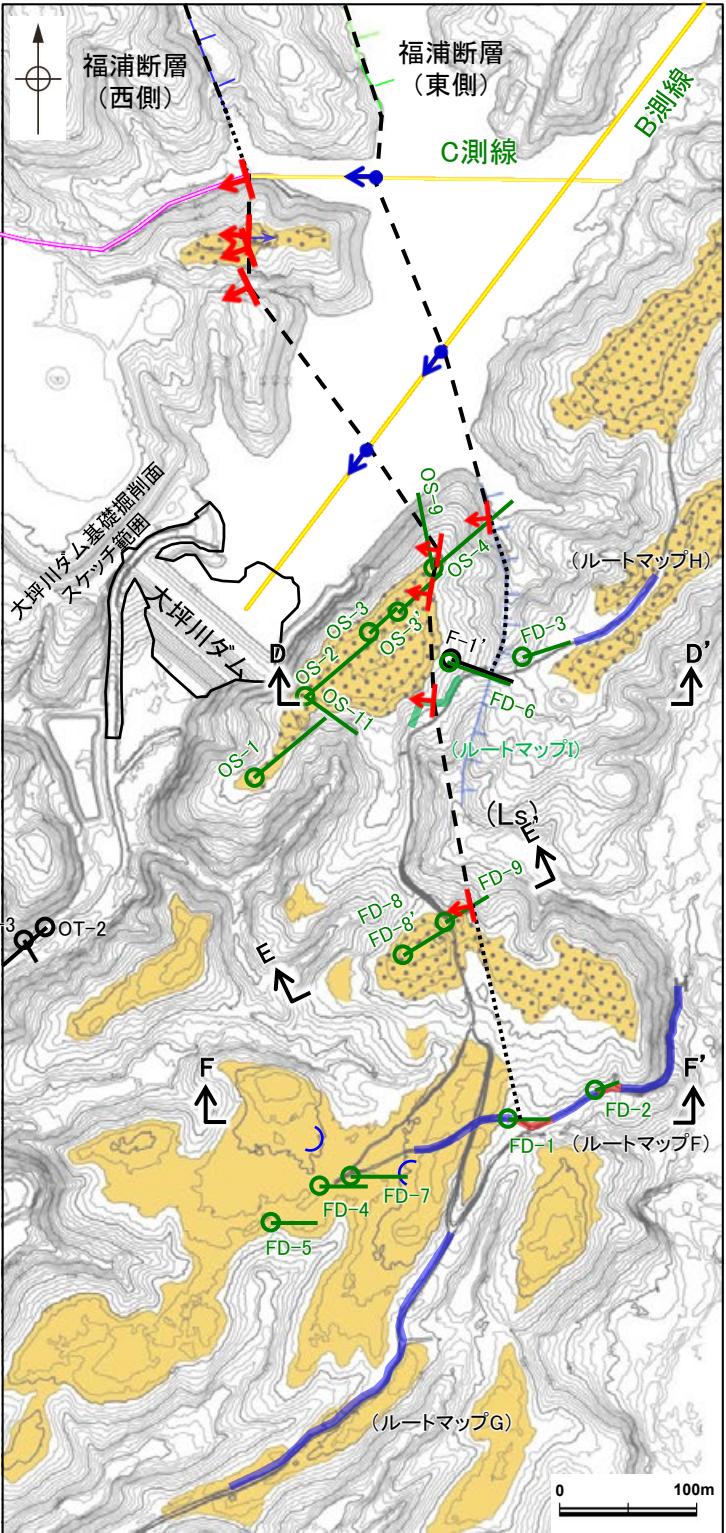
B測線(深度断面)

反射法地震探査結果



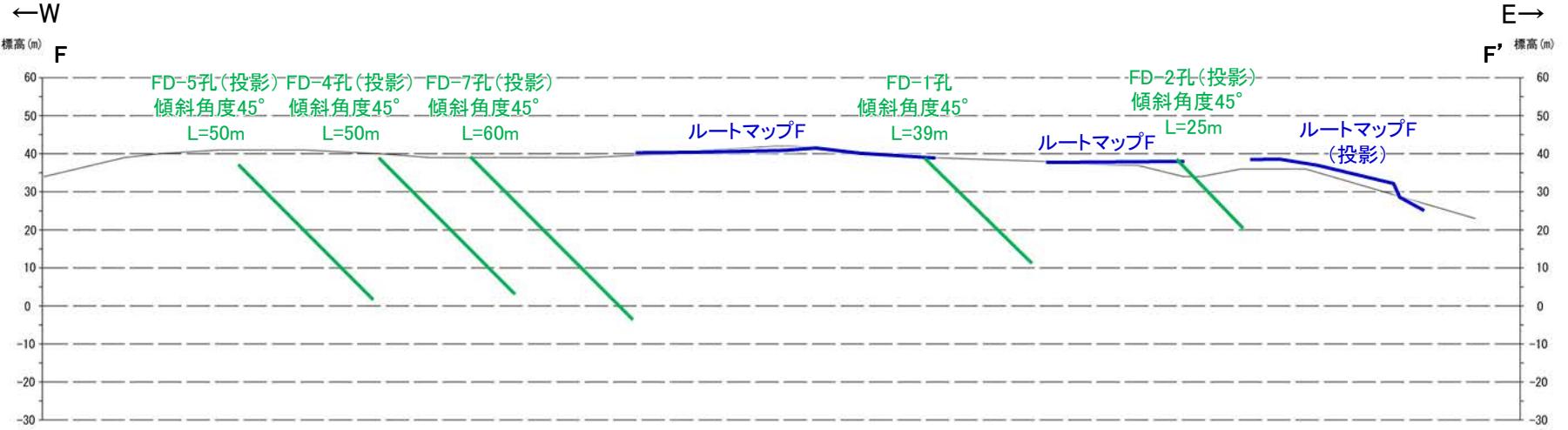
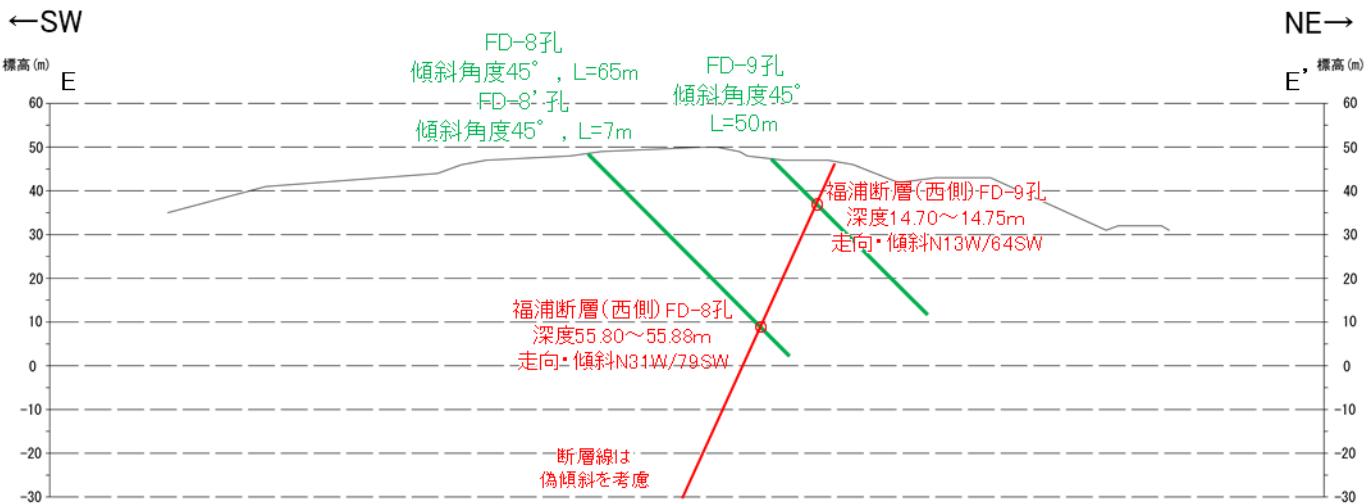
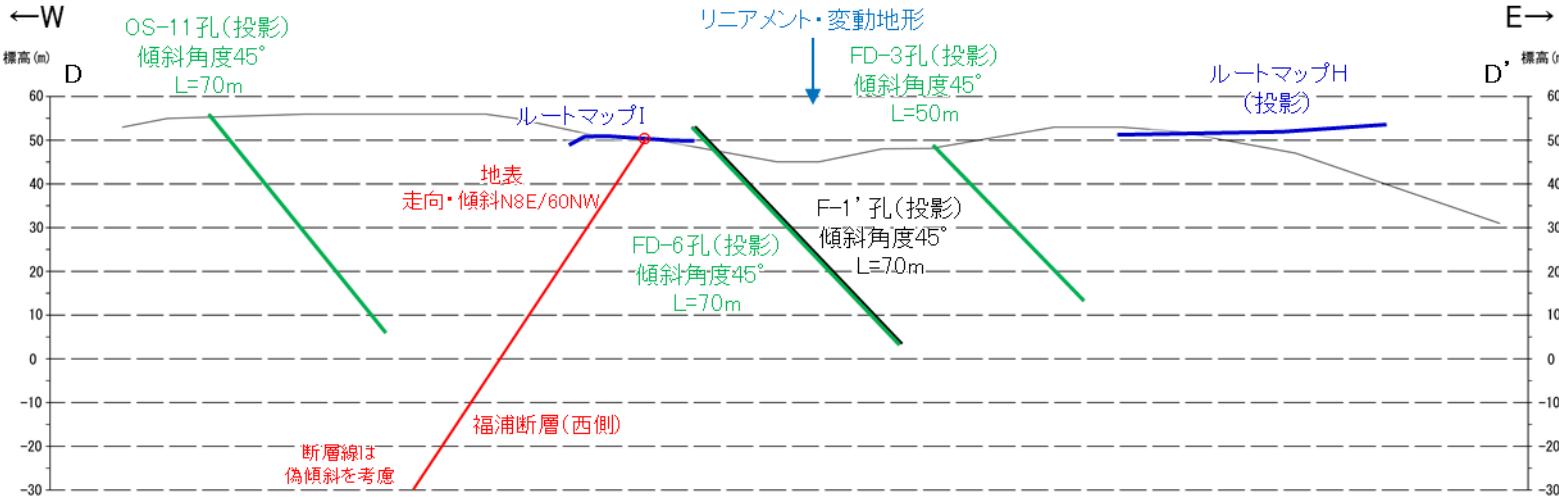
断面図(H:V=1:1)

【大坪川ダム左岸付近の調査 断面図(2/2)】



福浦断層南端付近 調査位置図

- 凡例
- 高丘陵1面
 - 1b面
 - 1a面
 - リニアメント・変動地形
 - 1b (変動地形である可能性が高い)
 - 1a (変動地形である可能性は非常に低い)
 - 断層確認位置(傾斜を考慮して地表付近に上げた位置)
 - 反射法地震探査での断層確認位置(傾斜を考慮して地表付近に上げた位置)
 - 断層位置
 - 推定区間
 - 表土はき調査
 - 群列ボーリング
 - 斜めボーリング
 - 反射法地震探査(陸域)
 - 反射法地震探査(湖内)
 - 段丘面に認められる軟部
 - トレースが西に振れた場合の断層推定位置
 - 緑色は現地調査以降に実施した調査



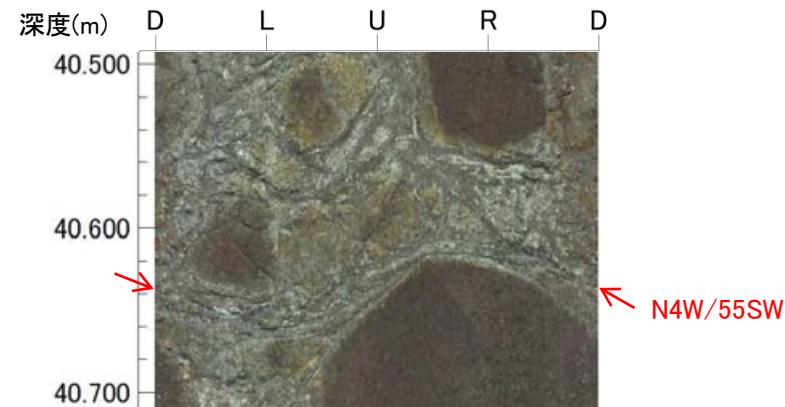
断面図(H:V=1:1)

【福浦断層(東側)に対応する破碎部(ボーリング調査)】

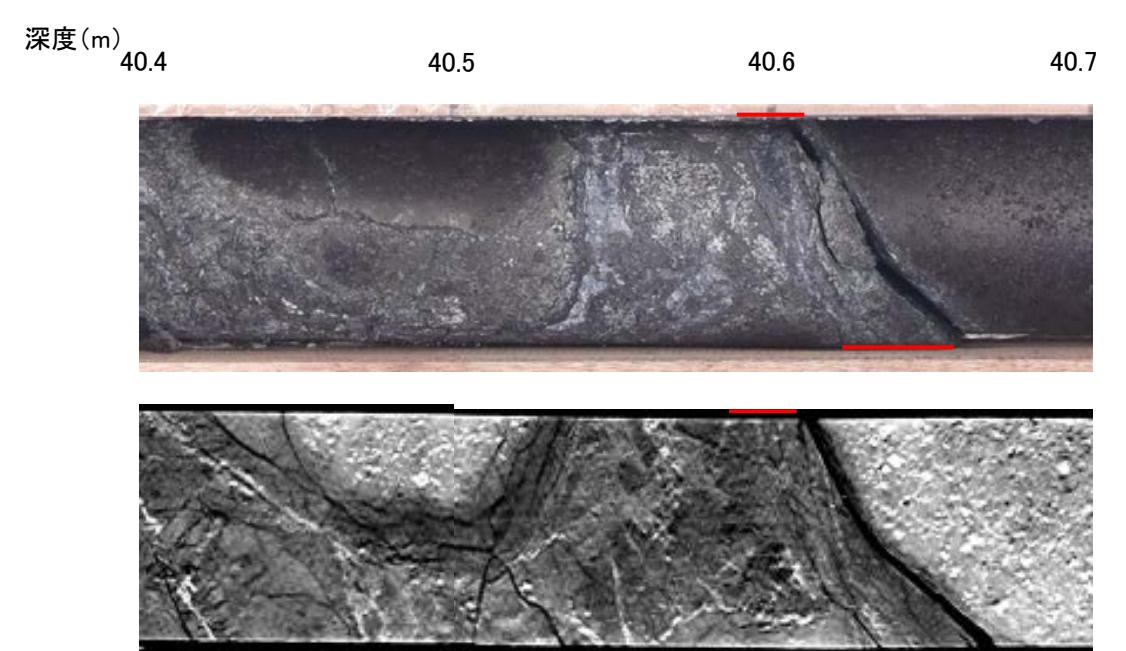
== 破碎部



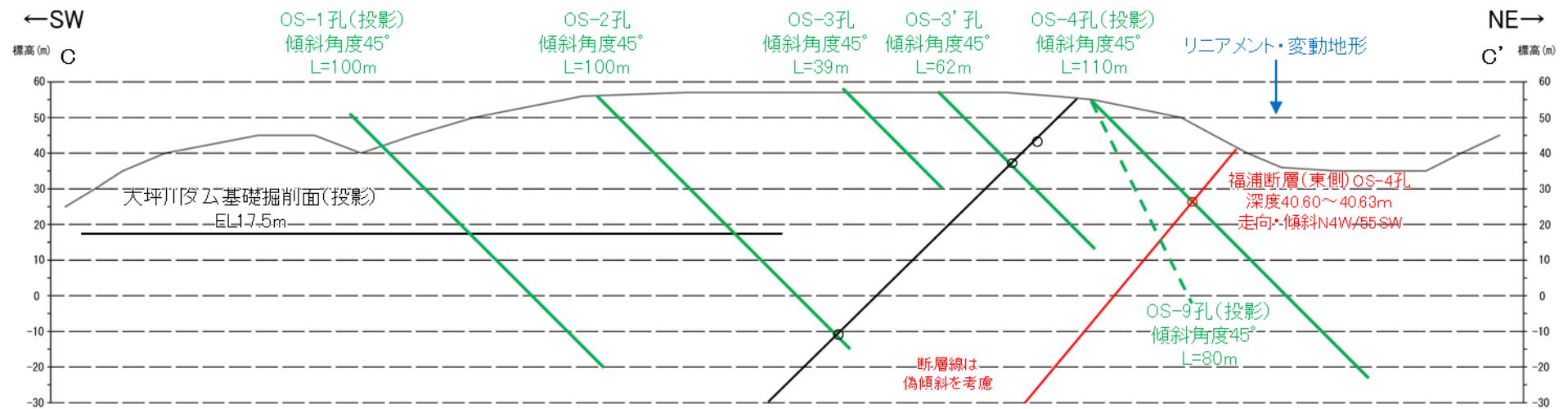
コア写真(38~41m)



BHTV画像



拡大図(上:コア写真, 下:CT画像)

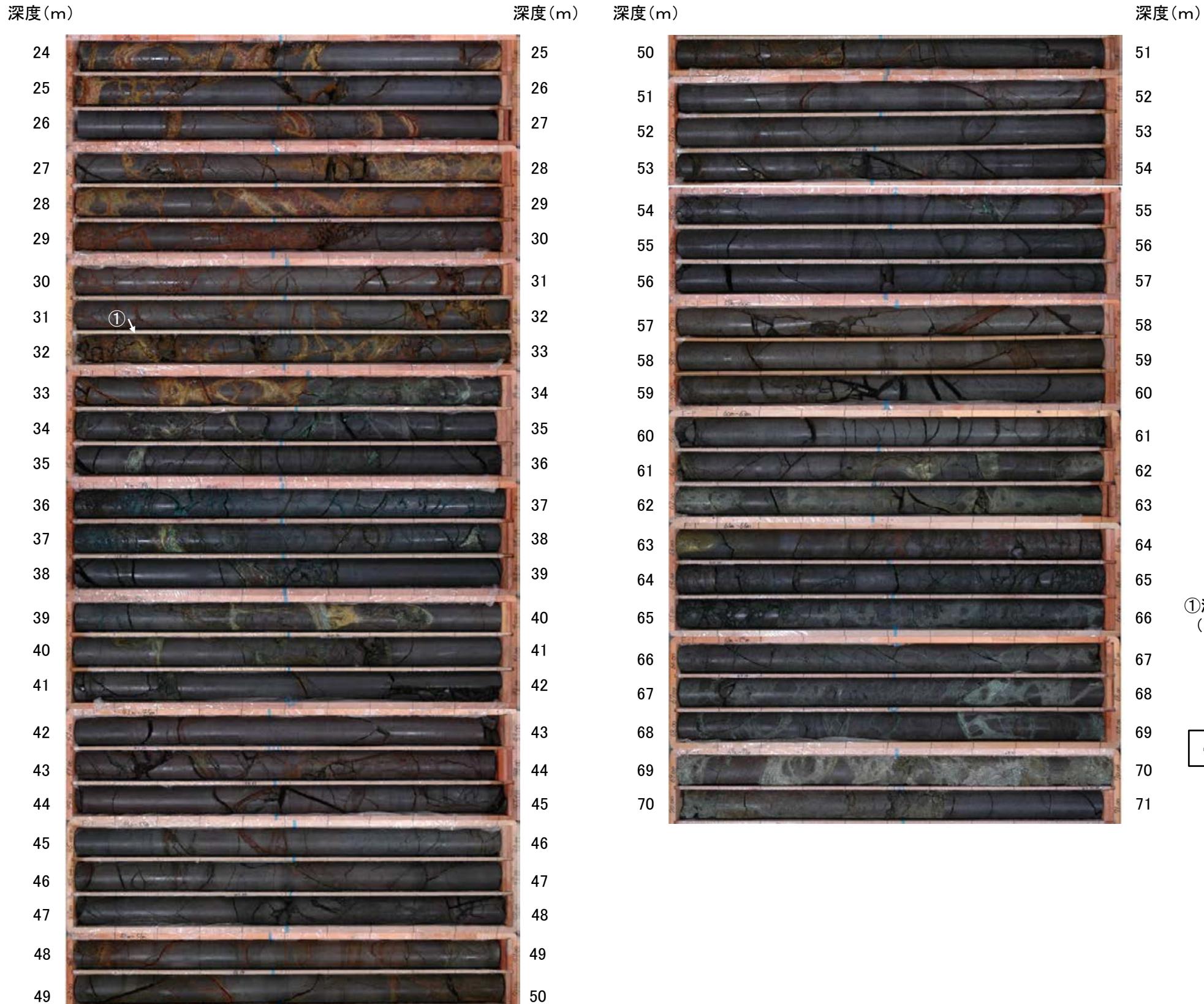


断面図(C-C'断面)
(H:V=1:1)

- ・深度40.60~40.63mに、見掛けの傾斜角25~40°の厚さ2.0~2.2cmの破碎部が認められる。厚さ2.0~2.2cmの固結した破碎部からなる。
- ・未固結な破碎部を伴わないことから福浦断層とは性状が異なるものの、この破碎部の確認位置は福浦断層(東側)の端部付近に位置し、東側のリニアメント・変動地形に対応すること、走向・傾斜(N4° W/55° SW)が福浦断層と調和的であることから、安全側の判断として、福浦断層(東側)に対応する破碎部とした。

【福浦断層(東側)が認められないボーリング孔①】

F-1' 孔(孔口標高53.08m, 掘進長71m, 傾斜45°)



①深度32.17~32.18mに厚さ0.7~1.9cmの破碎部。
(N10° W/76° SW)
...隣接孔(FD-6孔)の想定延長位置(深度32.5m付近)に
連続しない。

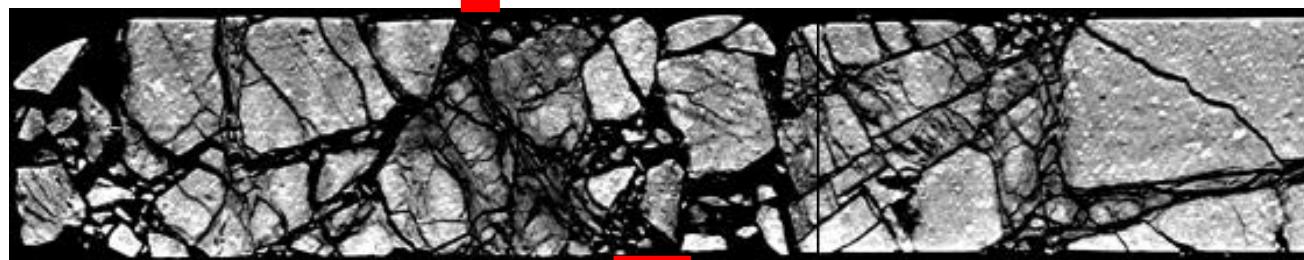
・福浦断層に対応する破碎部は認められない。

【F-1' 孔 破碎部拡大写真】

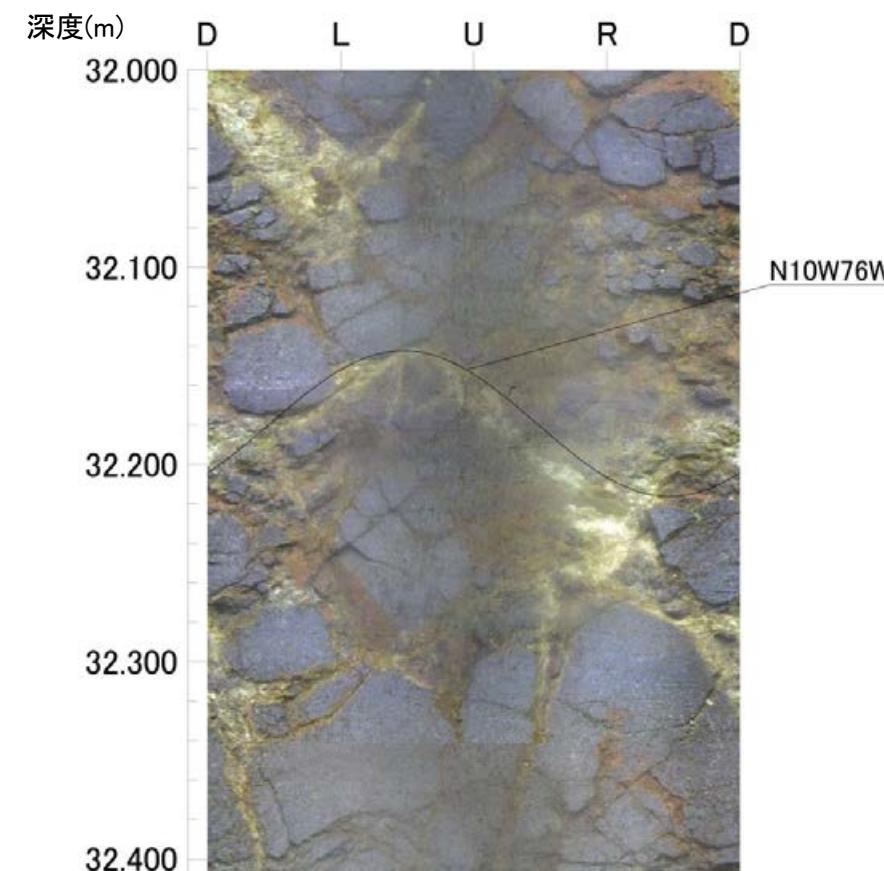
深度(m) 32.0 32.1 角礫状破碎部 32.2 32.3 32.4



コア写真(F-1' 孔, 破碎部付近拡大)



CT画像(F-1' 孔, 破碎部付近拡大)



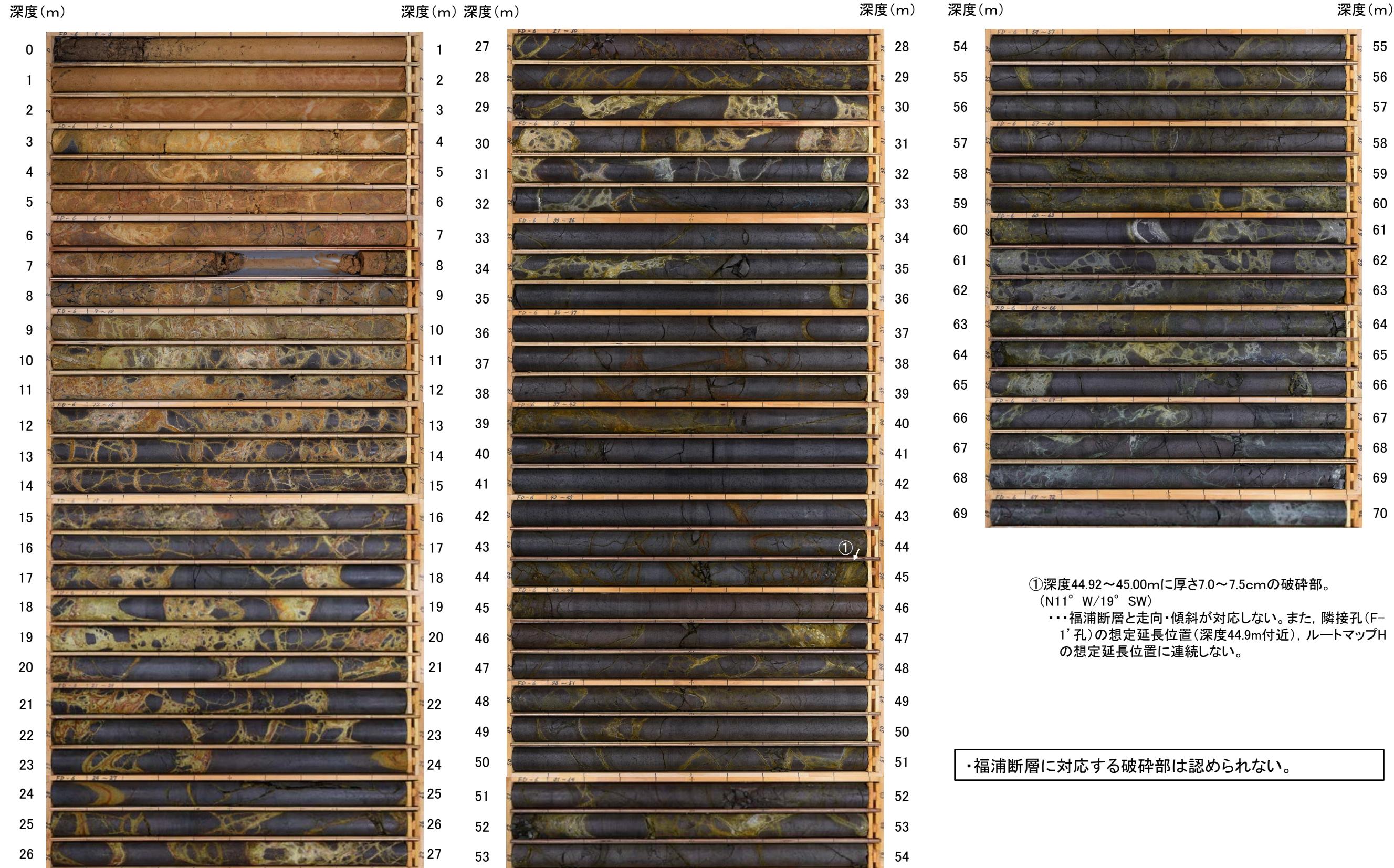
BHTV画像(F-1' 孔, 深度32.0~32.4m)

- ・見かけの傾斜角 $35\sim 40^\circ$, 厚さ $0.7\sim 1.9\text{cm}$ の暗オリーブ色の角礫状破碎部からなる。
- ・走向・傾斜は, BHTVで $N10^\circ W/76^\circ SW$ (走向は真北基準)。
- ・破碎部付近は, 細片状~岩片状を呈し, 周囲に比べ軟質。

- ・F-1' 孔の深度 $32.17\sim 32.18\text{m}$ の破碎部は, 未固結な角礫状破碎部であり, 走向・傾斜が $N10^\circ W/76^\circ SW$ で福浦断層と調和的で, リニアメント・変動地形にほぼ対応する位置にあたることから, 福浦断層に対応する破碎部と判断していた。
- ・第1009回審査会合以降に当該破碎部で追加実施したCT解析の結果, 明瞭な面構造は認められないものの, 低密度部が認められる。
- ・一方, F-1' 孔とほぼ同位置で追加掘削したFD-6孔において, 当該破碎部の想定延長位置に破碎部は認められない。
- ・当該破碎部は, 周辺に変質を受けた状況が認められることを踏まえると, 割れ目沿いに水が通ったことにより変質を受けて軟質になったものであると考えられ, 隣接孔(FD-6孔)に連続しないことから, 福浦断層に対応する破碎部ではないと判断した。

【福浦断層(東側)が認められないボーリング孔②】

FD-6孔(孔口標高52.96m, 掘進長70m, 傾斜45°)



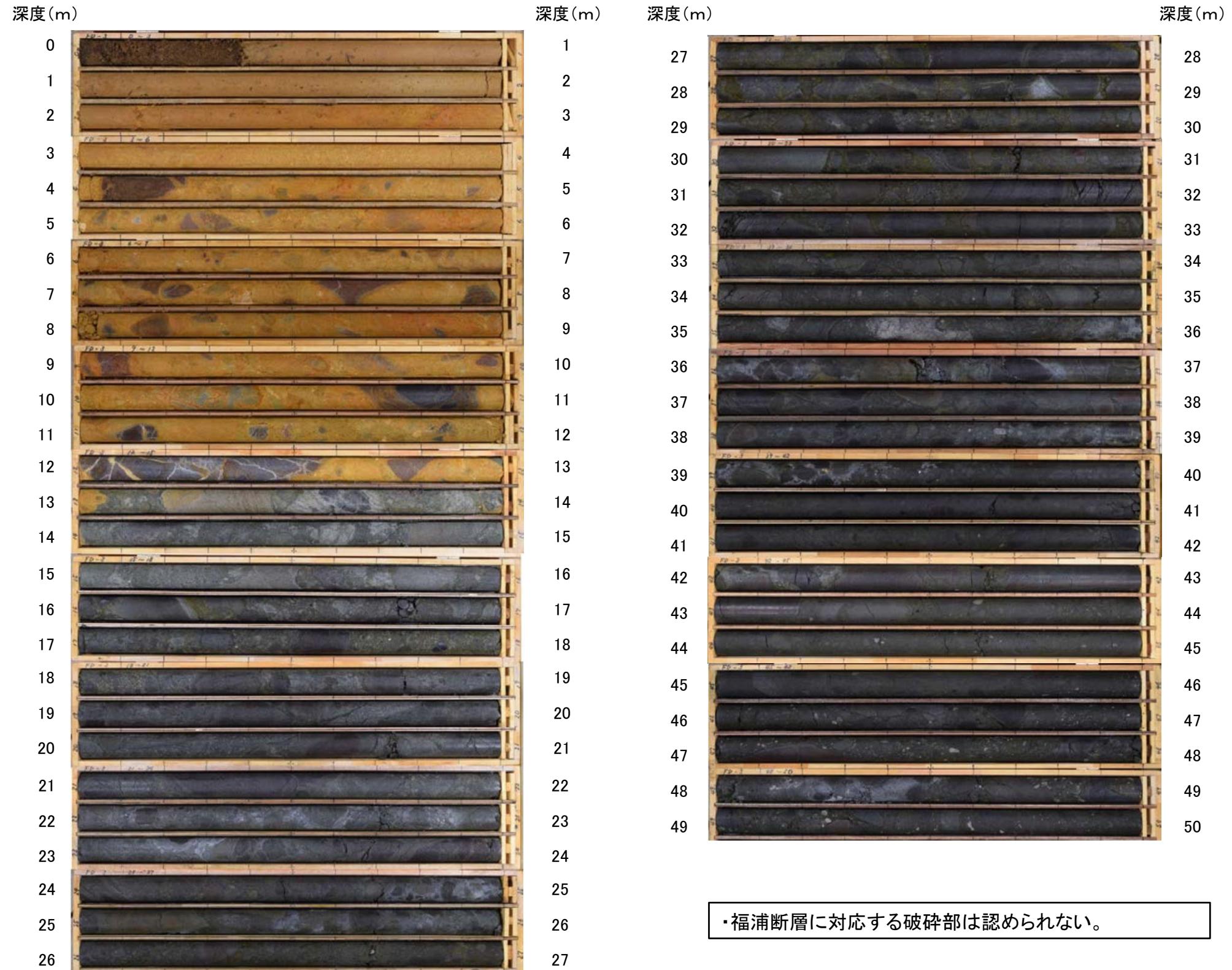
①深度44.92~45.00mに厚さ7.0~7.5cmの破碎部。
(N11° W/19° SW)
...福浦断層と走向・傾斜が対応しない。また、隣接孔(F-1'孔)の想定延長位置(深度44.9m付近), ルートマップHの想定延長位置に連続しない。

・福浦断層に対応する破碎部は認められない。

コア写真(深度0~70m)

【福浦断層(東側)が認められないボーリング孔③】

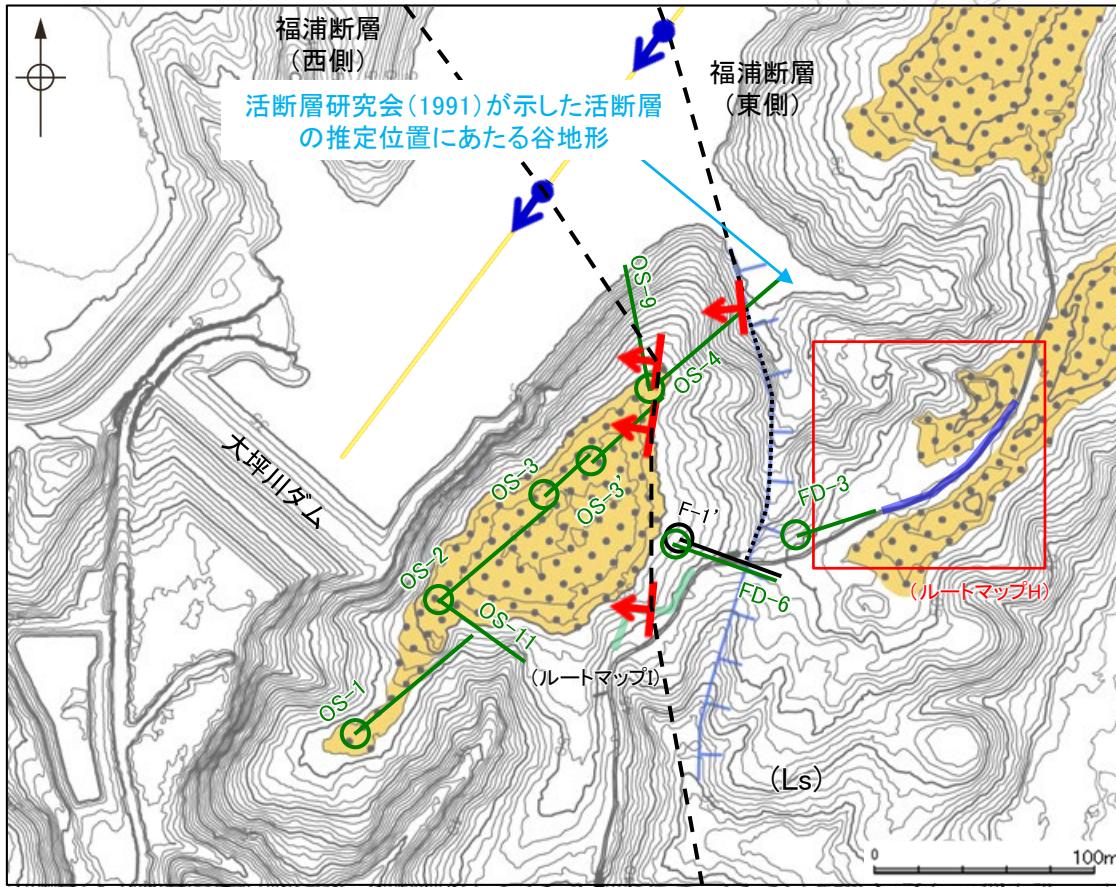
FD-3孔(孔口標高48.80m, 掘進長50m, 傾斜45°)



・福浦断層に対応する破碎部は認められない。

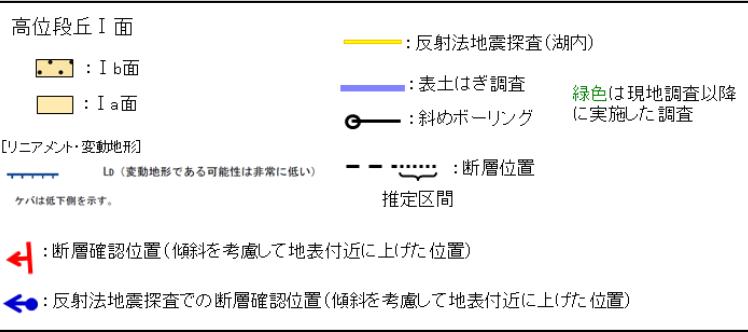
コア写真(深度0~50m)

【大坪川ダム左岸 表土はぎ調査(ルートマップH)】



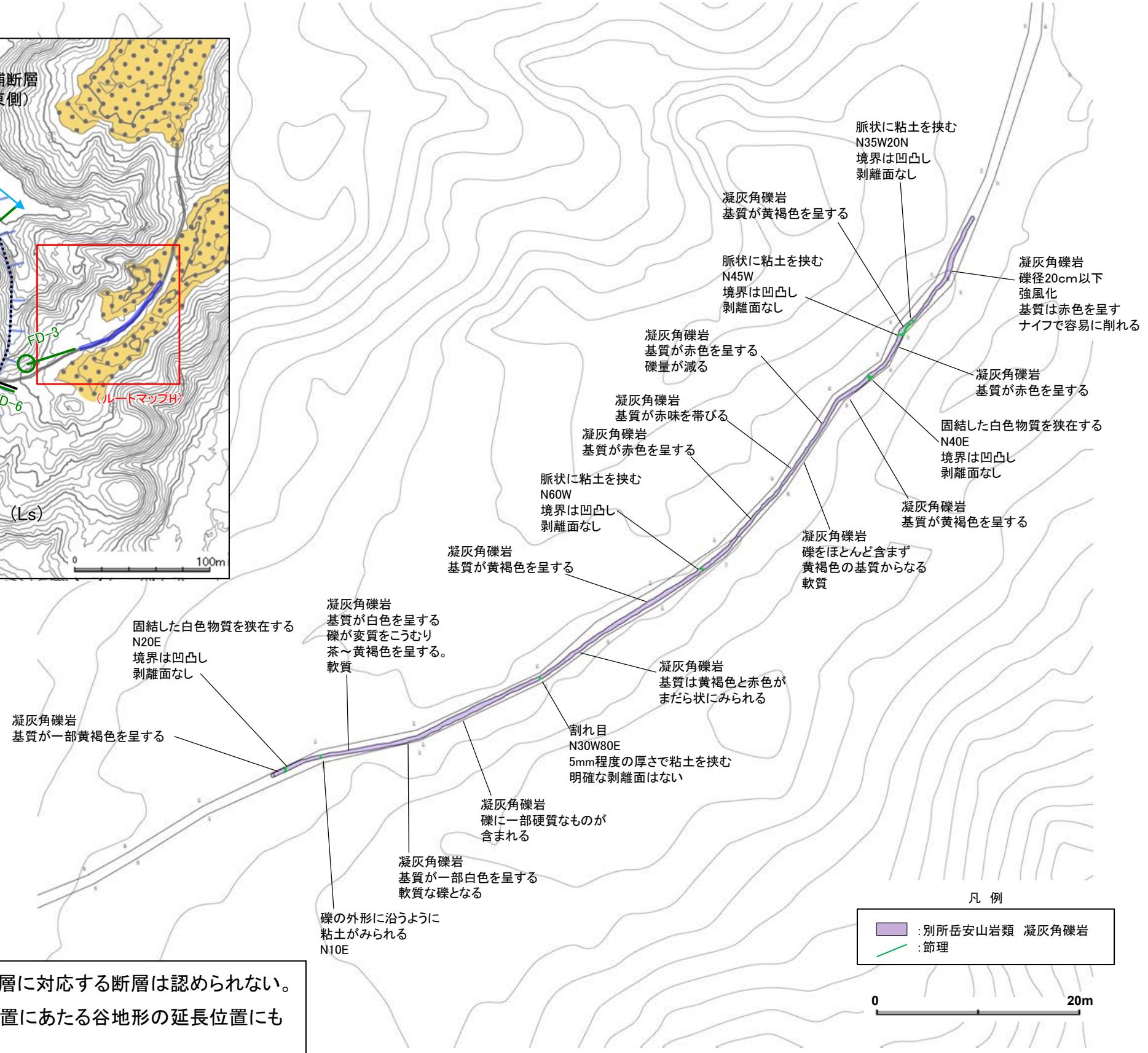
位置図

凡例

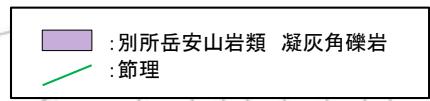


・表土はぎ調査全線の写真は補足資料2.2-1(5)

・ルートマップHにおける表土はぎ調査の結果、福浦断層に対応する断層は認められない。
 ・また、活断層研究会(1991)が示した活断層の推定位置にあたる谷地形の延長位置にも断層は認められない。



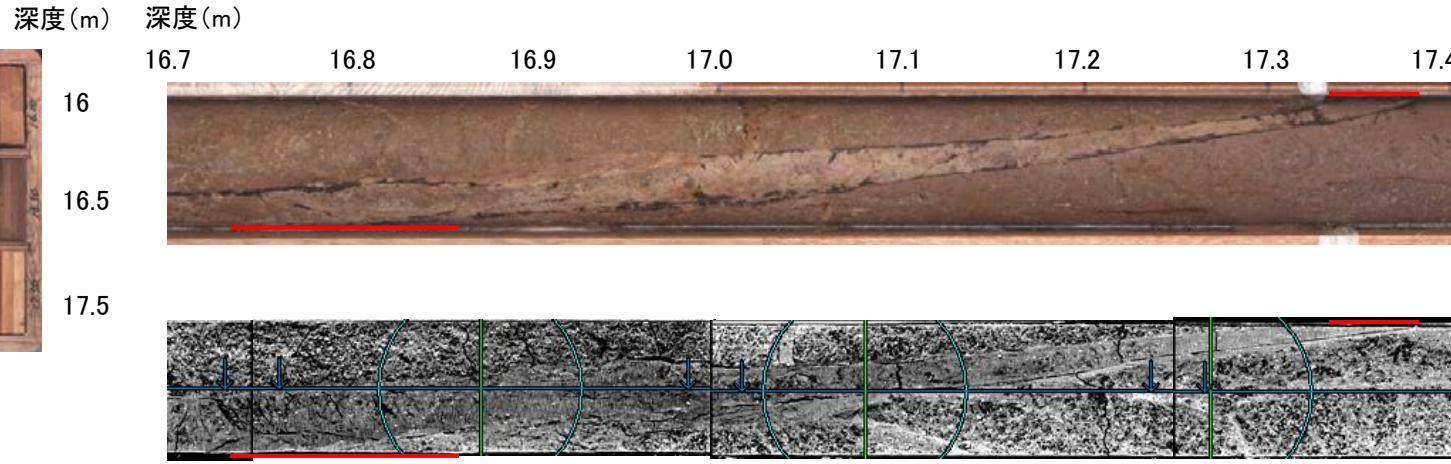
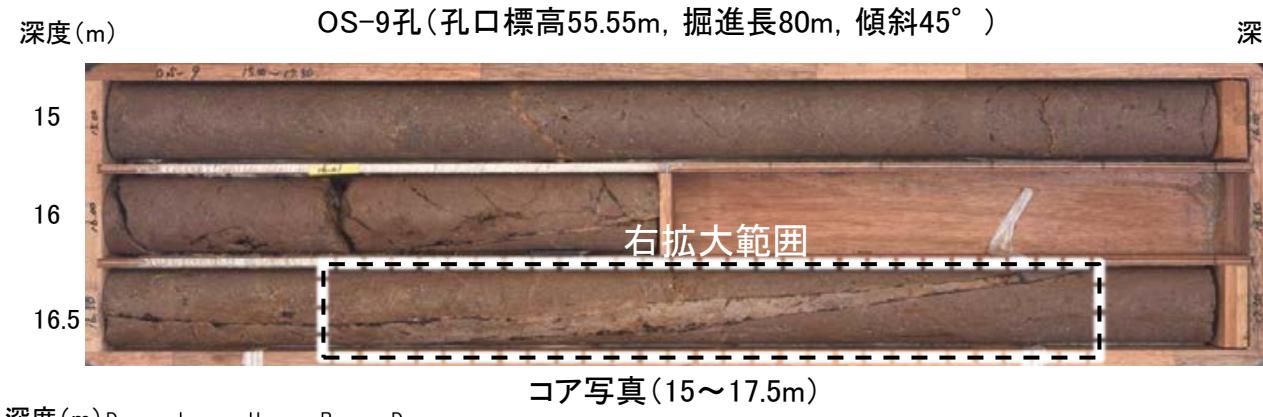
凡例



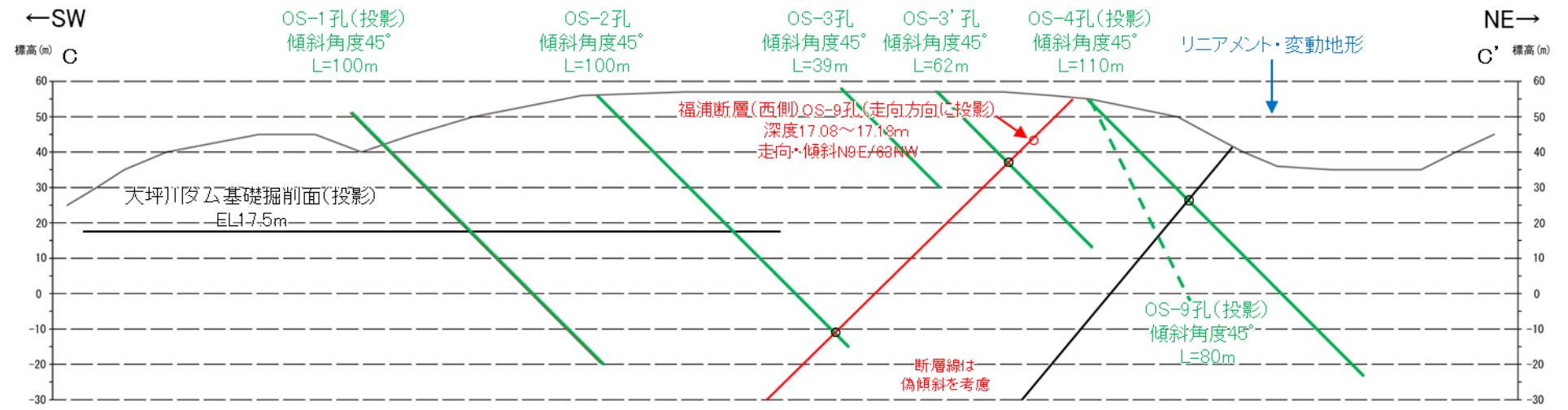
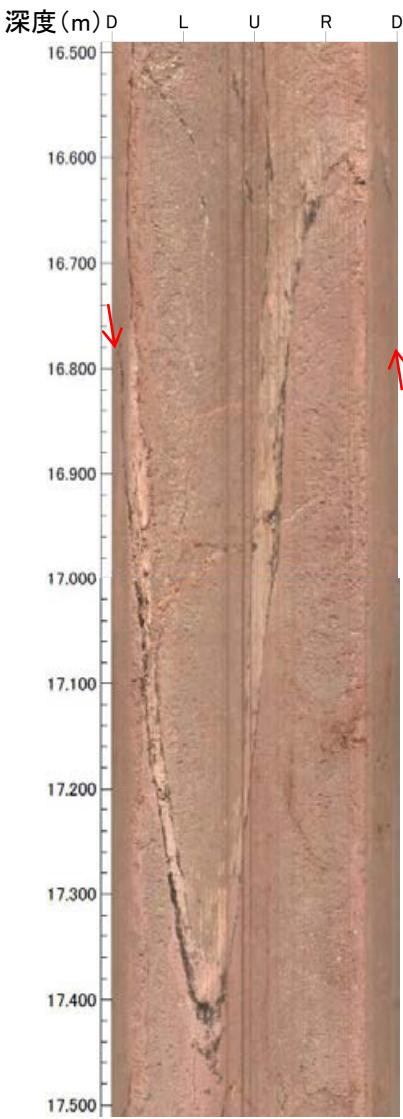
大坪川左岸 表土はぎ調査結果(ルートマップH)

【福浦断層(西側)に対応する破砕部(ボーリング調査)1/5】

破砕部



拡大図(上:コア写真, 下:CT画像)



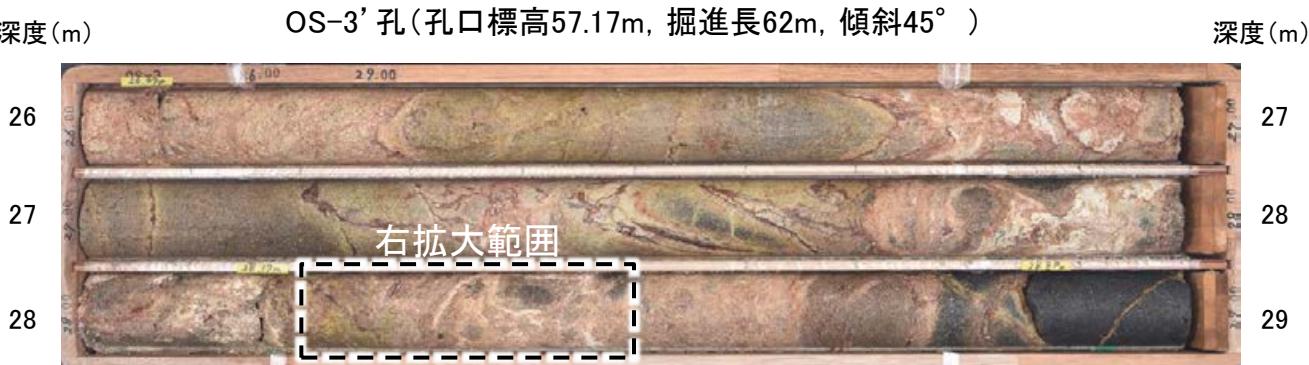
断面図(C-C' 断面)
(H:V=1:1)

・深度17.08~17.18mに、見掛けの傾斜角80~85°の厚さ1.4~4.0cmの破砕部が認められる。厚さ0.9~2.8cmの灰褐色の砂状破砕部及び厚さ0.4~3.0cmの固結した破砕部からなる。

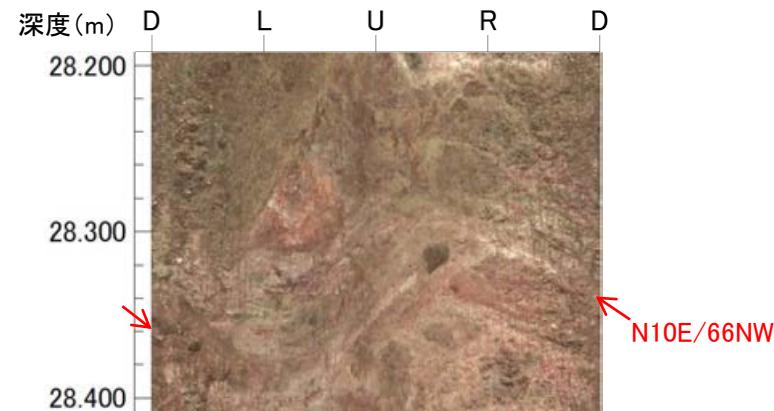
・この確認位置は、西側のリニアメント・変動地形の延長位置にあたり、走向・傾斜(N9°E/63°NW)が福浦断層と調和的であること、未固結な破砕部(砂状破砕部)を伴うこと、隣接するOS-3'孔等に連続することから、福浦断層(西側)に対応する破砕部と判断した。

【福浦断層(西側)に対応する破砕部(ボーリング調査)2/5】

破砕部

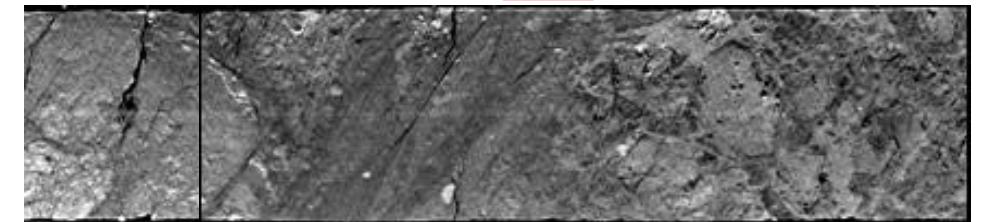


コア写真(26~29m)

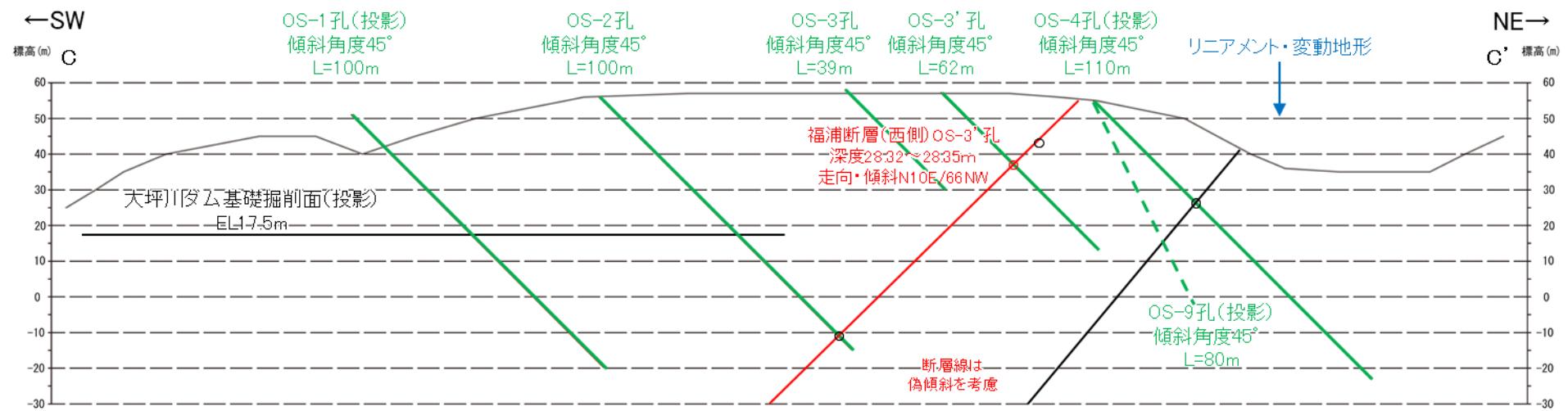


BHTV画像

深度(m) 28.2 28.3 28.4 28.5



拡大図(上:コア写真, 下:CT画像)

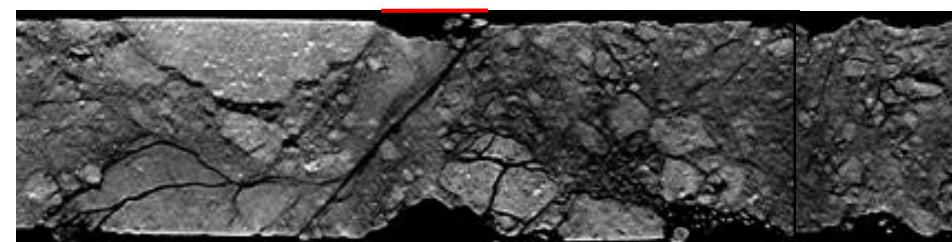
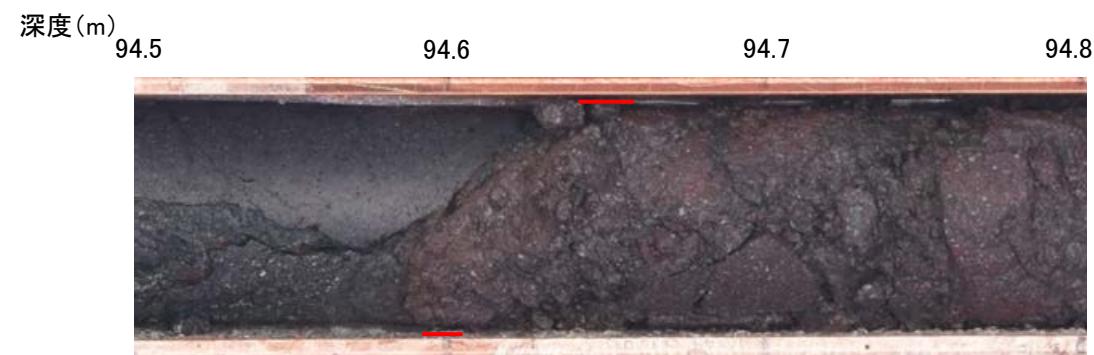
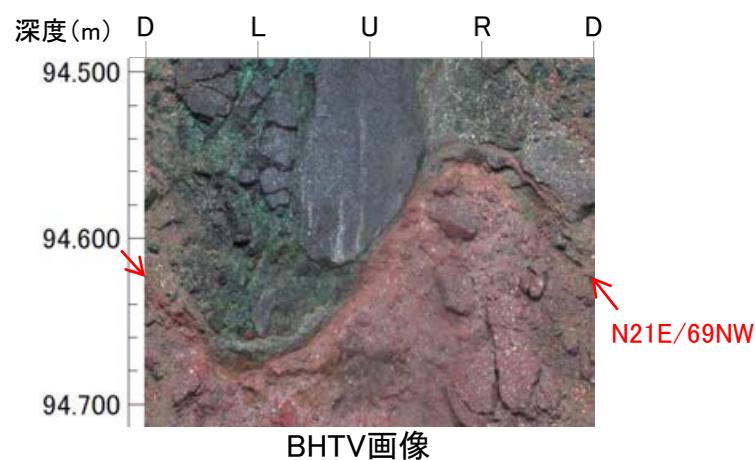
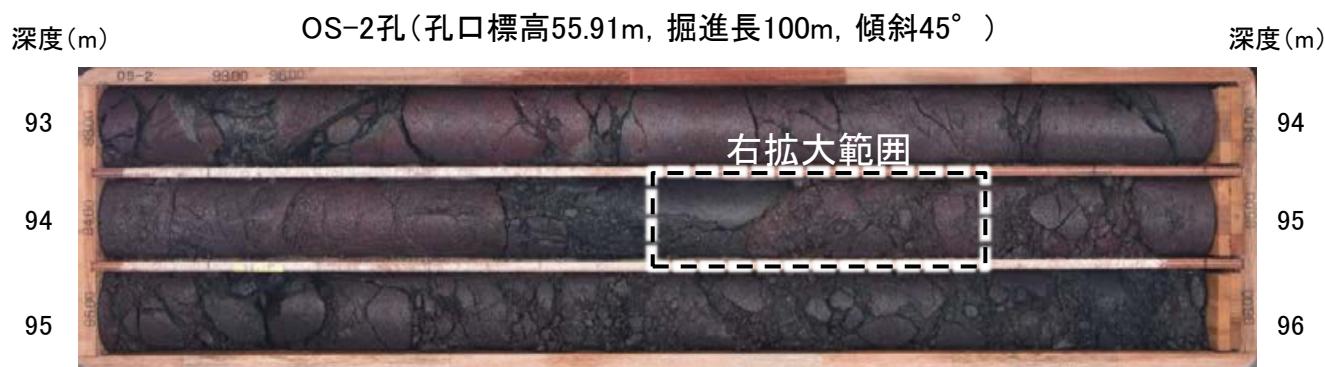


断面図(C-C' 断面)
(H:V=1:1)

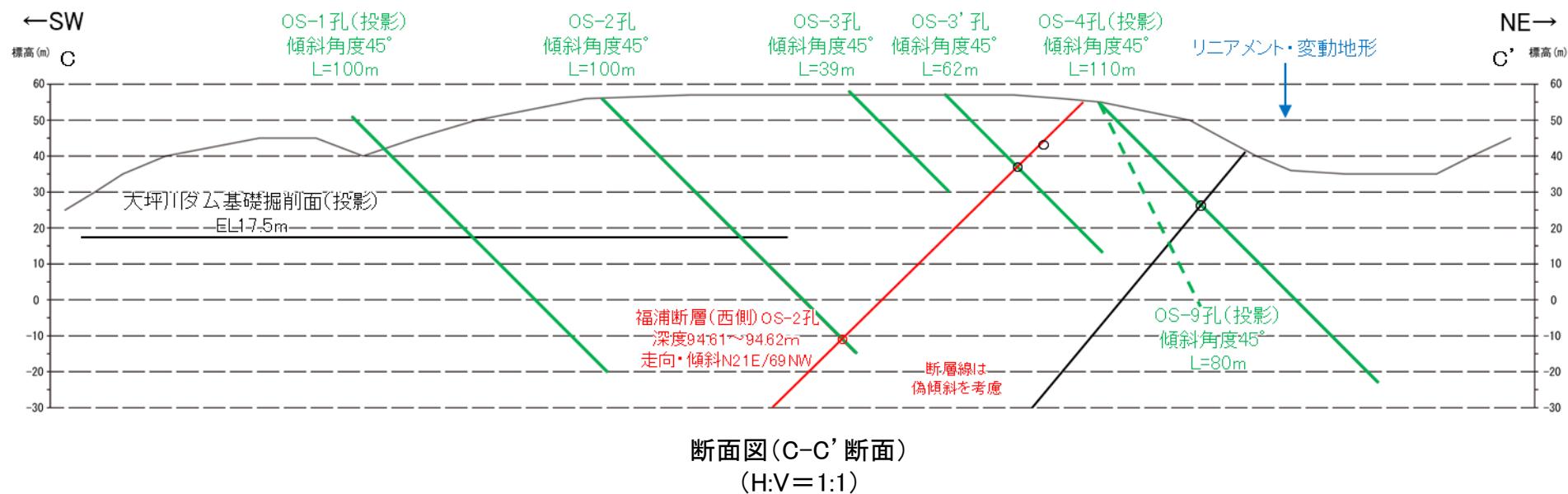
・深度28.32~28.35mに、見掛けの傾斜角30~40°の厚さ1.2~2.1cmの破砕部が認められる。厚さ1.2~2.1cmの灰白~浅黄色の粘土状破砕部からなる。
 ・この確認位置は、西側のリニアメント・変動地形の延長位置にあたり、走向・傾斜(N10° E/66° NW)が福浦断層と調和的であること、未固結な破砕部(粘土状破砕部)を伴うこと、隣接するOS-2孔等に連続することから、福浦断層(西側)に対応する破砕部と判断した。

【福浦断層(西側)に対応する破砕部(ボーリング調査)3/5】

破砕部



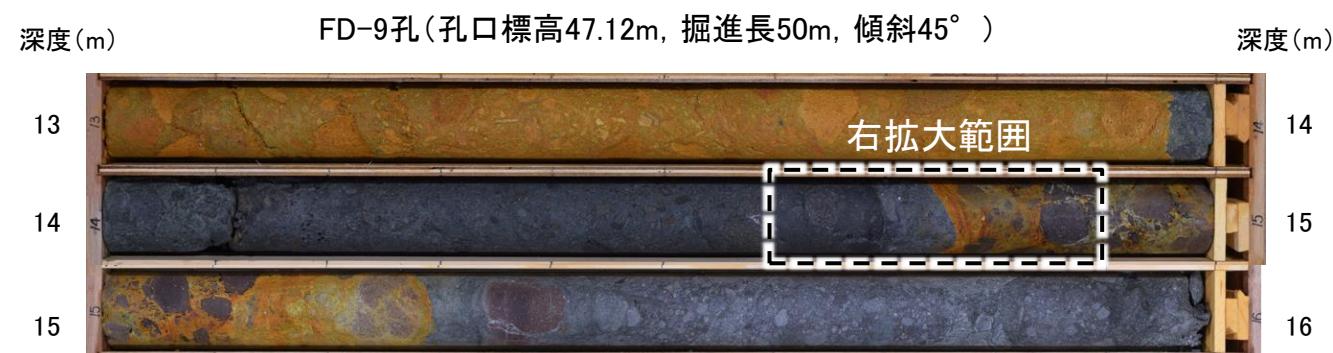
拡大図(上:コア写真, 下:CT画像)



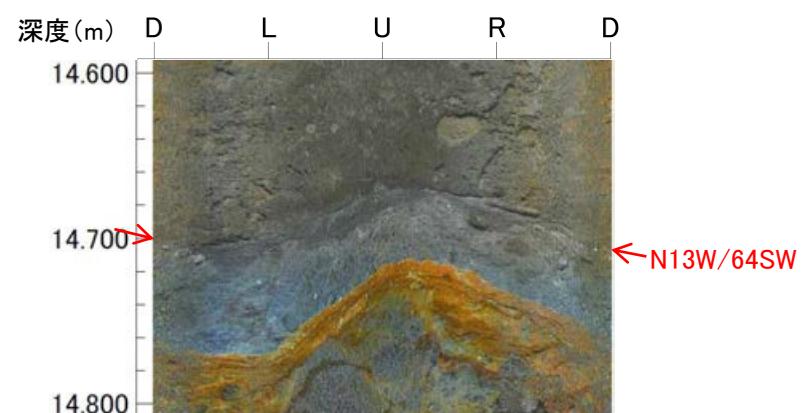
- ・深度94.61~94.62mに、見掛けの傾斜角50~55°の厚さ0.5~1.6cmの破砕部が認められる。厚さ0.1~0.2cmの暗赤褐色の粘土状破砕部及び厚さ0.4~1.4cmの固結した破砕部からなる。
- ・この確認位置は、西側のリニアメント・変動地形の延長位置にあたり、走向・傾斜(N21°E/69°NW)が福浦断層と調和的であること、未固結な破砕部(粘土状破砕部)を伴うこと、隣接するOS-3'孔等に連続することから、福浦断層(西側)に対応する破砕部と判断した。

【福浦断層(西側)に対応する破砕部(ボーリング調査)4/5】

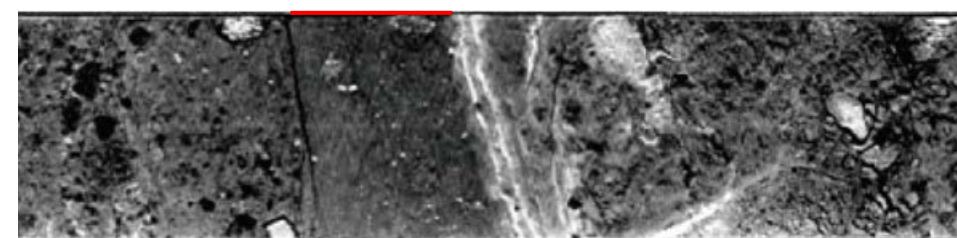
破砕部



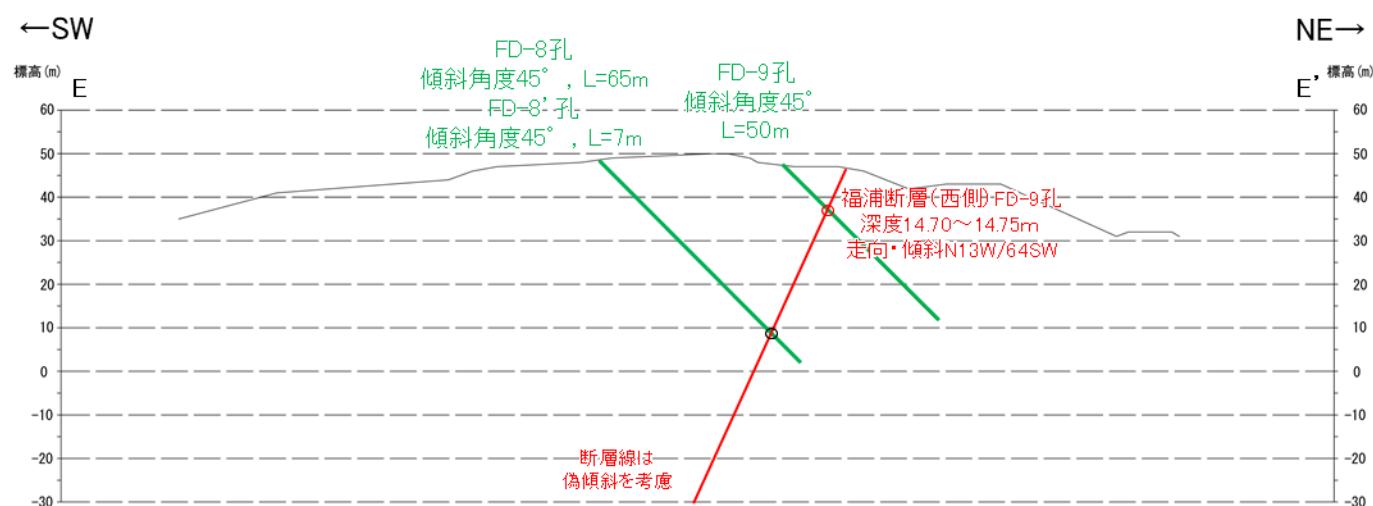
コア写真(13~16m)



BHTV画像



拡大図(上:コア写真, 下:CT画像)



断面図(E-E' 断面)

(H:V=1:1)

- ・深度14.70~14.76mに、見掛けの傾斜角15°の厚さ6cmの破砕部が認められる。厚さ6cmの砂状破砕部からなる。
- ・この確認位置は、ルートマップIの表土はぎ箇所(P.154~156)の延長位置にあたり、走向・傾斜(N13°W/64°SW)が福浦断層と調和的であること、未固結な破砕部(砂状破砕部)を伴うこと、隣接するルートマップIやFD-8孔に連続することから、福浦断層(西側)に対応する破砕部と判断した。

【福浦断層(西側)に対応する破砕部(ボーリング調査)5/5】

破砕部

FD-8孔(孔口標高48.30m, 掘進長65m, 傾斜45°)

深度(m)

深度(m)

55.7

55.8

55.9

56.0

深度(m)

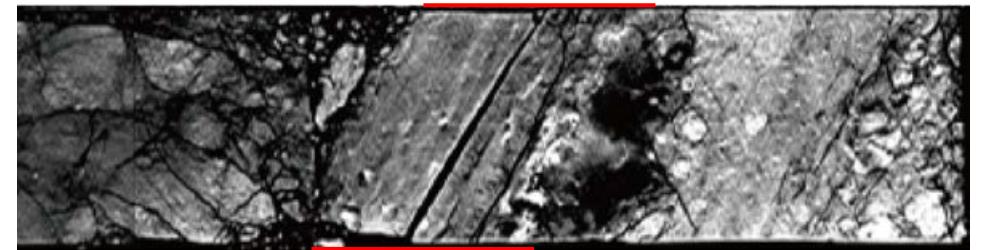
54

55

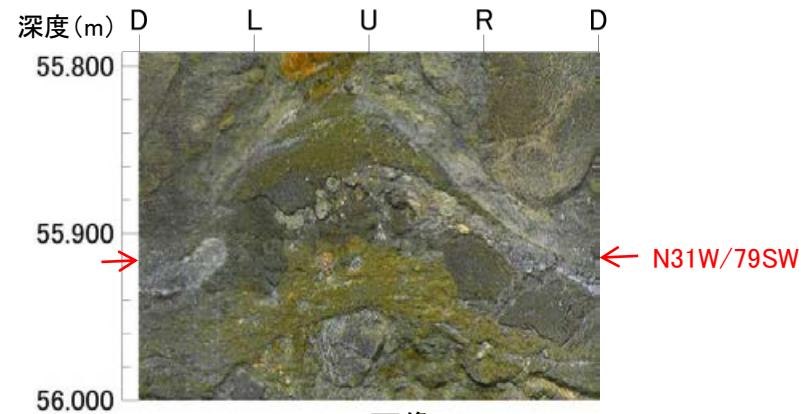
56



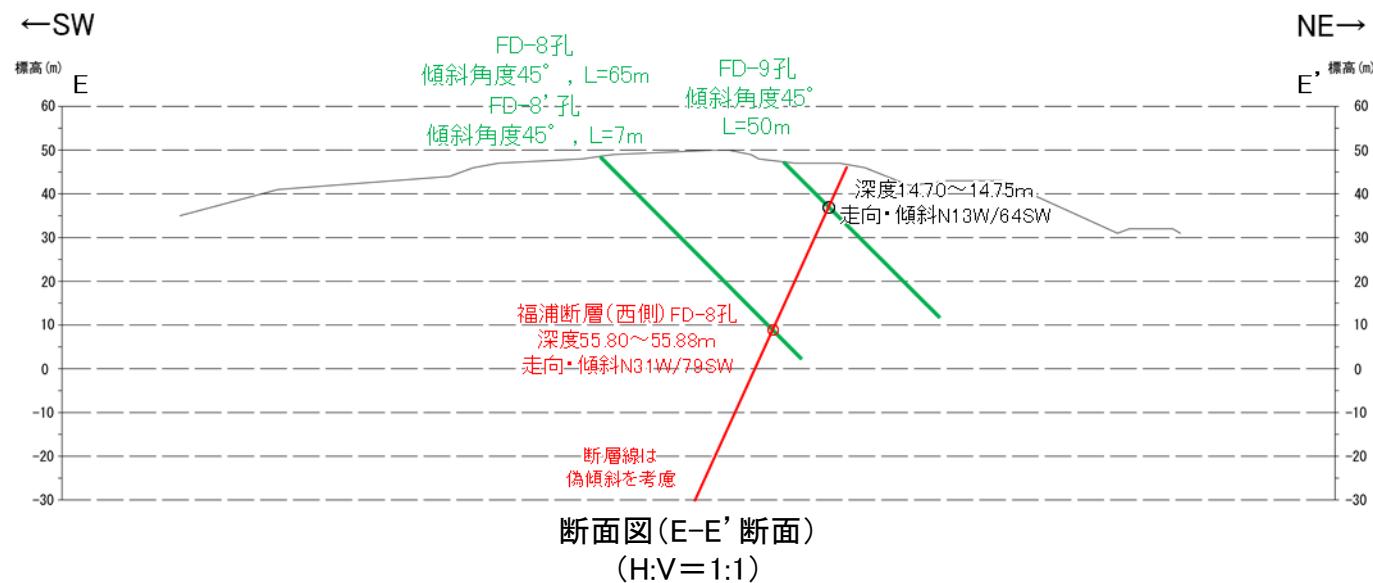
コア写真(54~57m)



拡大図(上:コア写真, 下:CT画像)



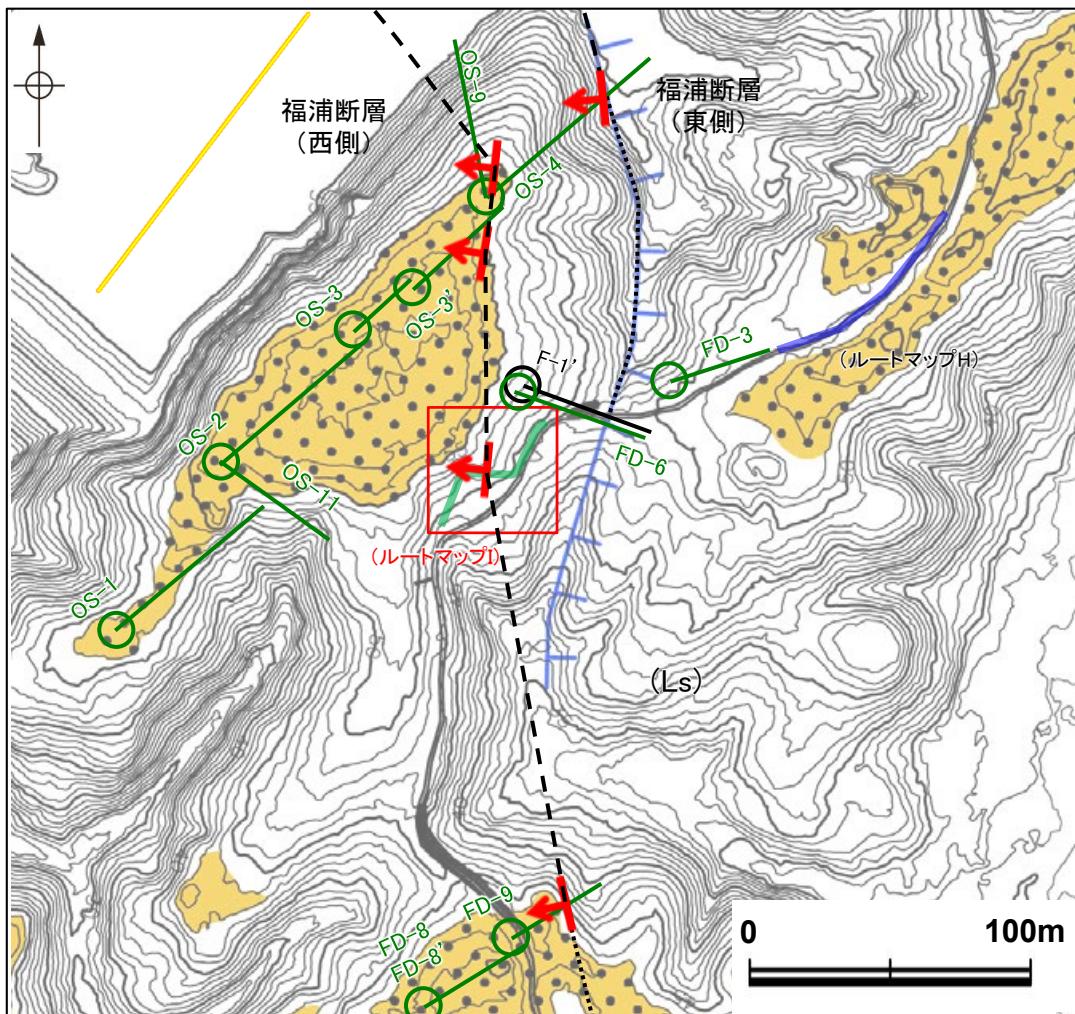
BHTV画像



断面図(E-E'断面)
(H:V=1:1)

- ・深度55.80~55.88mに、見掛けの傾斜角30°の厚さ8cmの破砕部が認められる。厚さ7.5cmの固結した破砕部および厚さ0.5cmの灰色の粘土状破砕部からなる。
- ・この確認位置は、ルートマップ1の表土はぎ箇所(P.154~156)で確認した断層の延長位置にあたり、走向・傾斜(N31°W/79°SW)がFD-9孔での走向・傾斜(N13°W/64°SW)と調和的であること、未固結な破砕部(粘土状破砕部)を伴うこと、隣接するFD-9孔に連続することから、福浦断層(西側)に対応する破砕部と判断した。

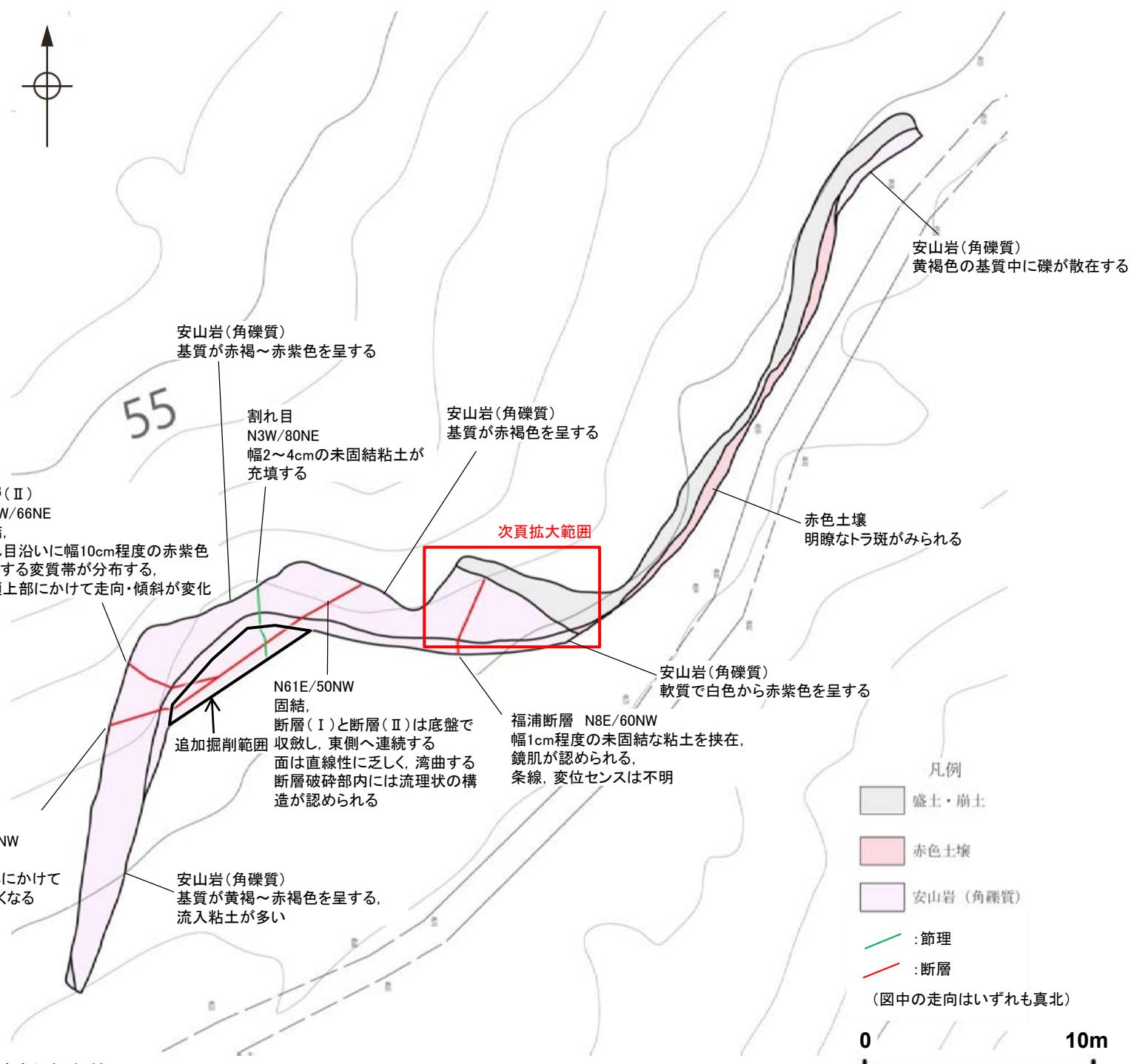
【大坪川ダム左岸 表土はぎ調査(ルートマップI)】



位置図

凡例

- | | | |
|--------------------------|------------------|----------------------------|
| 高位段丘I面 | 黄色線: 反射法地震探査(湖内) | 緑色は現地調査以降に実施した調査 |
| ●: Ib面 | 青線: 表土はぎ調査 | 斜めボーリング |
| ■: Ia面 | 赤線: 断層 | 断層確認位置 (傾斜を考慮して地表付近に上げた位置) |
| [リニアメント・変動地形] | 黒線: 断層位置 推定区間 | |
| —: Ld (変動地形である可能性は非常に低い) | | |
| ケバは低下側を示す。 | | |



大坪川左岸 表土はぎ調査結果(ルートマップI)

※詳細は補足資料2.2-1(5)

・表土はぎ調査全線の写真及び追加掘削範囲の詳細観察結果は補足資料2.2-1(5)

- ・大坪川ダム左岸のボーリング調査(OS-3' 孔)で確認した福浦断層(西側)の連続性を確認するために、表土はぎ調査を実施した。
- ・ルートマップIにおける表土はぎ調査の結果、大坪川ダム左岸のボーリング調査(OS-3' 孔)で確認した断層のほぼ延長位置において、断層が認められた。この断層は、福浦断層と走向・傾斜が調和的であること、未固結な粘土を挟在すること、隣接するOS-3' 孔等に連続することから、福浦断層(西側)に対応する断層と判断した。
- ・なお、この断層は幅1cm程度の未固結な粘土を挟在しており、ボーリングOS-4孔で確認した破碎部とは性状が異なることから、福浦断層(東側)には対応しないと判断した。
- ・この断層の西側に分布する断層(I)、(II)は固結しており、福浦断層と走向・傾斜が異なる。また、隣接孔(FD-6孔)に対応する破碎部は認められない※。

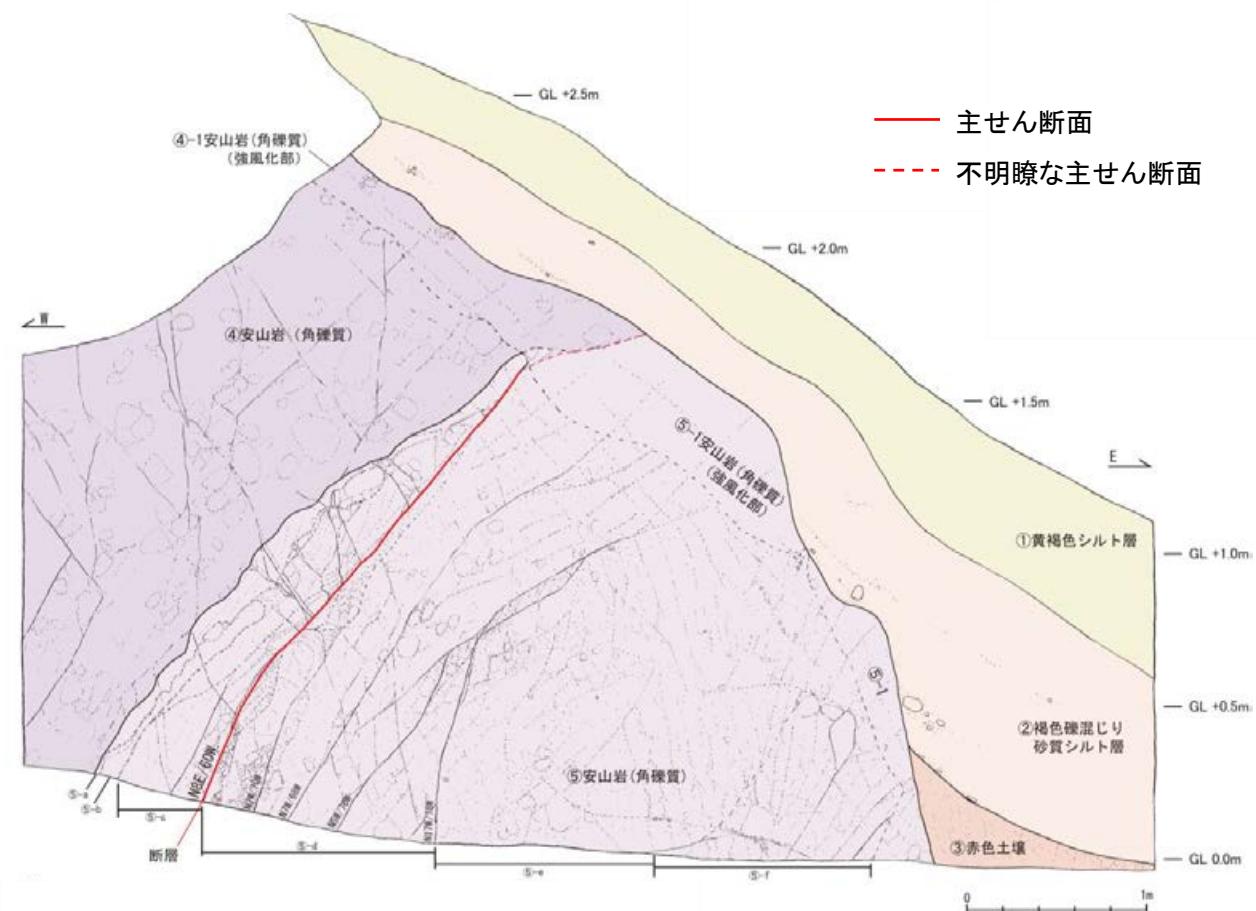
【福浦断層(西側)に対応する断層確認箇所(ルートマップI)】

←W

E→



大坪川左岸 表土はぎ写真



スケッチ

①黄褐色シルト層
灰黄褐～にぶい黄褐色(10YR 5/2～5/3)を呈する砂質シルトからなる。指圧でわずかに跡が残る程に、比較的締まっている。表層付近には、未分解の植物片及び植物根を多く含む。

②褐色礫混じり砂質シルト層
褐～赤褐色(7.5YR～5YR 4/8)を呈する礫混じり砂質シルトからなる。指圧でわずかに跡が残る程に、比較的締まっている。径2～10cm程度の安山岩のくさり礫を含む。

③赤色土壌
赤褐色(2.5YR～5YR 4/8)を呈するシルト質粘土からなる。指圧で跡が残らない程、締まっている。鮮明な斑紋が見られ、淡色部はにぶい黄褐色(10YR 6/3)を呈す。径5mm程度の白色の垂角礫を含む。

④安山岩(角礫質)
ナイフで削ることができる程度に風化している。節理に沿って褐色の粘土(幅5mm程度)が見られる。径10～30cmに角礫状になっている。上部20cm程度は強風化し粘土化している。下位との境界にせん断面は認められない。

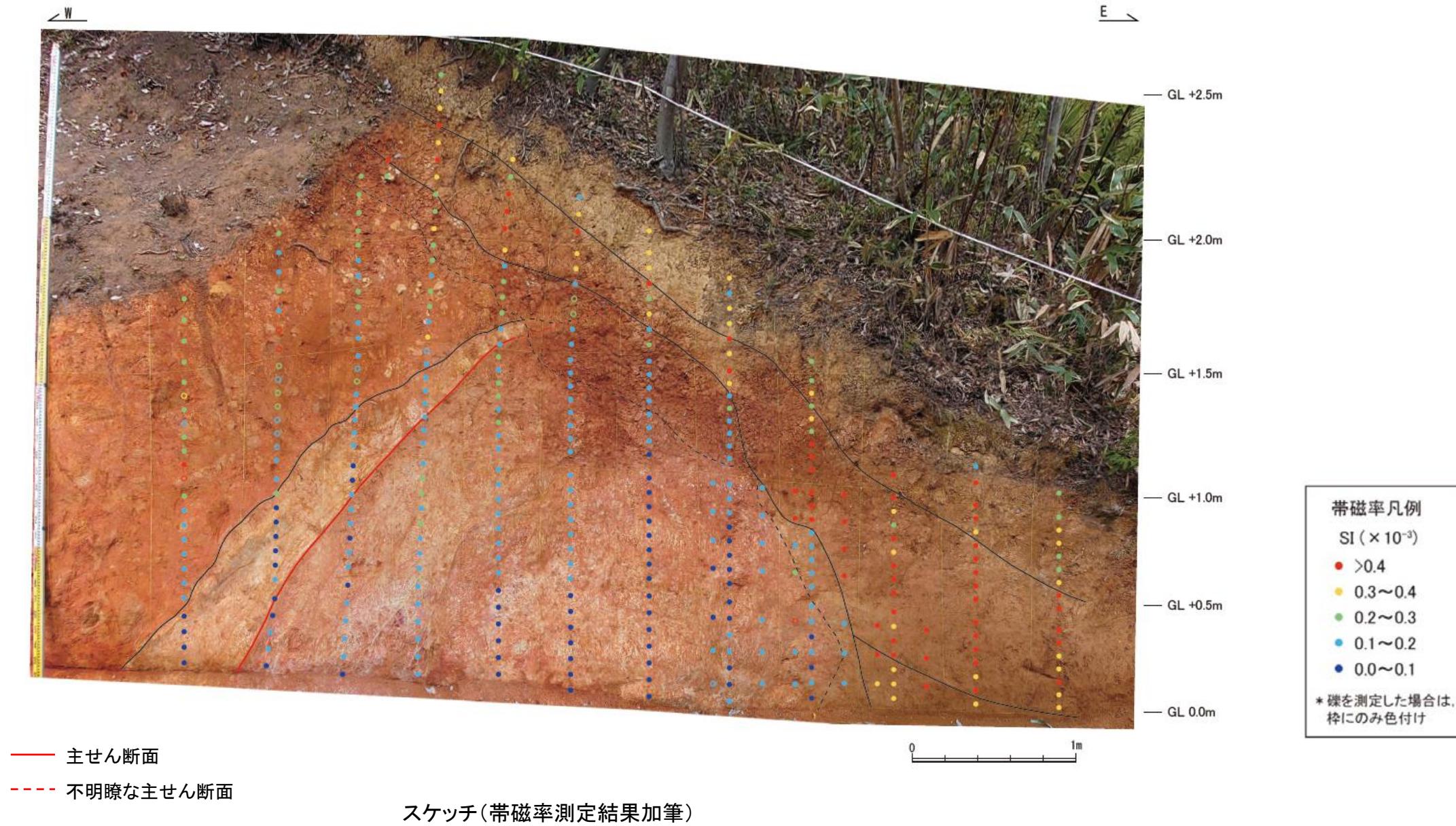
⑤安山岩(角礫質)(変質部)
全体的に変質しており、ナイフで容易に削ることができる程、軟質である。上部30cm程度は強風化し粘土化している。
・⑤-a層、⑤-c層は、淡黄～浅黄色を呈す。
・⑤-b層は、灰色を呈し、厚さ2～20cmの幅でレンズ状に分布する。
・⑤-d層は、暗紫灰～赤褐色色を呈す節理(走向傾斜NSW～N17W/68～78W)が発達した安山岩からなる。節理に沿って灰白色の鉱物が充填している。
・⑤-e層は、風化・変質により非常に軟質化しており、赤褐色を呈す。灰白色部をトラ斑状に含み、砂～粘土状になっている。
・⑤-f層は、灰色を呈し、砂状になっている。赤褐色部をトラ斑状に含む。比較的硬質な白色鉱物を含む。

④-1, ⑤-1安山岩(角礫質)(強風化部)
④-1層は比較的礫を多く含み、一方で⑤-1層はほとんど礫を含まない。本層が④安山岩(角礫質)起源の崖堆積物である場合、上方から下方にかけて連続的に礫が堆積している可能性があるが、礫の連続性は乏しい。また、④-1層の下部には礫を多く含む安山岩(角礫質)で、⑤-1層の下部には礫の含有率が乏しい砂～粘土状に変質した安山岩(角礫質)が分布している。このように、礫の分布の違いや、強風化部とその下部に分布する地層に類似性が見られる事から、④-1層及び⑤-1層をそれぞれの下部に分布する地層の強風化部として判断した。

- 断層
- ・変質した安山岩(角礫質)に分布する断層であり、走向傾斜はN8° E/60° Wを示す。
 - ・断層は上方へ傾斜は緩くなるが、安山岩(角礫質)(⑤層)中の節理も同様に露頭上部に向けて傾斜角が緩くなっているため、露頭上部で岩盤クリープが生じている可能性もあり、傾斜角が変化していると考えられる。
 - ・安山岩(角礫質)(⑤層)中では、断層に沿って幅1cm程度の褐色の粘土が分布し、下部では分岐・合合している。粘土中には鏡肌が認められる。
 - ・安山岩(角礫質)の強風化部(④-1層及び⑤-1層)では、断層面は不明瞭ではあるが、上盤側の④-1層と下盤側の⑤-1層の境界として識別できる。
 - ・断層の上盤には安山岩(角礫質)の⑤-a層～⑤-c層中に断層とほぼ直交した方向に数条の亀裂(幅数mm)が見られ、同質の褐色粘土が分布する。
 - ・断層の下盤側では幅5～10cmにわたり破碎しており、安山岩(角礫質)(⑤層)の中部～上部では断層に沿って粘土化しており、下部では礫状に細片化した部分がレンズ状に見られる。

- ・別所岳安山岩類の岩盤中に断層を確認した。断層の走向・傾斜は、N8° E/60° NW(走向は真北基準)である。
- ・断層は鏡肌が認められ、厚さ1cm程度の褐色の粘土を狭在する。岩盤上部では断層面が不明瞭となっており、これは岩盤クリープに伴う岩盤の乱れや風化・変質の影響によるものと考えられる。
- ・岩盤は、断層の西側(上盤)は主にやや風化した安山岩(角礫質)からなる一方で、東側(下盤)では全体的に変質した安山岩(角礫質)からなる。

【帯磁率測定結果(ルートマップI)】



・ルートマップIの断層確認箇所において帯磁率測定を実施した結果、岩盤と堆積物の境界について、肉眼観察と概ね整合的な結果が得られた。

【福浦断層と評価した破砕部について】

紫字:第1168回審査会合以降の変更箇所

○福浦断層南部の追加調査で確認した破砕部について、P.139の認定の考え方にに基づき右下表 ■ の破砕部を福浦断層と評価し、それ以外の破砕部については、いずれも福浦断層に対応しないと評価した(次頁～P.160)。

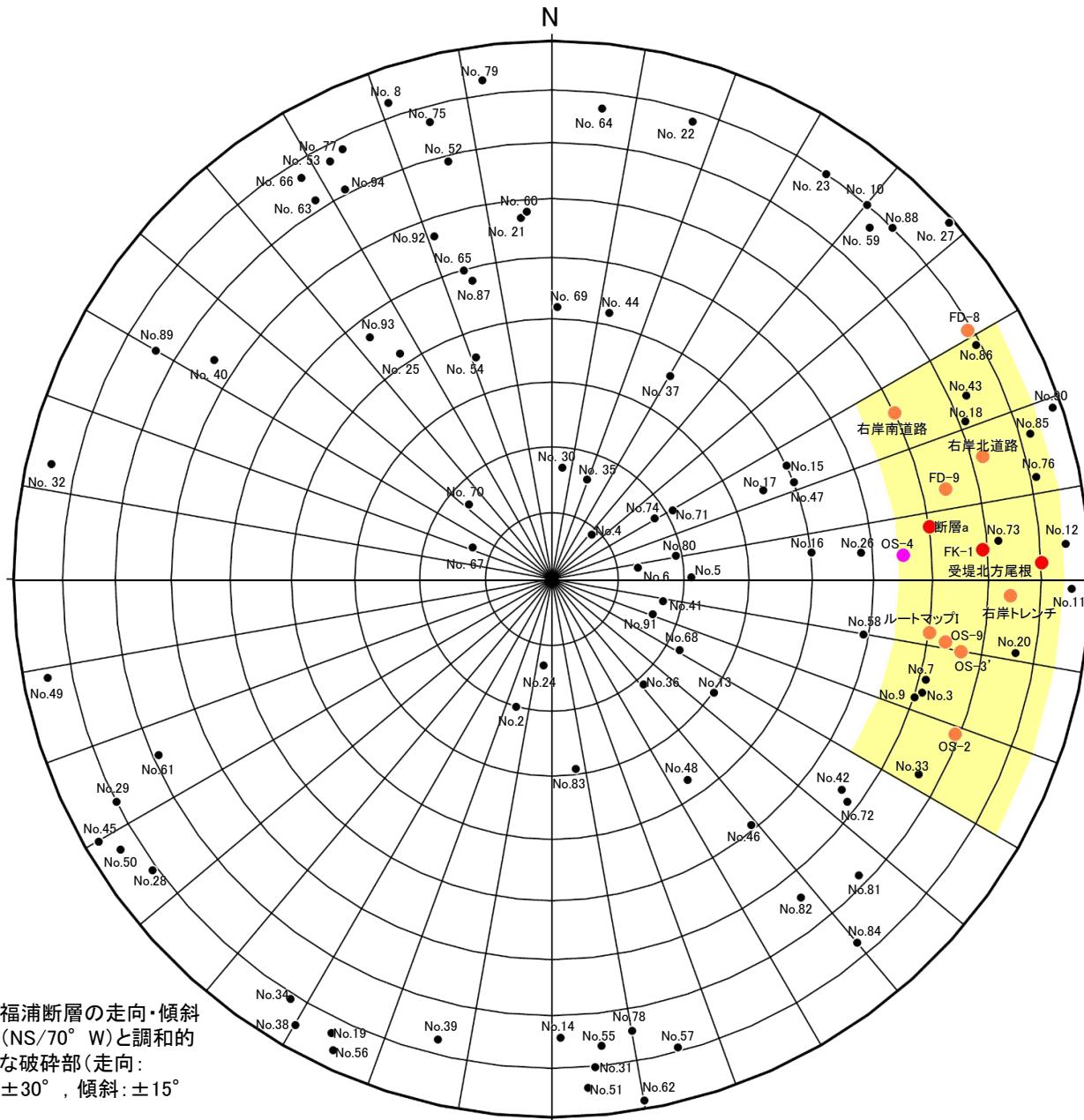
福浦断層の性状一覧表

福浦断層 A測線以北						
名称	確認位置 確認深度(m)	標高(m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部	
					粘土状破砕部 の幅 (cm)	砂状・角礫状 破砕部の幅 (cm)
断層a	地表	EL62付近	N8W/60SW	5.0	2.0	—
受堤北方尾根	地表	EL87付近	N2W/80SW	1.0	1.0	—
FK-1	52.48～52.55	EL 57.37～57.32	N4W/69SW	6.5	1.0	—
反射法地震探査 福浦測線	CMP380付近	—	約75度西傾斜	—	—	—
反射法地震探査 A測線	CMP1030付近	—	約70度西傾斜	—	—	—

福浦断層(東側)						
名称	確認位置 確認深度(m)	標高(m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部	
					粘土状破砕部 の幅 (cm)	砂状・角礫状 破砕部の幅 (cm)
反射法地震探査 C測線	CMP120付近	—	約65度西傾斜	—	—	—
反射法地震探査 B測線	CMP160付近	—	約80度西傾斜	—	—	—
OS-4孔	40.60～40.63	EL26.71～26.73	N4W/55SW	2.2	—	—

福浦断層(西側)						
名称	確認位置 確認深度(m)	標高(m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部	
					粘土状破砕部 の幅 (cm)	砂状・角礫状 破砕部の幅 (cm)
反射法地震探査 C測線	CMP180付近	—	約65度西傾斜	—	—	—
大坪川ダム 右岸北道路	地表	EL35付近	N16W/48～72SW*	6.5	1.5	—
大坪川ダム 右岸トレンチ	地表	EL48付近	N2E/74NW	35	1.0	—
大坪川ダム 右岸南道路	地表	EL43付近	N26W/60SW	20～30	2.0	—
反射法地震探査 B測線	CMP100付近	—	約75度西傾斜	—	—	—
OS-9孔	17.08～17.18	EL43.47～43.40	N9E/63NW	4.0	—	2.8
OS-3'孔	28.32～28.35	EL37.12～37.14	N10E/66NW	2.1	2.1	—
OS-2孔	94.61～94.62	EL-10.99～-11.00	N21E/69NW	1.6	0.2	—
ルートマップI	地表	EL50付近	N8E/60NW	10	1.0	—
FD-8孔	55.80～55.88	EL8.79～8.84	N31W/79SW	8.0	0.5	—
FD-9孔	14.70～14.76	EL36.68～36.73	N13W/64SW	6.0	—	6.0

*:大坪川ダム右岸北道路法面は、上部(傾斜48°)と下部(傾斜72°)で走向・傾斜を計測しているが、福浦断層全体の傾斜を反映していると考えられる下部(傾斜72°)の走向・傾斜を代表とした。



福浦断層南部の調査結果
(シュミットネット下半球投影図)

■ :追加調査で福浦断層と
評価した破砕部

- 福浦断層の走向・傾斜 (NS/70° W)と調和的な破砕部(走向: ±30°, 傾斜: ±15°)
- 福浦断層 A測線以北
- 福浦断層 南部(東側)
- 福浦断層 南部(西側)
- 福浦断層以外の破砕部 (性状一覧は次頁以降)

【福浦断層以外の破砕部性状一覧①】

- ・福浦断層と走向・傾斜が対応する破砕部は □ で示す。
- ・福浦断層と走向・傾斜が対応しない破砕部のうち、未固結な破砕部を伴うものについても、連続性の検討を行った。
- ・連続性の検討結果の詳細は、[補足資料2.2-1\(6\)](#)

OS-1孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
1	11.94~11.96	EL 43.25~43.23	測定区間外	2.0	—	—	・未固結な破砕部を伴わない。
2	17.19~17.20	EL 39.53~39.53	N74W/20NE	1.9	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
3	33.61~33.63	EL 27.92~27.91	N17E/61NW	2.1	0.1	—	・隣接孔(OS-2孔 0.0~19.9m)に連続しない。
4	41.93~41.95	EL 22.04~22.03	N49W/9SW	1.9	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
5	42.04~42.06	EL 21.96~21.95	N1W/21SW	3.6	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
6	42.32~42.39	EL 21.77~21.72	N8W/13SW	7.3	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
7	54.86~54.94	EL 12.90~12.84	N15E/61NW	6.4	—	1.1	・隣接孔(OS-2孔 13.8~33.8m)に連続しない。
8	74.38~74.77	EL -0.90~-1.18	N71E/83SE	21	—	19	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(FD-6孔 15.4~38.1m)に連続しない。
9	86.59~86.65	EL -9.54~-9.58	N18E/60NW	3.5	1.4	—	・隣接孔(OS-2孔 46.0~66.4m)に連続しない。
10	87.88~87.92	EL -10.45~-10.48	N50W/80SW	3.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
11	92.36~92.40	EL -13.62~-13.65	N1E/86NW	2.6	1.4	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-2孔 11.2~33.6m)に連続しない。
12	92.71~92.74	EL -13.87~-13.89	N4W/85SW	2.5	1.6	—	・隣接孔(OS-2孔 9.3~32.3m)に連続しない。

OS-2孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
13	24.91~24.94	EL 38.30~38.27	N35E/30NW	1.8	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
14	37.95~39.54	EL 29.08~27.95	N89E/74NW	68	—	3.2 2.8	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(FD-6孔 32.5~32.8m)に連続しない。
15	80.71~80.77	EL -1.17~-1.21	N26W/40SW	6.4	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
16	91.84~91.90	EL -9.03~-9.07	N6W/40SW	5.4	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
17	97.63~97.66	EL -13.12~-13.15	N23W/35SW	3.6	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。

OS-3孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
18	35.64~35.68	EL31.98~31.95	N21W/71SW	3.4	—	—	・未固結な破砕部を伴わない。 ・隣接孔(OS-3'孔 3.3~11.2m)に連続しない。

OS-3'孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
19	29.87~30.13	EL36.05~35.86	N64W/83NE	15	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
20	42.80~42.82	EL26.91~26.89	N9E/76NW	1.6	—	—	・未固結な破砕部を伴わない。 ・隣接孔(OS-4孔 0.5~11.0m)に連続しない。

OS-4孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
21	18.39~18.44	EL 42.44~42.40	N85E/57SE	4.0	—	4.0	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
22	18.70~18.79	EL 42.22~42.15	N73W/78SW	6.2	—	6.2	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・ルートマップHIに連続しない。
23	19.02~19.06	EL 41.99~41.96	N56W/80SW	4.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
24	23.06~23.12	EL 39.13~39.09	N84W/13NE	5.8	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
25	38.39~38.42	EL 28.29~28.27	N56E/42SE	2.5	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
26	40.91~40.93	EL 26.51~26.50	N5W/48SW	3.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。 ・隣接孔(FD-6孔 31.7~33.4m)に連続しない。
27	43.78~43.79	EL 24.48~24.48	N42W/89SW	1.2	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
28	44.40~44.41	EL 24.04~24.04	N36W/81NE	1.2	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
29	44.64~44.73	EL 23.87~23.81	N27W/80NE	7.4	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
30	45.02~45.05	EL 23.61~23.58	N85W/17SW	2.2	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
31	45.57~45.92	EL 23.22~22.97	N85E/80NW	14	1.8	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
32	46.89~47.10	EL 22.28~22.14	N13E/85SE	9.3	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。

- ・福浦断層と走向・傾斜が対応する破砕部は □ で示す。
- ・福浦断層と走向・傾斜が対応しない破砕部のうち、未固結な破砕部を伴うものについても、連続性の検討を行った。
- ・連続性の検討結果の詳細は、補足資料2.2-1(6)

【福浦断層以外の破砕部性状一覧②】

OS-4孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
33	47.18~47.23	EL 22.08~22.04	N28E/66NW	3.2	—	—	・未固結な破砕部を伴わない。 ・隣接孔(OS-11孔 64.7~70.0m)に連続しない。
34	47.71~48.16	EL 21.70~21.39	N58W/81NE	26	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
35	48.44~48.46	EL 21.19~21.17	N71W/16SW	1.2	1.2	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-2孔 63.7~100.0m)に連続しない。
36	48.82~48.88	EL 20.92~20.88	N49E/21NW	6.6	—	6.6	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-3'孔 34.1~57.9m)に連続しない。
37	49.41~49.48	EL 20.50~20.45	N60W/36SW	7.0	7.0	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・ルートマップHに連続しない。
38	49.67~49.71	EL 20.32~20.29	N60W/85NE	4.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
39	50.28~50.90	EL 19.89~19.45	N76W/77NE	33	3.4	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・ルートマップHに連続しない。
40	52.21~52.25	EL 18.52~18.49	N33E/64SE	1.2	—	1.2	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-11孔 57.9~65.9m)に連続しない。
41	58.64~58.79	EL 13.98~13.87	N11E/17NW	16	—	16	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・ルートマップHに連続しない。
42	60.89~61.12	EL 12.38~12.22	N36E/56NW	17	—	17	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-11孔 50.6~53.5m)に連続しない。
43	62.57~62.67	EL 11.20~11.13	N24W/73SW	10	—	—	・未固結な破砕部を伴わない。 ・隣接孔(FD-3孔 16.3~25.8m)に連続しない。
44	62.84~62.87	EL 11.01~10.98	N78W/42SW	2.6	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
45	63.16~63.22	EL 10.78~10.74	N30W/87NE	3.8	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
46	63.35~63.38	EL 10.64~10.62	N51E/49NW	3.4	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
47	63.75~63.82	EL 10.36~10.31	N22W/40SW	4.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
48	65.15~65.18	EL 9.37~9.35	N56E/37NW	2.2	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
49	65.55~66.09	EL 9.09~8.71	N11W/85NE	30	0.4 10	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(F-1'孔 67.8~70.3m)に連続しない。
50	66.31~66.35	EL 8.55~8.52	N32W/84NE	4.0	4.0	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(FD-3孔 35.4~41.3m)に連続しない。
51	78.67~78.70	EL -0.19~-0.21	N86E/84NW	2.7	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
52	84.39~85.05	EL -4.23~-4.70	N76E/69SE	44	—	2.6 9.0	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
53	85.17~85.35	EL -4.78~-4.83	N62E/77SE	12	—	12	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-5孔 23.1~33.6m, OS-6孔 29.2~37.3m)に連続しない。
54	86.00~86.20	EL -5.37~-5.51	N71E/36SE	15	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
55	86.70~86.79	EL -5.87~-5.93	N84E/76NW	5.2	1.9	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。

OS-4孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
56	89.66~89.70	EL -7.96~-7.99	N65W/86NE	3.5	0.3	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・ルートマップHに連続しない。
57	90.77~91.13	EL -8.74~-9.00	N75E/79NW	6.3	0.8	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
58	91.45~91.47	EL -9.22~-9.24	N10E/49NW	2.4	0.6	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(FD-3孔 0.0~19.5m)に連続しない。
59	91.95~92.83	EL -9.58~-10.20	N48W/77SW	72	1.0	6.9	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・ルートマップHに連続しない。
60	94.45~94.47	EL -11.35~-11.36	N86E/58SE	2.1	0.3	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
61	97.82~97.89	EL -13.73~-13.78	N24W/69NE	2.4	—	2.4	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(FD-3孔 0.0~35.6m)に連続しない。
62	98.52~98.58	EL -14.22~-14.27	N80E/88NW	2.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
63	99.49~99.55	EL -14.91~-14.95	N58E/72SE	5.4	—	5.4	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
64	100.46~100.49	EL -15.60~-15.62	N84W/77SW	3.6	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
65	100.81~100.86	EL -15.84~-15.88	N74E/50SE	5.1	1.4	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
66	106.03~106.08	EL -19.53~-19.57	N58E/77SE	1.4	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。

FD-8孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
67	48.88~48.96	EL 13.74~13.68	N22E/13SE	6.0	2.5	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-4孔 0~68.9m)に連続しない。
68	61.78~61.96	EL 4.61~4.49	N29E/22NW	12	1.5	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・ルートマップFに連続しない。

FD-8'孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
破砕部は認められない							

FD-9孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
69	19.44~19.52	EL 33.37~33.32	N89W/42SW	8.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
70	24.63~24.82	EL 29.70~29.57	N42E/17SE	13	1.0	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・ルートマップHに連続しない。

- ・福浦断層と走向・傾斜が対応する破砕部は □ で示す。
- ・福浦断層と走向・傾斜が対応しない破砕部のうち、未固結な破砕部を伴うものについても、連続性の検討を行った。
- ・連続性の検討結果の詳細は、補足資料2.2-1(6)

【福浦断層以外の破砕部性状一覧③】

OS-11孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
71	13.59~13.63	EL 46.30~46.27	N30W/21SW	4.0	1.2	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-2孔 10.7~12.4m)に連続しない。
72	35.37~35.39	EL 30.90~30.89	N37E/58NW	2.6	0.6	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-3'孔 38.7~40.8m)に連続しない。
73	37.70~37.71	EL 29.25	N5W/72SW	1.1	—	—	・未固結な破砕部を伴わない。 ・隣接孔(OS-2孔 35.3~35.9m)に連続しない。
74	40.95~40.96	EL 26.95	N31W/18SW	1.2	1.2	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-2孔 32.5~38.1m)に連続しない。
75	59.77~59.83	EL 13.65~13.60	N75E/77SE	5.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
76	60.77	EL 12.94	N12W/81SW	1.4	—	1.4	・隣接孔(OS-2孔 46.1~50.0m)に連続しない。
77	61.44~61.54	EL 12.47~12.39	N64E/78SE	4.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
78	61.80~61.81	EL 12.21~12.20	N80E/74NW	1.4	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
79	65.14~65.55	EL 9.85~9.56	N82E/83SE	31	—	0.5	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・ルートマップIIに連続しない。

FD-3孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
破砕部は認められない							

FD-6孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
80	44.92~45.00	EL 21.20~21.14	N11W/19SW	7.5	—	7.5	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(F-1'孔 44.7~45.3m)に連続しない。

FD-1孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
破砕部は認められない							

FD-2孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
破砕部は認められない							

FD-4孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
破砕部は認められない							

FD-5孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
81	37.50~37.61	EL 10.66~10.59	N44E/68NW	7.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。

FD-7孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
82	21.40~21.56	EL 23.90~23.78	N52E/64NW	15	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
83	38.22~38.24	EL 12.00~11.99	N83E/29NW	3.0	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
84	41.02~41.39	EL 10.02~9.76	N50E/77NW	30	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。

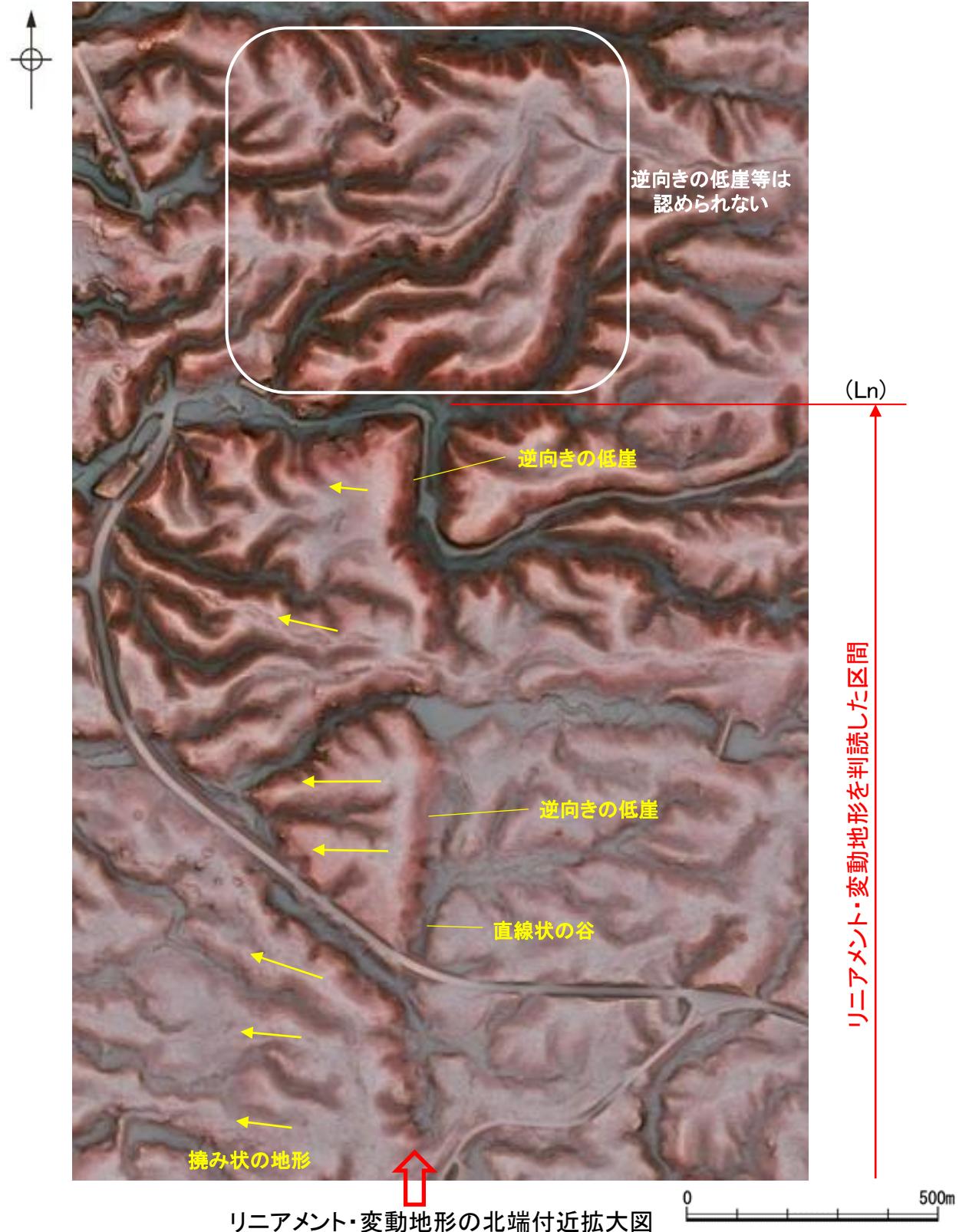
OS-9孔							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	未固結な破砕部		福浦断層に対応しないと判断した根拠
					粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	
85	19.12~19.14	EL 42.03~42.02	N17W/82SW	1.4	—	—	・未固結な破砕部を伴わない。 ・隣接孔(OS-4孔:1.4~6.0m, OS-3'孔:51.9~60.0m)に連続しない。
86	20.73~20.93	EL 40.89~40.75	N29W/79SW	15	2.0	—	・隣接孔(OS-4孔:6.5~10.1m, OS-3'孔:54.4~60.0m)に連続しない。
87	53.38~53.40	EL 17.80~17.79	N75E/48SE	1.5	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
88	54.38~54.40	EL 17.10~17.08	N46W/80SW	1.5	0.7	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-4孔 31.5~37.4m)に連続しない。
89	55.42~55.50	EL 16.36~16.31	N30E/74SE	6.1	0.2 0.5	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-1孔)の想定延長範囲(56.3~100.0m)に対応する破砕部が認められない。
90	61.51~61.53	EL 12.06~12.04	N19W/88SW	1.1	1.1	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・隣接孔(OS-4孔)の想定延長範囲(1.4~18.6m)に対応する破砕部が認められない。
91	68.25~68.33	EL 7.29~7.23	N19E/16NW	5.7	—	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・未固結な破砕部を伴わない。
92	70.66~70.72	EL 5.59~5.54	N71E/57SE	5.4	—	5.4	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
93	71.04~71.06	EL 5.32~5.30	N53E/47SE	2.5	0.5	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
94	79.63~79.67	EL -0.76~-0.79	N62E/71SE	4.0	0.7	—	・走向・傾斜が福浦断層と対応しない。 ・大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。

2.2.1 (7) 福浦断層の端部 —北端付近の地形調査—

○大坪川ダム付近のLs地点～福浦港東部のLn地点までは、逆向きの低崖が直線的に連続して認められるが、福浦港東部のLn地点以北では逆向きの低崖等は認められないことから、リニアメント・変動地形は判読されない。



赤色立体地図(航空レーザ計測データにより作成)

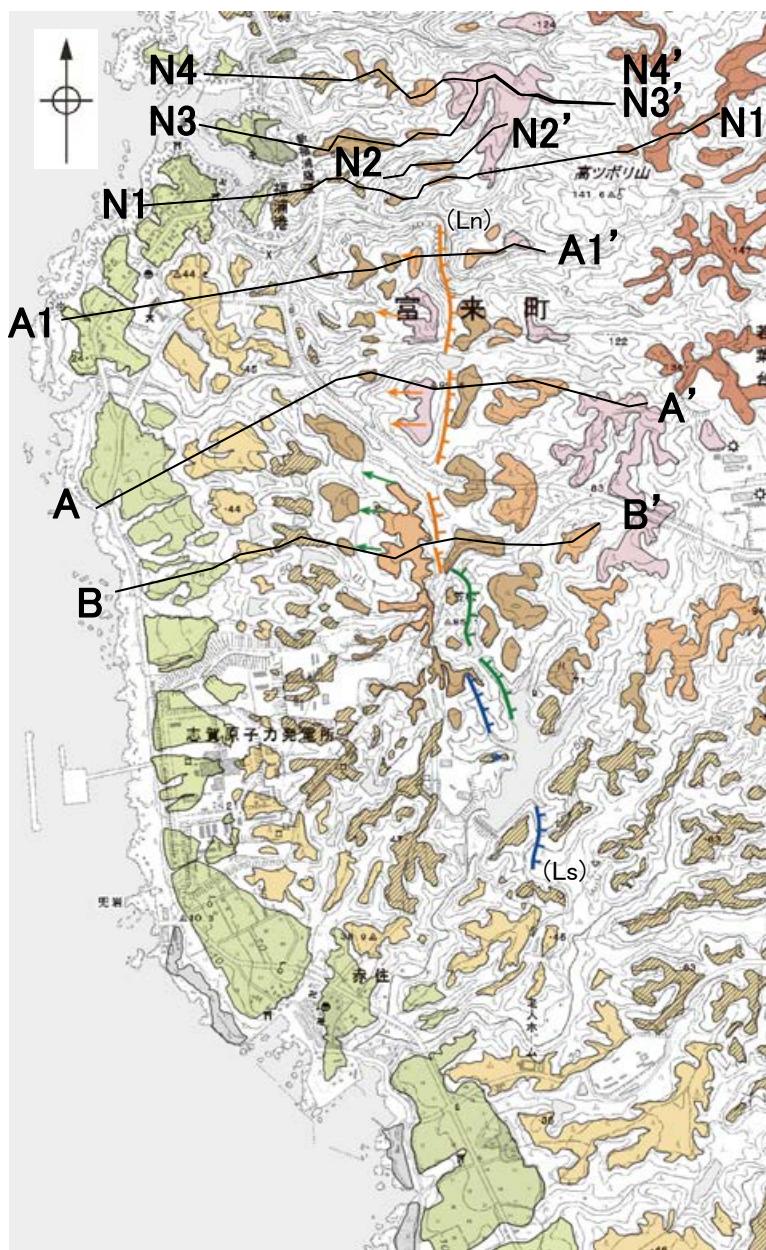


リニアメント・変動地形の北端付近拡大図

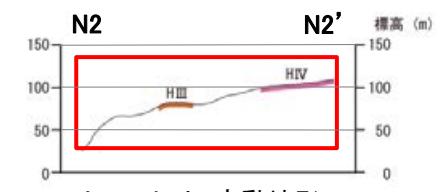
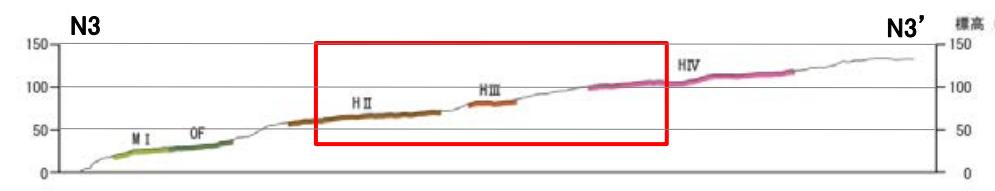
福浦断層(北端)

【北端付近 地形断面図】

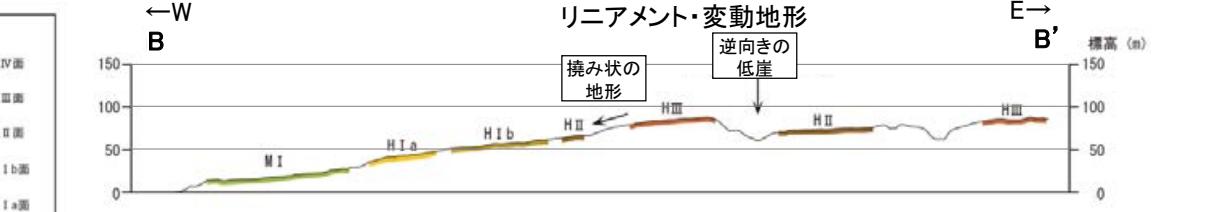
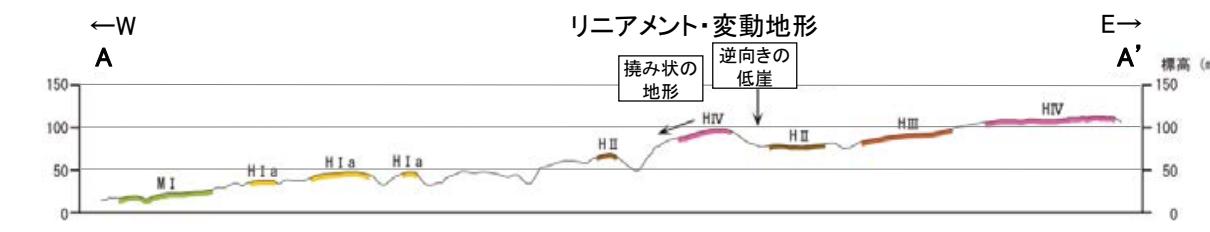
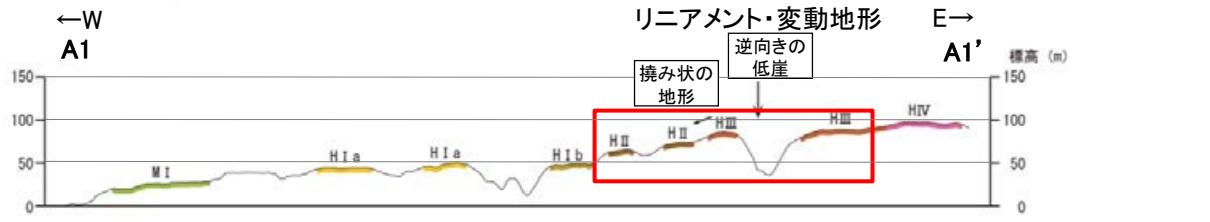
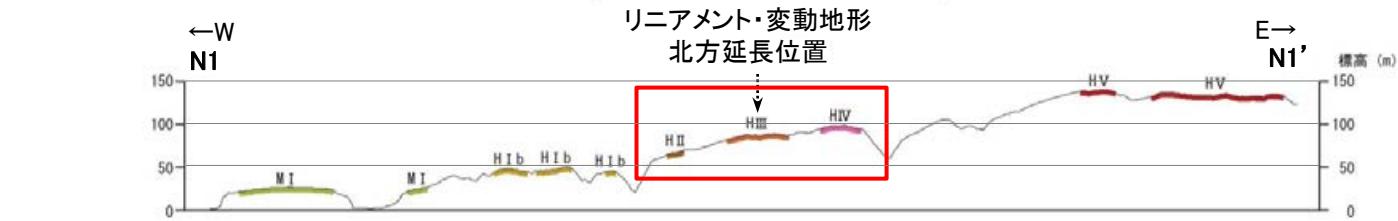
○大坪川ダム付近のLs地点～福浦港東部のLn地点までは、逆向きの低崖が連続して認められるが、福浦港東部のLn地点以北では逆向きの低崖及び撓み状の地形は認められない(N1-N1'断面～N4-N4'断面)。



段丘面分布図



拡大範囲
(次頁)

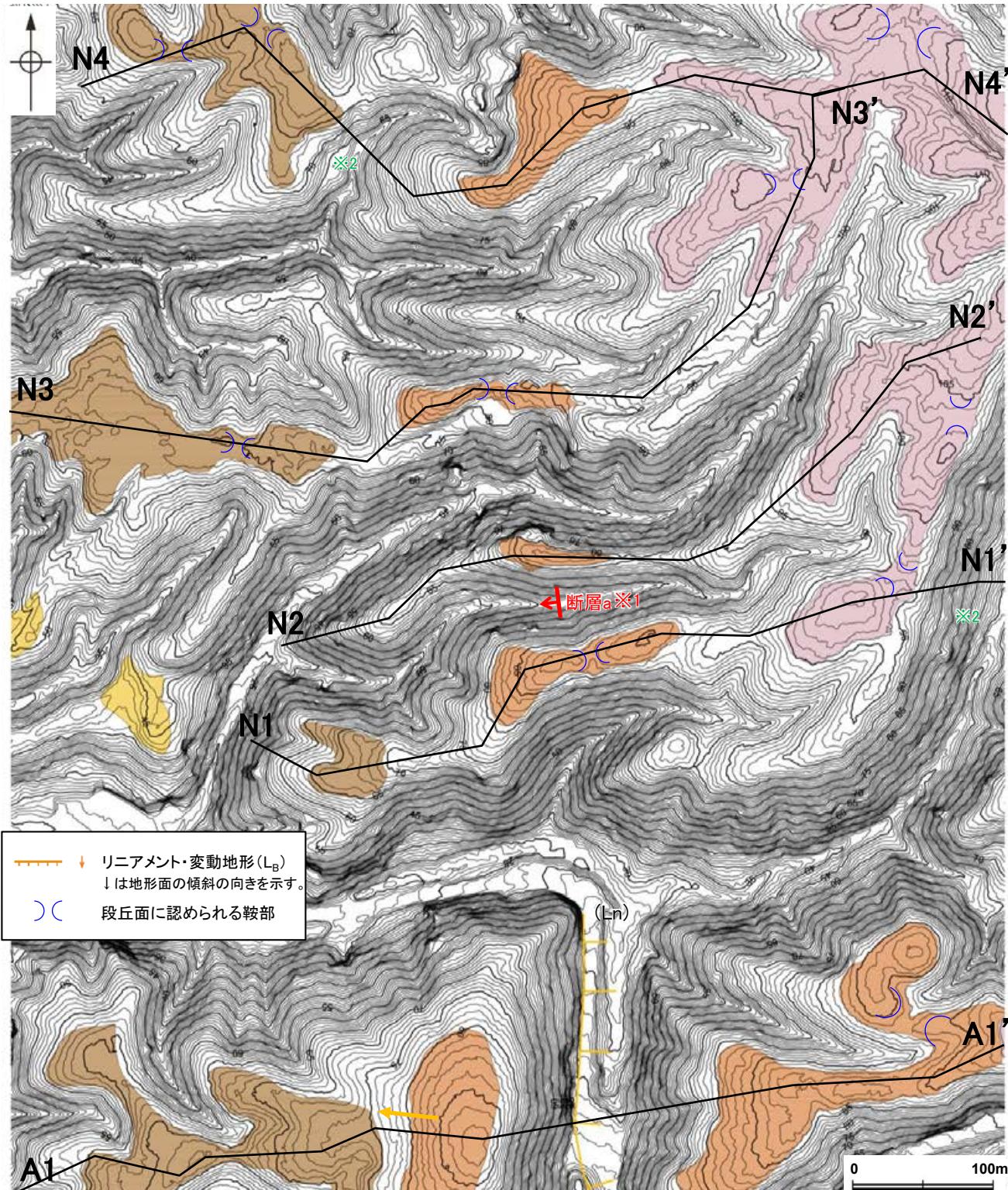


地形断面図(H:V=1:2)
(航空レーザ計測データにより作成)

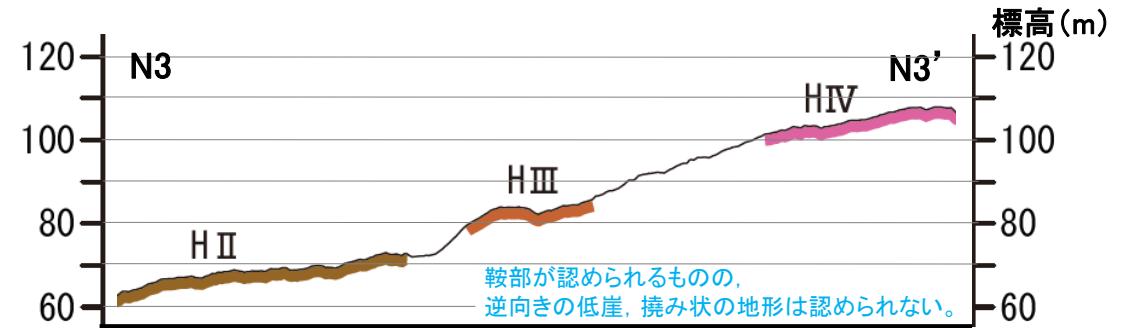
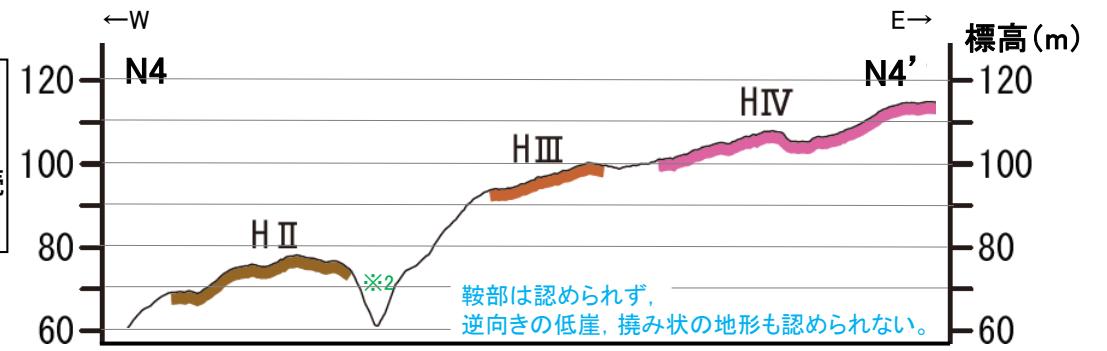
福浦断層(北端)

【北端付近 地形断面図(拡大)】

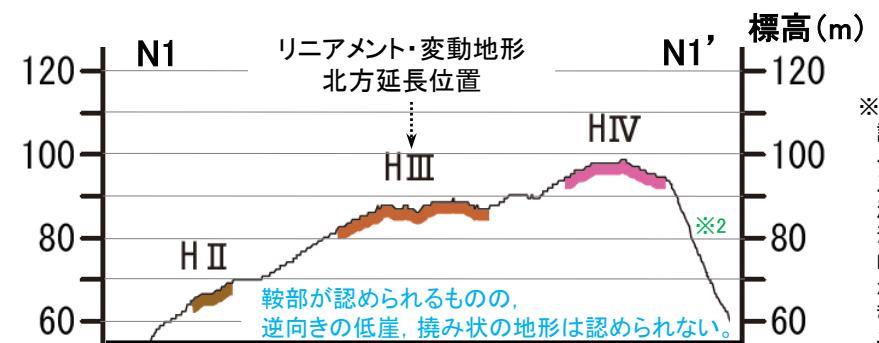
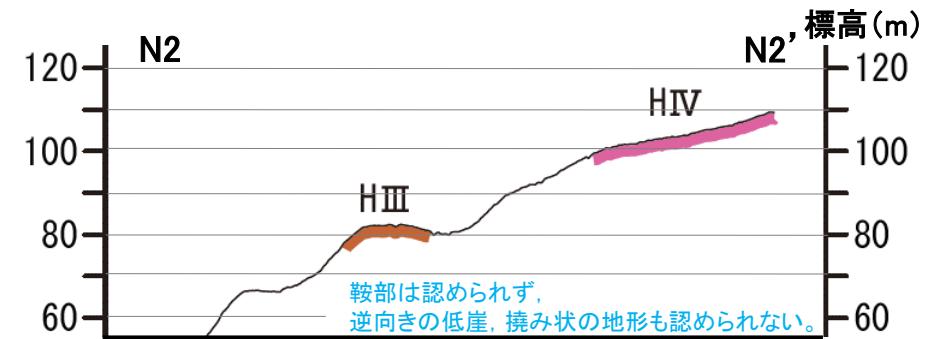
- リニアメント・変動地形の北方延長には、逆向きの低崖及び撓み状の地形は認められない。
- N1-N1' 断面及びN3-N3' 断面には、局所的に鞍部が認められるが、これらは北方・南方には連続しない。
- 高位段丘面では開析が進んでおり、同様の鞍部は周辺の高位段丘面でも見られる。これらの鞍部は連続しておらず、周辺の谷からの侵食等の影響により形成されたものと考えられる。



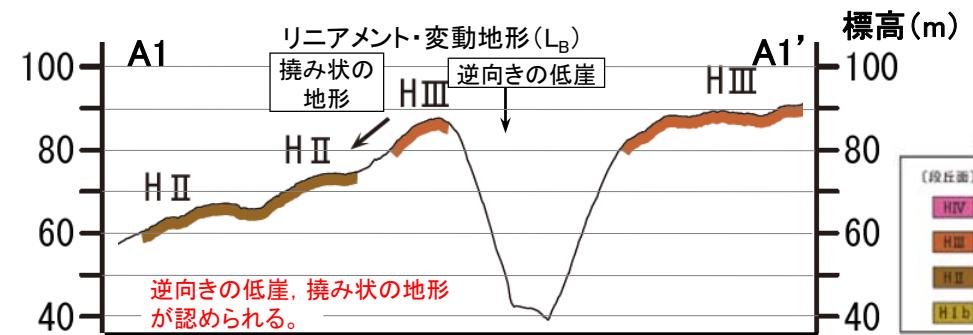
地形図(航空レーザー計測データにより作成)



※1: 断層aについては
次頁参照



※2: 谷に沿って崖が認められる箇所があるが、空中写真判読及び航空レーザー計測により作成した地形図によれば、平面的に直線性・連続性が認められず、逆向きの低崖からなるリニアメント・変動地形は判読されない。



地形断面図(H:V=1:4)
(航空レーザー計測データにより作成)



2.2.1 (7) 福浦断層の端部 — 北端付近の地質調査 —

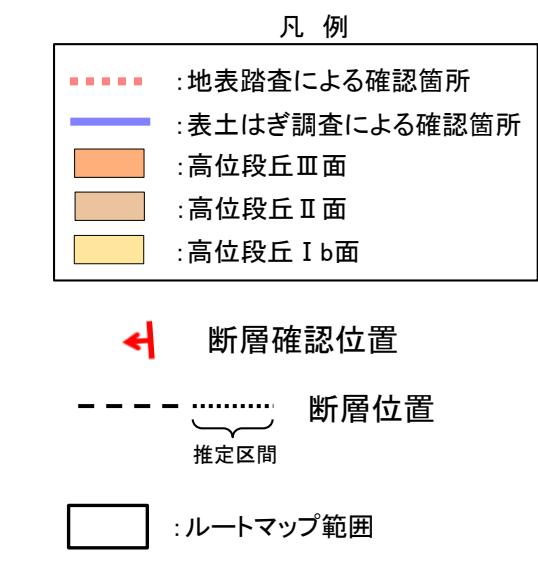
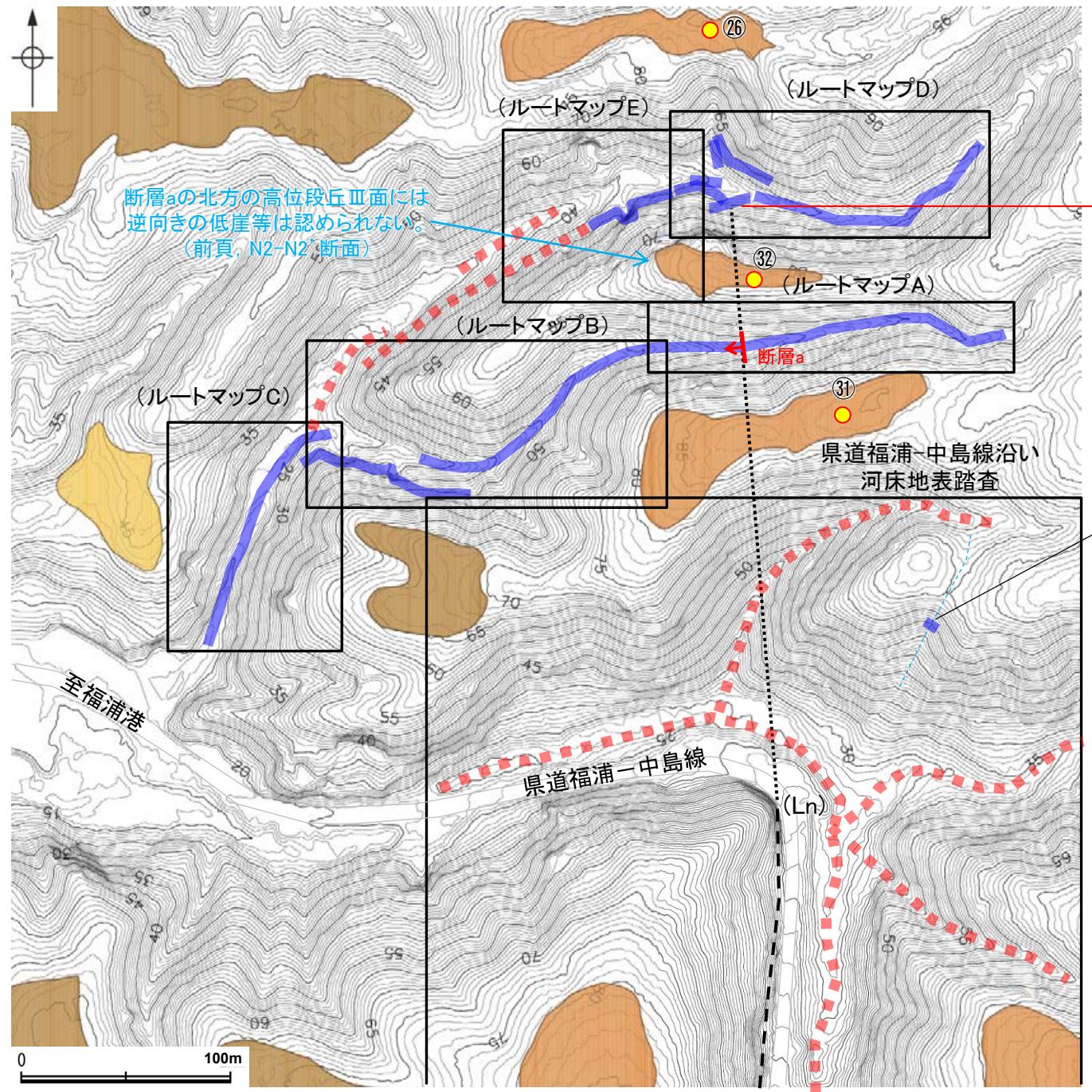
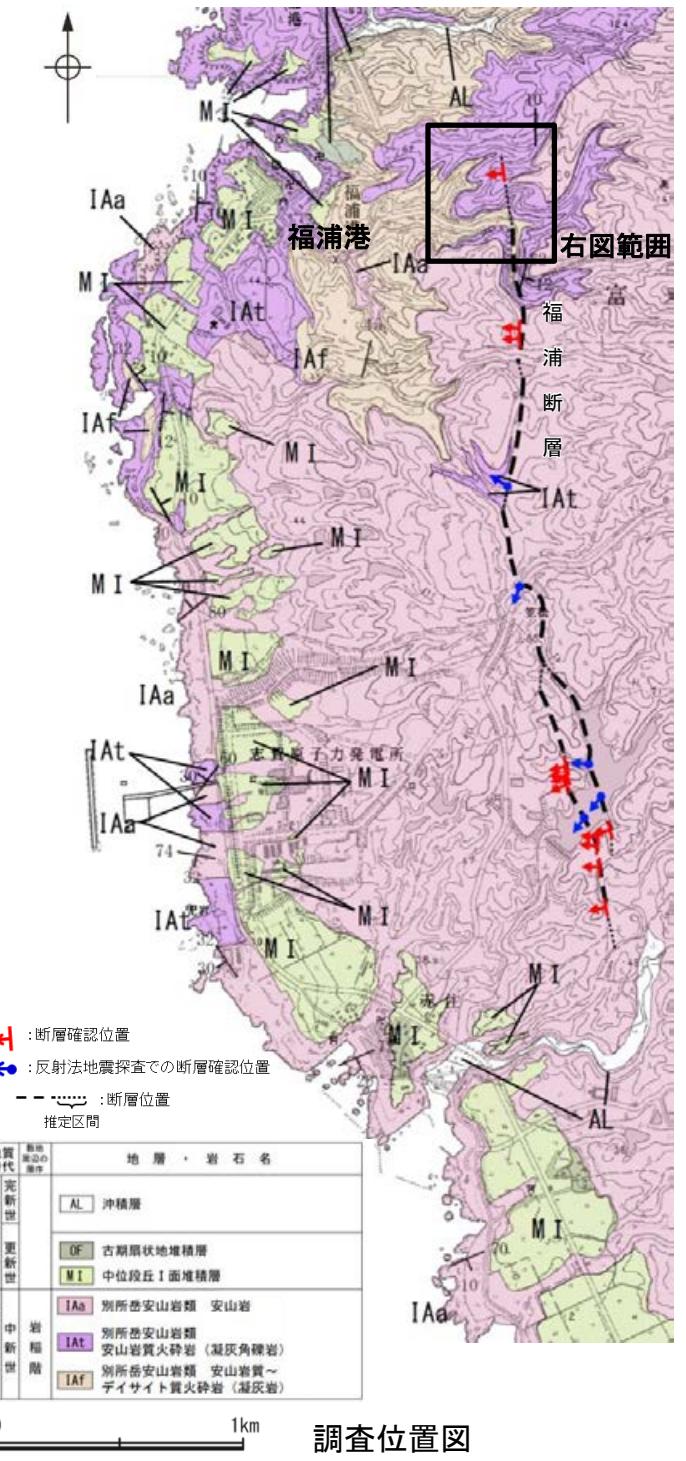
○リニアメント・変動地形が判読されない断層北方の福浦港東部において、表土はぎ調査(ルートマップA)を行った結果、断層aが認められた(P.165)。この断層aは、走向・傾斜及び変位センスが福浦断層と調和的であること(P.165~168)、南方の県道福浦-中島線沿いの河床に露頭が欠如する区間があることから、福浦断層の一部と評価した。

○その北方延長において表土はぎ調査(ルートマップD及びE)を行った結果、新鮮で堅硬な凝灰岩等の露頭が連続して分布し、断層aの北方延長位置も含めて、福浦断層に対応する断層は認められない(P.171, 172)。

○したがって、断層aの北方延長位置において、断層が確実に認められないことを確認したルートマップDの表土はぎ箇所を福浦断層の北端と評価した。

○また、露頭観察結果を補強するような地質状況の検討を行うために、ルートマップD, E及びその周辺で地表踏査を行った結果、断層aの北方延長位置を挟んで地層境界がほぼ同じ高度で連続し、地層境界のずれ等は認められない。このことは、ルートマップDの表土はぎ箇所を福浦断層の北端と評価したと整合する(P.173)。

○なお、県道福浦-中島線の北東方に位置する谷及び鞍部にあたる地点においても、表土はぎ調査を行った結果、福浦断層から分岐する断層は認められない(P.180)。

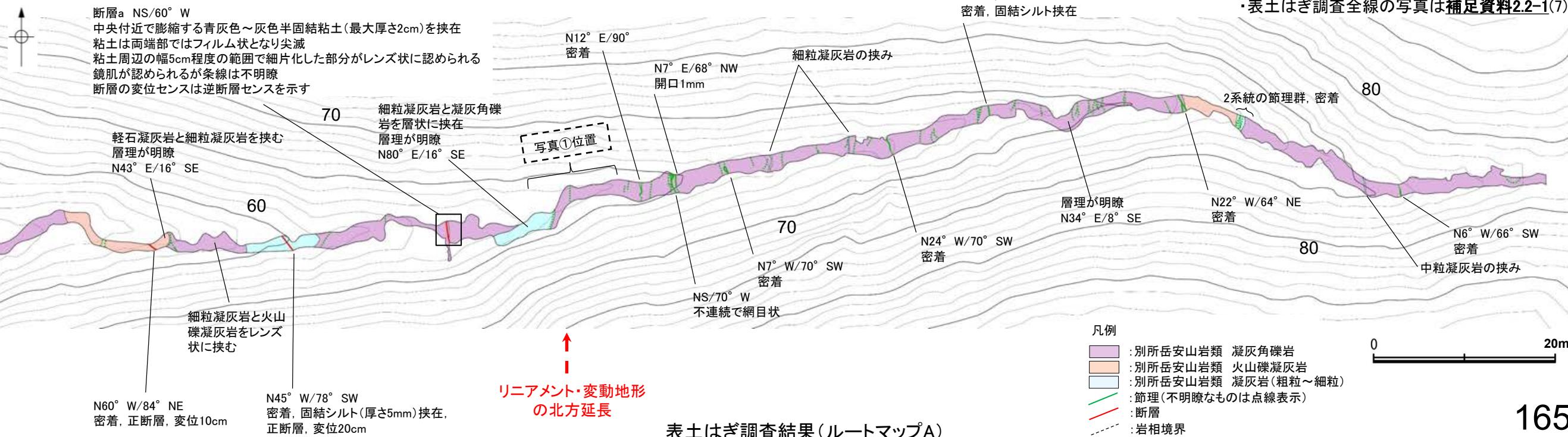
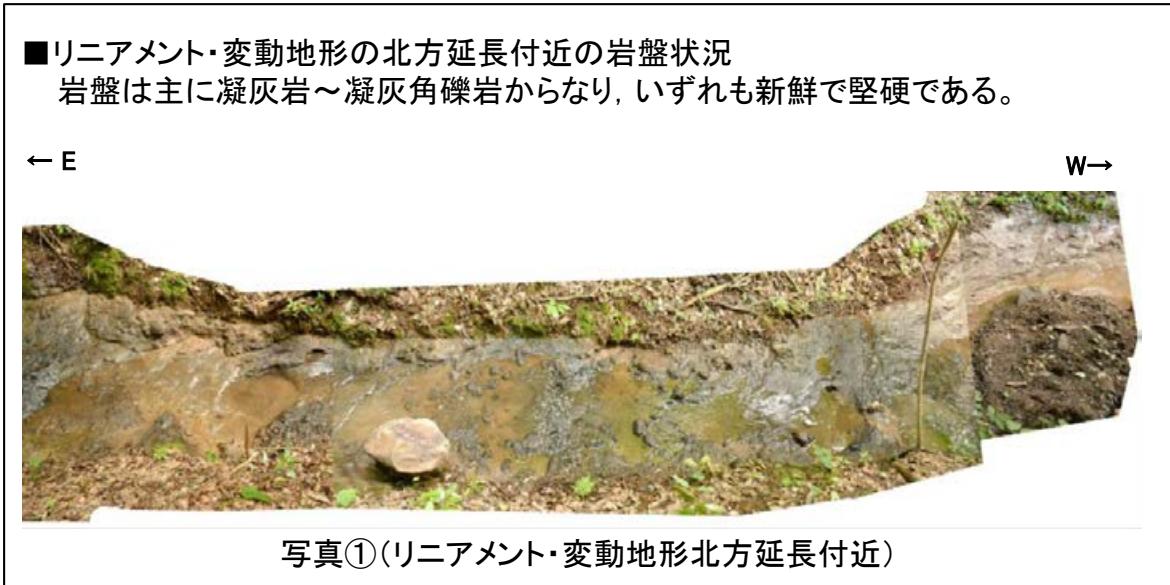
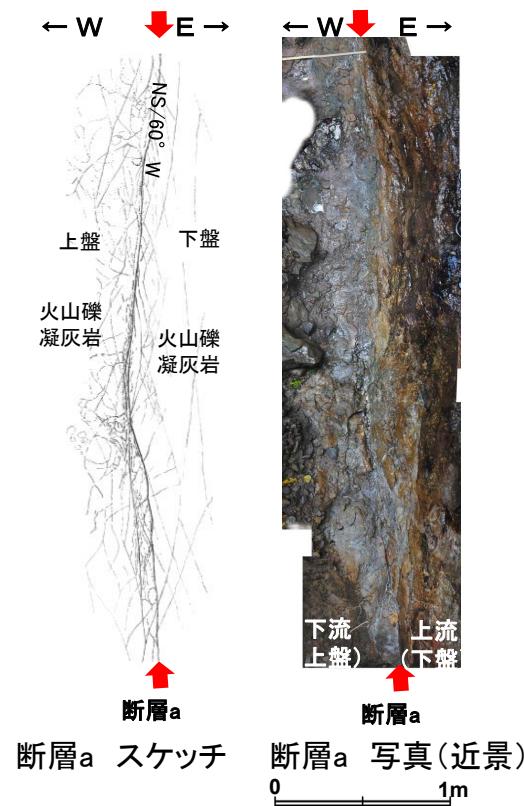
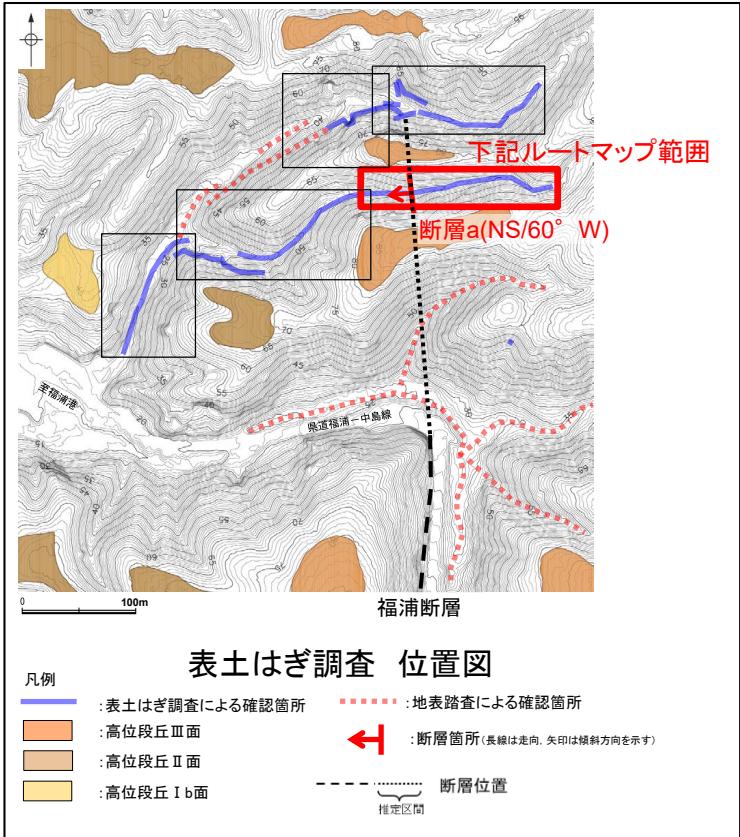


福浦断層北端付近 調査位置図

福浦断層(北端)

【表土はぎ調査(ルートマップA)】

・表土はぎ調査(ルートマップA)の結果, 断層が3箇所認められるものの, 断層a以外は正断層センスを示し, 福浦断層の逆断層センスとは整合しない。
 ・断層aの走向・傾斜はNS/60° W, 薄片観察から推定される変位センスは逆断層センスを示し, これらは福浦断層と調和的である(次頁~P.168)。



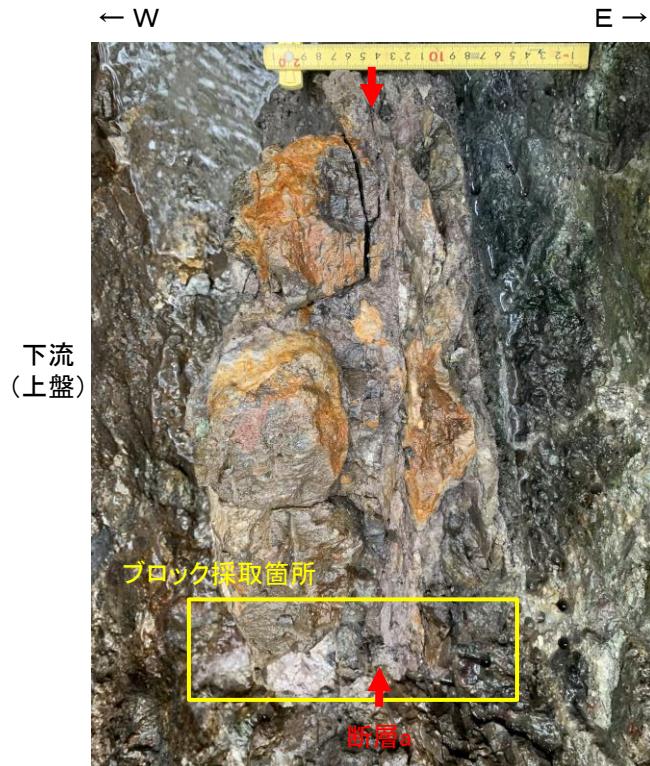
福浦断層(北端)

【ブロック観察, CT画像解析(断層a)】

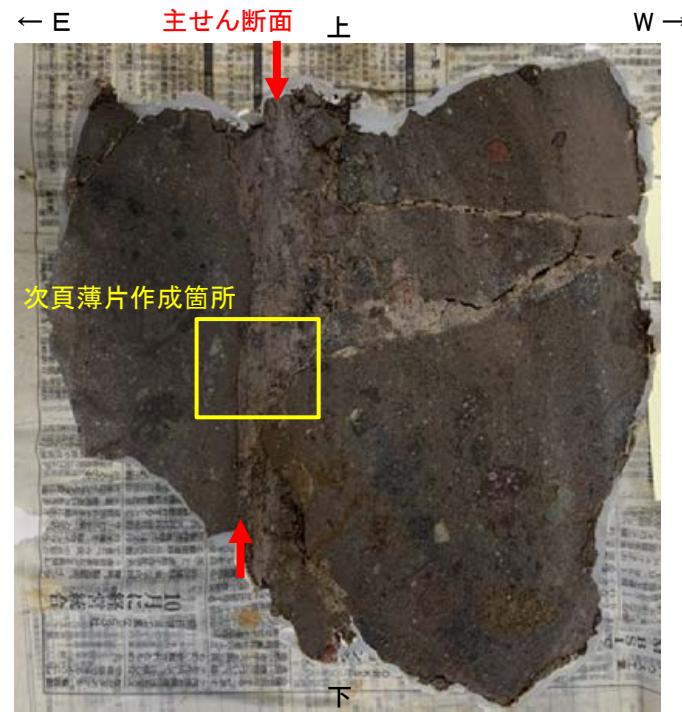
- ・ルートマップAで認められる断層aの性状を確認するために, 露頭からブロックを採取し, ブロックでのCT画像観察及びブロックから90° R*の方向で作成した薄片観察(次頁, 次々頁)を実施した。
- ・CT画像解析の結果, 試料中央部のやや下盤側に幅0.5~1cmの低密度部が認められ, 低密度部の下盤側境界の比較的連続性のよい面を主せん断面として抽出した。



断層a写真

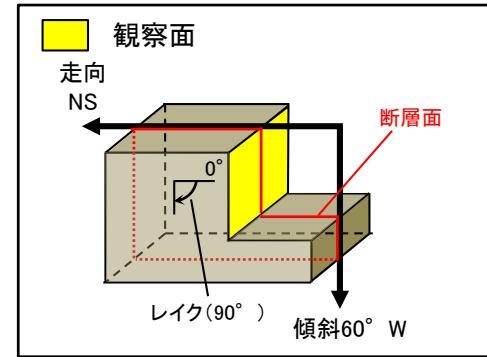


断層a拡大写真
(ブロック採取用に断層a周辺を研った後)



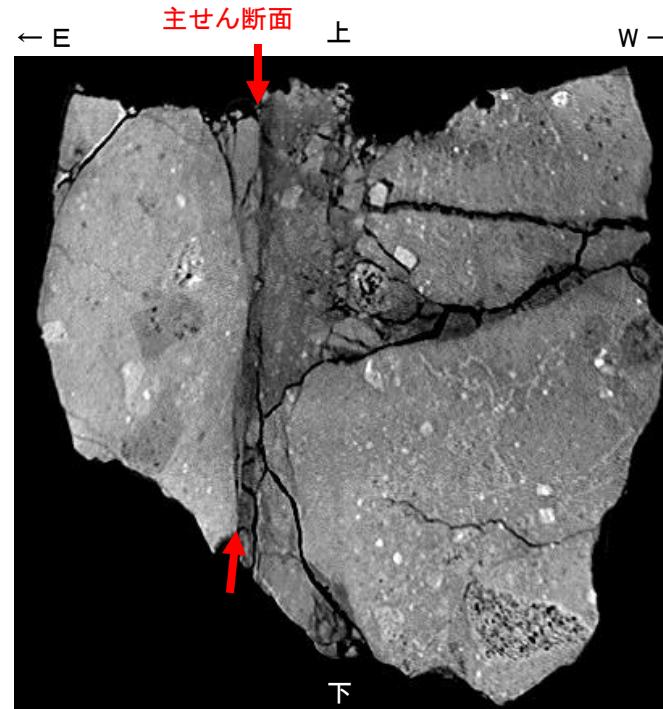
ブロック写真

※FK-1孔の条線データ(71° R)や大坪川ダム右岸トレンチの条線データ(100° R)など, 福浦断層のいずれの地点の条線データも概ね高角であることから, 本地点においても高角(90° R)で薄片を作成した。



概念図

1cm



CT画像

CT画像解析結果
 ・試料中央部のやや下盤側に幅0.5~1cmの低密度部が分布する。
 ・低密度部を境する面は, 上盤側・下盤側共に緩く湾曲している。連続性は下盤側境界の方が比較的よい。
 ・変位センスは不明。

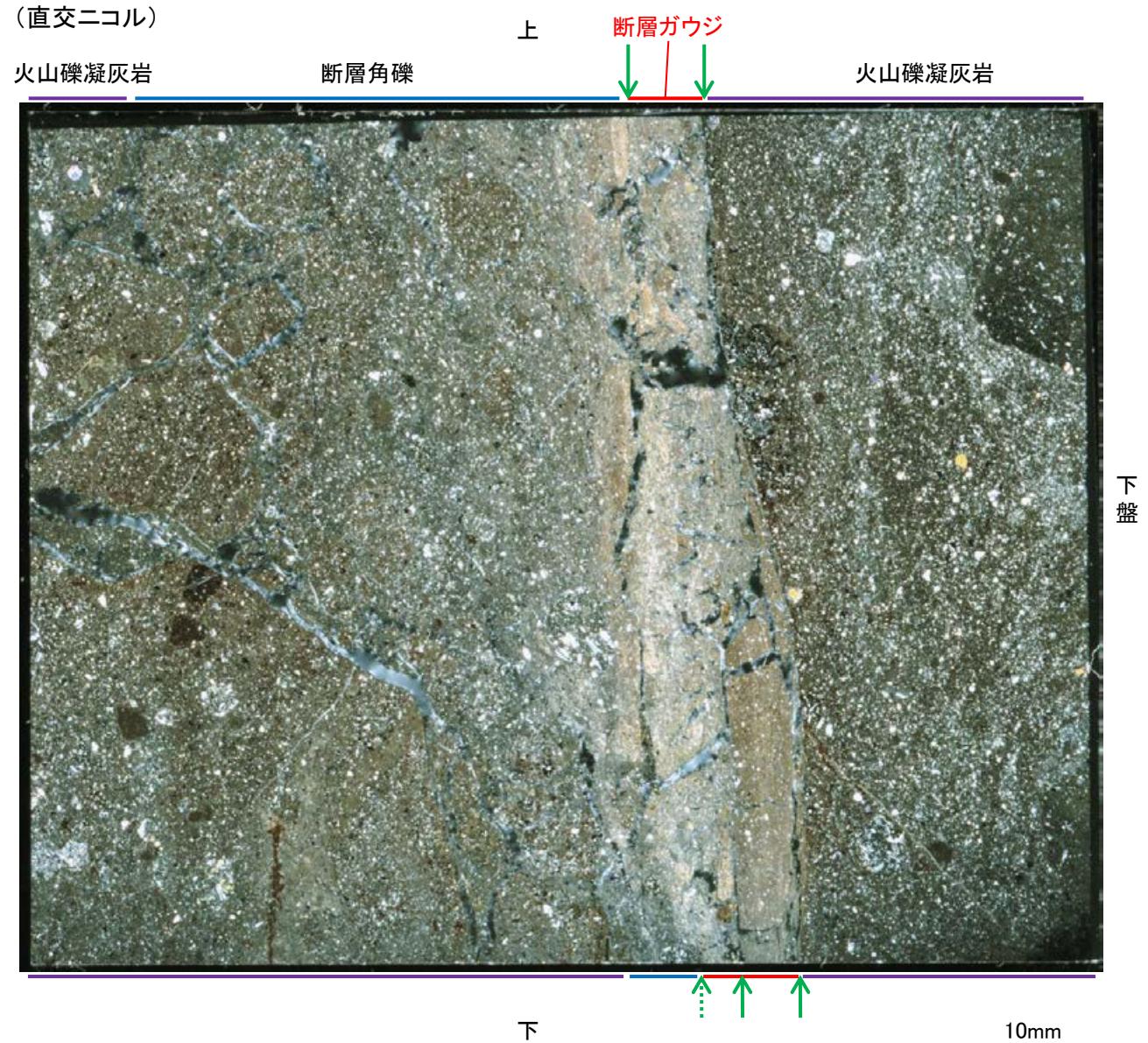
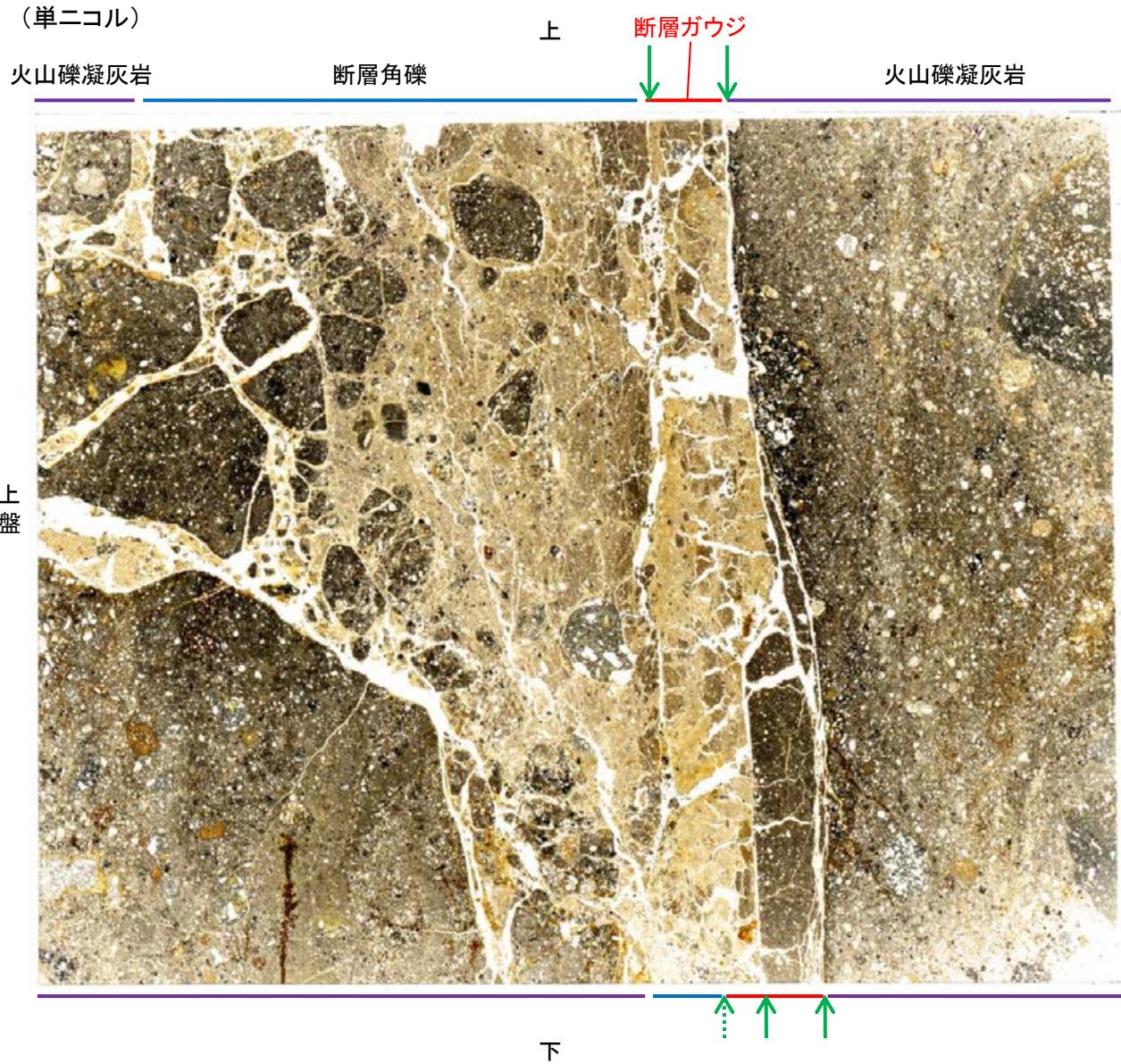
下流
(上盤)

1cm

福浦断層(北端)

【薄片全体観察(断層a)】

- ・断層aの主せん断面において、90° Rの方向で薄片を作成した。
- ・薄片観察の結果、断層ガウジ中に認められる粘土鉱物の定向配列(P面)や、これらの配列を切断する微細な割れ目(R1面)から、逆断層センスが推定される(次頁)。

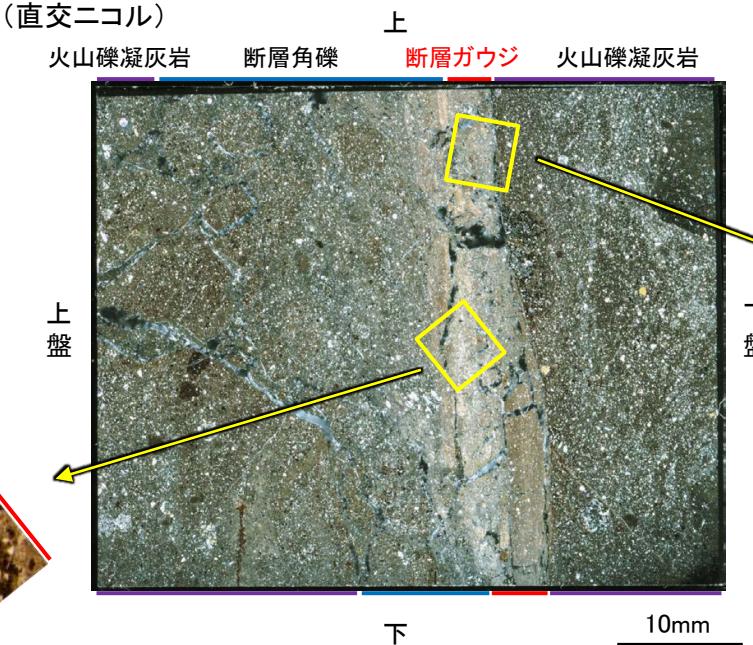
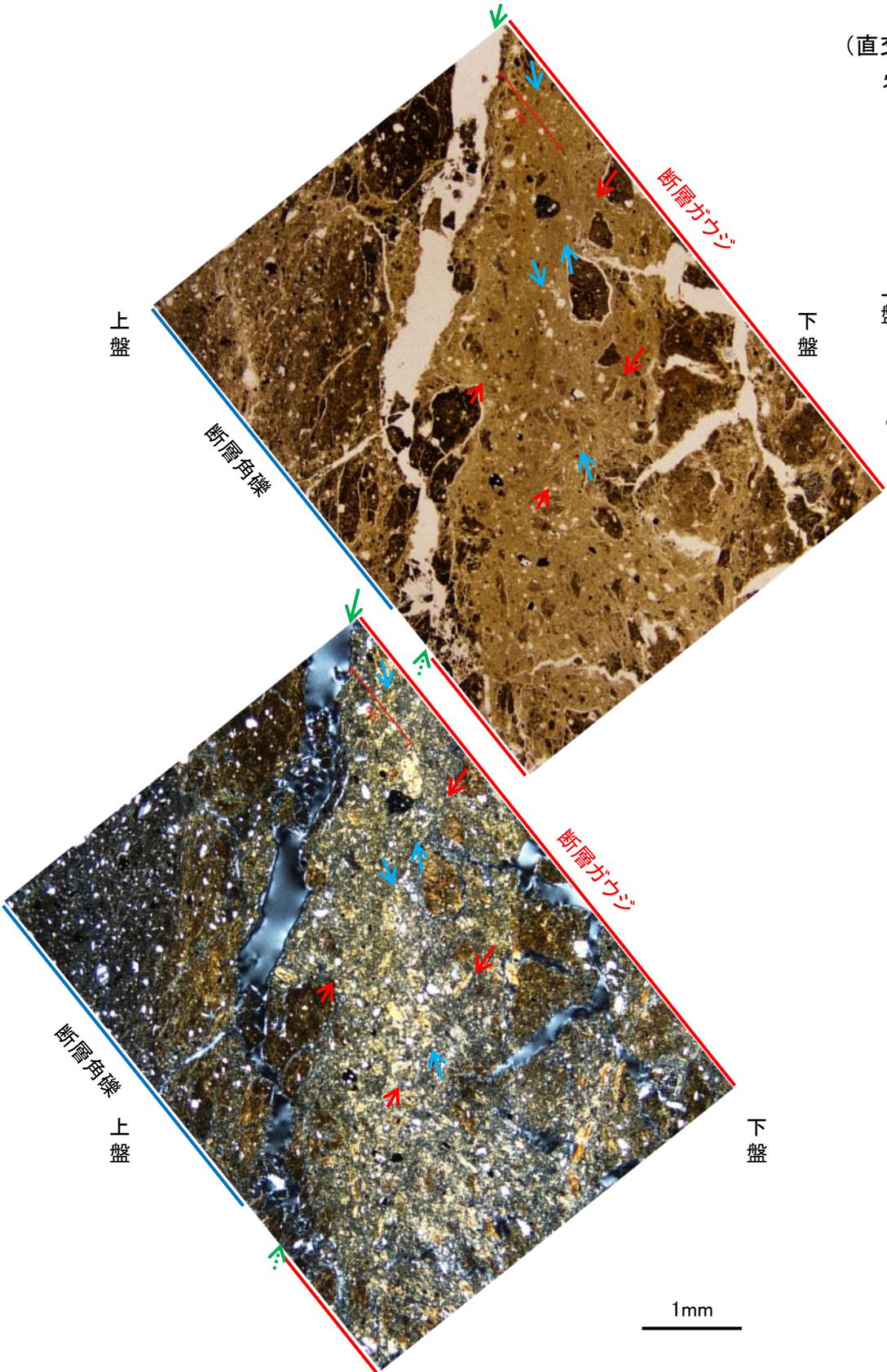


薄片写真(断層a_90R)

→ ← : Y面(点線は延長位置)

福浦断層(北端)

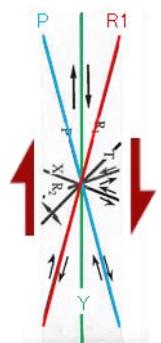
【薄片詳細観察(断層a)】



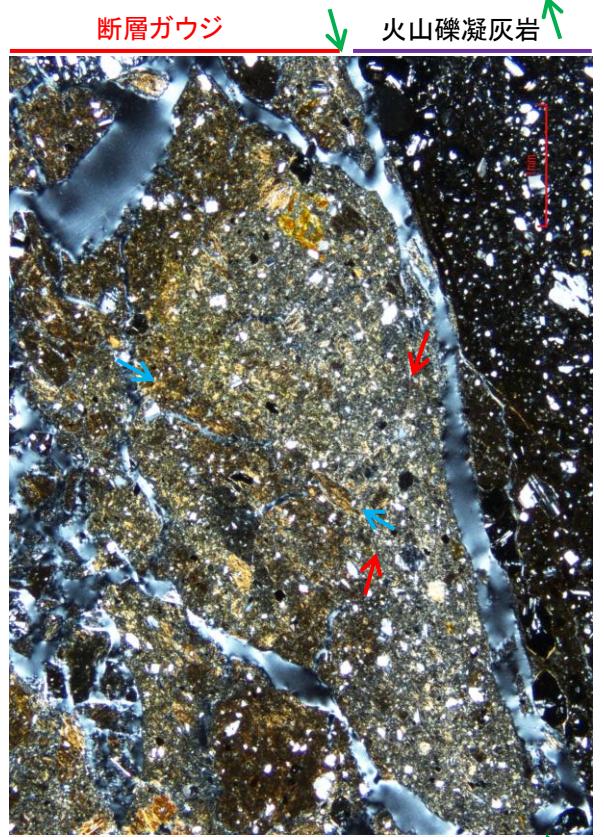
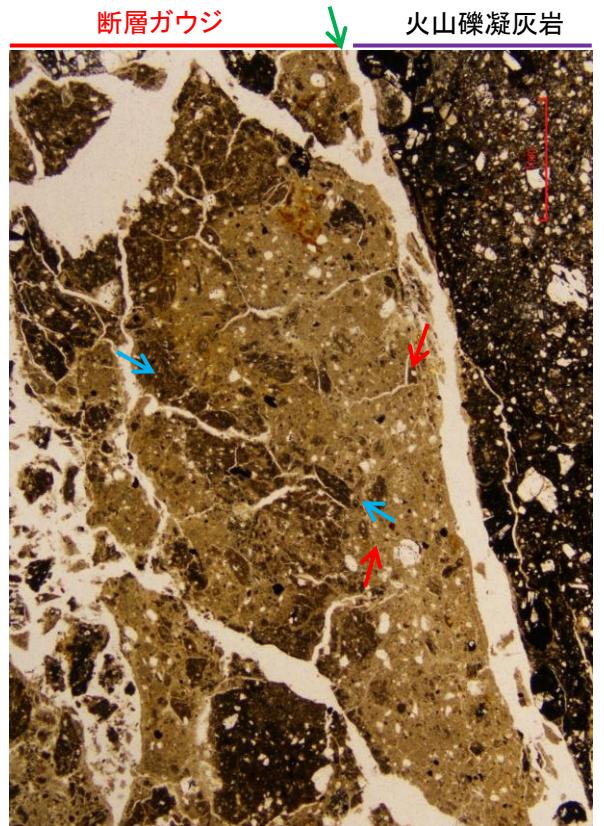
薄片写真(断層a_90R)

- → : Y面(点線は延長位置)
- ← : P面
- ← : R1面

見かけ上盤側上がり



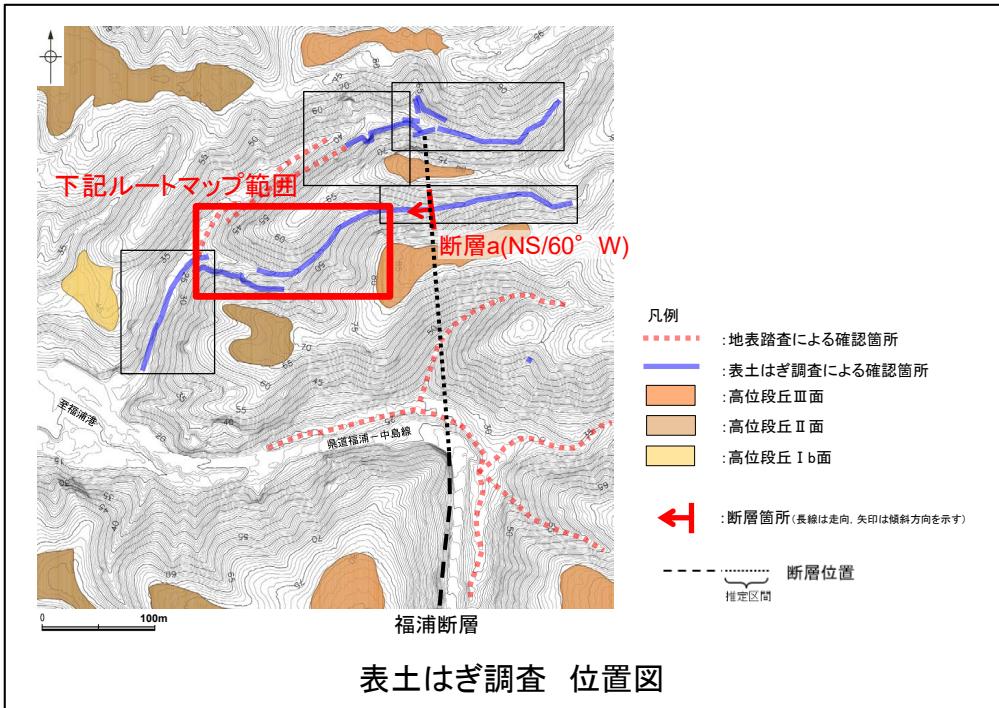
せん断センスを示す複合面構造
(狩野・村田(1998)に加筆)



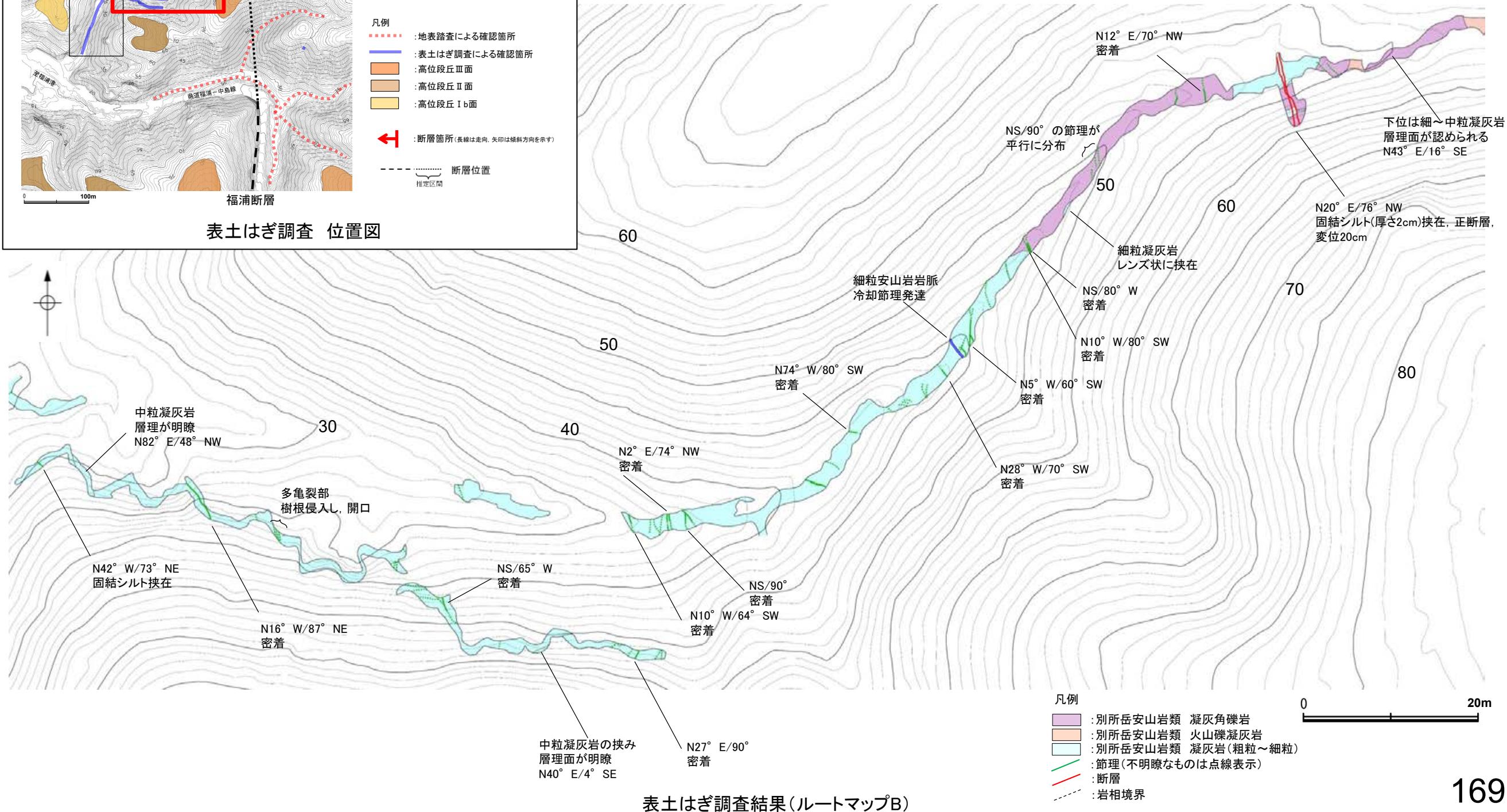
福浦断層(北端)

【表土はぎ調査(ルートマップB)】

・表土はぎ調査(ルートマップB)の結果, 断層が1箇所認められるものの, 正断層センスを示し, 福浦断層の逆断層センスとは整合しない。



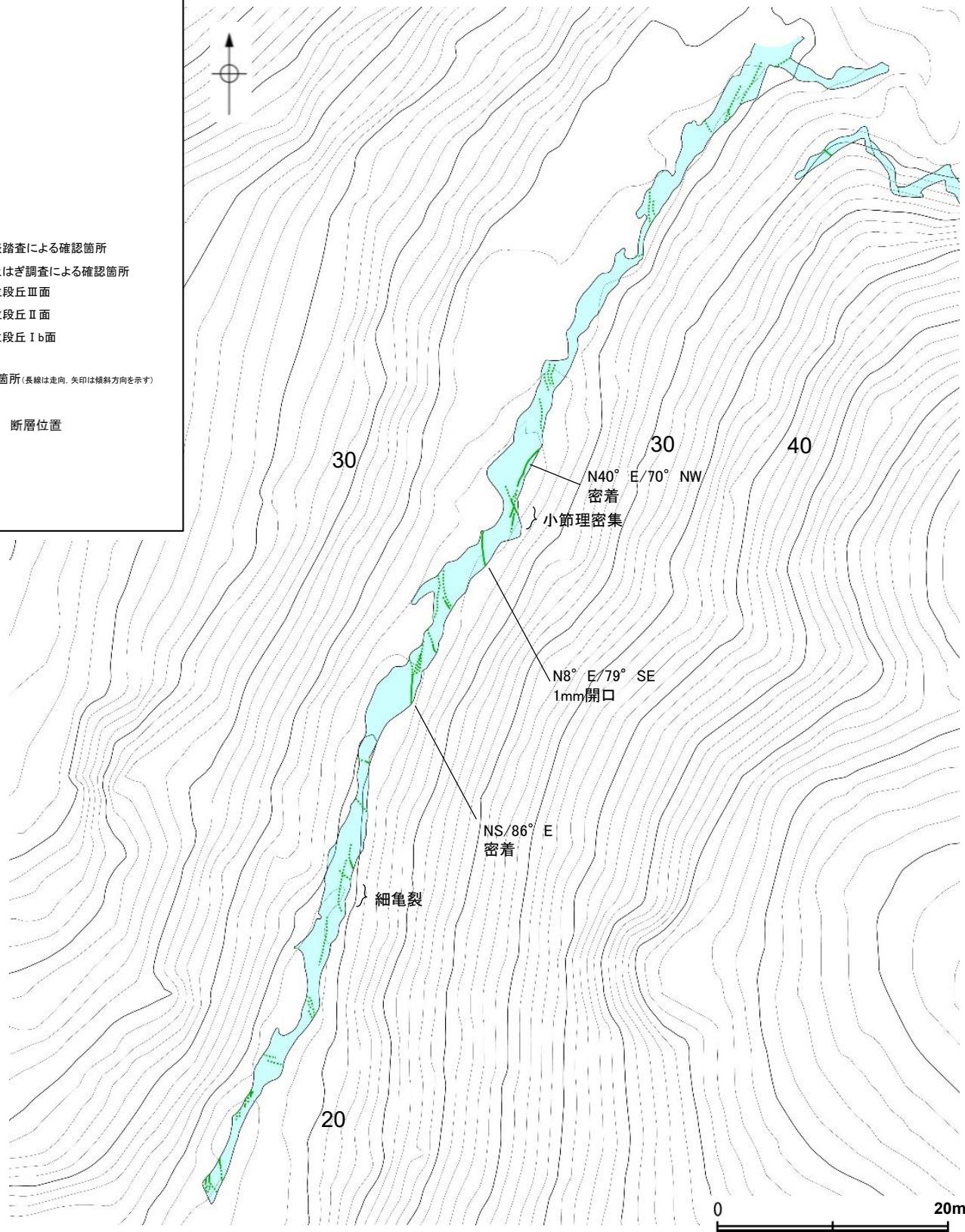
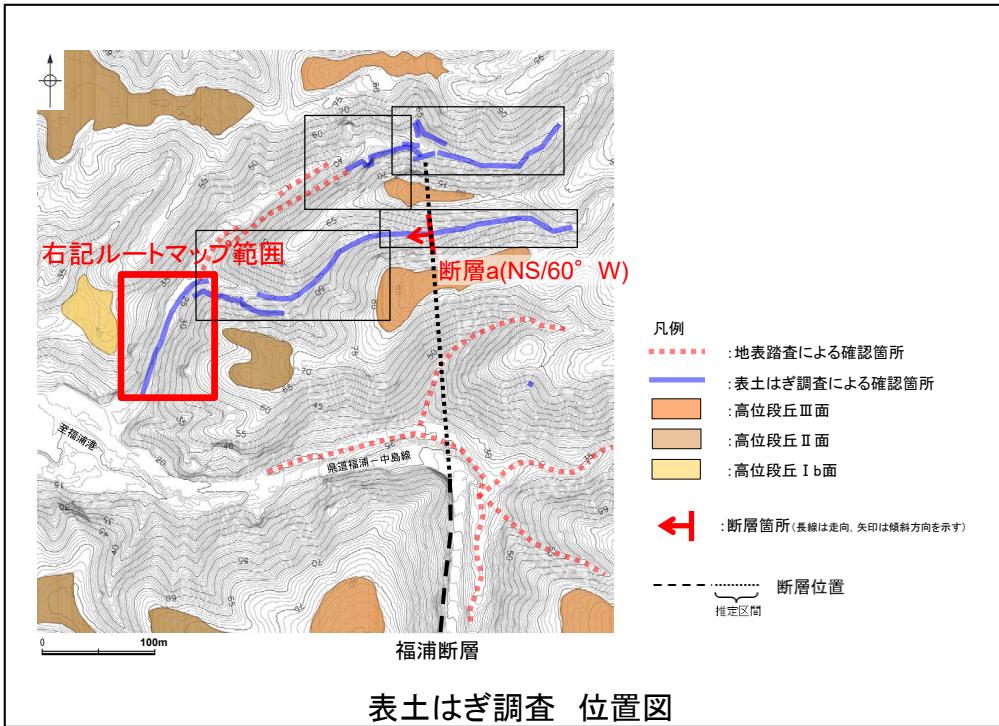
・表土はぎ調査全線の写真は補足資料2.2-1(7)



福浦断層(北端)

【表土はぎ調査(ルートマップC)】

・表土はぎ調査(ルートマップC)の結果, 本調査範囲内には断層は認められない。



- 凡例
- 別所岳安山岩類 凝灰岩(粗粒~細粒)
 - 節理(不明瞭なものは点線表示)

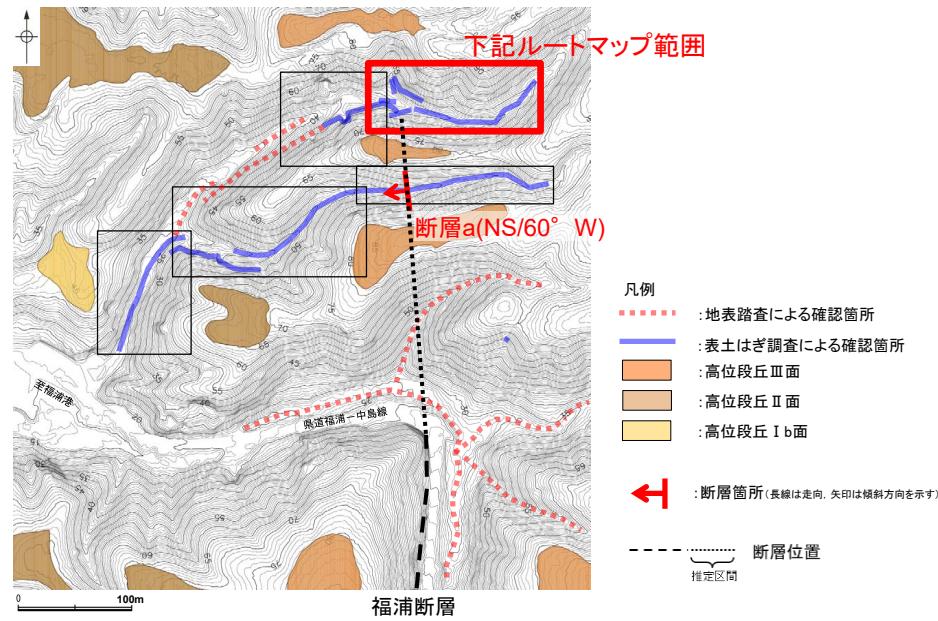
・表土はぎ調査全線の写真は補足資料2.2-1(7)

表土はぎ調査結果(ルートマップC)

福浦断層(北端)

【表土はぎ調査(ルートマップD)】

・表土はぎ調査(ルートマップD)の結果, 断層aの北方延長位置に断層は認められず, 本調査範囲内には断層は認められない。



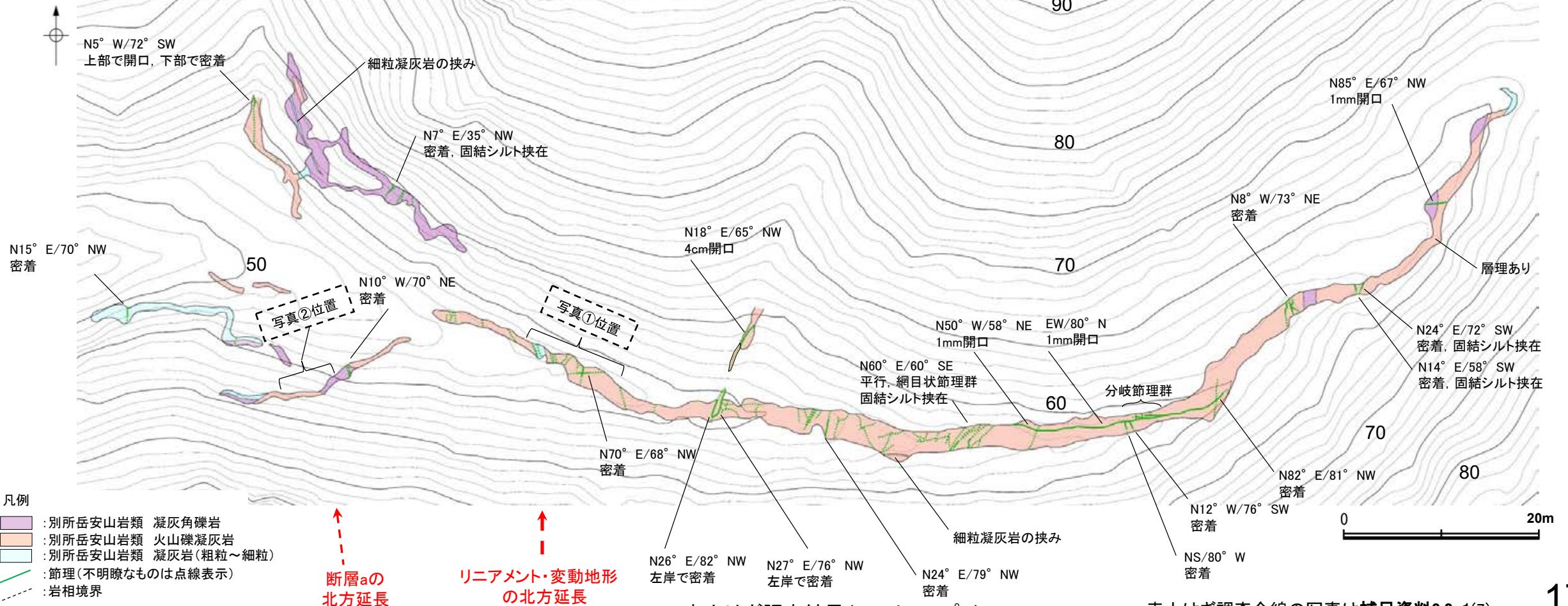
表土はぎ調査 位置図



写真①(リニアメント・変動地形北方延長付近)



写真②(断層a北方延長付近)



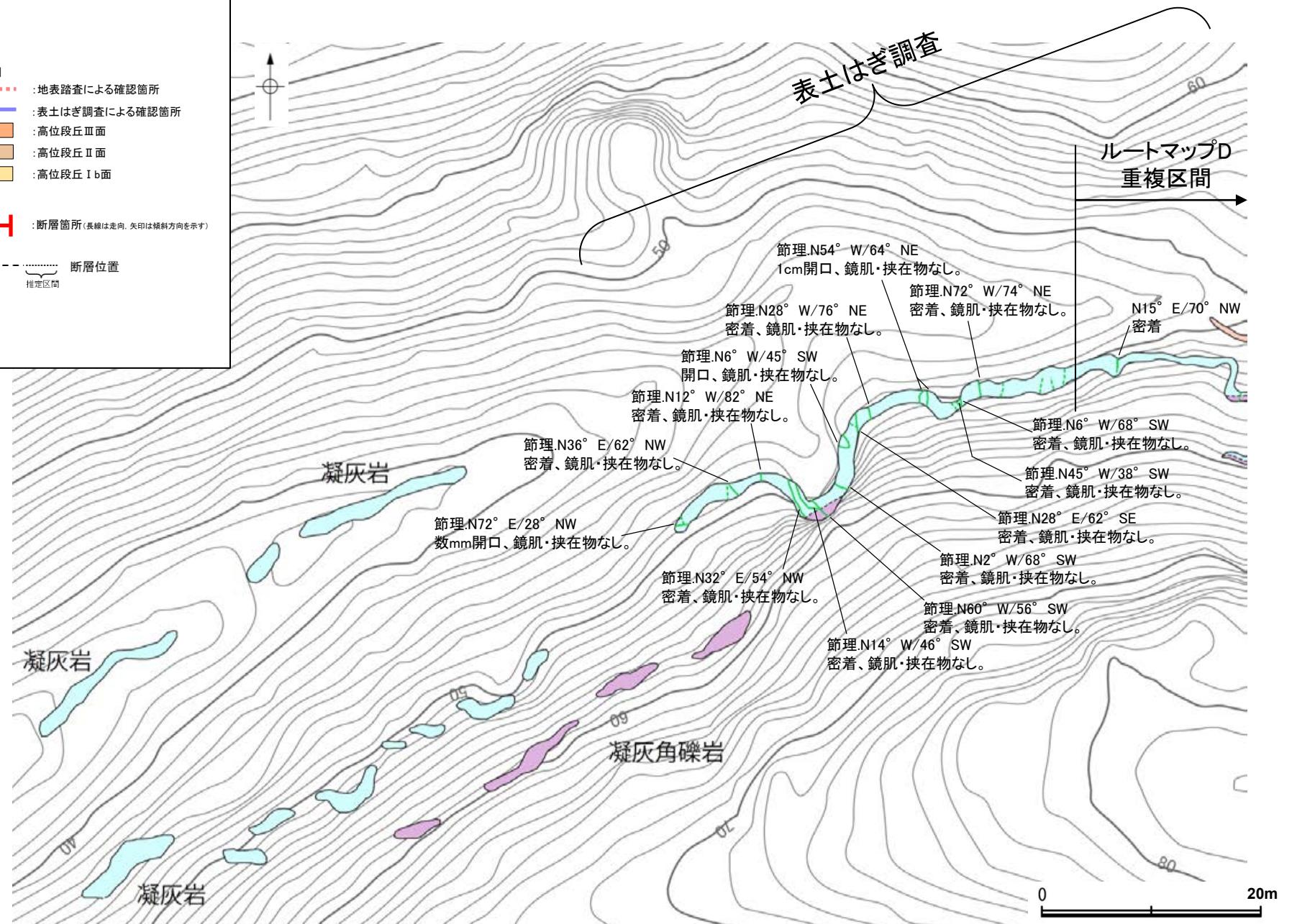
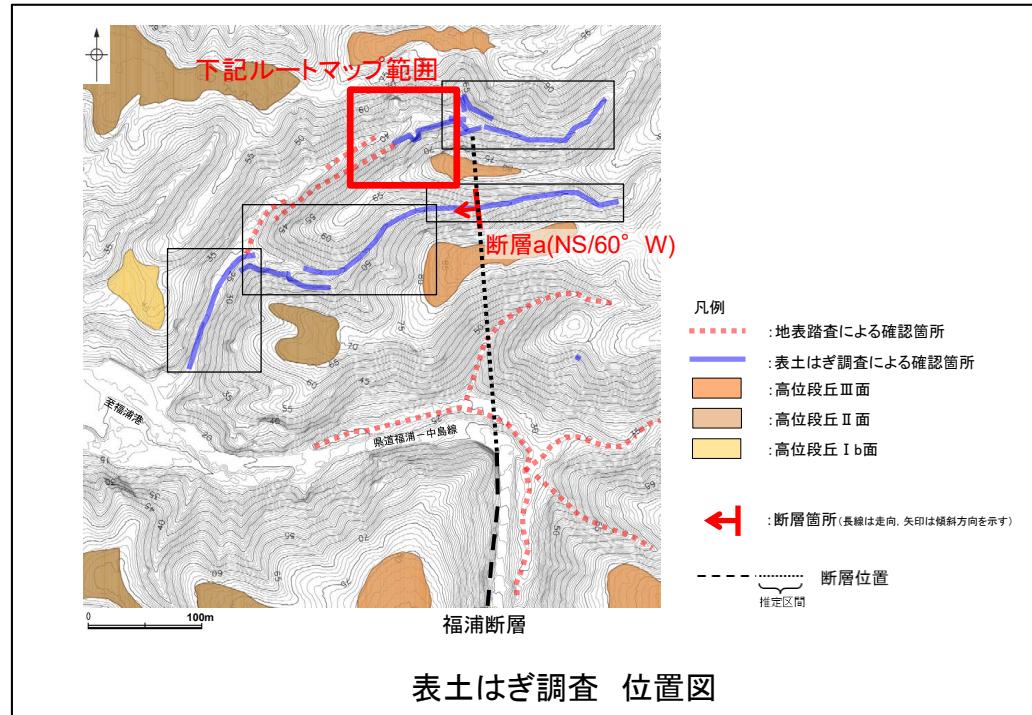
表土はぎ調査結果(ルートマップD)

・表土はぎ調査全線の写真は補足資料2.2-1(7)

福浦断層(北端)

【表土はぎ調査・地表踏査(ルートマップE)】

・ルートマップA(P.165)で認められた断層aの北方延長について、前頁のルートマップDからさらに西側に範囲を拡げて実施した表土はぎ調査・地表踏査(ルートマップE)の結果、本調査範囲内には断層は認められない。



- 凡例
- 別所岳安山岩類 凝灰角礫岩
 - 別所岳安山岩類 火山礫凝灰岩
 - 別所岳安山岩類 凝灰岩(粗粒～細粒)
 - 節理(不明瞭なものは点線表示)
 - 岩相境界

表土はぎ調査結果(ルートマップE)

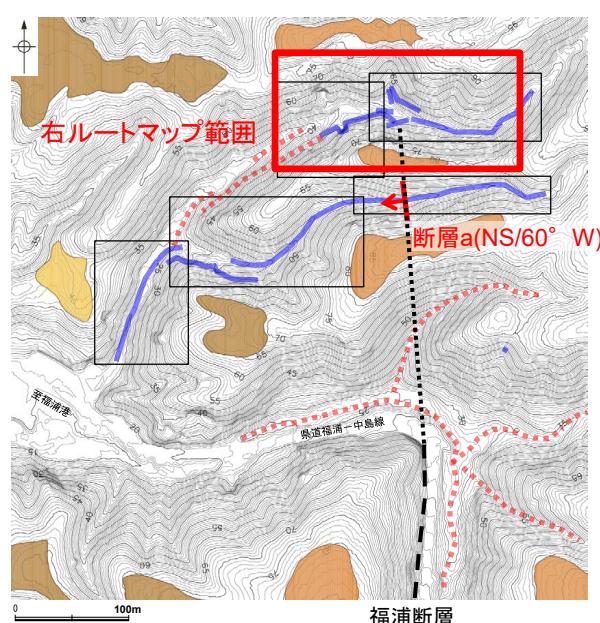
・表土はぎ調査全線の写真は補足資料2.2-1(7)

福浦断層(北端)

【地表踏査(ルートマップD, E及びその周辺)(追加調査)】

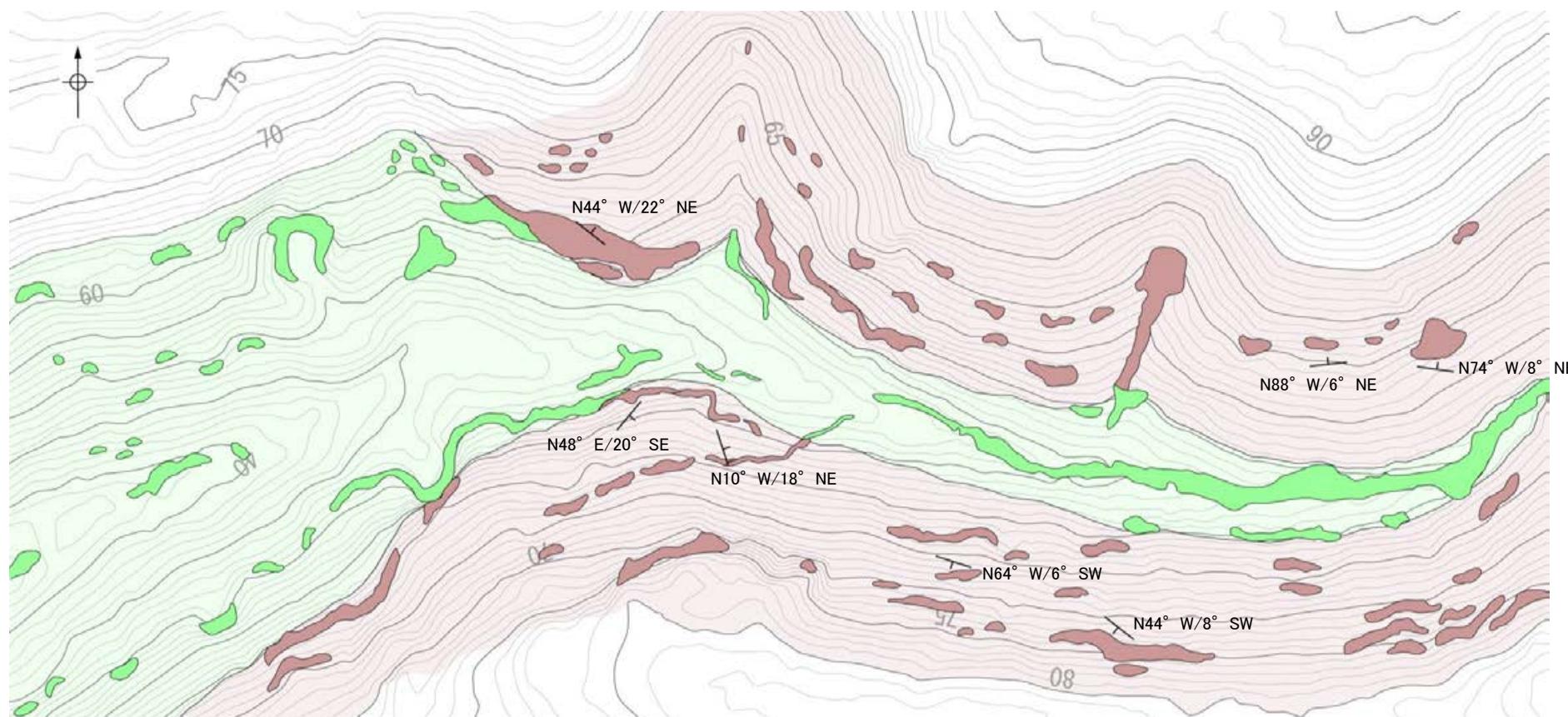
- ・ルートマップD, Eで実施した表土はぎ調査, 地表踏査(前頁, 前々頁)に加え, 追加で地表踏査による地質データの取得を行い, 地層境界の連続性の確認等, 露頭観察結果を補強するような地質状況の検討を行った。
- ・ルートマップD, E及びその周辺の地質は別所岳安山岩類の安山岩質火砕岩からなり, 凝灰角礫岩, 火山礫凝灰岩, 凝灰岩が分布し, ごく一部に泥岩を伴う。これらは岩相分布の特徴から, 岩相変化の多いI層と岩相変化の少ないII層に区分される。I層は凝灰角礫岩, 火山礫凝灰岩, 凝灰岩を主体とし泥岩を伴う互層, II層は凝灰岩を主体とし火山礫凝灰岩を伴う均質な地層である。
- ・地表踏査の結果, II層は断層aの北方延長位置を挟んで谷底付近に連続して分布し, 断層は認められない。また, I層とII層の地層境界は, 断層aの北方延長位置を挟んでほぼ同じ高度で連続している。
- ・また, 断層aの北方延長位置付近で認められる層理の東西方向の傾斜はほぼ水平~22° 東傾斜であり, 福浦断層北方付近の広域的な地層の傾斜(10° ~22° 東傾斜)と概ね一致し, 断層aの北方延長位置に近づくにつれて層理が急傾斜となる傾向は認められない。

○ルートマップD, Eにおいて, 断層aの北方延長位置を挟んでI層とII層の境界はほぼ同じ高度で連続しており, 地層境界のずれ等は認められない。このことは, ルートマップDの表土はぎ箇所を福浦断層の北端と評価したことと整合する。



- 凡例
- ⋯⋯ : 地表踏査による確認箇所
 - : 表土はぎ調査による確認箇所
 - : 高位段丘Ⅲ面
 - : 高位段丘Ⅱ面
 - : 高位段丘Ⅰb面
 - ← : 断層箇所(長線は走向, 矢印は傾斜方向を示す)
 - : 断層位置推定区間

表土はぎ調査 位置図



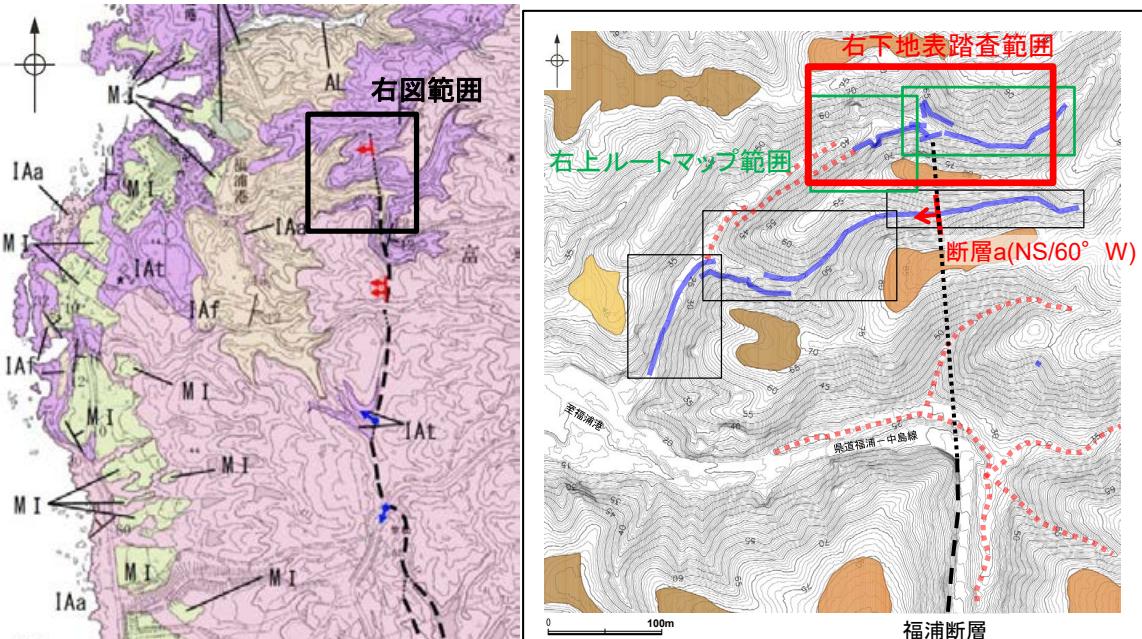
地表踏査結果(ルートマップD, E)

- 凡例
- I層 (凝灰角礫岩, 火山礫凝灰岩, 凝灰岩を主体とし泥岩を伴う互層)
 - II層 (凝灰岩を主体とし火山礫凝灰岩を伴う均質な地層)
 - ∠ 層理

福浦断層(北端)

【地層区分の考え方(追加調査)】

- ・当該地域の地質は別所岳安山岩類の安山岩質火砕岩からなり、凝灰角礫岩、火山礫凝灰岩、凝灰岩が分布し、ごく一部に泥岩を伴う。
- ・これらは岩相分布の特徴から、岩相変化の多いI層と岩相変化の少ないII層に区分される。
- ・I層は凝灰角礫岩、火山礫凝灰岩、凝灰岩を主体とし泥岩を伴う互層、II層は凝灰岩を主体とし火山礫凝灰岩を伴う均質な地層である(次頁)。



福浦断層北端付近 調査位置図

- 断層確認位置 (長線は走向、矢印は傾斜方向を示す)
- 反射法地震探査での断層確認位置
- 断層位置 推定区間

位置図

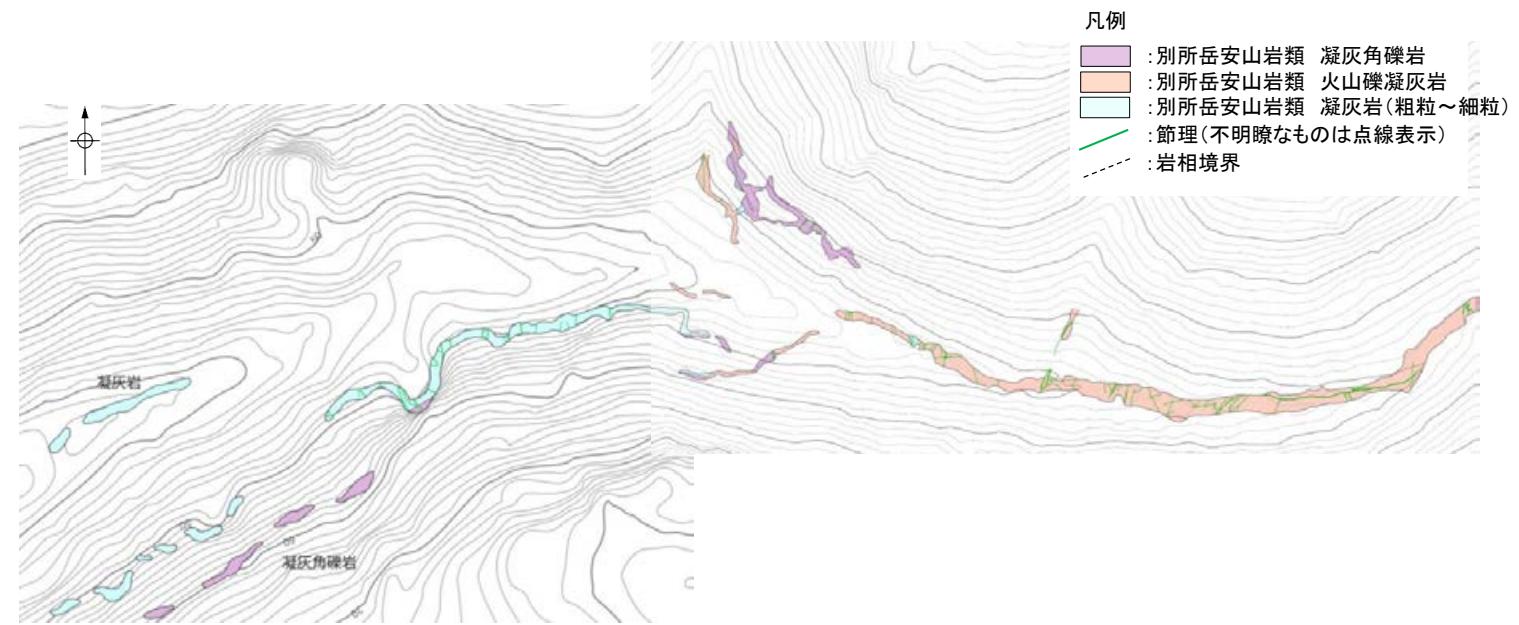
地質時代	地層・岩石名
第四紀	AL 沖積層
更新世	OF 古期扇状地堆積層
更新世	M I 中位段丘I面堆積層
新第三紀	IAa 別所岳安山岩類 安山岩
	IAf 別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩 (凝灰角礫岩)
	IAAt 別所岳安山岩類 安山岩質～デイサイト質火砕岩 (凝灰岩)
	M I

I層

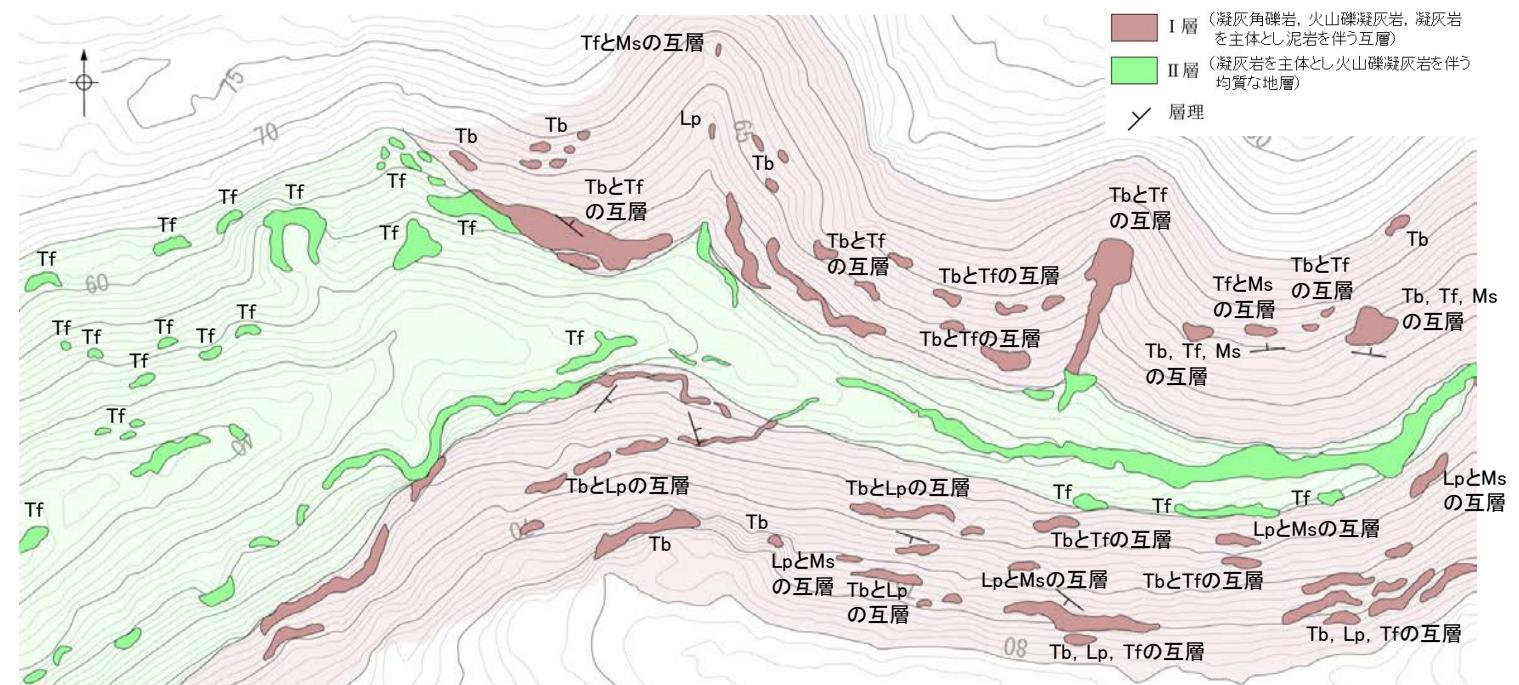
- ・凝灰角礫岩、火山礫凝灰岩、凝灰岩を主体とし泥岩を伴う互層
- ・一部に層理が認められる

II層

- ・凝灰岩を主体とし火山礫凝灰岩を伴う均質な地層
- ・層理が認められない



表土はぎ調査結果(ルートマップD, E)
(2021年11月現地調査以前のデータ)



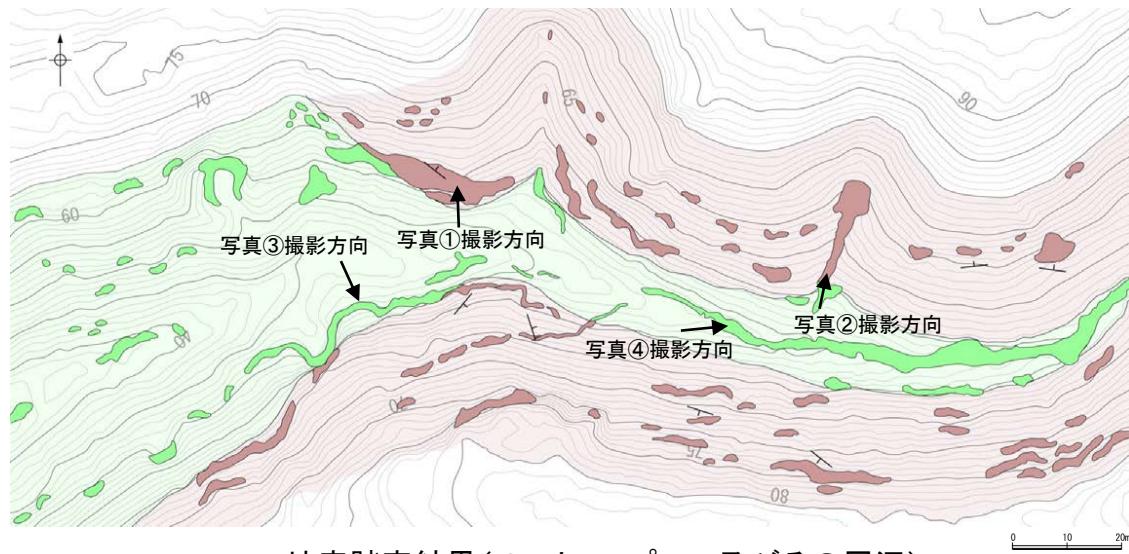
地表踏査結果(ルートマップD, E及びその周辺)
(2021年11月現地調査以降のデータ)

- Tb: 凝灰角礫岩
- Lp: 火山礫凝灰岩
- Tf: 凝灰岩
- Ms: 泥岩

福浦断層(北端)

【I層とII層の例(追加調査)】

凡例
 I層 (凝灰角礫岩, 火山礫凝灰岩, 凝灰岩を主体とし泥岩を伴う互層)
 II層 (凝灰岩を主体とし火山礫凝灰岩を伴う均質な地層)
 層理



I層
 ・凝灰角礫岩, 火山礫凝灰岩, 凝灰岩を主体とし泥岩を伴う互層
 ・一部に層理が認められる

II層
 ・凝灰岩を主体とし火山礫凝灰岩を伴う均質な地層
 ・層理が認められない

地表踏査結果(ルートマップD, E及びその周辺)
(2021年11月現地調査以降のデータ)

【I層の例】

【II層の例】



写真①
(凝灰角礫岩と凝灰岩の互層)

写真②
(凝灰角礫岩と凝灰岩の互層)

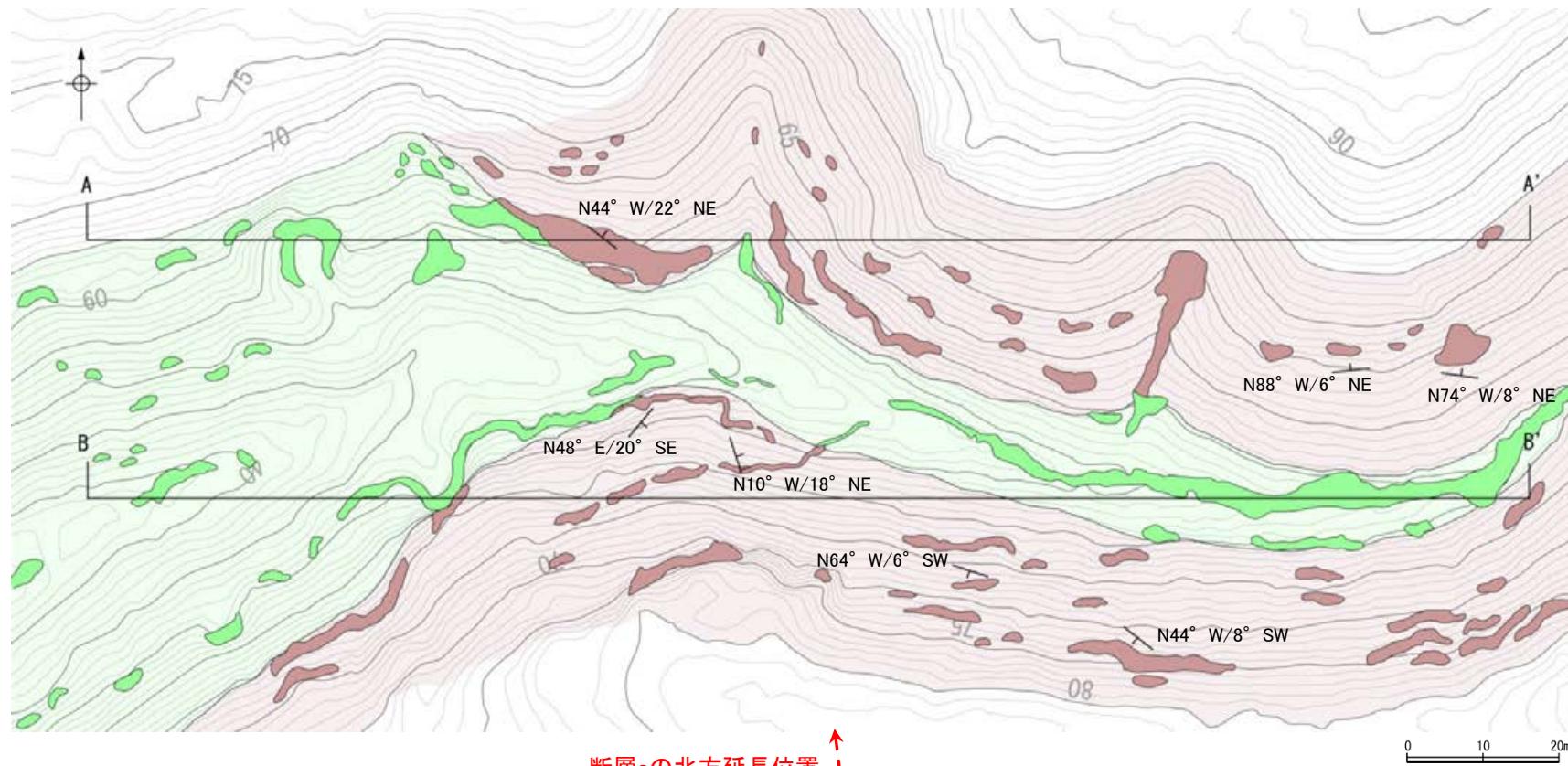
写真③
(凝灰岩)

写真④
(火山礫凝灰岩)

福浦断層(北端)

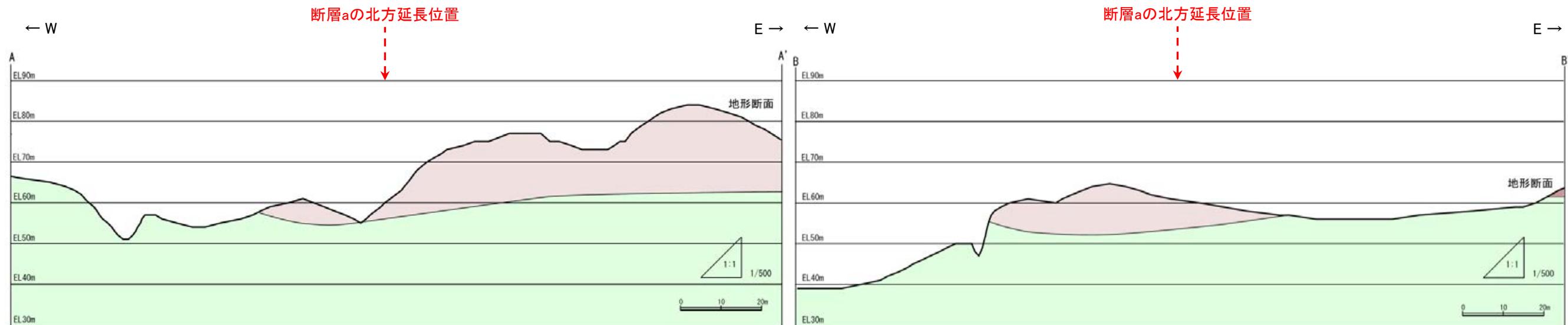
【地質図, 地質断面図(追加調査)】

- ・追加で実施した地表踏査の結果, II層は断層aの北方延長位置を挟んで谷底に連続して分布し, 断層は認められない。
- ・また, I層とII層の地層境界は, 断層aの北方延長位置を挟んでほぼ同じ高度で連続している。



- 凡例
- I層 (凝灰角礫岩, 火山礫凝灰岩, 凝灰岩を主体とし泥岩を伴う互層)
 - II層 (凝灰岩を主体とし火山礫凝灰岩を伴う均質な地層)
 - 層理

地質図(ルートマップD, E及びその周辺)

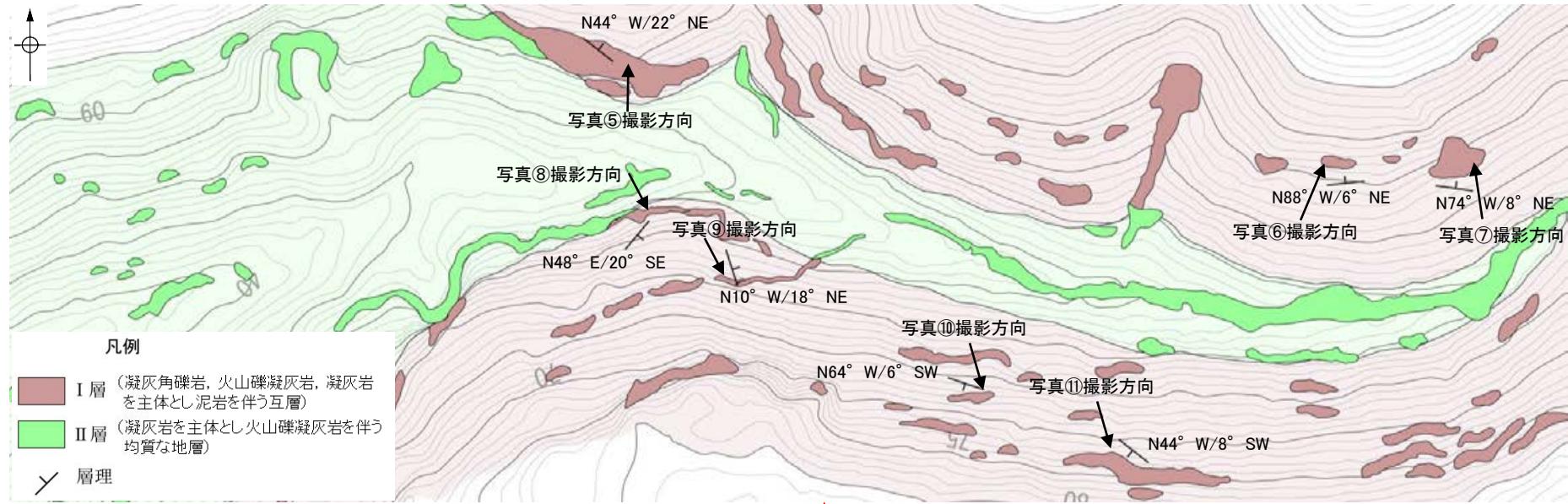
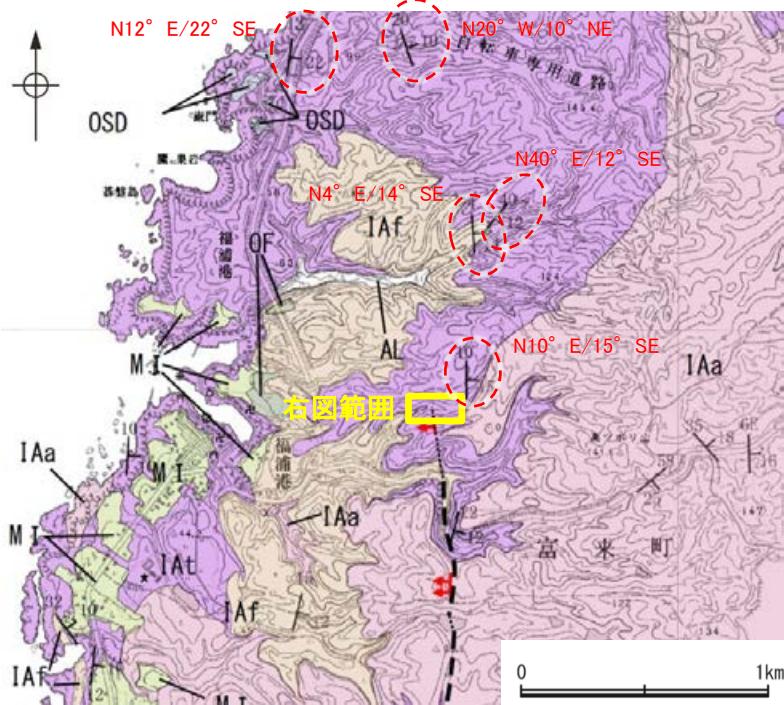


地質断面図

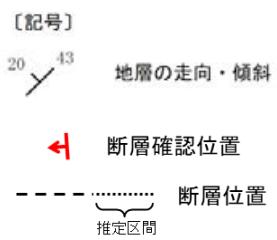
福浦断層(北端)

【層理の走向・傾斜についての検討(追加調査)】

- 追加で実施した地表踏査の結果, 7地点で層理が認められ, これらの東西方向の傾斜はほぼ水平~22° 東傾斜であり, 福浦断層北方付近の広域的な地層の傾斜(10° ~22° 東傾斜)と概ね一致する。
- また, 断層aの北方延長位置に近づくにつれて層理が急傾斜となる傾向は認められない。



断層aの北方延長 ↑
地表踏査結果(ルートマップD, E)



地質時代	地層・岩石名
第四紀	AL 沖積層
更新世	OF 吉期期状地堆積層
更新世	MI 中位段丘I面堆積層
新第三紀	IAa 別所巻安山岩類 安山岩
新第三紀	IAT 別所巻安山岩類 安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)
新第三紀	IAT 別所巻安山岩類 安山岩質~デイサイト質火砕岩(凝灰岩)

地質図



写真⑤



写真⑥



写真⑦



写真⑧



写真⑨



写真⑩

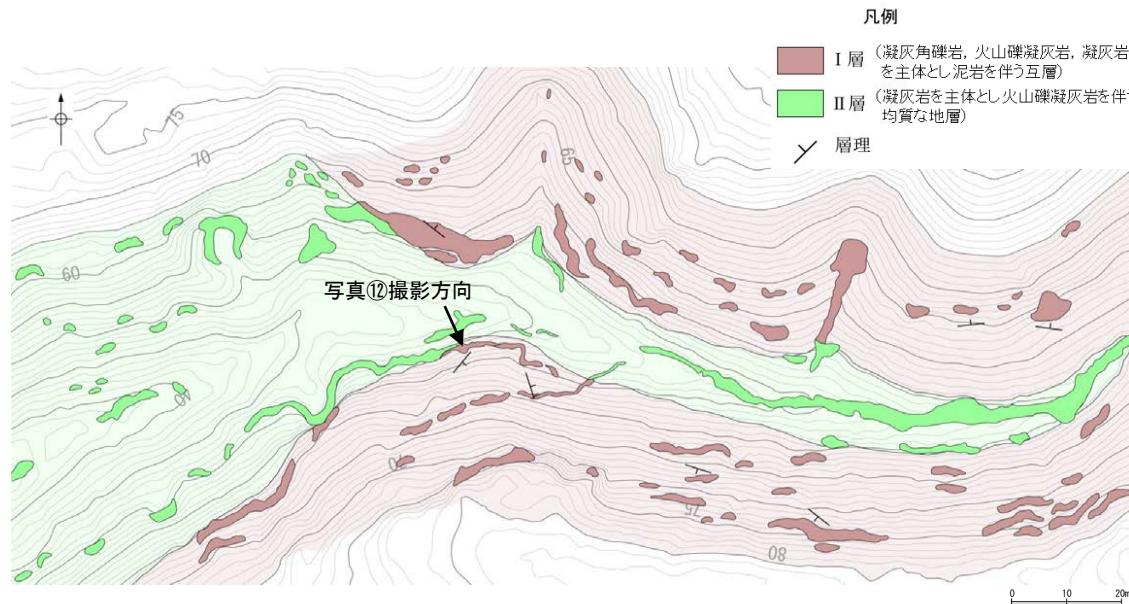


写真⑪

福浦断層(北端)

【(参考)岩盤中の脈状部のXRD分析結果(追加調査)】

- ・ルートマップDの凝灰岩中に認められる脈状部及びその周辺の母岩でXRD分析を行った結果、脈状部では周辺の母岩とほぼ同じ種類の鉱物が検出された。
- ・脈状部は周辺の母岩と比べて、相対的に斜長石が少なくスメクタイトが多いことから、母岩中で比較的強く変質を被った箇所であると推定した。



地表踏査結果(ルートマップD, E及びその周辺)
(2021年11月現地調査以降のデータ)



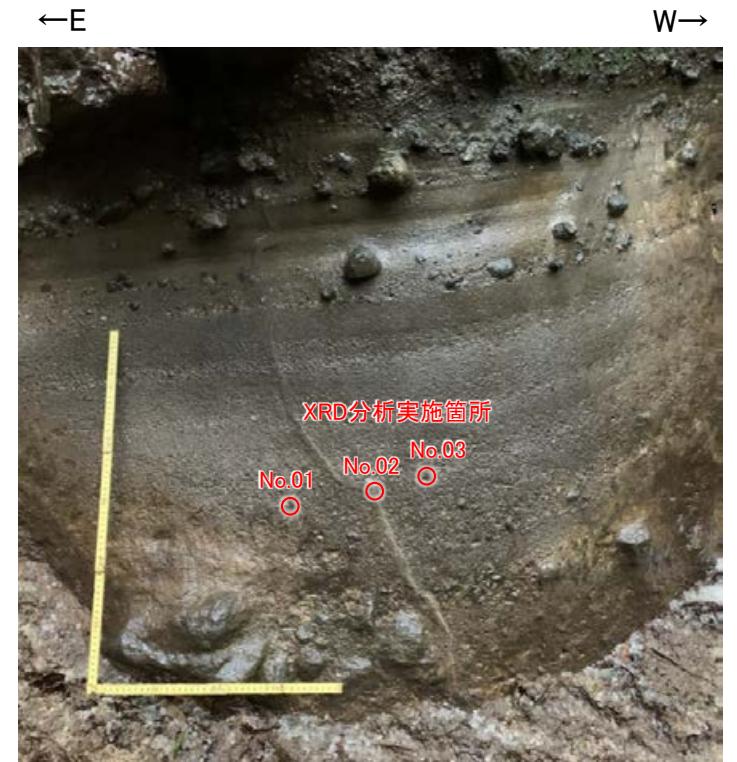
写真⑫*

*写真⑫の範囲はI層に該当する。

含有鉱物一覧表

鉱物名		Sm	Chl	Zeo	Qtz	Pl	Hbl	Px	Ank	Py	Mag
試料名											
	I(CPS)	50		8	47	481	14	19	81	12	87
	QI	0.75	0.00	0.12	0.70	7.21	0.21	0.28	1.21	0.18	1.31
	相対含有率※6	▪		▪	▪	○	▪	▪	△	▪	△
01	DE_E										
	I(CPS)	67	9	8	16	250		17	32	9	61
	QI	1.00	0.13	0.13	0.25	3.74	0.00	0.26	0.48	0.13	0.91
	相対含有率	△	▪	▪	▪	△		▪	▪	▪	▪
02	DE_M										
	I(CPS)	66		10	45	451		21	36	12	76
	QI	0.99	0.00	0.15	0.67	6.75	0.00	0.32	0.55	0.18	1.14
	相対含有率	▪		▪	▪	○		▪	▪	▪	△
03	DE_W										
	I(CPS)										
	QI										
	相対含有率										

I(CPS): 各鉱物の最強回折ピークカウント数(高さ)
(回折ピークがブロードな場合、石英の最強回折線の半値幅により規格化した相対的半値幅(整数)をかける)
 QI = ((試料中の各鉱物の最強回折ピークカウント数(高さ)) / (石英標準試料の最強回折ピークカウント数(高さ) ※7)) × 100
 ※7 : 石英標準試料の最強回折ピークカウント数(高さ) = 6678 (アルミホルダー使用時)
 相対含有率: ◎多量(QI ≥ 10.0), ○中量(10.0 > QI ≥ 5.0), △少量(5.0 > QI ≥ 1.0), ▪微量(1.0 > QI)



近接写真

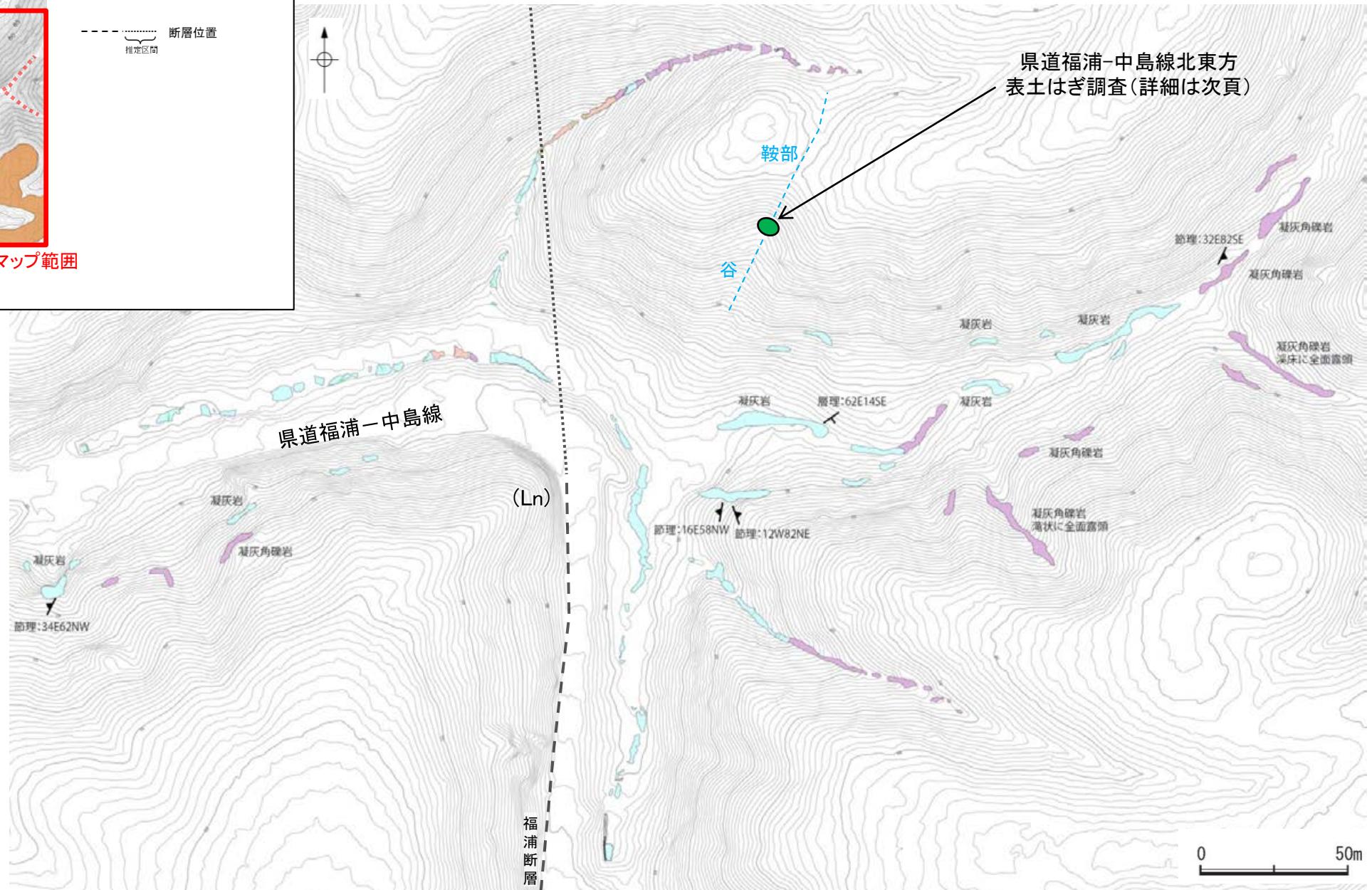
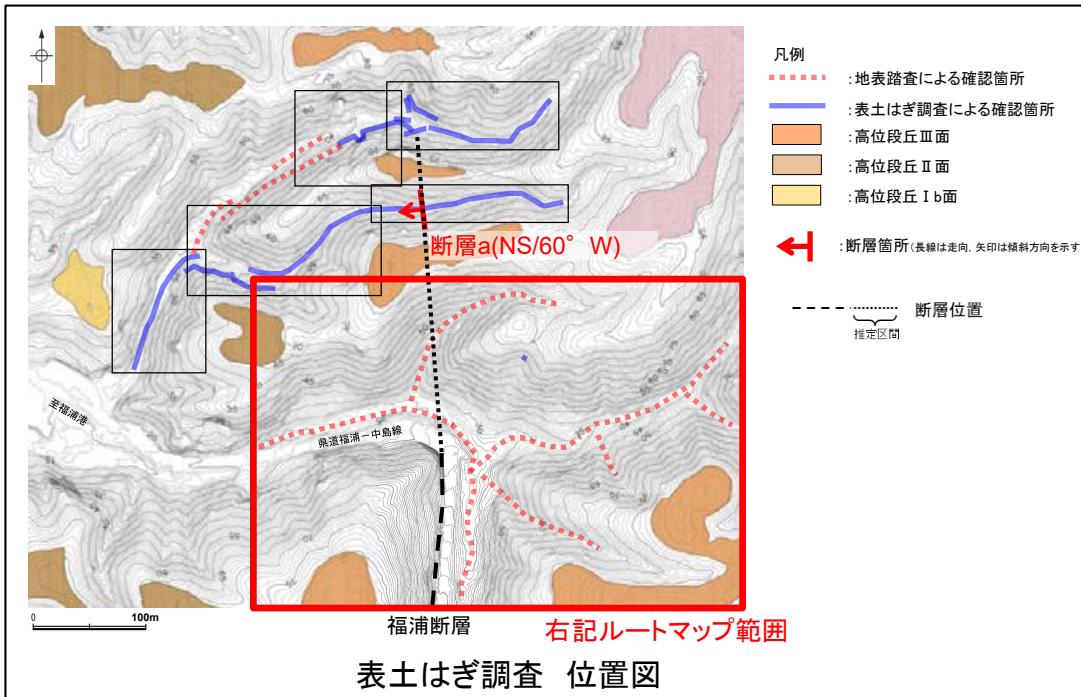
・回折チャート(不定方位, 定方位, EG処理)については補足資料2.2-1(8)

福浦断層(北端)

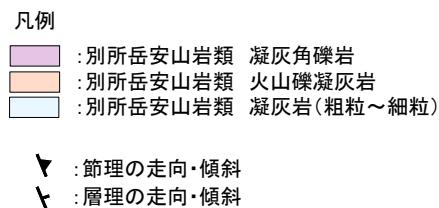
【県道福浦-中島線の北東方の谷地形に関する調査結果】

○福浦断層から分岐する断層の有無について確認するため、下図の範囲において、地表踏査を実施した。

○逆向きの低崖等からなるリニアメント・変動地形の北端(Ln地点)より北東方に、谷及び鞍部が分布している。この谷及び鞍部にあたる位置において、表土はぎ調査を行った結果、福浦断層から分岐する断層は認められない。



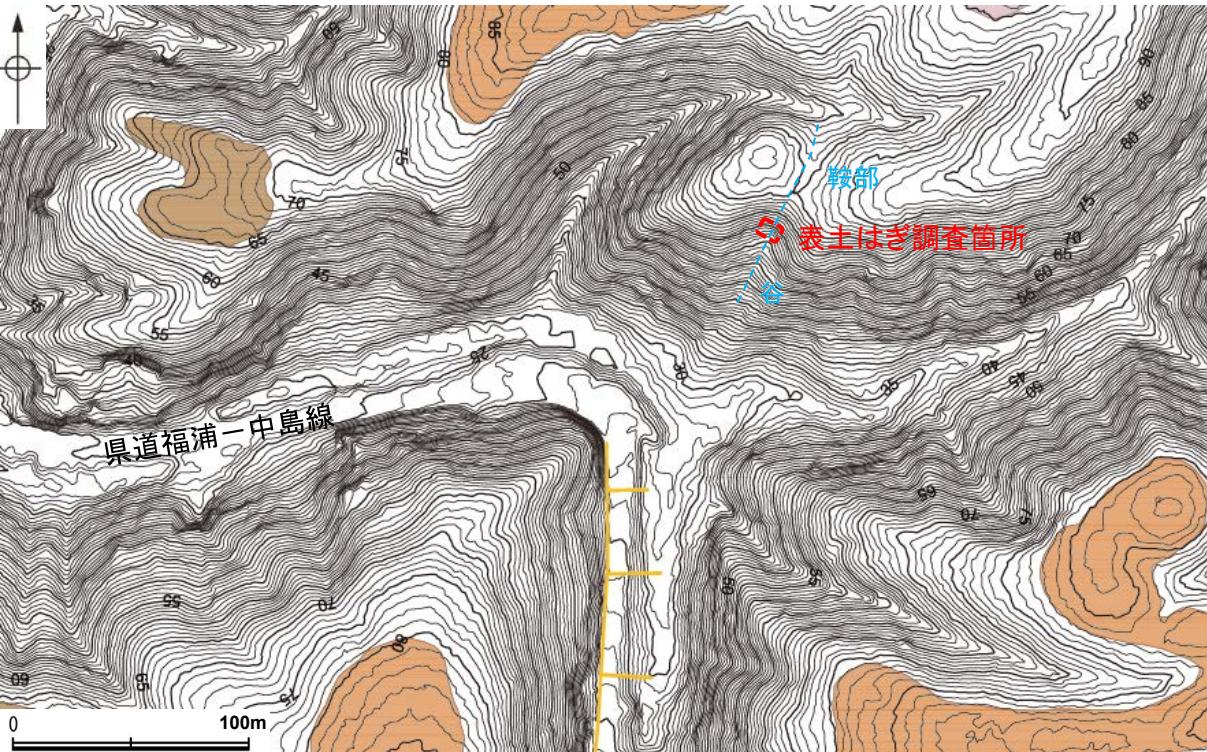
・右図範囲内の県道福浦-中島線沿い河床における発電所建設時の地表踏査データについては、**補足資料2.2-1(9)**。



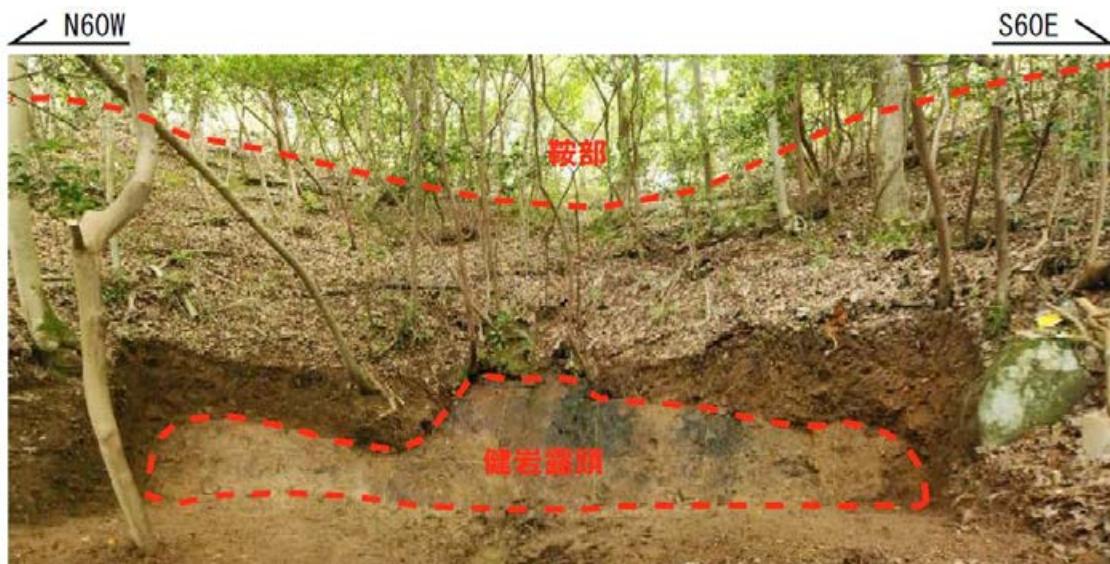
県道福浦-中島線沿い河床地表踏査結果(ルートマップ)

福浦断層(北端)

【県道福浦－中島線北東方 表土はぎ調査結果(全景写真・スケッチ)】



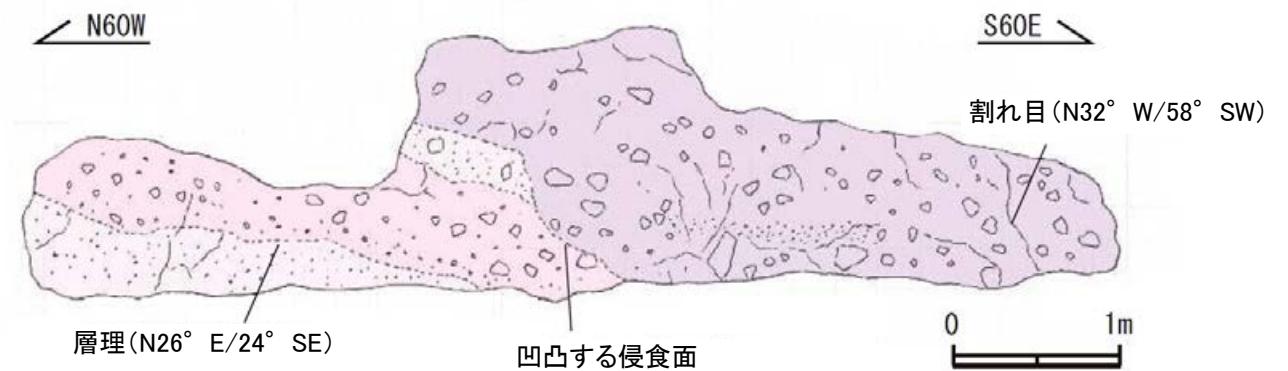
リニアメント・変動地形
位置図



表土はぎ調査箇所 全景写真



露頭全景写真



凡例

	別所岳安山岩類 凝灰岩
	別所岳安山岩類 火山礫凝灰岩
	別所岳安山岩類 凝灰角礫岩

凝灰岩

褐灰～灰色を呈し、径1～7cmの安山岩角～亜円礫を僅かに含む。やや風化しており、ハンマーの軽打で濁音を発する。露頭の西側に分布し、火山礫凝灰岩と互層する。層理はN26E/24SE。

火山礫凝灰岩

褐灰～灰色を呈する凝灰岩の基質に、径1～10cmの安山岩角～亜円礫および径1～2cmの軽石を5～10%含む。やや風化しており、ハンマーの軽打で濁音を発する。

凝灰角礫岩

赤褐～褐灰色を呈する凝灰岩の基質に、径2～40cmの安山岩角～亜円礫を20～30%含む。やや風化しており、ハンマーの軽打で濁音を発する。露頭の東側に分布し、一部で下位層をチャネル状に削り込む。

露頭スケッチ

・県道福浦－中島線の北東方に位置する谷及び鞍部にあたる地点において、表土はぎ調査を行った結果、福浦断層から分岐する断層は認められない。

福浦断層(北端)

【県道福浦-中島線北東方 表土はぎ調査結果(拡大写真)】

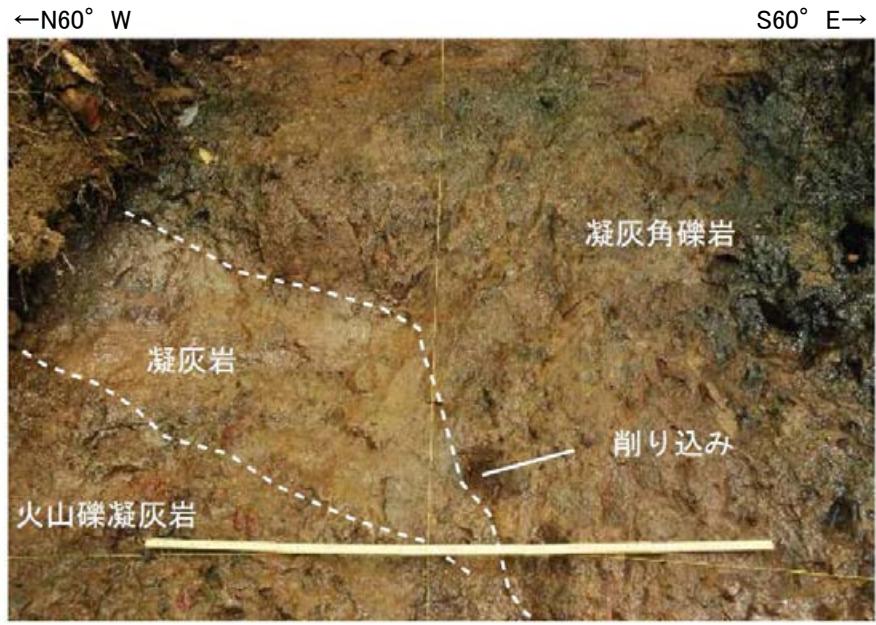
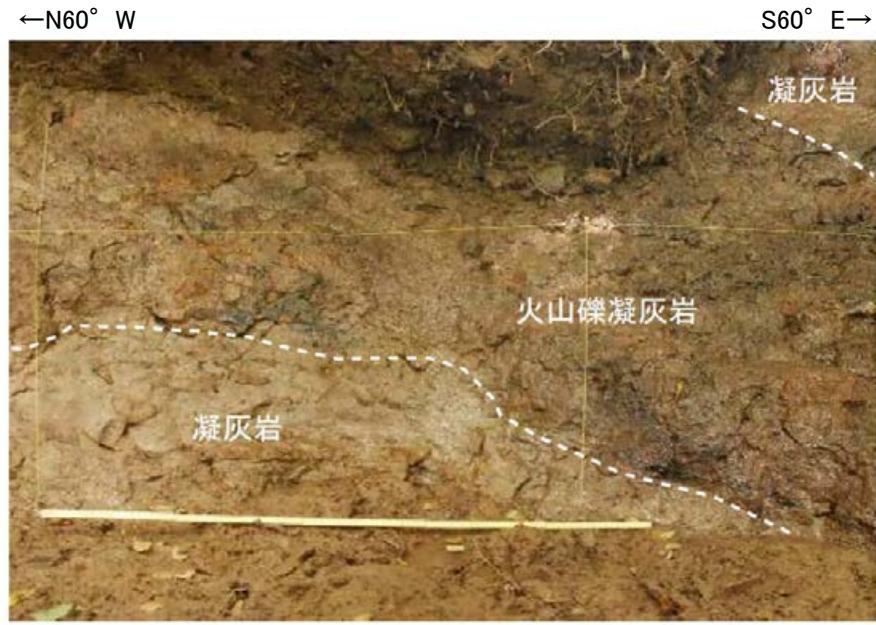
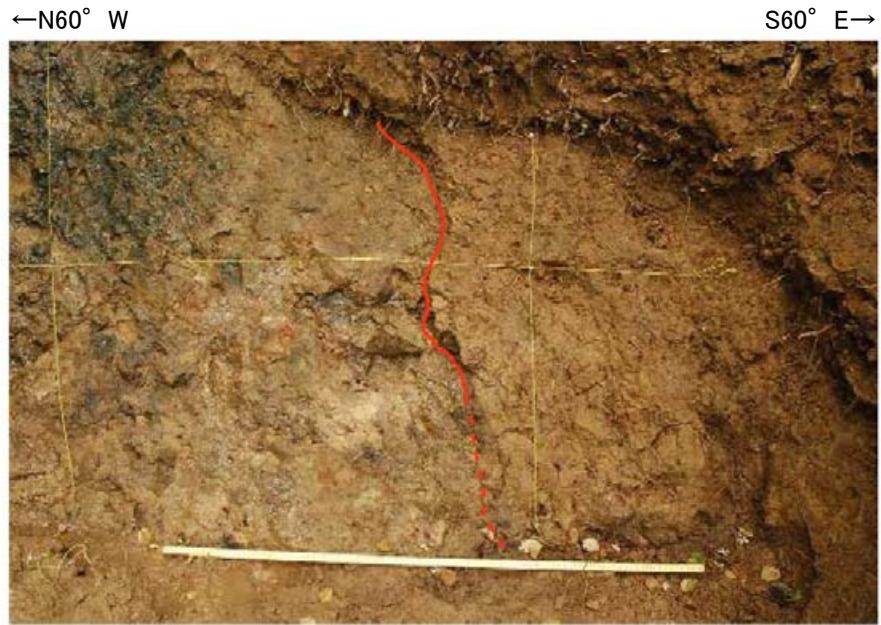


写真1 露頭東側に分布する割れ目
(上:割れ目を加筆, 下:加筆なし)

不規則に凹凸し, 下部で不明瞭となる。
走向・傾斜はN32° W/58° SW

写真2 火山礫凝灰岩と凝灰岩の境界の層理
(上:岩層境界を加筆, 下:加筆なし)

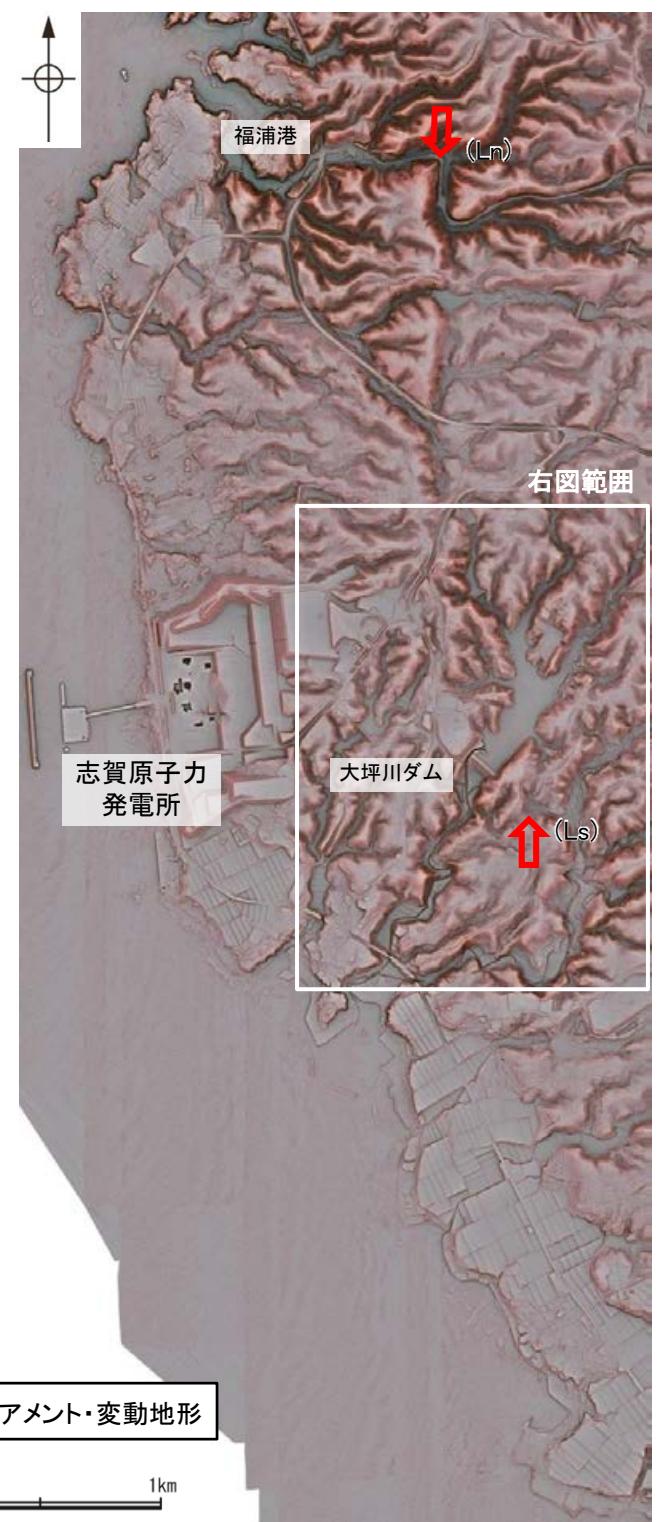
走向・傾斜はN26° E/24° SE
やや波曲する。

写真3 凝灰角礫岩による下位層の削り込み
(上:岩層境界を加筆, 下:加筆なし)

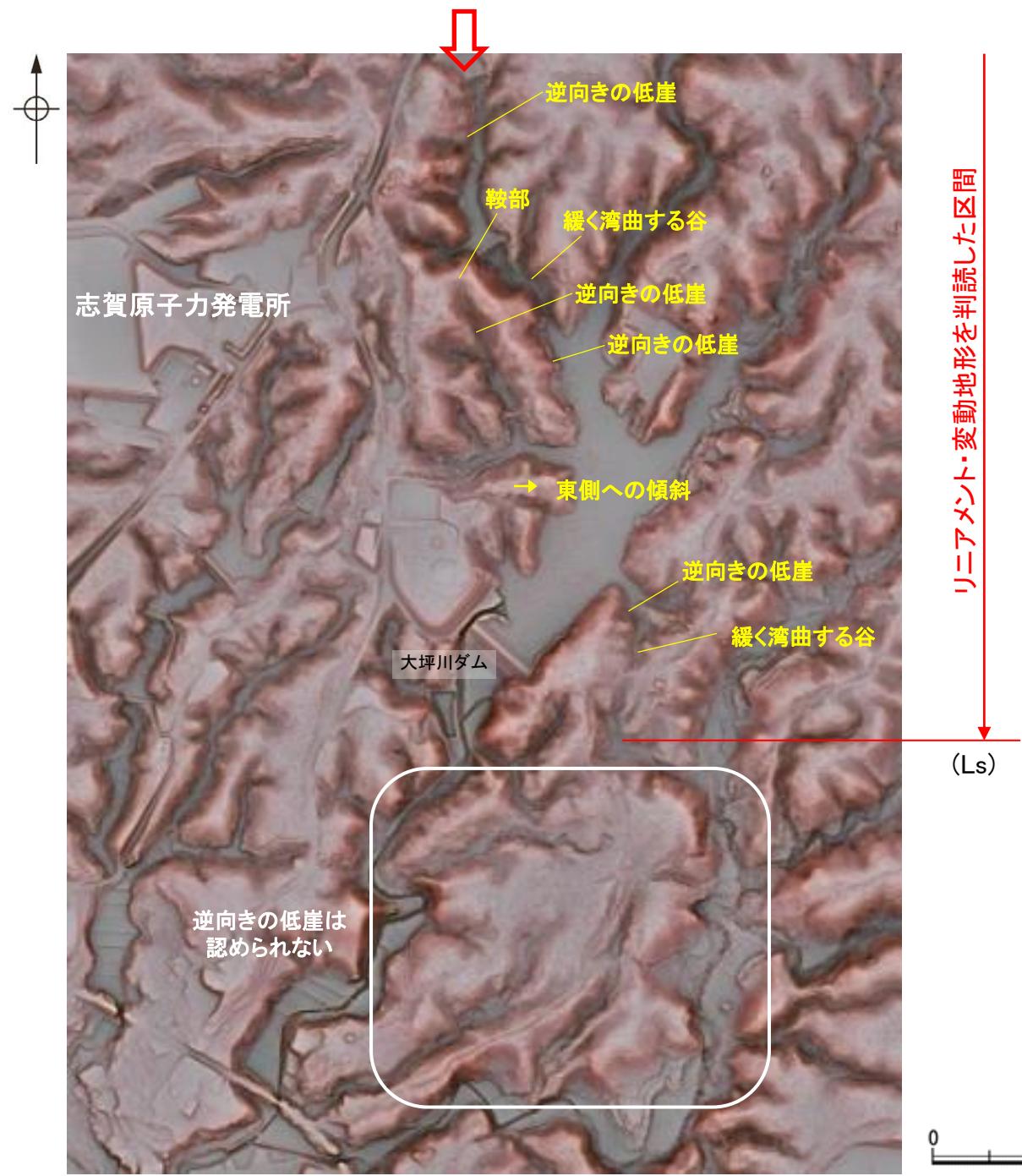
侵食面は凹凸する。

2.2.1 (7) 福浦断層の端部 —南端付近の地形調査—

○大坪川ダム右岸及び左岸では、逆向きの低崖等が直線的に連続して認められるが、大坪川ダム付近のLs地点以南では逆向きの低崖等は認められないことから、リニアメント・変動地形は判読されない。



赤色立体地図(航空レーザ計測データにより作成)

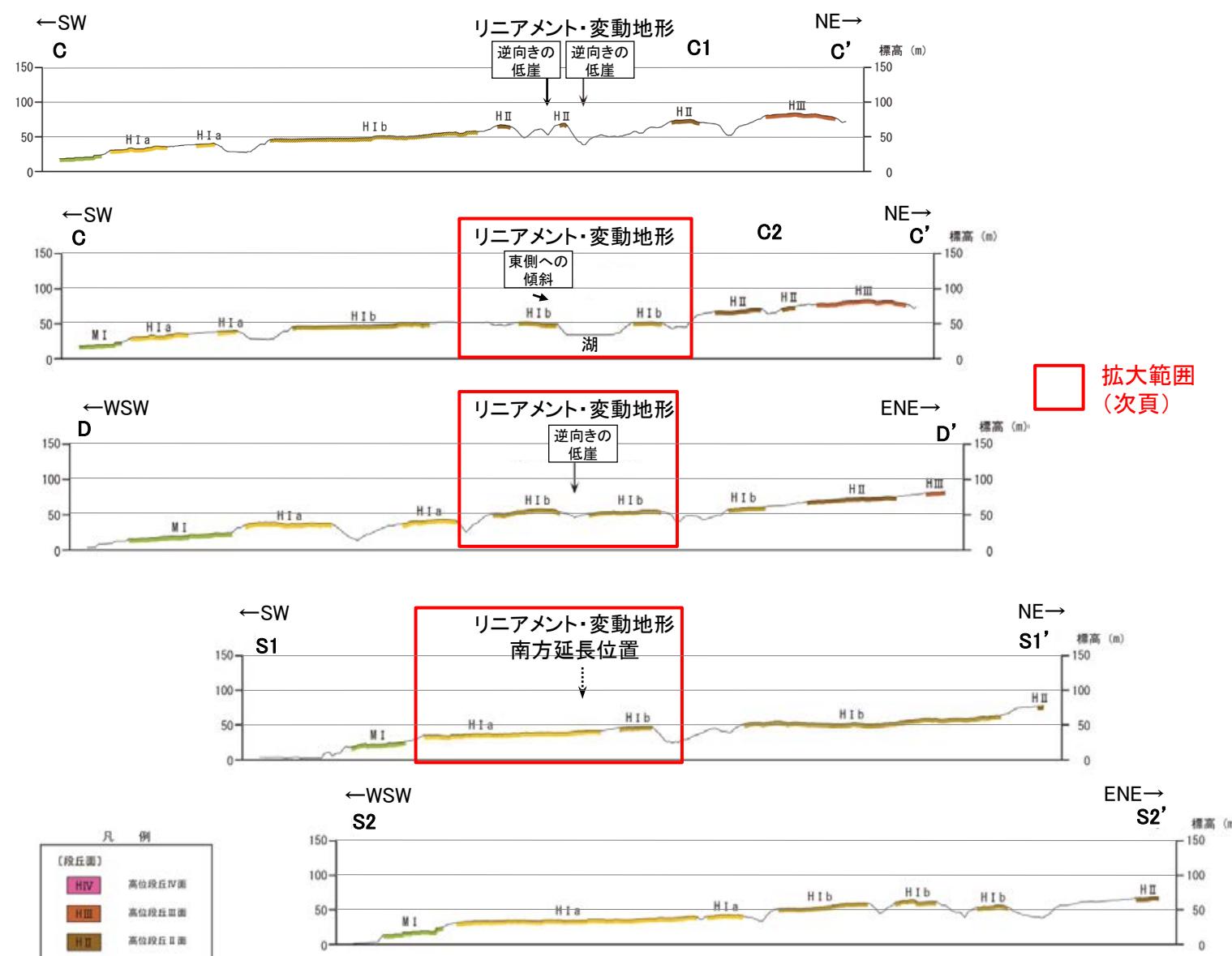
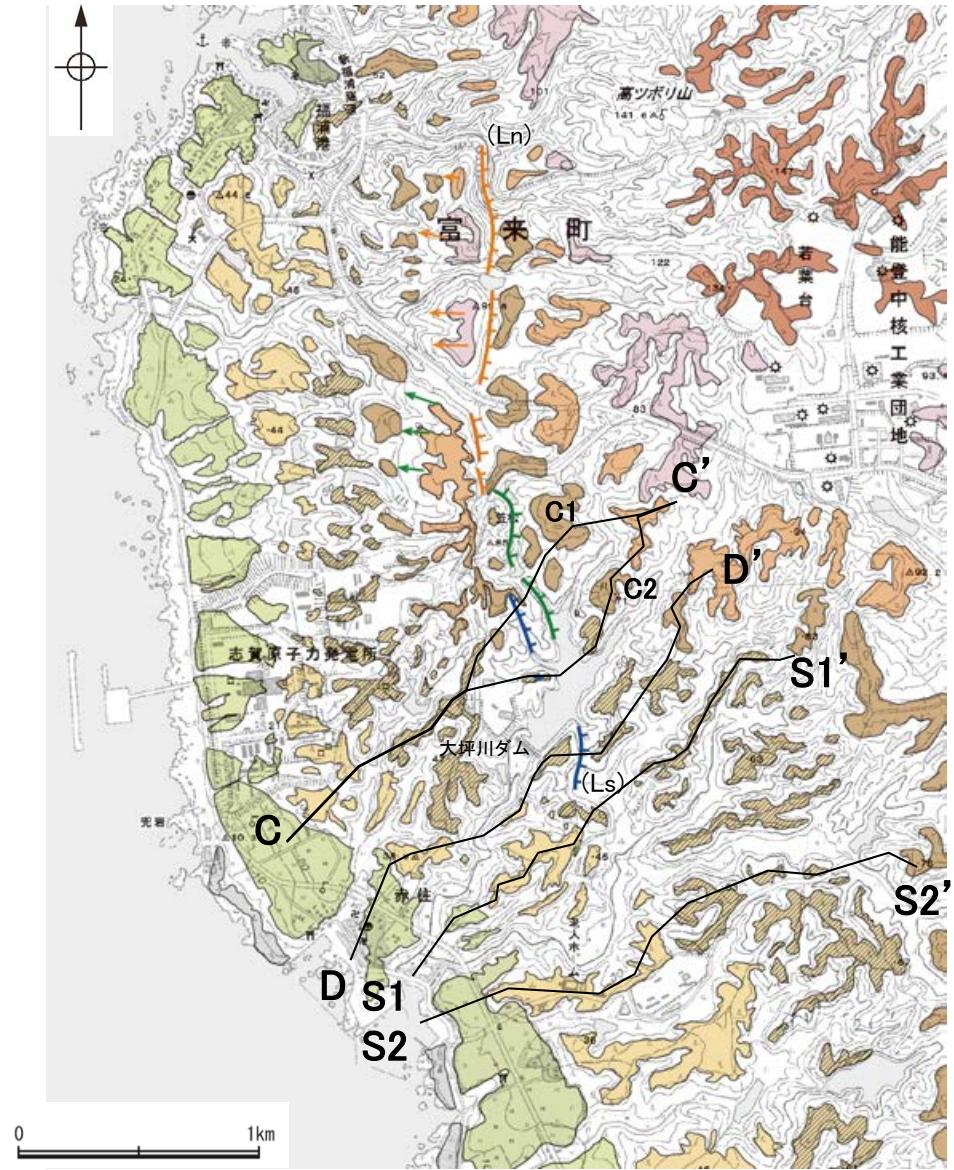


リニアメント・変動地形の南端付近拡大図

福浦断層(南端)

【南端付近 地形断面図】

○大坪川ダム右岸及び左岸のリニアメント・変動地形を判読した区間では、逆向きの低崖が連続して認められるが、大坪川ダム付近のLs地点以南では逆向きの低崖等は認められない(S1-S1'断面, S2-S2'断面)。



拡大範囲 (次頁)

凡例

[段丘面]	[リニアメント・変動地形]
高位段丘V面	Ls (変動地形である可能性がある)
高位段丘IV面	Lc (変動地形である可能性が低い)
高位段丘III面	Ld (変動地形である可能性は非常に低い)
高位段丘II面	ケバは低下側を示す。
高位段丘Ia面	↓は地形面の傾斜の向きを示す。
高位段丘Ib面	
中位段丘I面	
古期扇状地面	
沖積段丘面	

凡例

[段丘面]	HIIV	高位段丘IV面
	HIID	高位段丘III面
	HIID	高位段丘II面
	HIIB	高位段丘Ib面
	HIIA	高位段丘Ia面
	MI	中位段丘I面

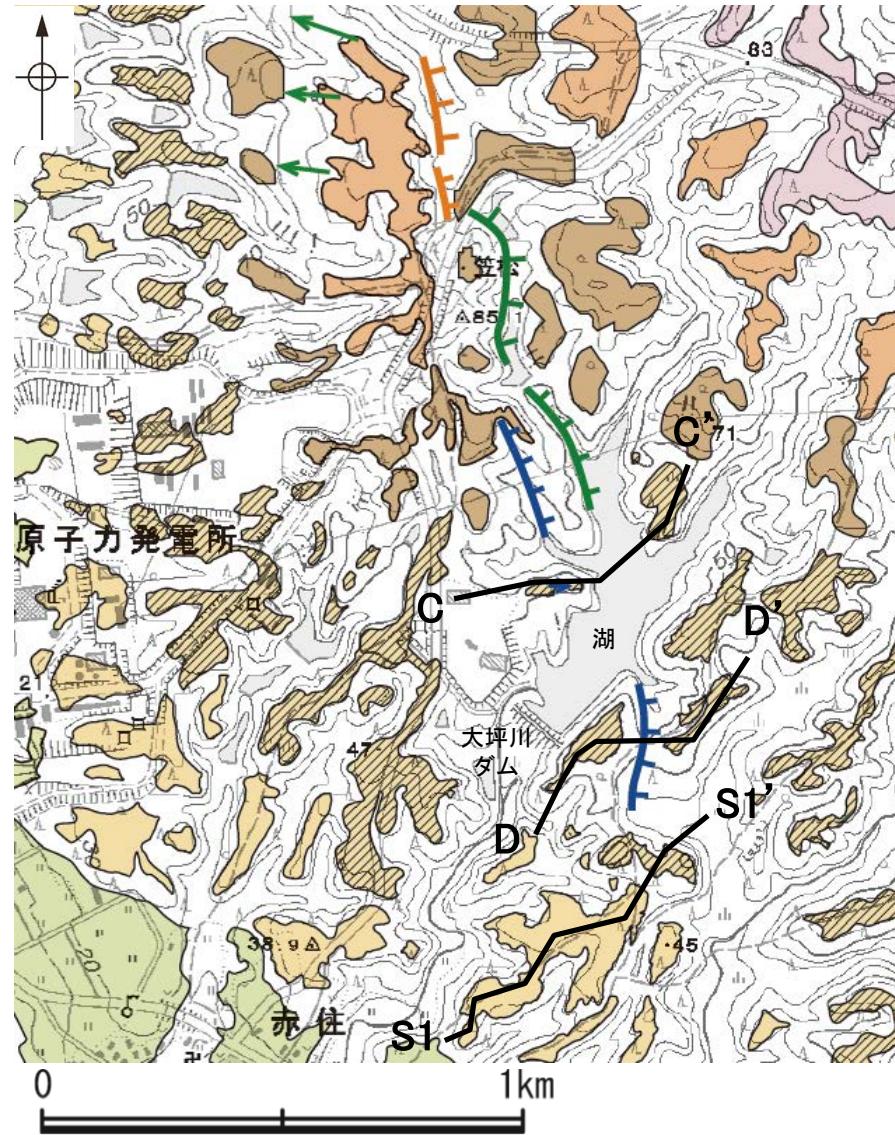
地形断面図(H:V=1:2)
(航空レーザ計測データにより作成)

段丘面分布図

福浦断層(南端)

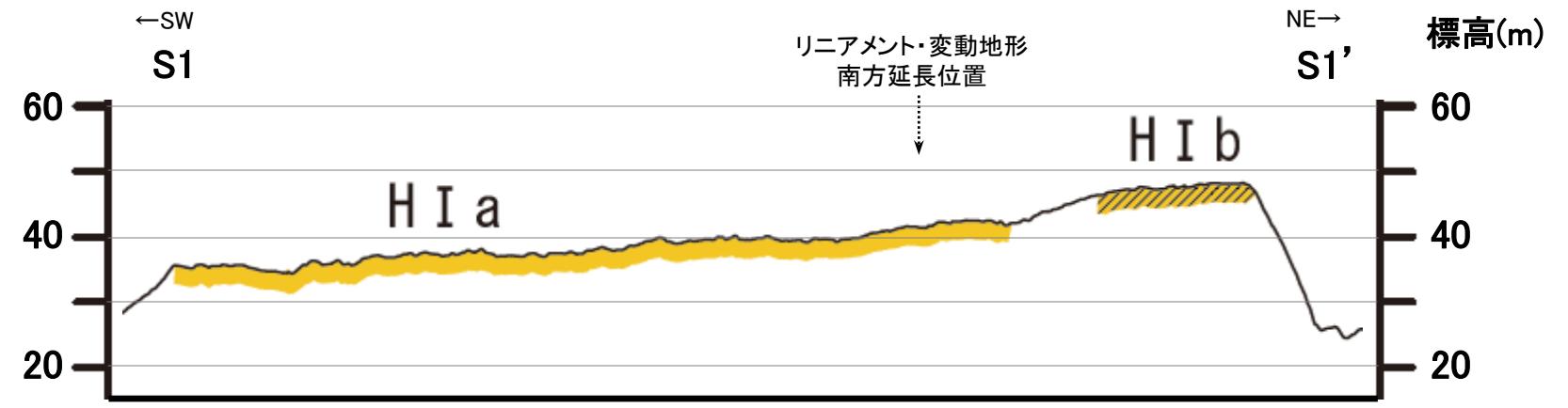
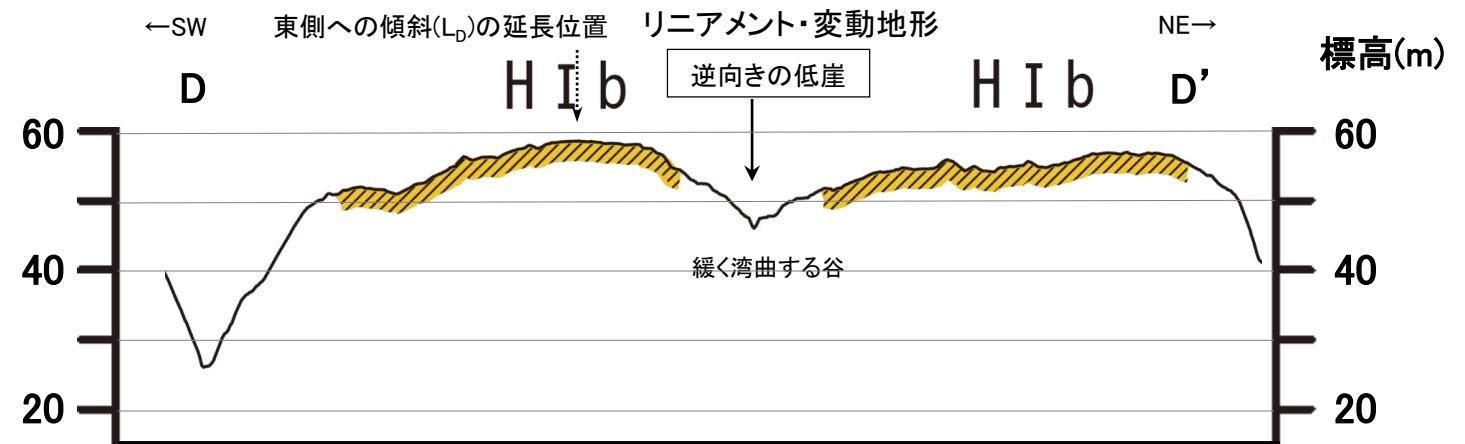
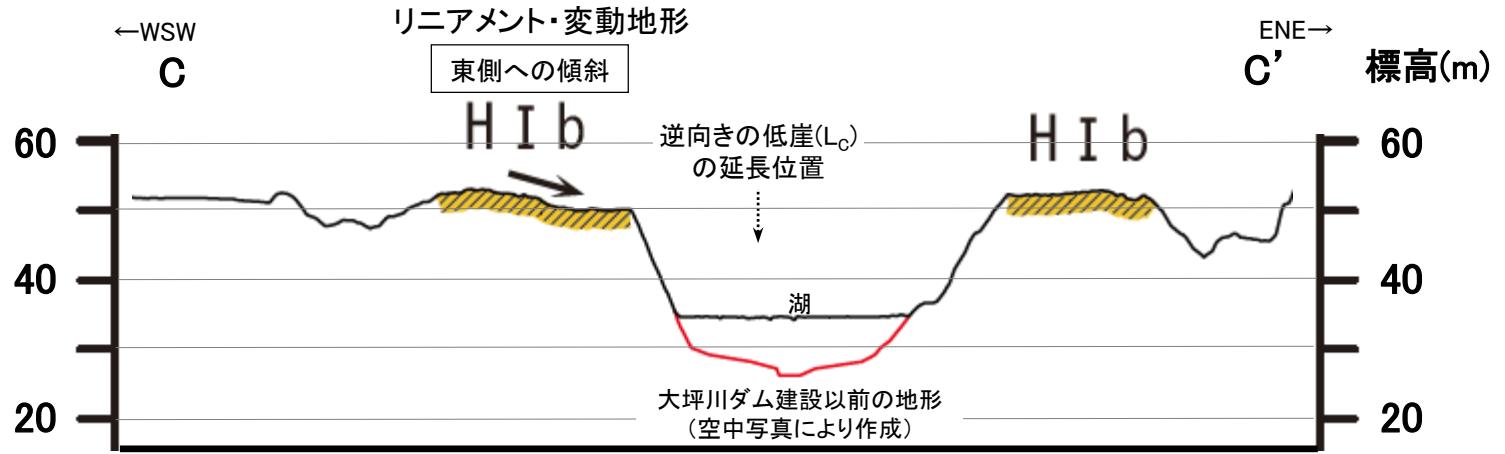
【大坪川ダム周辺 地形断面図(拡大)】

- 大坪川ダム右岸において、Dランクのリニアメント・変動地形を判読した逆向きの低崖の南方延長において、高位段丘 I b面に東側への傾斜が認められる(C-C' 断面)。
- 大坪川ダム左岸において、緩く湾曲する谷及び逆向きの低崖が認められ、谷の西側の高位段丘 I b面には東側への傾斜は認められないが、福浦断層の上盤側(南西側)の段丘面標高が下盤側(北東側)に比べてやや高くなる(D-D' 断面)。
- さらに南方延長に分布する高位段丘 I a面は、海側に向かって緩やかに傾斜しており、リニアメント・変動地形の南方延長に逆向きの低崖等は認められない(S1-S1' 断面)。



[段丘面]		[リニアメント・変動地形]	
高位段丘 V 面	高位段丘 I b 面	Li (変動地形である可能性がある)	↓
高位段丘 IV 面	高位段丘 I a 面	Lc (変動地形である可能性が低い)	↓
高位段丘 III 面	中位段丘 I 面	Ld (変動地形である可能性は非常に低い)	↓
高位段丘 II 面	古期扇状地面	ケハは低下側を示す。	↓
	沖積段丘面	↓は地形面の傾斜の向きを示す。	
			地形断面線

段丘面分布図



地形断面図(H:V=1:4)
(航空レーザ計測データにより作成)

2.2.1 (7) 福浦断層の端部 — 南端付近の地質調査 —

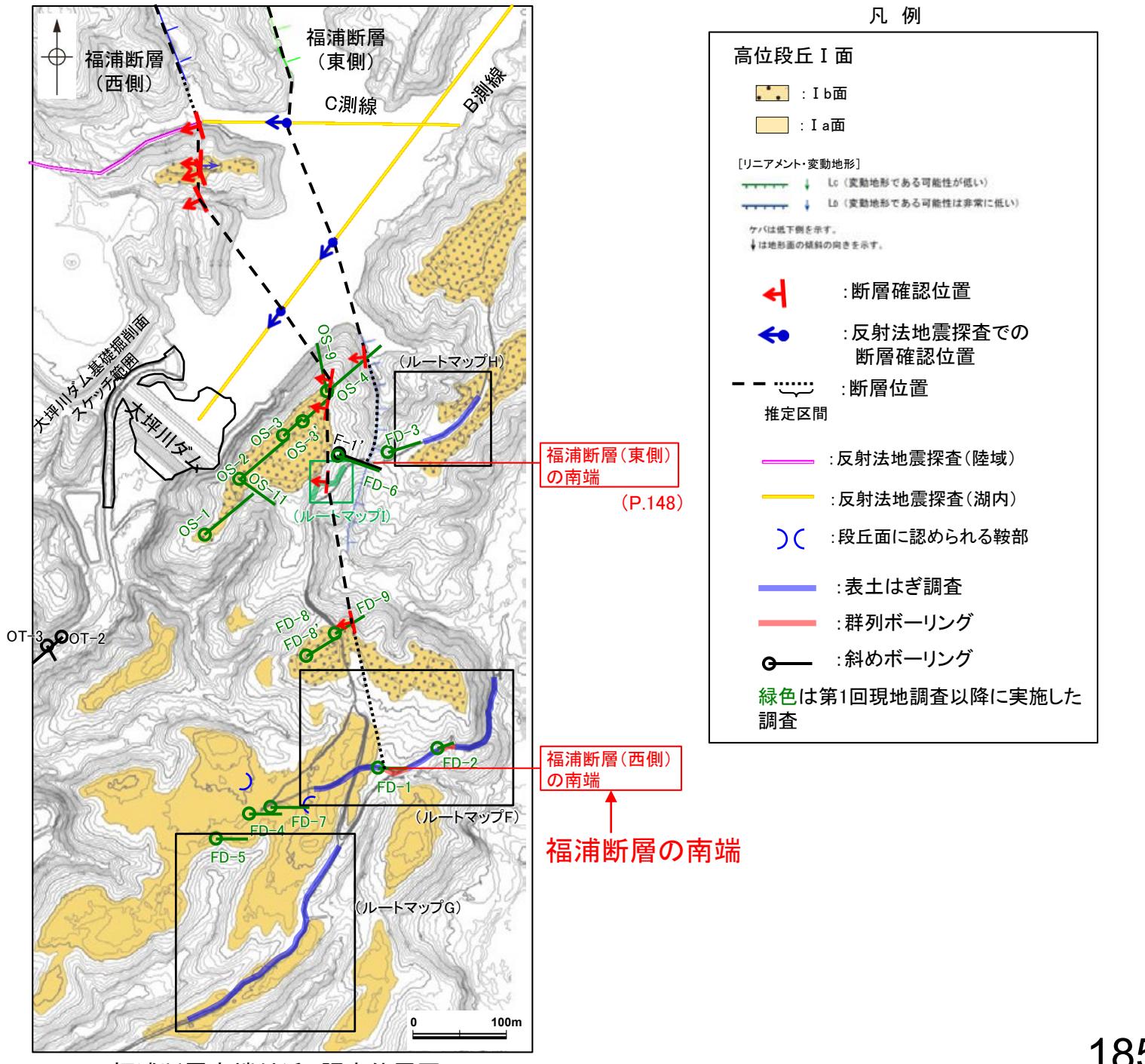
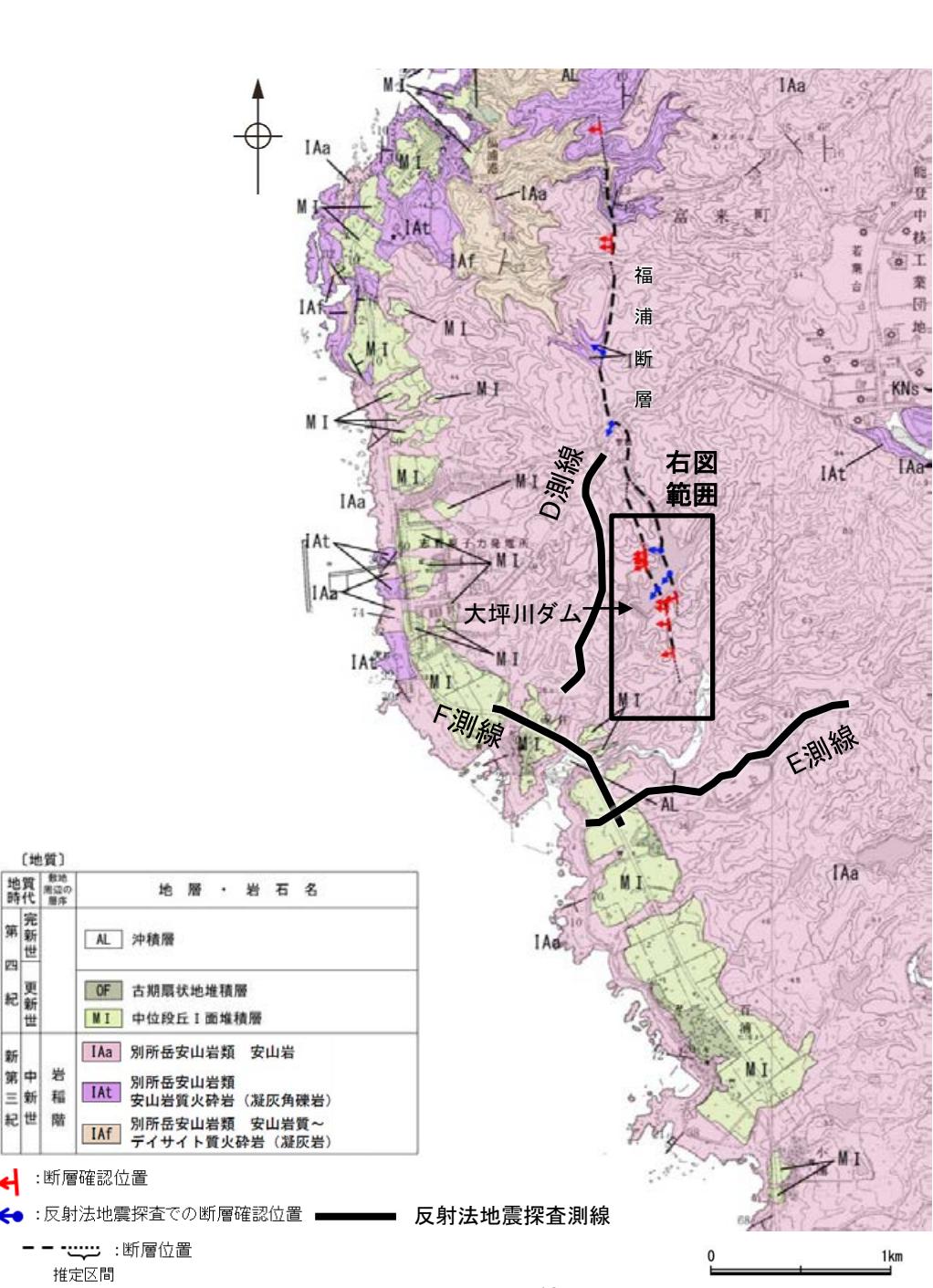
○大坪川ダム左岸において実施したボーリング調査(FD-8, 9孔)により確認した福浦断層(西側)の南方延長において、表土はぎ調査(ルートマップF, G)を実施した結果、岩盤には福浦断層に対応する断層は認められず(P.186~197)、群列ボーリング調査の結果、岩盤上面はほぼ水平である(P.198)。群列ボーリング調査地点で実施した斜めボーリング調査(FD-1孔, FD-2孔)の結果、破碎部は認められない(P.199, 200)。

○また、ルートマップFの西方で実施した斜めボーリング調査(FD-4孔, FD-5孔, FD-7孔)の結果、福浦断層に対応する破碎部は認められない(P.201~203)。

○さらに南方に分布する中位段丘 I 面及び高位段丘 I a面の旧汀線高度ないし段丘面内縁標高は、ほぼ同じ高度で連続し(P.204, 205)、反射法地震探査においても、福浦断層に対応する断層は認められない(P.206~209)。

○したがって、断層の南方延長位置において、福浦断層に対応する断層が認められないことを確認したルートマップFの表土はぎ箇所を福浦断層の南端と評価した。

○なお、大坪川ダム左岸において、活断層研究会(1991)が示した活断層の推定位置にあたる谷地形の延長位置で実施した表土はぎ調査(ルートマップH)の結果、福浦断層から分岐する断層は認められない(P.148)。



福浦断層南端付近 調査位置図

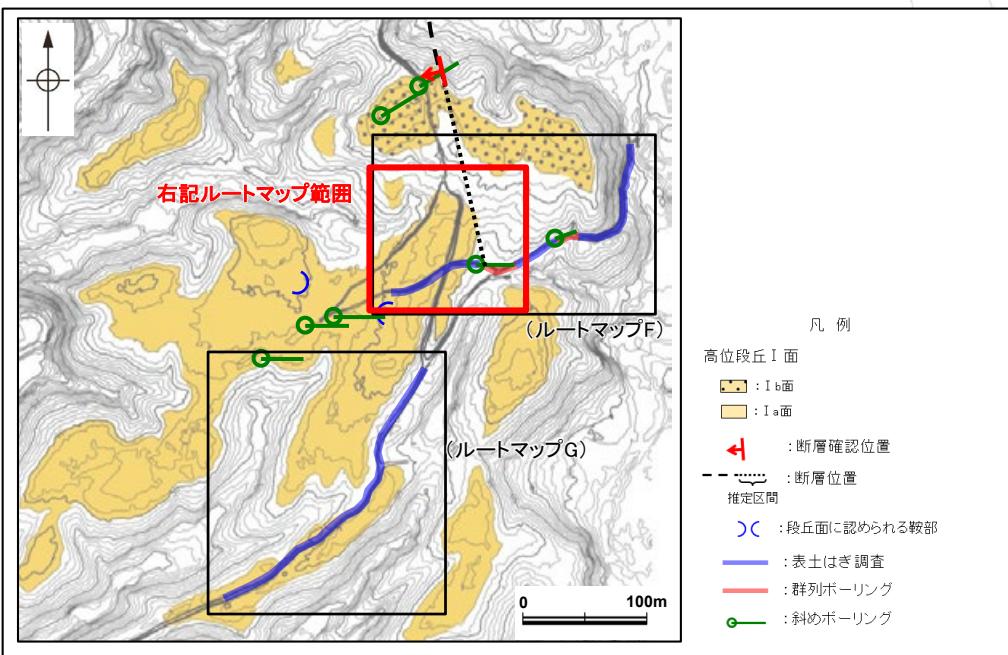
位置図

福浦断層(南端)

【表土はぎ調査(ルートマップF)1/2】

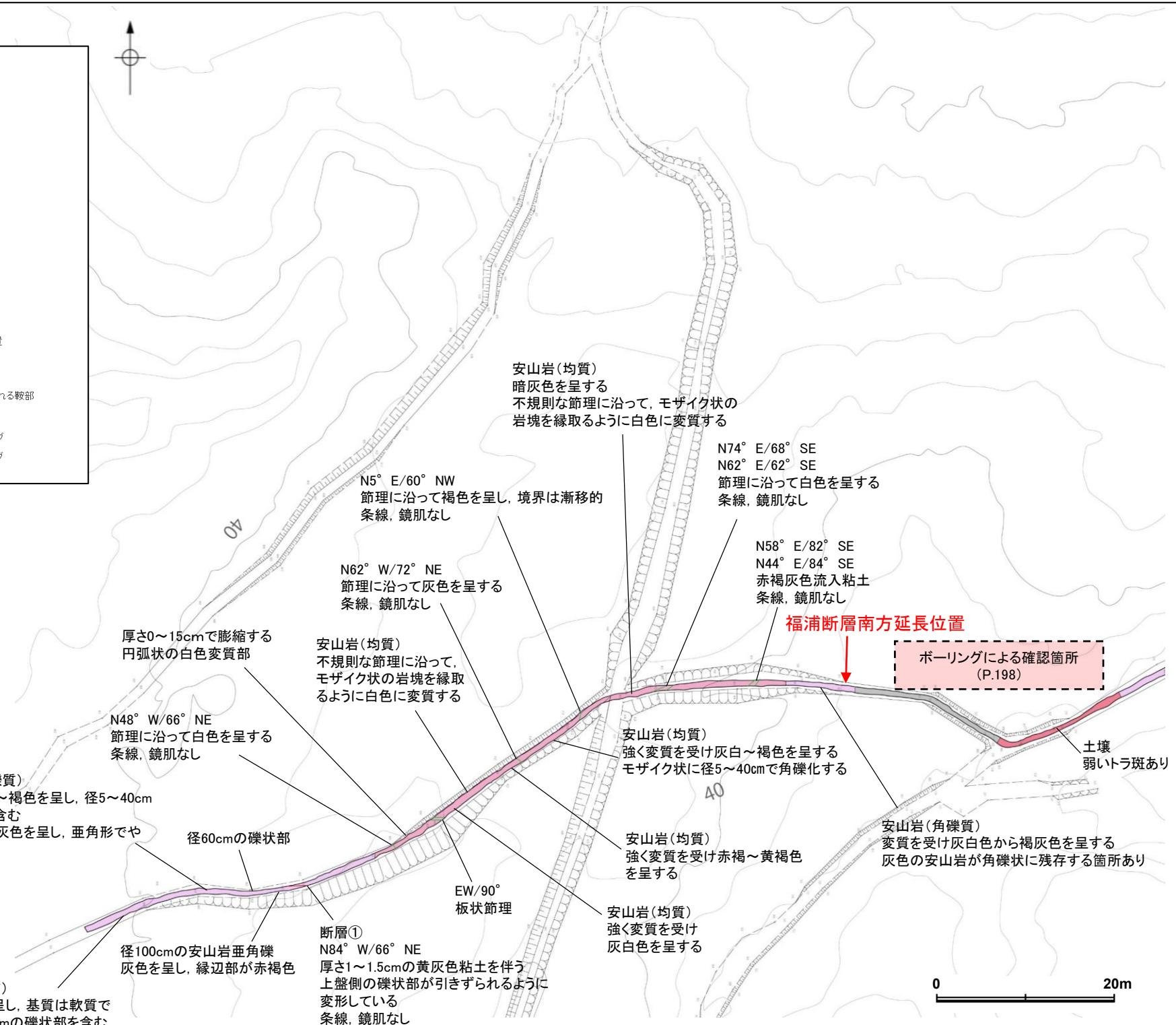
○ルートマップFにおいて表土はぎ調査を実施した結果、別所岳安山岩類の安山岩(均質)、安山岩(角礫質)、火山礫凝灰岩が分布し、断層が4箇所(本頁、次頁)で認められる。
○これらの断層は、いずれも走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから、福浦断層に対応する断層ではないと判断した。
○また、これらの断層は地形調査、地質調査(表土はぎ調査)及び反射法地震探査の結果を踏まえると、水平方向や深部方向への連続性に乏しく、震源として考慮する活断層ではないと判断した。

紫字: 第1168回審査会合以降の追記箇所



表土はぎ調査 位置図

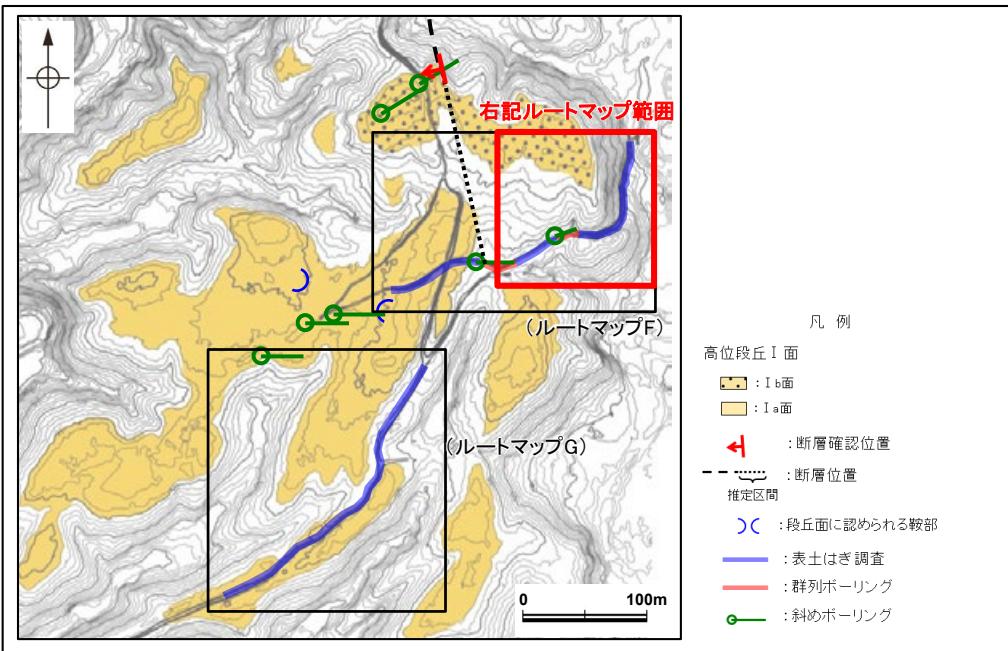
- 凡例
- 高位段丘I面
 - Ib面
 - Ia面
 - 断層確認位置
 - 断層位置推定区間
 - 段丘面に認められる鞍部
 - 表土はぎ調査
 - 群列ボーリング
 - 斜めボーリング



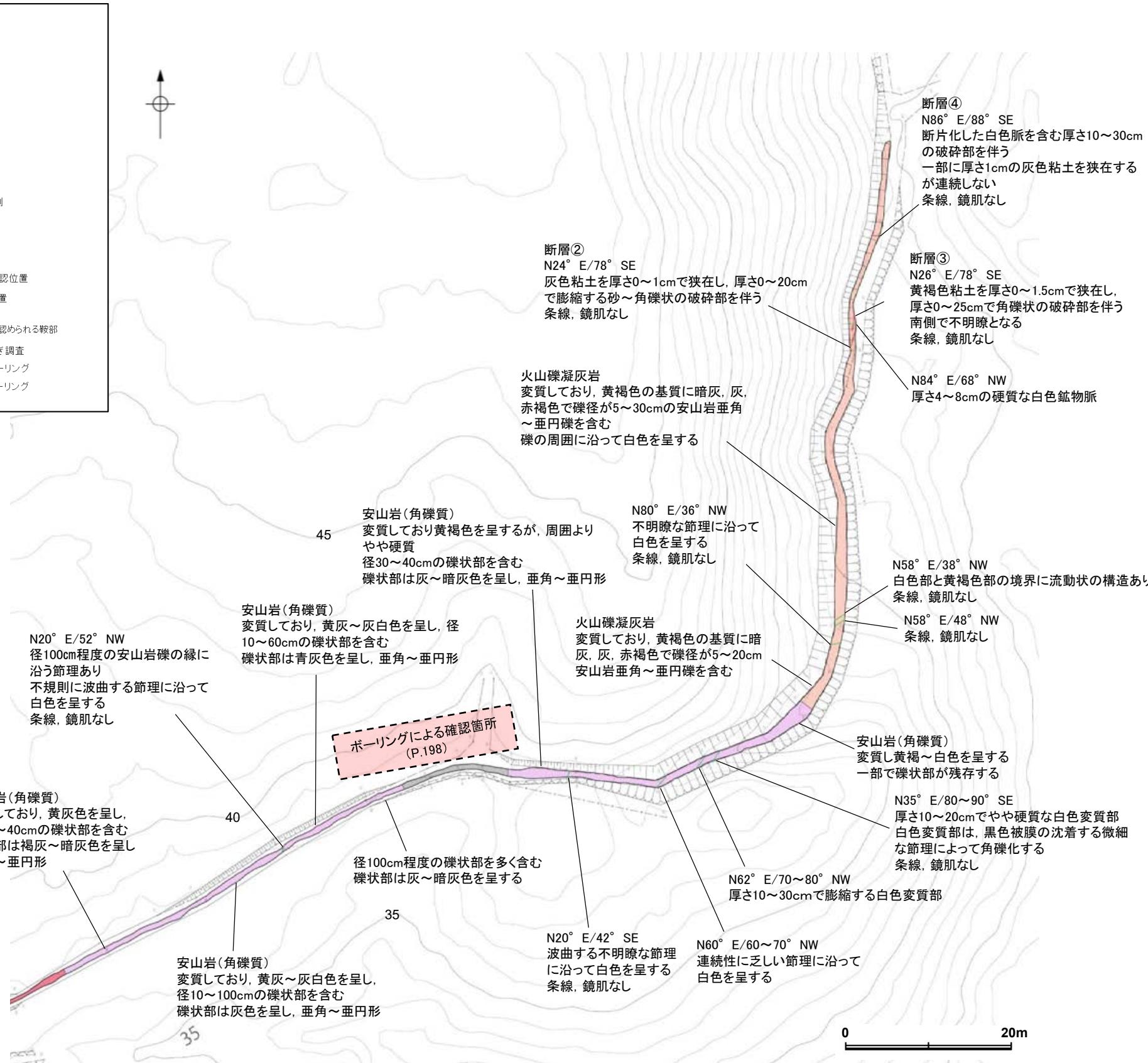
表土はぎ調査結果(ルートマップF(西部))

福浦断層(南端)

【表土はぎ調査(ルートマップF)2/2】



表土はぎ調査 位置図



- 凡例
- 盛土、崩土
 - 土壤
 - 別所岳安山岩類 安山岩(均質)
 - 別所岳安山岩類 安山岩(角礫質)
 - 別所岳安山岩類 火山礫凝灰岩
 - 節理
 - 断層
 - 岩相境界

・ルートマップFにおいて、表土はぎ調査を実施した結果、福浦断層に対応する断層は認められない。

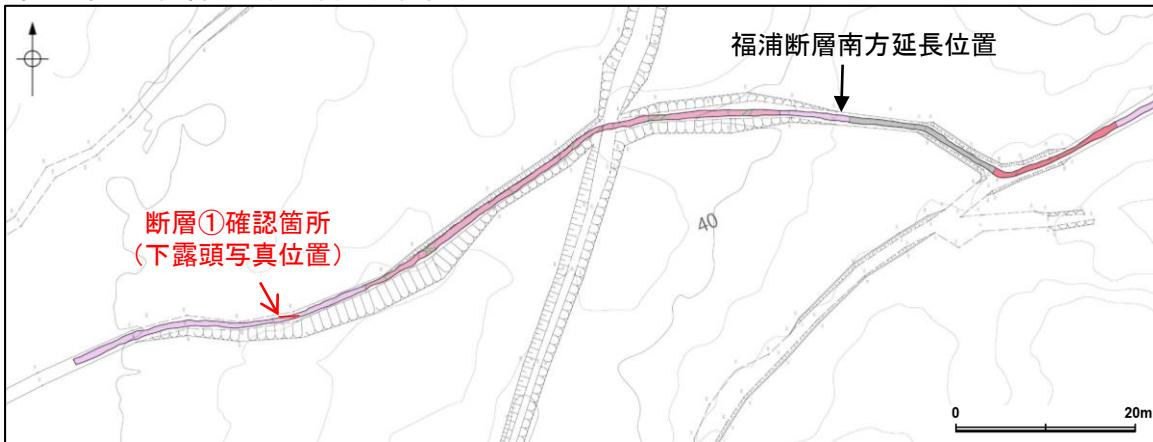
表土はぎ調査結果(ルートマップF(東部))

福浦断層(南端)

【ルートマップFで認められた断層①の詳細観察結果】

- ルートマップFにおいて、走向・傾斜がN84° W/66° NEの断層①が認められる。
- 断層①は、走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから、福浦断層に対応する断層ではないと判断した。
- また、断層①の周囲の地形面に変位・変形は認められず、さらに本断層の西方延長の反射法地震探査(D測線)において深部へ連続する断層は認められないことから、断層①は連続性に乏しく、震源として考慮する活断層ではないと判断した。

紫字: 第1168回審査会合以降の追記箇所



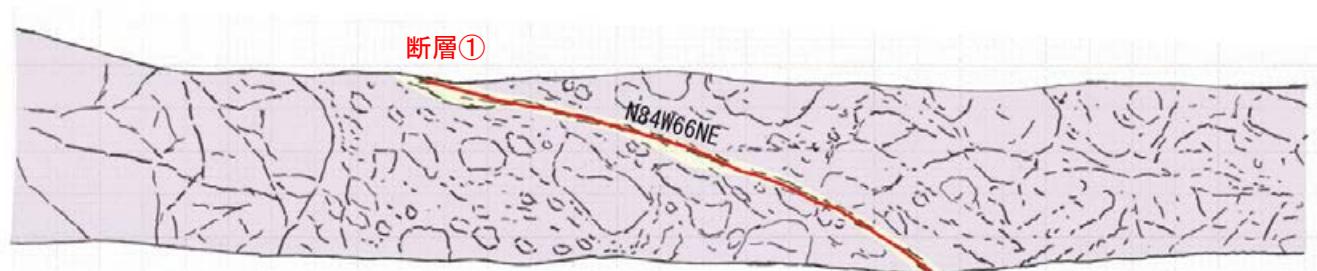
ルートマップF(西部)位置図

安山岩(角礫質)
変質して黄褐～褐色を呈し、径5～40cmの礫状部を含む。礫状部は垂角～垂円形で、暗灰～赤褐色を呈する。基質、礫共にナイフで削ることができる程度に軟質である。

断層①
走向傾斜はN84W66NEであり、緩やかに湾曲する。幅1～1.5cmの黄灰色粘土を伴う。粘土に沿って幅2～3cmで白色部や褐色部からなる流動状構造が認められる。上盤側の幅20cm程度では、周辺の礫状部が引き摺られるように変形している。平滑面、鏡肌、条線は認められない。



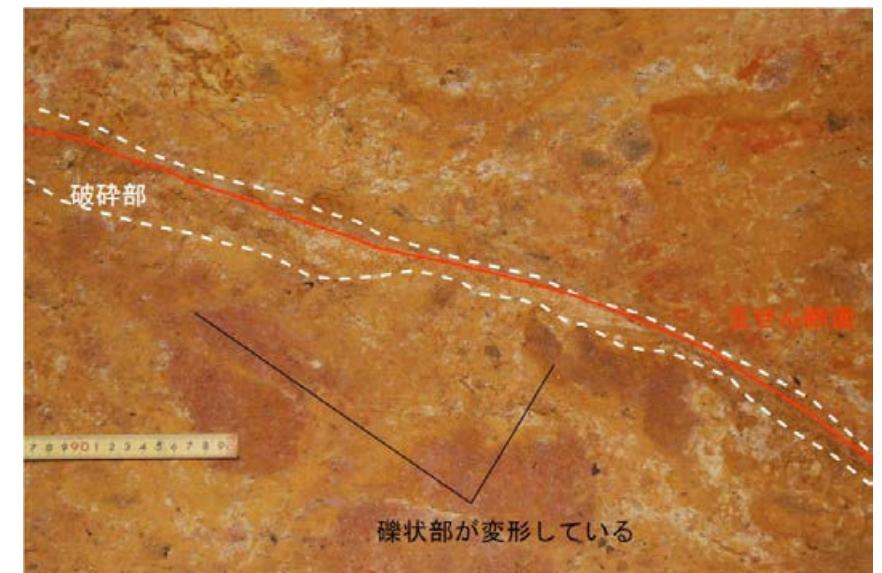
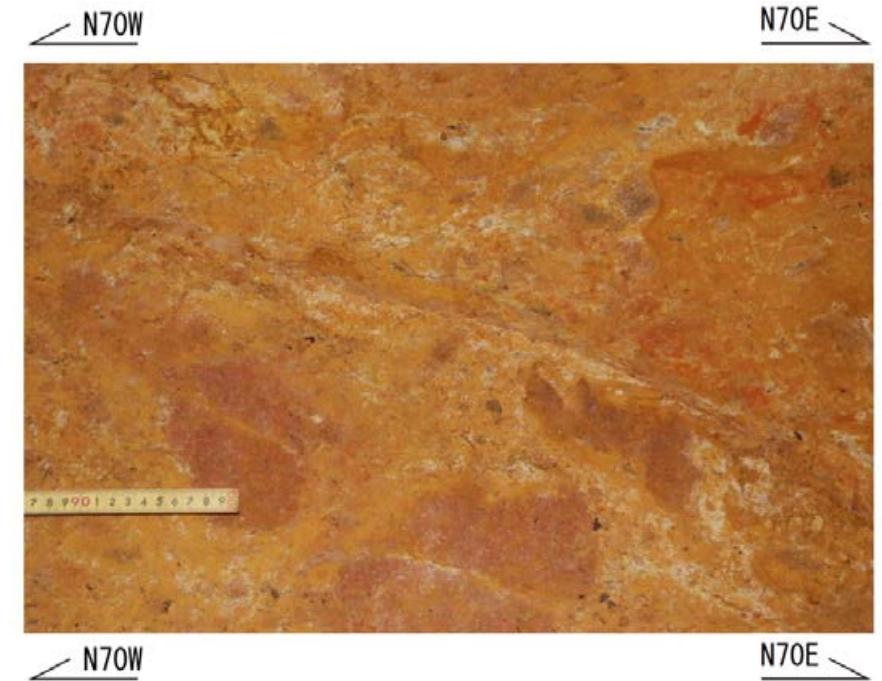
露頭写真



凡例

露頭スケッチ

- 別所岳安山岩類
安山岩(角礫質)
- 破碎部
- 主せん断面



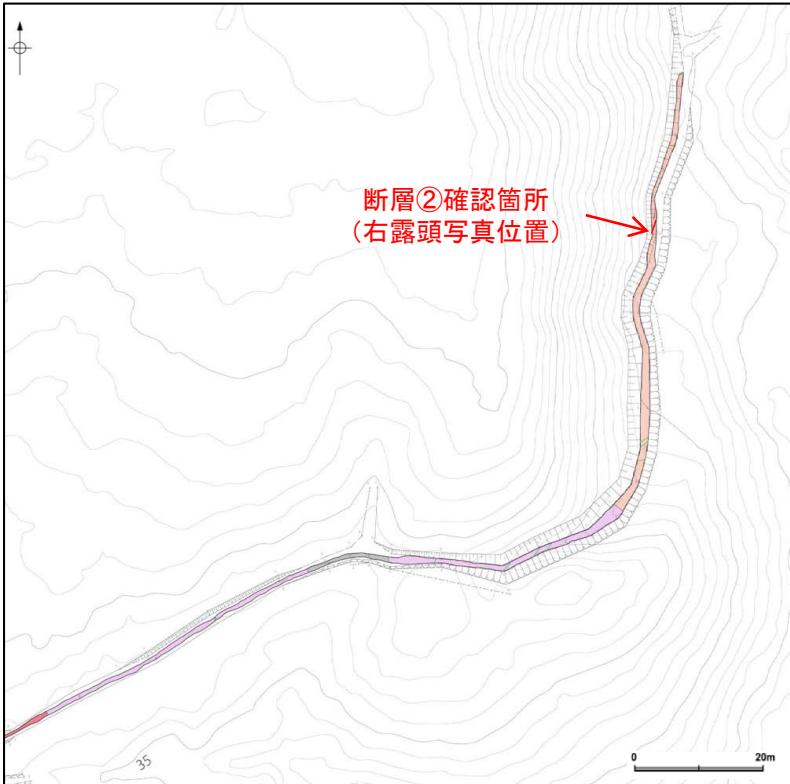
拡大写真
(上:加筆なし, 下:解釈線加筆)

福浦断層(南端)

【ルートマップFで認められた断層②の詳細観察結果】

- ルートマップFにおいて、走向・傾斜がN24° E/78° SEの断層②が認められる。
- 断層②は、走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから、福浦断層に対応する断層ではないと判断した。
- また、断層②の周囲の地形面に変位・変形は認められず、さらに本断層の南西方延長のルートマップF区間において対応する断層は認められないこと、反射法地震探査(E測線)において深部へ連続する断層は認められないことから、断層②は連続性に乏しく、震源として考慮する活断層ではないと判断した。

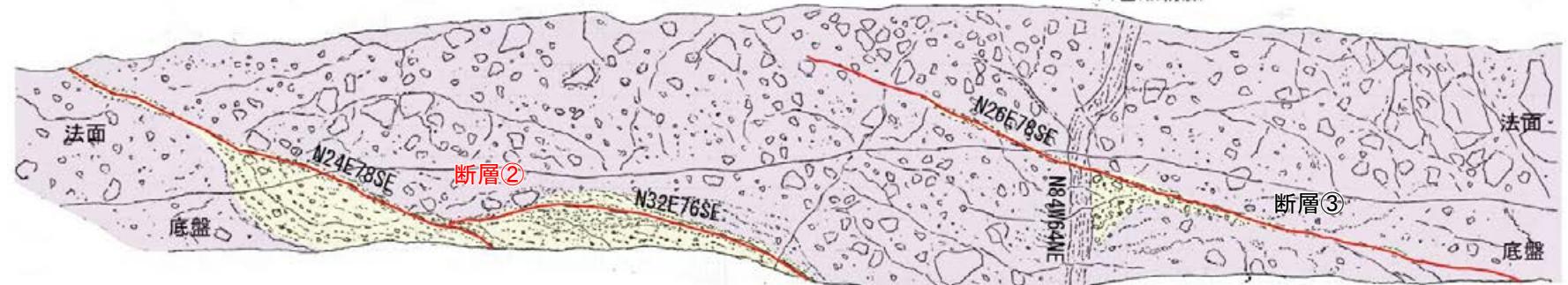
紫字: 第1168回審査会合以降の追記箇所



ルートマップF(東部)位置図



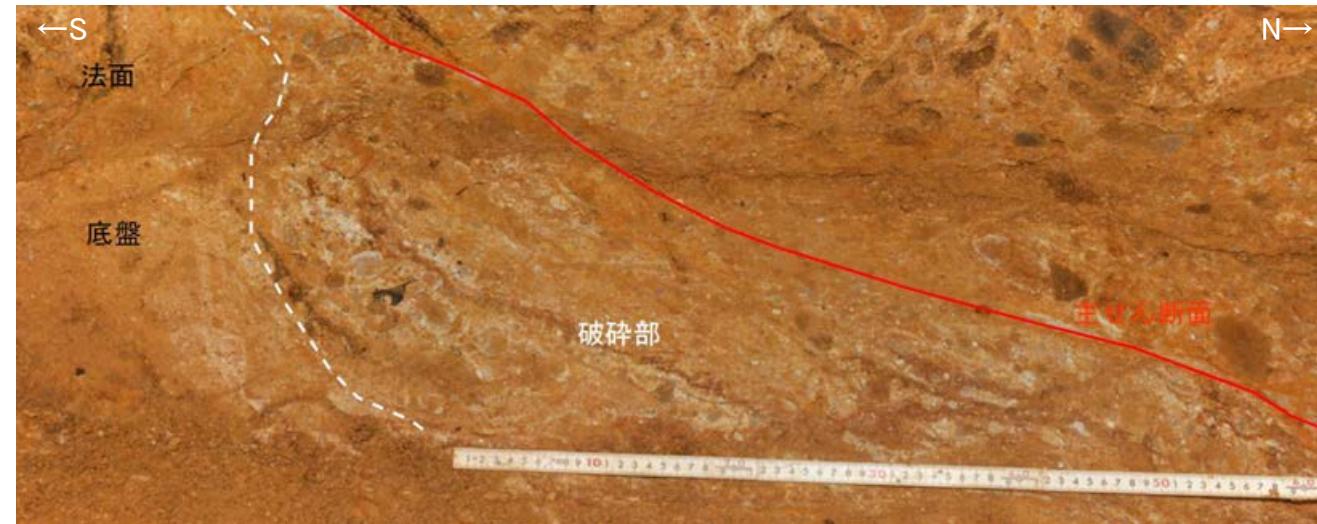
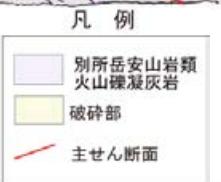
露头写真



露头スケッチ

火山礫凝灰岩
変質して黄褐色を呈する基質に、暗灰、灰、赤褐色の安山岩垂角~垂円礫を含む。礫径は5~30cmである。基質、礫共にナイフで削ることができる程度に軟質であるが、礫の一部は岩芯を残す。

断層②
走向傾斜は法面でN24E78SEであり、底盘ではN24E78SEの構造から分岐するようにN32E76SEの構造が認められる。両者とも、灰色の粘土を幅0~1cmで断続的に挟み、その周辺が褐色を帯びる。幅0~20cmで膨縮する砂~角礫状の破碎部を伴う。その内部には破碎部延長方向に沿った粒子の配列や流動状の構造が認められる。破碎部の幅は南方へ薄くなり、特に底盘と法面の境界付近で急激に幅を減ずる。破碎部の内部に連続する平滑面や鏡肌、条線は認められない。



拡大写真(左:加筆なし, 右:解釈線加筆)

福浦断層(南端)

【ルートマップFで認められた断層③の詳細観察結果】

○ルートマップFにおいて、走向・傾斜がN26° E/78° SEの断層③が認められる。

○断層③は、走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから、福浦断層に対応する断層ではないと判断した。

○また、断層③の周囲の地形面に変位・変形は認められず、さらに本断層の南西方延長のルートマップF区間において対応する断層は認められないこと、反射法地震探査(E測線)において深部へ連続する断層は認められないことから、断層③は連続性に乏しく、震源として考慮する活断層ではないと判断した。

紫字: 第1168回審査会合以降の追記箇所



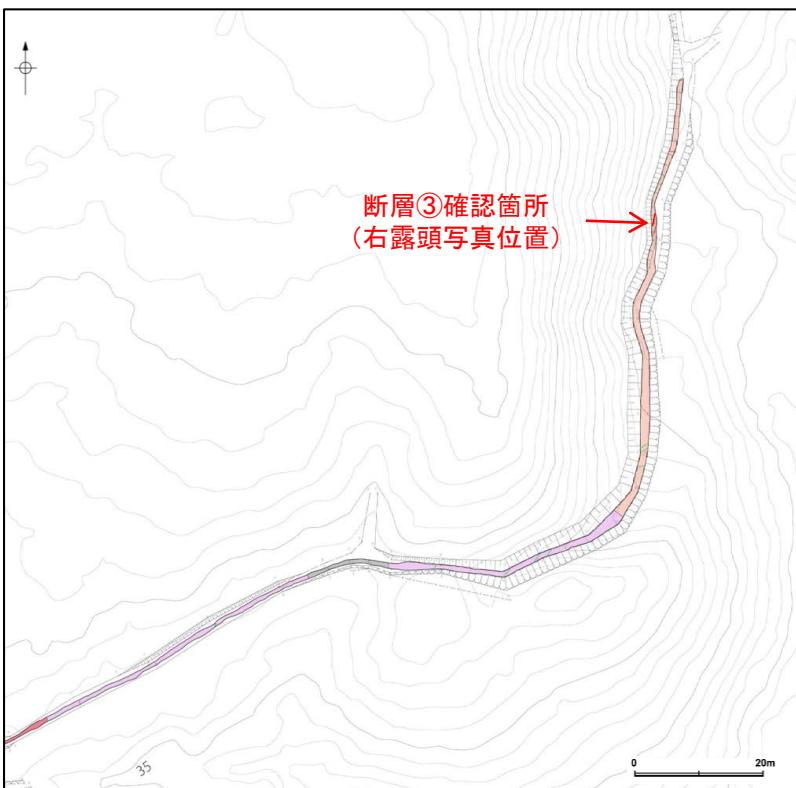
露頭写真



露頭スケッチ

凡例

別所岳安山岩類
火山礫凝灰岩
破碎部
主せん断面



ルートマップF(東部)位置図

火山礫凝灰岩
 変質して黄褐色を呈する基質に、暗灰、灰、赤褐色の安山岩亜角～亜円礫を含む。礫径は5～30cmである。基質、礫共にナイフで削ることができる程度に軟質であるが、礫の一部は岩芯を残す。

断層③
 走向傾斜は法面でN26E78SEであり、黄褐色の粘土を幅0～1.5cmで挟在する。白色の鉱物脈と交差し、交差部に変位は認められない。幅0～25cmの角礫状の破碎部を伴う。幅は中央で厚く、南北両端へ薄くなり尖滅する。特に白色鉱物脈との交差部の北側では最大幅に達する。しかし、交差部の南側では、白色脈に切られるように急激に薄くなる。内部の角礫は縁に沿って白色に変質する破碎部の内部に認められる不規則に波曲する節理に沿って、白色鉱物脈と同様の鉱物が幅1cmのレンズ状に認められることがある。
 本破碎部は、露頭の南側へ不明瞭となり、露頭内部で消失する。破碎部の内部に連続する平滑面や鏡肌、条線は認められない。



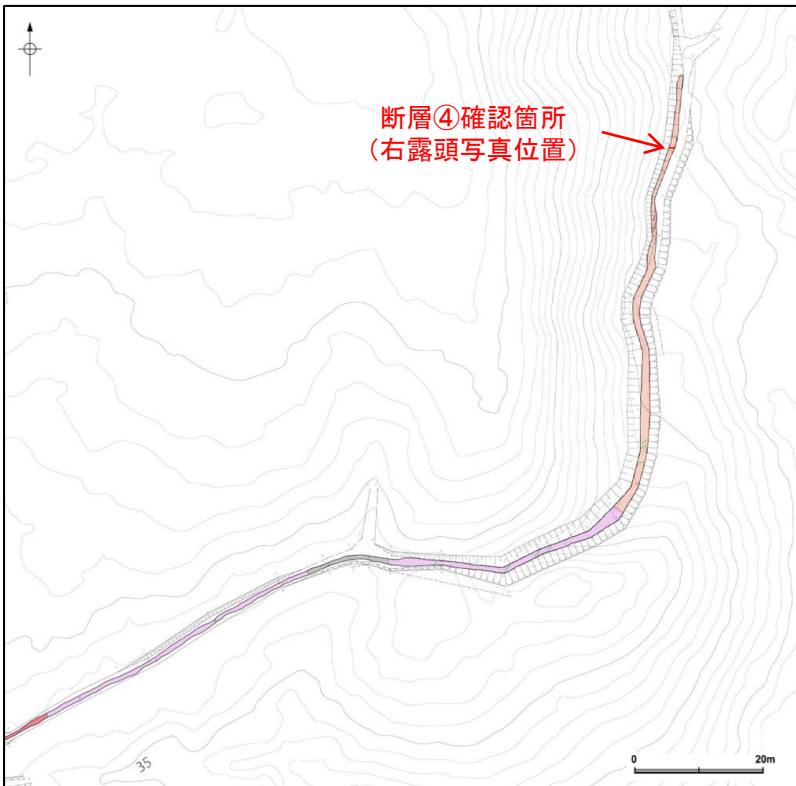
拡大写真(左:加筆なし, 右:解釈線加筆)

福浦断層(南端)

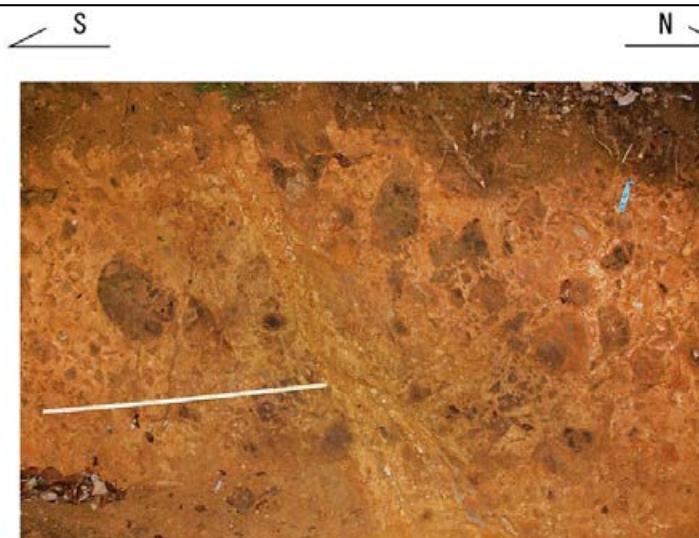
【ルートマップFで認められた断層④の詳細観察結果】

- ルートマップFにおいて、走向・傾斜がN86° E/88° SEの断層④が認められる。
- 断層④は、走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから、福浦断層に対応する断層ではないと判断した。
- また、断層④の周囲の地形面に変位・変形は認められず、さらに本断層の西方延長の反射法地震探査(D測線)において深部へ連続する断層は認められないことから、断層④は連続性に乏しく、震源として考慮する活断層ではないと判断した。

紫字: 第1168回審査会合以降の追記箇所

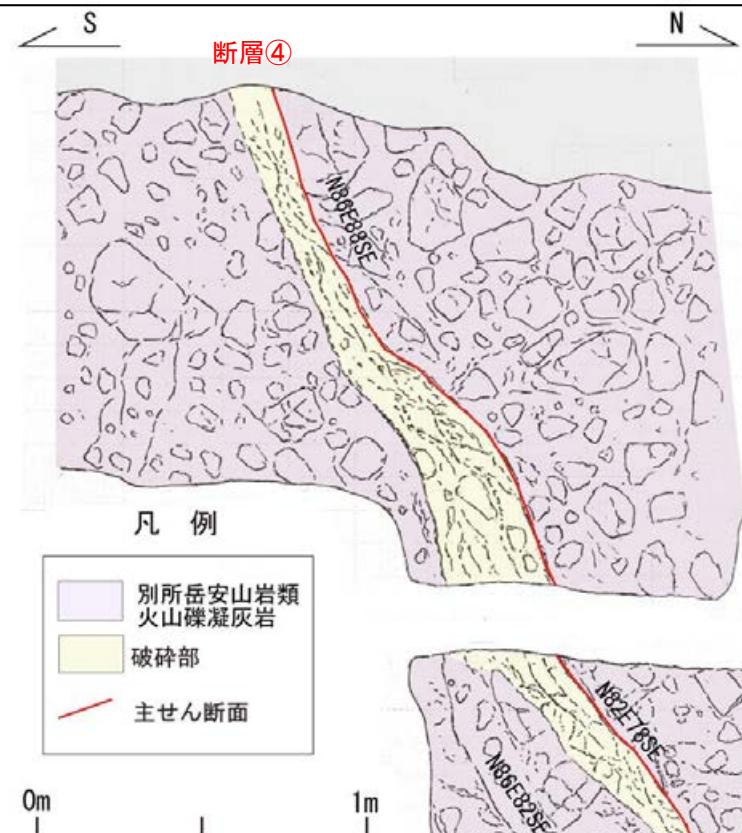


ルートマップF(東部)位置図



下拡大写真範囲

露頭写真

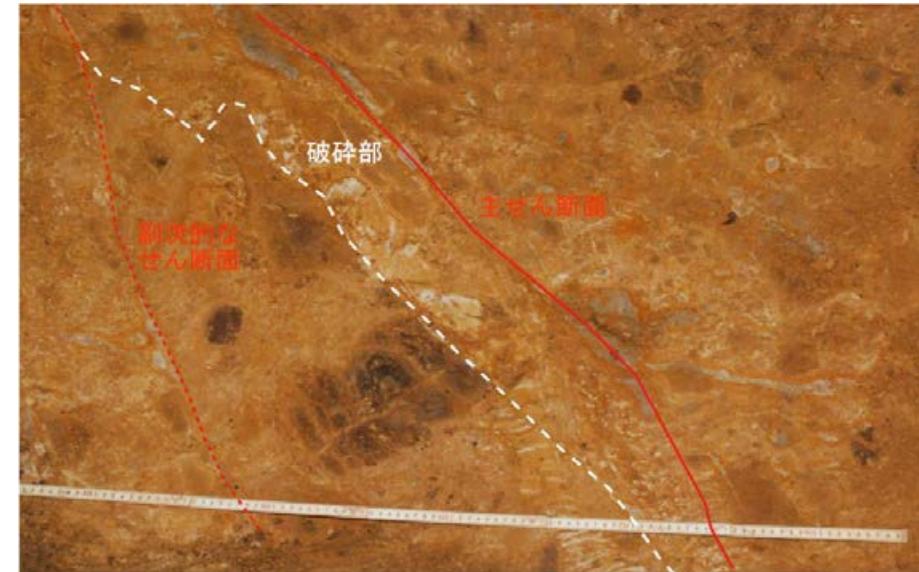
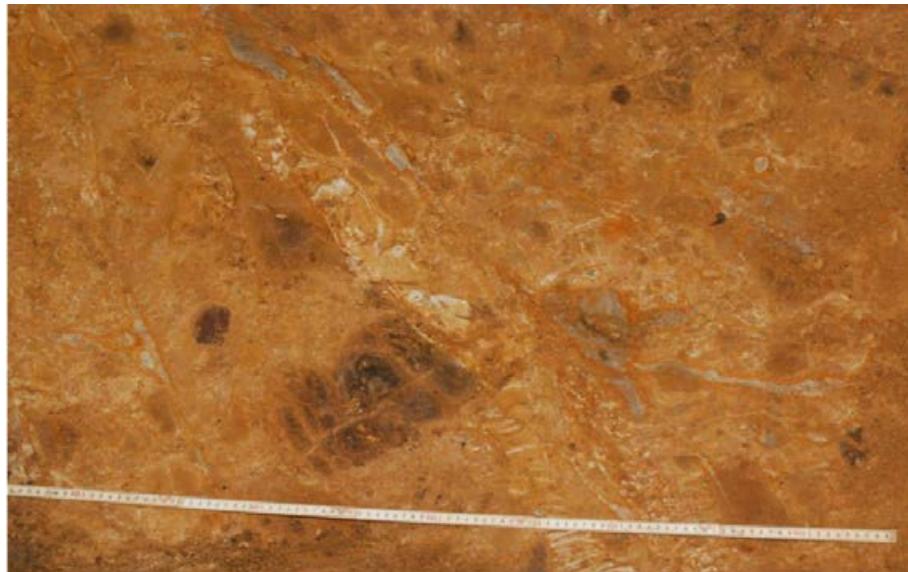


凡例

露頭スケッチ

火山礫凝灰岩
 変質して黄褐色を呈する基質に、暗灰、灰、赤褐色の安山岩
 亜角～亜円礫を含む。礫径は5～20cmである。基質、礫共にナイ
 フで削ることができる程度に軟質であるが、礫の一部は岩芯を
 残す。

断層④
 走向傾斜は法面でN86E88SEで、底盤でN82E78SEの走向傾斜を示す。
 法面の下部から底盤で副次的なせん断面が分岐し、N86E82SEの走向傾
 斜を示す。破碎部は断片化した白色鉱物を含み、それらの断片は破碎
 部の延長方向に配列する傾向がある。破碎部の幅は法面の上部で10
 cm、下部で30cmである。底盤では北側にのみ破碎部を伴い、西方に向
 かって幅5cmへ収縮する。破碎部の上盤側には、断続的に平滑面や灰色
 の粘土を幅1cm程度で伴う。粘土を縁取るように褐色を帯びる。
 破碎部の内部に連続する平滑面や鏡肌、条線は認められない。



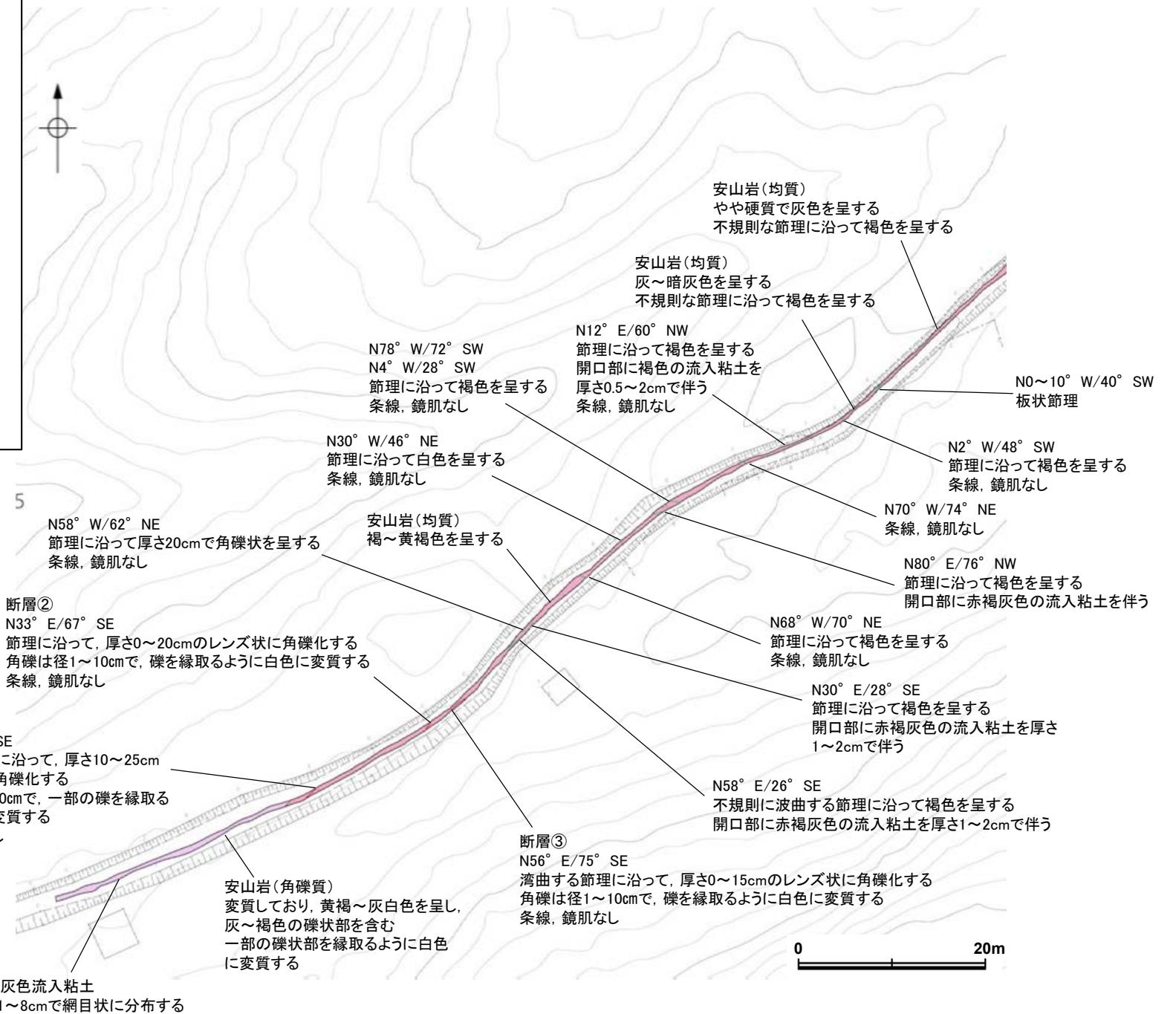
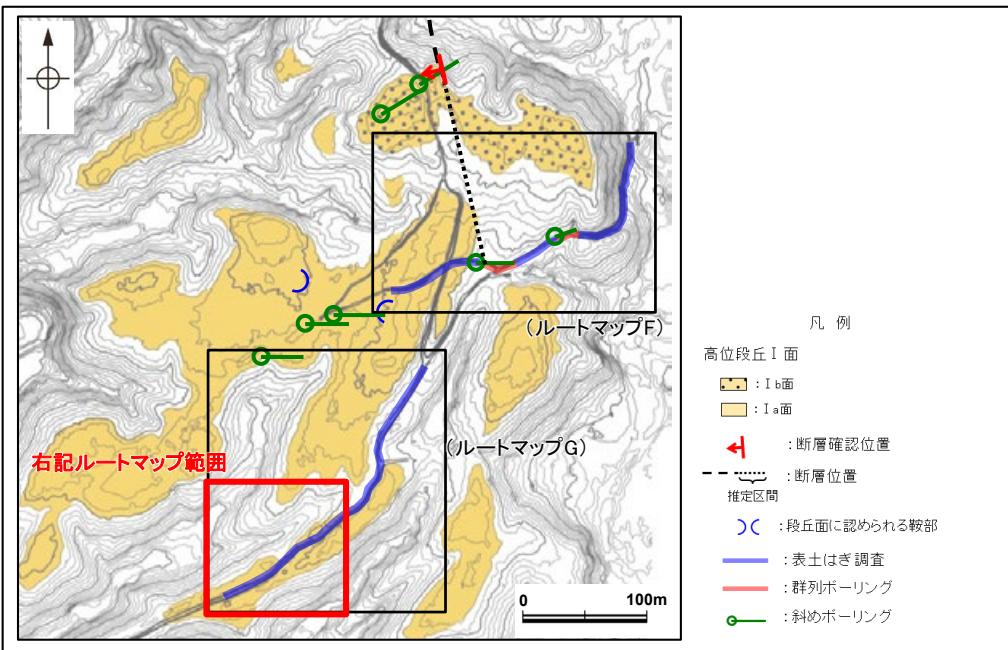
拡大写真(左:加筆なし, 右:解釈線加筆)

福浦断層(南端)

【表土はぎ調査(ルートマップG)1/2】

- ルートマップGにおいて表土はぎ調査を実施した結果、別所岳安山岩類の安山岩(均質)、安山岩(角礫質)、火山礫凝灰岩が分布し、断層が5箇所(本頁、次頁)で認められる。
- これらの断層は、いずれも走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから、福浦断層に対応する断層ではないと判断した。
- また、これらの断層は地形調査、地質調査(表土はぎ調査)及び反射法地震探査の結果を踏まえると、水平方向や深部方向への連続性に乏しく、震源として考慮する活断層ではないと判断した。

紫字: 第1168回審査会合以降の追記箇所

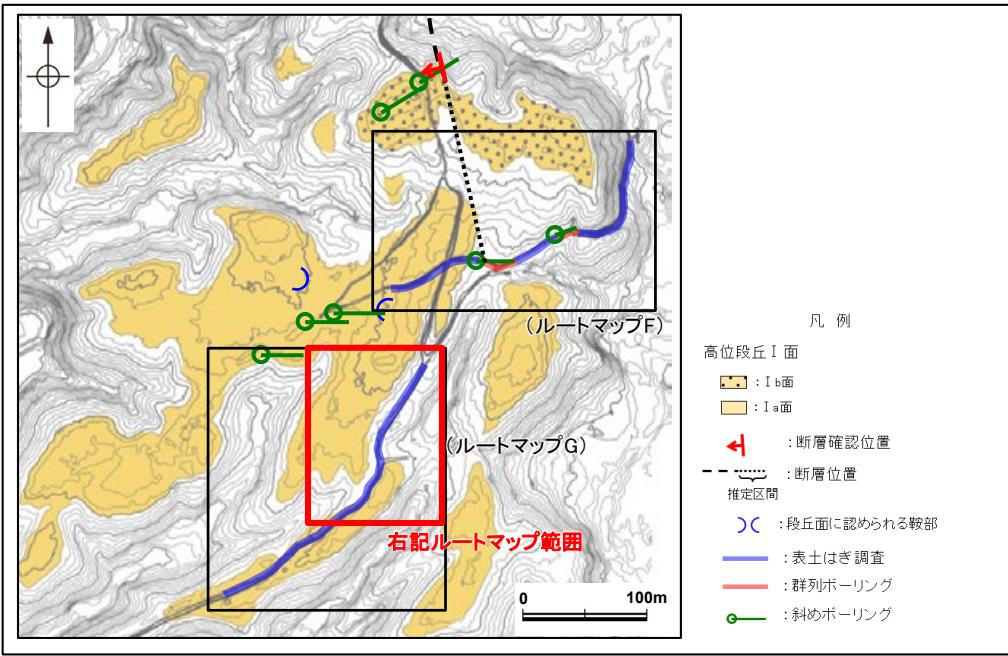


- 凡例
- 盛土、崩土
 - 土壌
 - 別所岳安山岩類 安山岩(均質)
 - 別所岳安山岩類 安山岩(角礫質)
 - 別所岳安山岩類 火山礫凝灰岩
 - 節理
 - 断層
 - 岩相境界

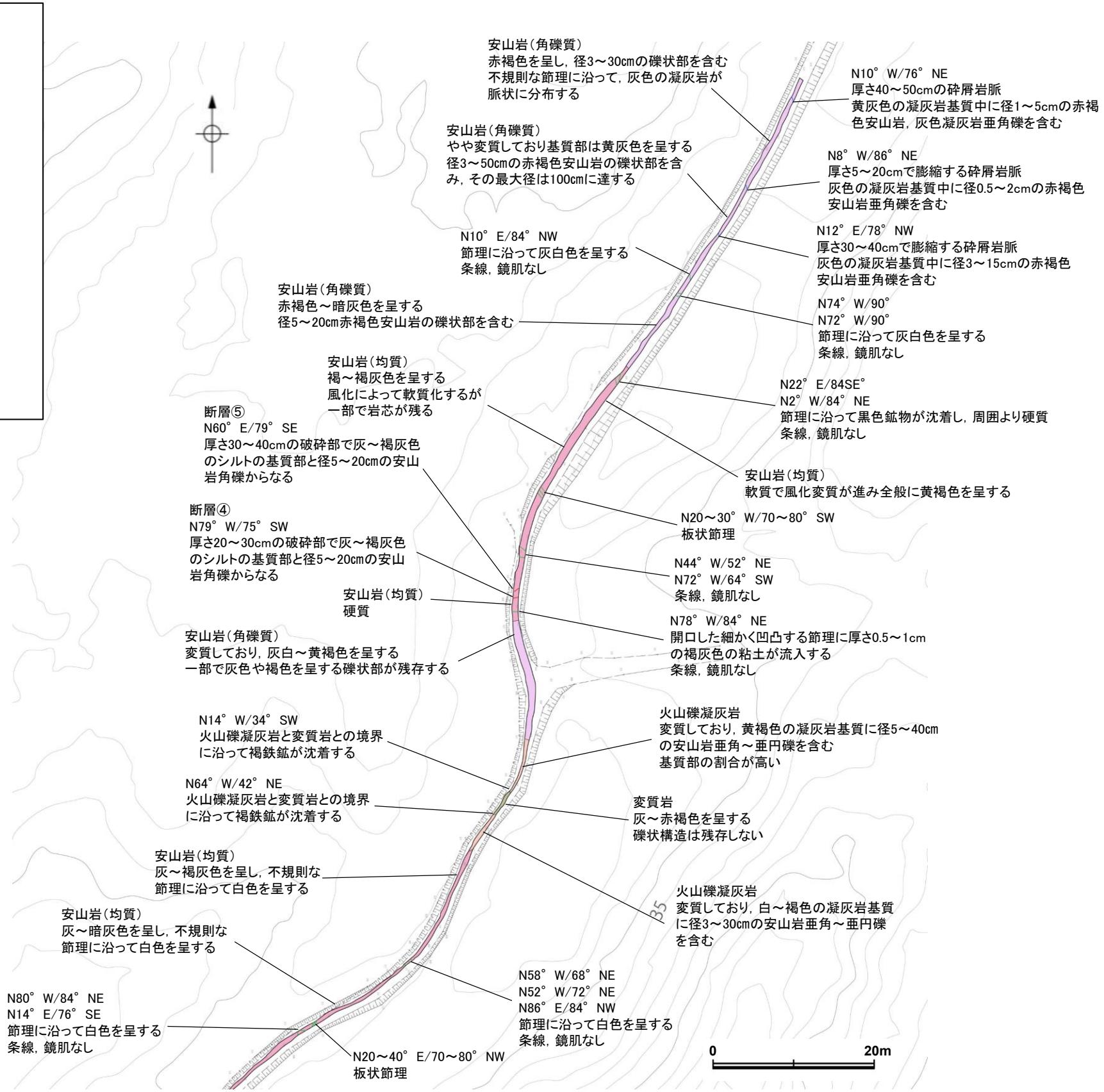
表土はぎ調査結果(ルートマップG(南西部))

福浦断層(南端)

【表土はぎ調査(ルートマップG)2/2】



表土はぎ調査 位置図



・ルートマップGにおいて、表土はぎ調査を実施した結果、福浦断層に対応する断層は認められない。

表土はぎ調査結果(ルートマップG(北東部))

福浦断層(南端)

【ルートマップGで認められた断層①の詳細観察結果】

- ルートマップGにおいて、走向・傾斜がN53° E/72° SEの断層①が認められる。
- 断層①は、走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから、福浦断層に対応する断層ではないと判断した。
- また、断層①の周囲の地形面に変位・変形は認められず、さらに本断層の南西方延長の反射法地震探査(F測線)において深部へ連続する断層は認められないことから、断層①は連続性に乏しく、震源として考慮する活断層ではないと判断した。

紫字:第1168回審査会合以降の追記箇所



ルートマップG(南西部)位置図



露頭写真



断層①
露頭スケッチ

凡例

別所岳安山岩類 安山岩(均質)
破碎部



拡大写真(左:加筆なし, 右:解釈線加筆)

安山岩(均質)
灰色～褐灰色を呈する。風化を受けており、ナイフで削ることができる程度に軟質である。一部で岩芯が残り硬質である。全体に10～30cmの間隔で節理が認められる。節理には褐鉄鉱が沈着し、しばしば節理に沿って白色に変質する。

破碎部
走向傾斜がN53E72SEからN65E61SEに湾曲する節理の北西側に幅10～25cmの破碎部が認められる。破碎部の南東側の縁は湾曲する節理と一致するが、破碎部は西側へ不規則に広がっている。

破碎部は、灰～褐灰色シルトの基質と灰色を呈する安山岩角礫からなる。安山岩角礫は径1～10cmで、その縁が白色に変質していることがある。破碎部は礫も含めてナイフで削ることができる程度に軟質である。内部には褐鉄鉱の沈着が認められ、南東側では湾曲する節理に沿って帯状に沈着する。破碎部の内部に鏡肌や糸線を伴うせん断面を示唆するような面構造は認められない。

福浦断層(南端)

【ルートマップGで認められた断層②, ③の詳細観察結果】

- ルートマップGにおいて, 走向・傾斜がN33° E/67° SEの断層②とN56° E/75° SEの断層③が認められる。
- 断層②, ③は, 走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから, 福浦断層に対応する断層ではないと判断した。
- また, 断層②, ③の周囲の地形面に変位・変形は認められず, 本断層の南西方延長の反射法地震探査(F測線)において深部へ連続する断層は認められないこと, さらに断層②は北東方延長のルートマップF区間, 断層③は北東方延長のルートマップG区間において対応する断層は認められないことから, これらは連続性に乏しく, 震源として考慮する活断層ではないと判断した。

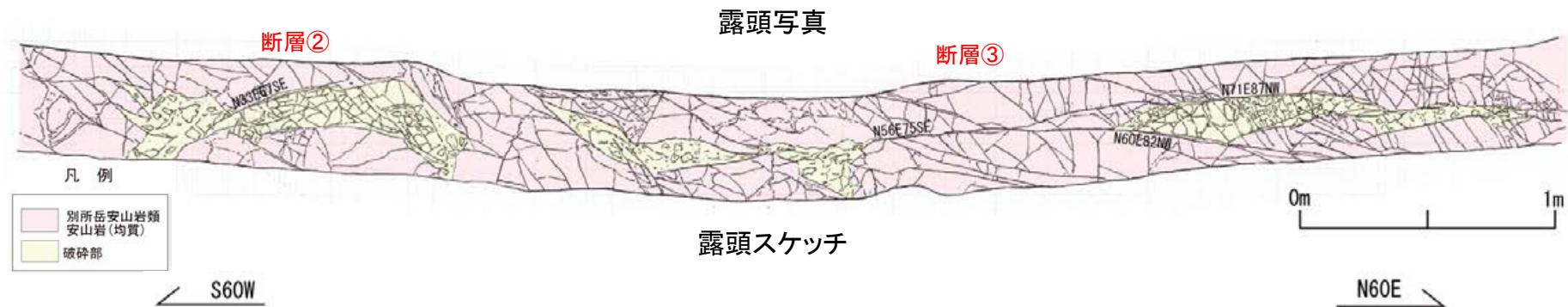
紫字: 第1168回審査会合以降の追記箇所



ルートマップG(南西部)位置図



下拡大写真範囲



露头写真

露头スケッチ



S60W

N60E



拡大写真(上:加筆なし, 下:解釈線加筆)

安山岩(均質)
 褐灰～褐色を呈する。風化を受けており, ナイフで削ることができる程度に軟質である。一部で岩芯が残り硬質である。全体に10～30cmの間隔で節理が認められる。節理には褐鉄鉱が沈着し, 開口部には黄灰色の流入粘土が認められる。

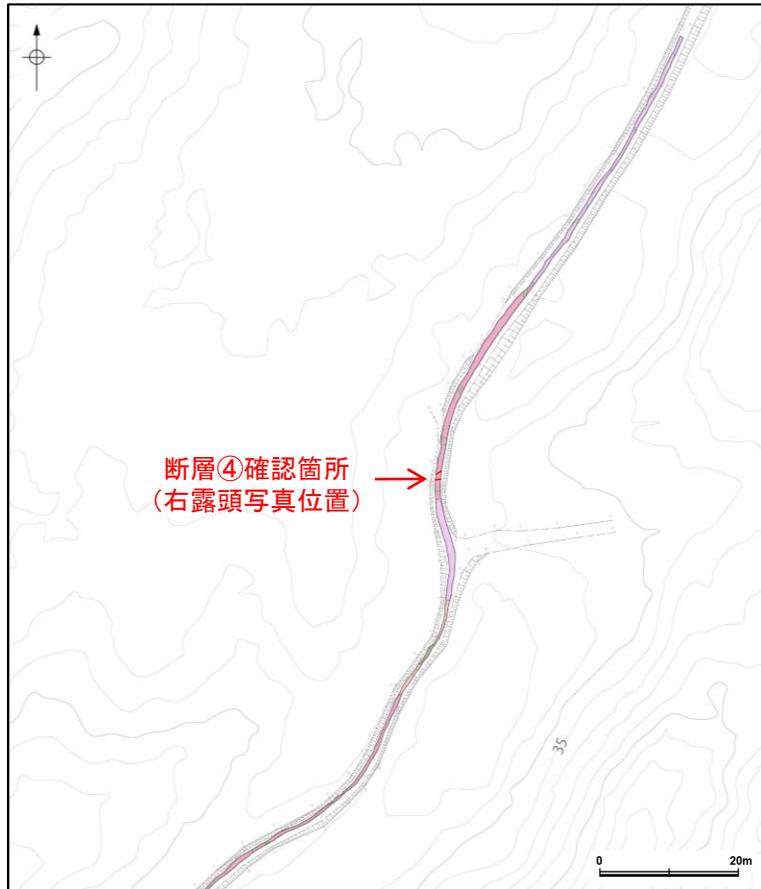
断層②, ③
 走向がN30～60Eの複数の節理に沿って, 断続的に破碎部が認められる。破碎部の形状は幅0～20cmのレンズ状～不定形である。
 破碎部は, 灰～黄灰色シルトの基質と灰～褐色を呈する安山岩角礫からなる。安山岩角礫は径1～10cmで, 破碎部は礫も含めてナイフで削ることができる程度に軟質である。安山岩角礫の割合が高い部分では, 角礫はモザイク状に組み合わせり, 角礫の縁に沿って白色に変質する。
 破碎部の内部に鏡肌や条線を伴うせん断面を示唆するような面構造は認められない。

福浦断層(南端)

【ルートマップGで認められた断層④の詳細観察結果】

- ルートマップGにおいて、走向・傾斜がN79° W/75° SWの断層④が認められる。
- 断層④は、走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから、福浦断層に対応する断層ではないと判断した。
- また、断層④の周囲の地形面に変位・変形は認められず、さらに本断層の東方延長の反射法地震探査(E測線)において深部へ連続する断層は認められないことから、断層④は連続性に乏しく、震源として考慮する活断層ではないと判断した。

紫字: 第1168回審査会合以降の追記箇所

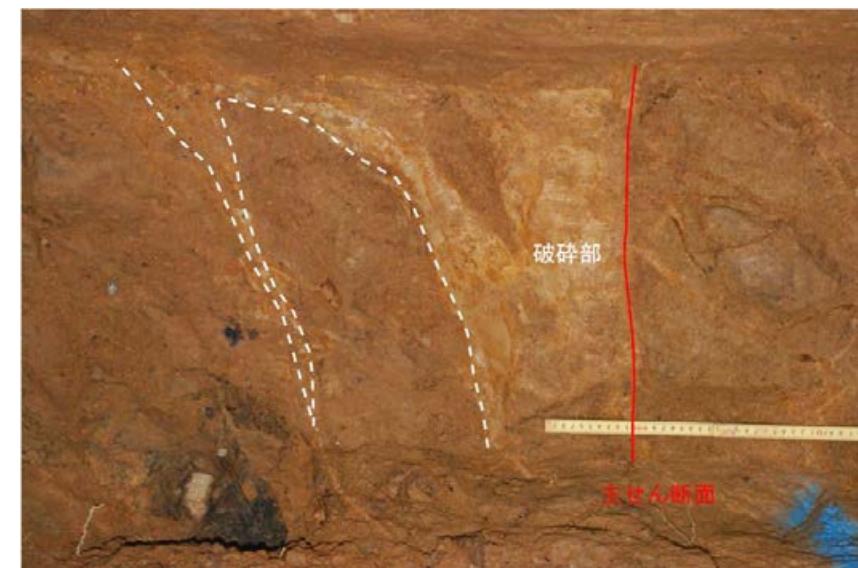
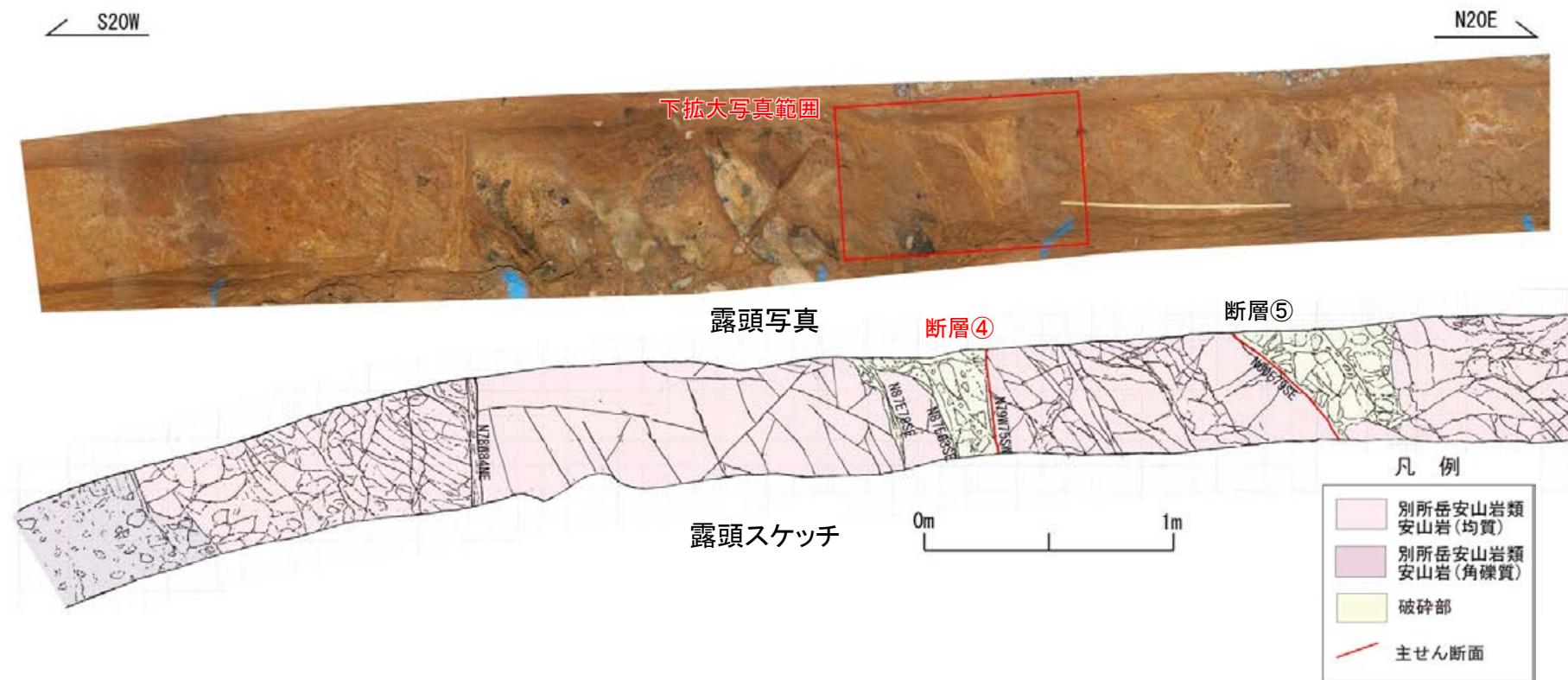


ルートマップG(北東部)位置図

安山岩(均質)
灰色～褐灰色を呈する。風化を受けており、ナイフで削ることができる程度に軟質である。全体に10～30cmの間隔で割目が認められる。割目には褐鉄鉱が沈着する。スケッチ区間の中央部では、硬質な安山岩が分布し、ハンマーの軽打で金属～半濁音を発する。硬質な安山岩には、20～50cmの間隔で割目が認められる。

安山岩(角礫質)
スケッチ区間の南西端に分布し、黄褐色を呈する。風化や変質を受けており、ナイフで容易に削れる程度に軟質化している。

断層④
走向・傾斜はN79W75SWであり、上盤側に幅20～30cmの破碎部が認められる。破碎部は、灰～褐灰色シルトの基質と灰色を呈する安山岩角礫からなる。安山岩角礫は径5～20cmである。破碎部は礫も含めてナイフで削ることができる程度に軟質である。破碎部の両端の節理に平滑面や鏡肌、条線は認められない。



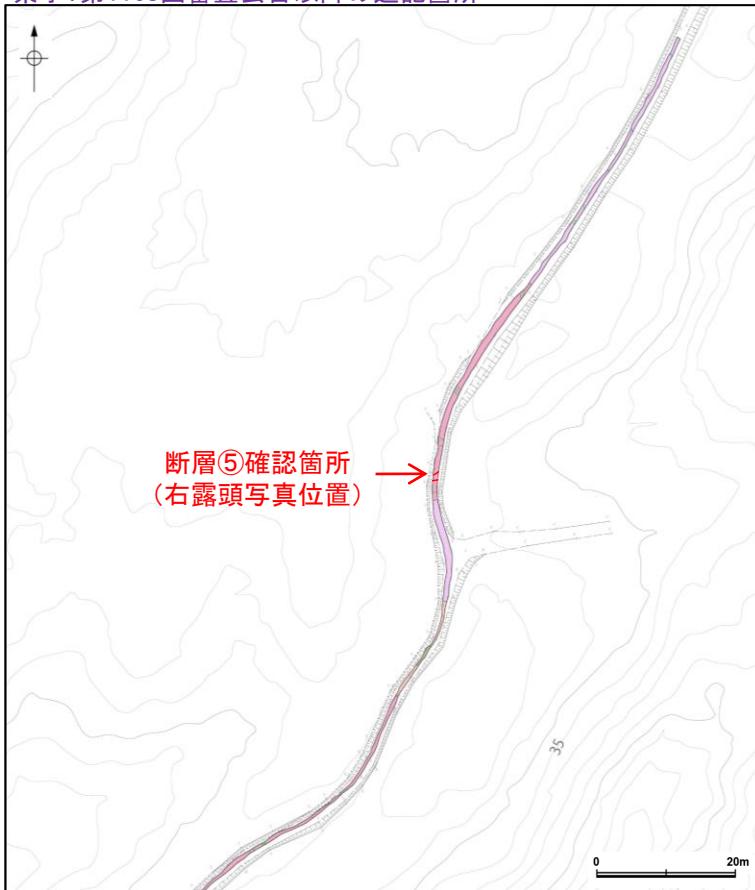
拡大写真(左:加筆なし, 右:解釈線加筆)

福浦断層(南端)

【ルートマップGで認められた断層⑤の詳細観察結果】

- ルートマップGにおいて、走向・傾斜がN60° E/79° SEの断層⑤が認められる。
- 断層⑤は、走向・傾斜が福浦断層(NS/70° W)と異なることから、福浦断層に対応する断層ではないと判断した。
- また、断層⑤の周囲の地形面に変位・変形は認められず、さらに本断層の南西方延長の反射法地震探査(F測線)において深部へ連続する断層は認められないことから、断層⑤は連続性に乏しく、震源として考慮する活断層ではないと判断した。

紫字: 第1168回審査会合以降の追記箇所

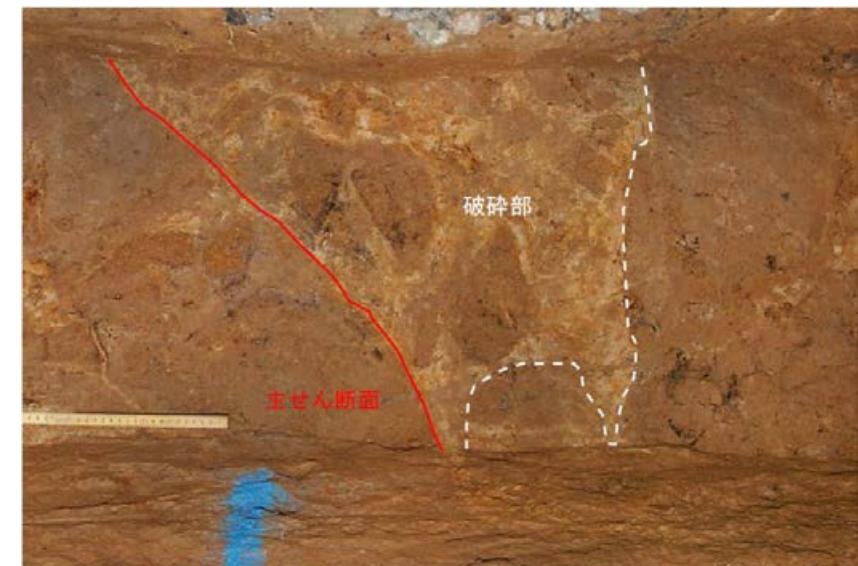
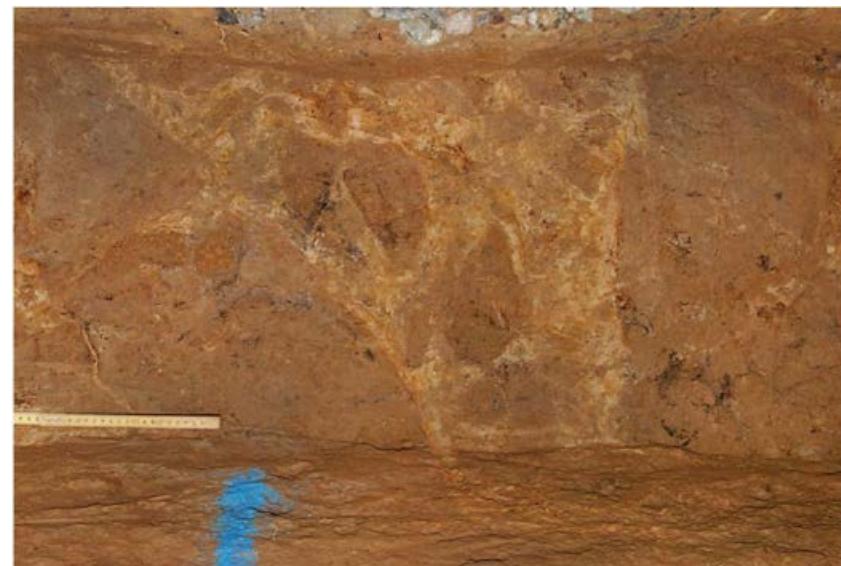
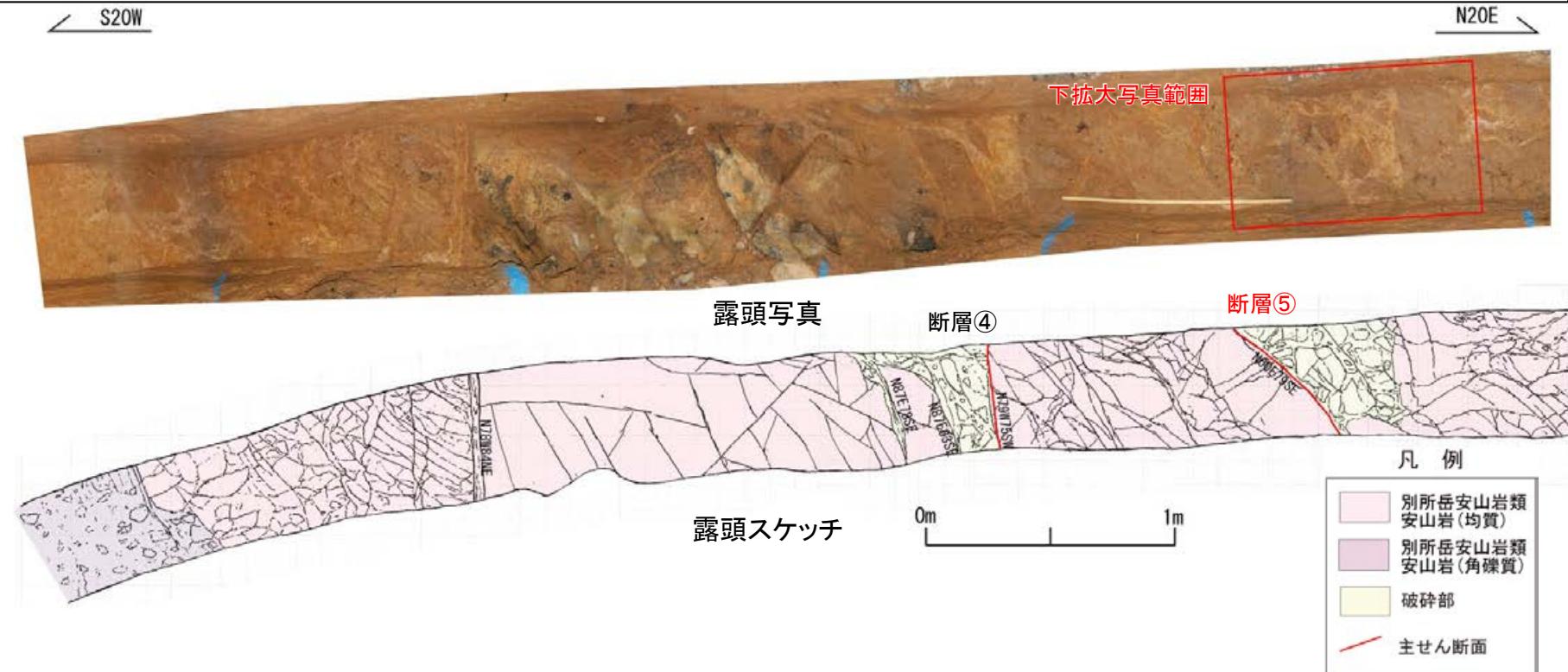


ルートマップG(北東部)位置図

安山岩(均質)
灰色～褐灰色を呈する。風化を受けており、ナイフで削ることができる程度に軟質である。全体に10～30cmの間隔で割目が認められる。割目には褐鉄鉱が沈着する。スケッチ区間の中央部では、硬質な安山岩が分布し、ハンマーの軽打で金属～半濁音を発する。硬質な安山岩には、20～50cmの間隔で割目が認められる。

安山岩(角礫質)
スケッチ区間の南西端に分布し、黄褐色を呈する。風化や変質を受けており、ナイフで容易に削れる程度に軟質化している。

断層⑤
走向傾斜はN60E79SEであり、下盤側に幅30～40cmの破碎部が認められる。破碎部は、灰～褐灰色シルトの基質と灰色を呈する安山岩角礫からなる。安山岩角礫は径5～20cmである。破碎部は礫も含めてナイフで削ることができる程度に軟質である。破碎部の両端の節理に平滑面や鏡肌、条線は認められない。

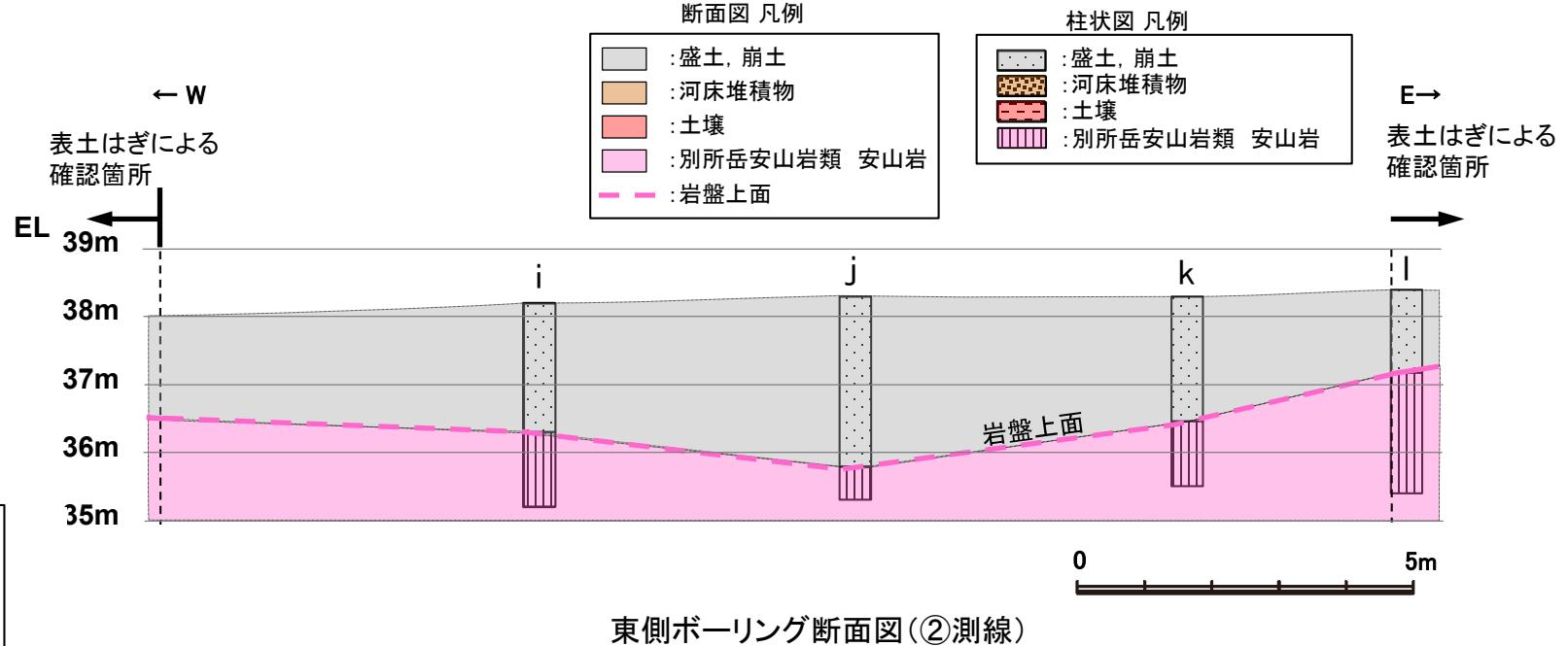
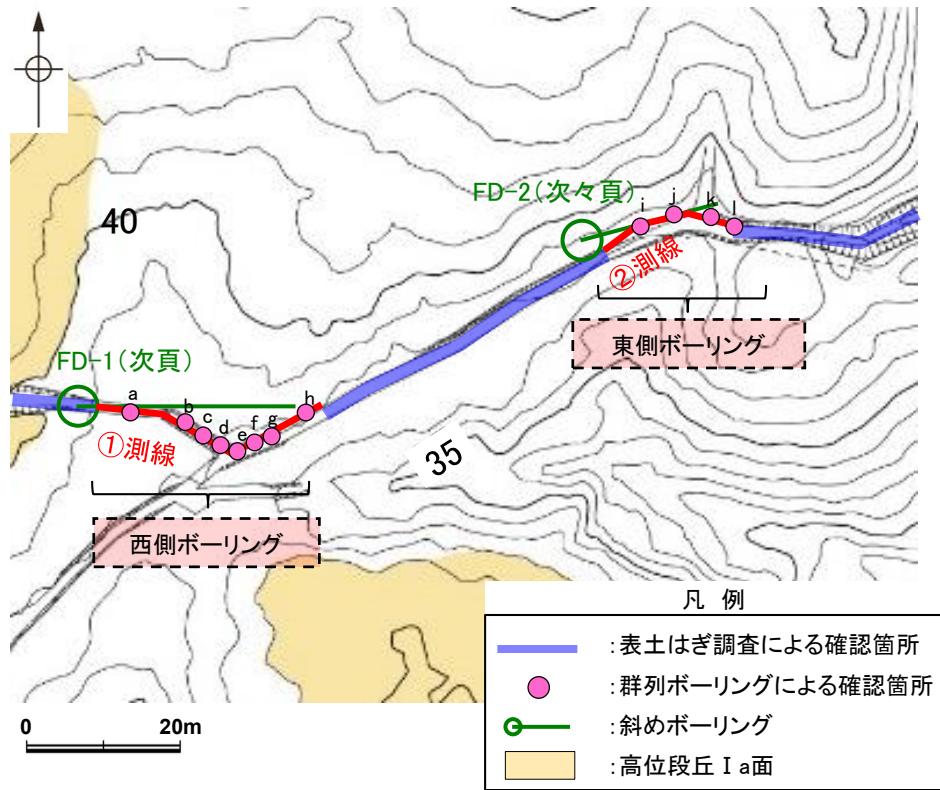


拡大写真(左:加筆なし, 右: 解釈線加筆)

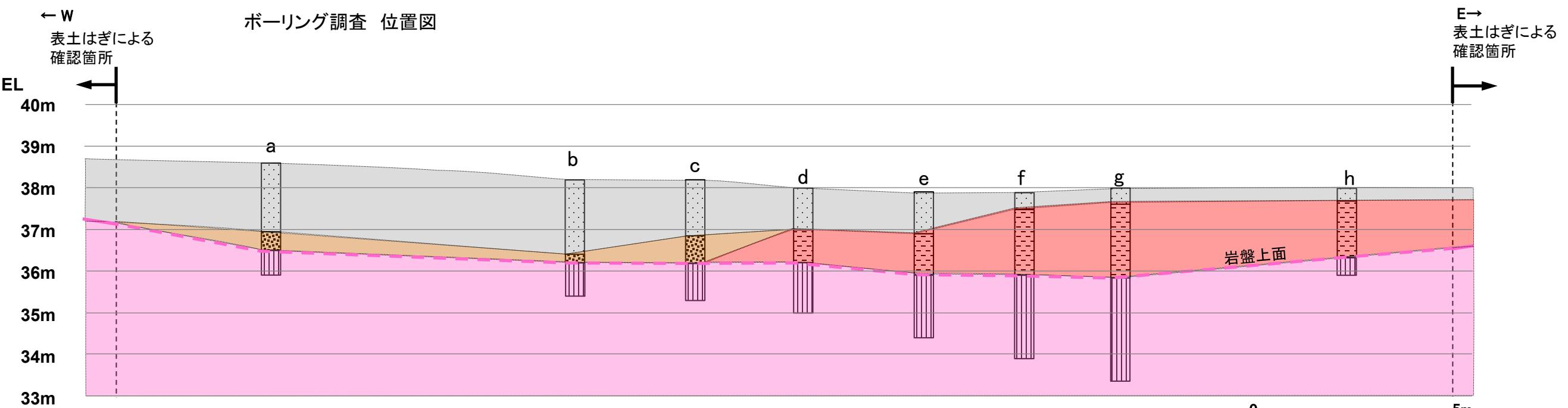
福浦断層(南端)

【群列ボーリング調査】

・群列ボーリング(①測線・②測線)の結果, 岩盤上面はEL36~37m付近で, ほぼ水平である。



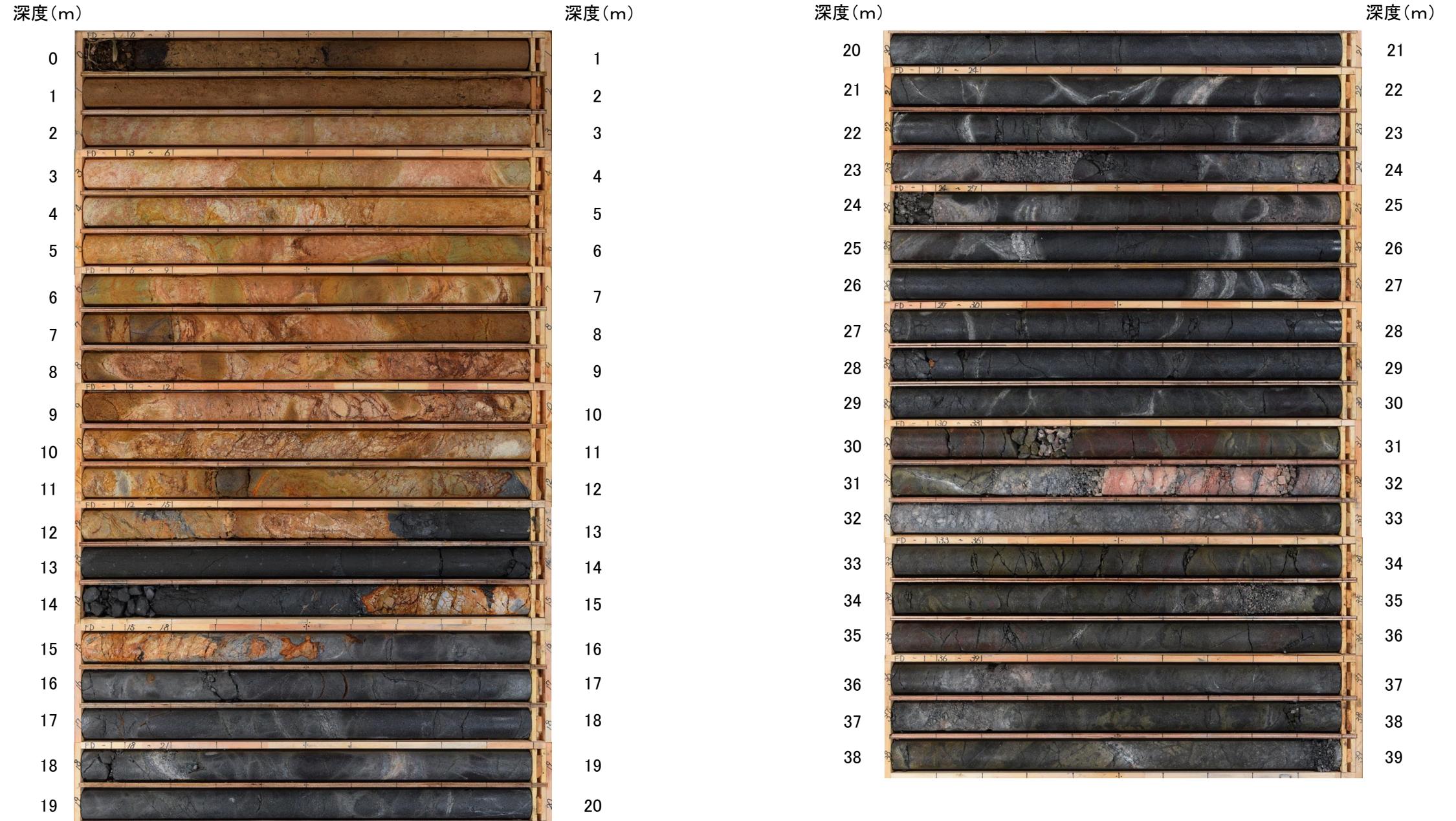
東側ボーリング断面図(②測線)



西側ボーリング断面図(①測線)

【福浦断層が認められないボーリング孔(FD-1孔)】

FD-1孔(孔口標高38.94m, 掘進長39m, 傾斜45°)

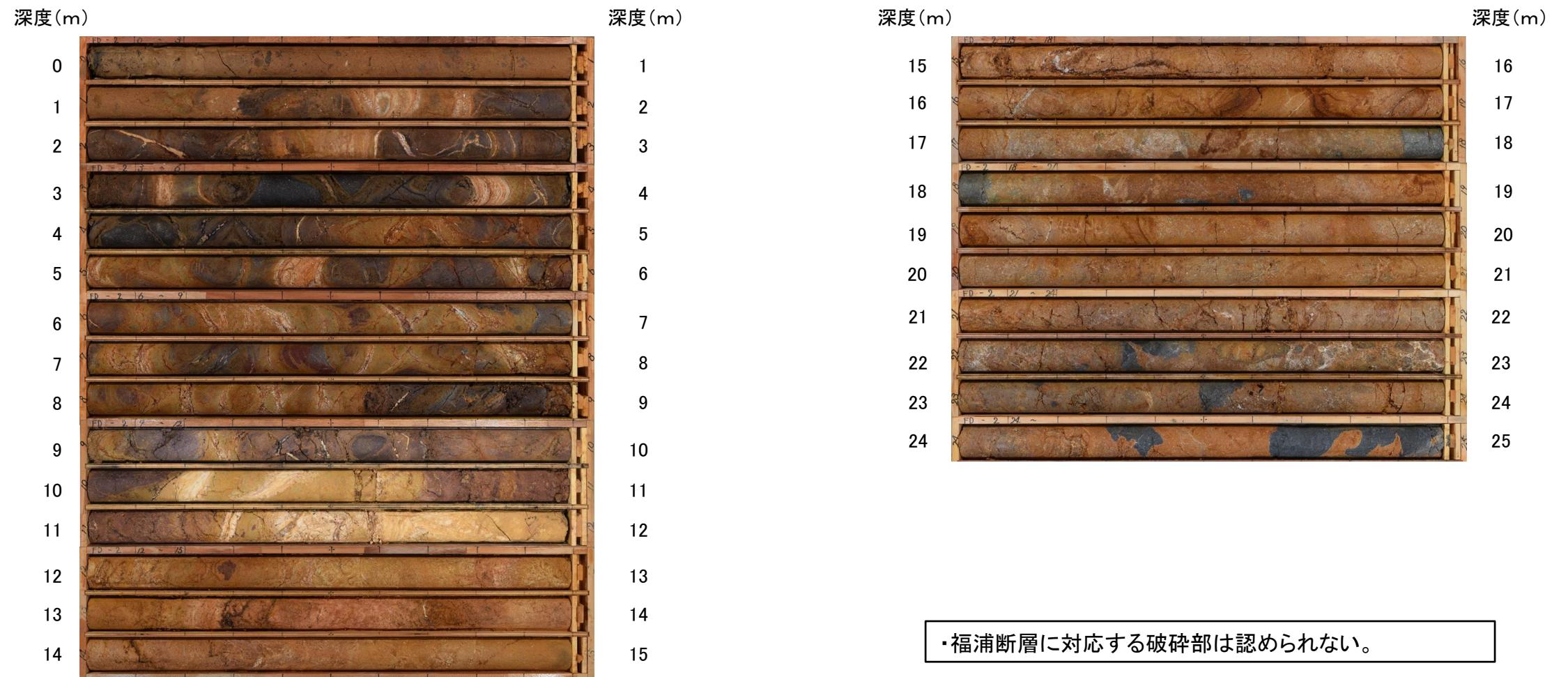


コア写真(深度0~39m)

・福浦断層に対応する破碎部は認められない。

【福浦断層が認められないボーリング孔(FD-2孔)】

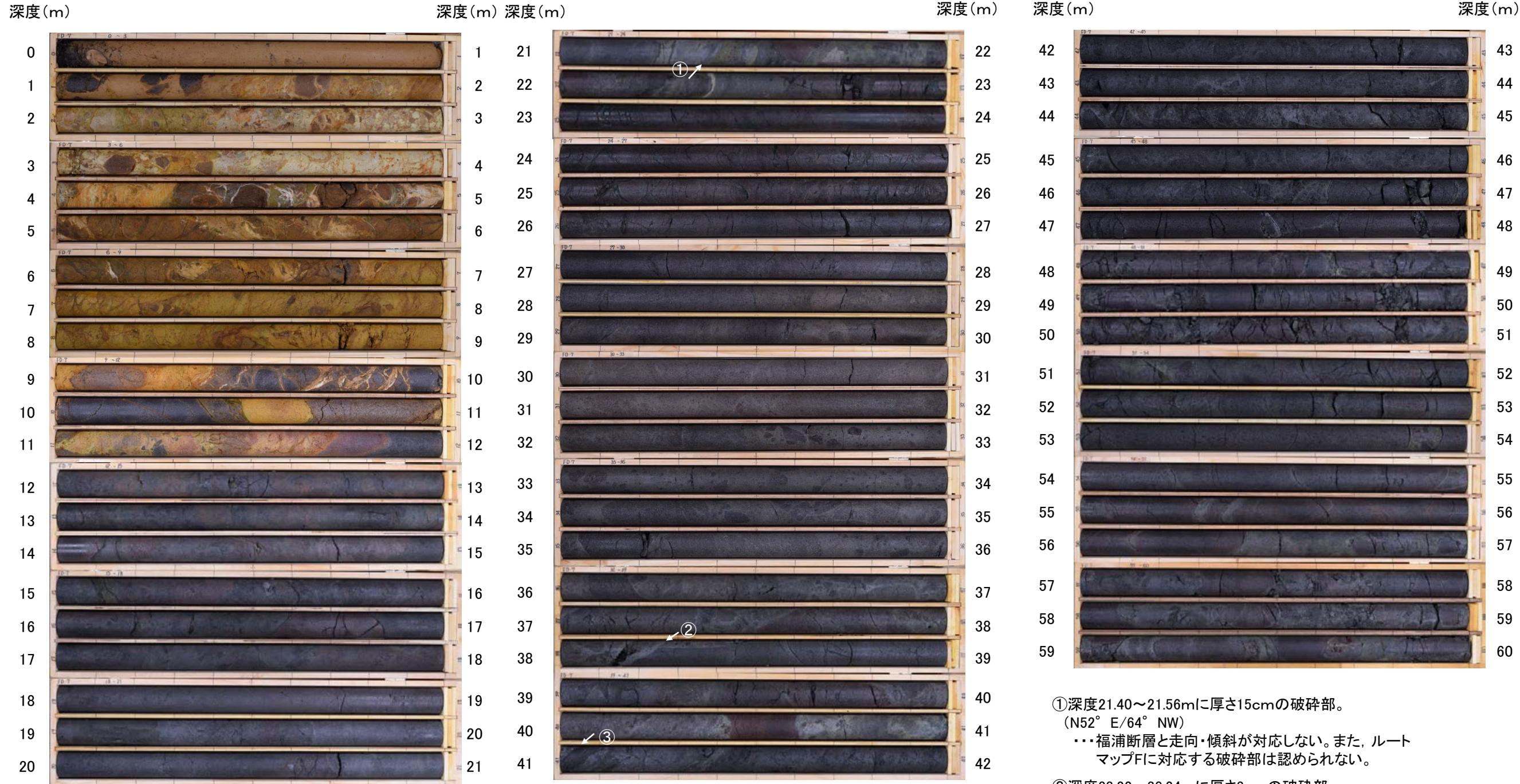
FD-2孔(孔口標高38.41m, 掘進長25m, 傾斜45°)



コア写真(深度0~25m)

【福浦断層が認められないボーリング孔(FD-7孔)】

FD-7孔(孔口標高39.03m, 掘進長60m, 傾斜45°)



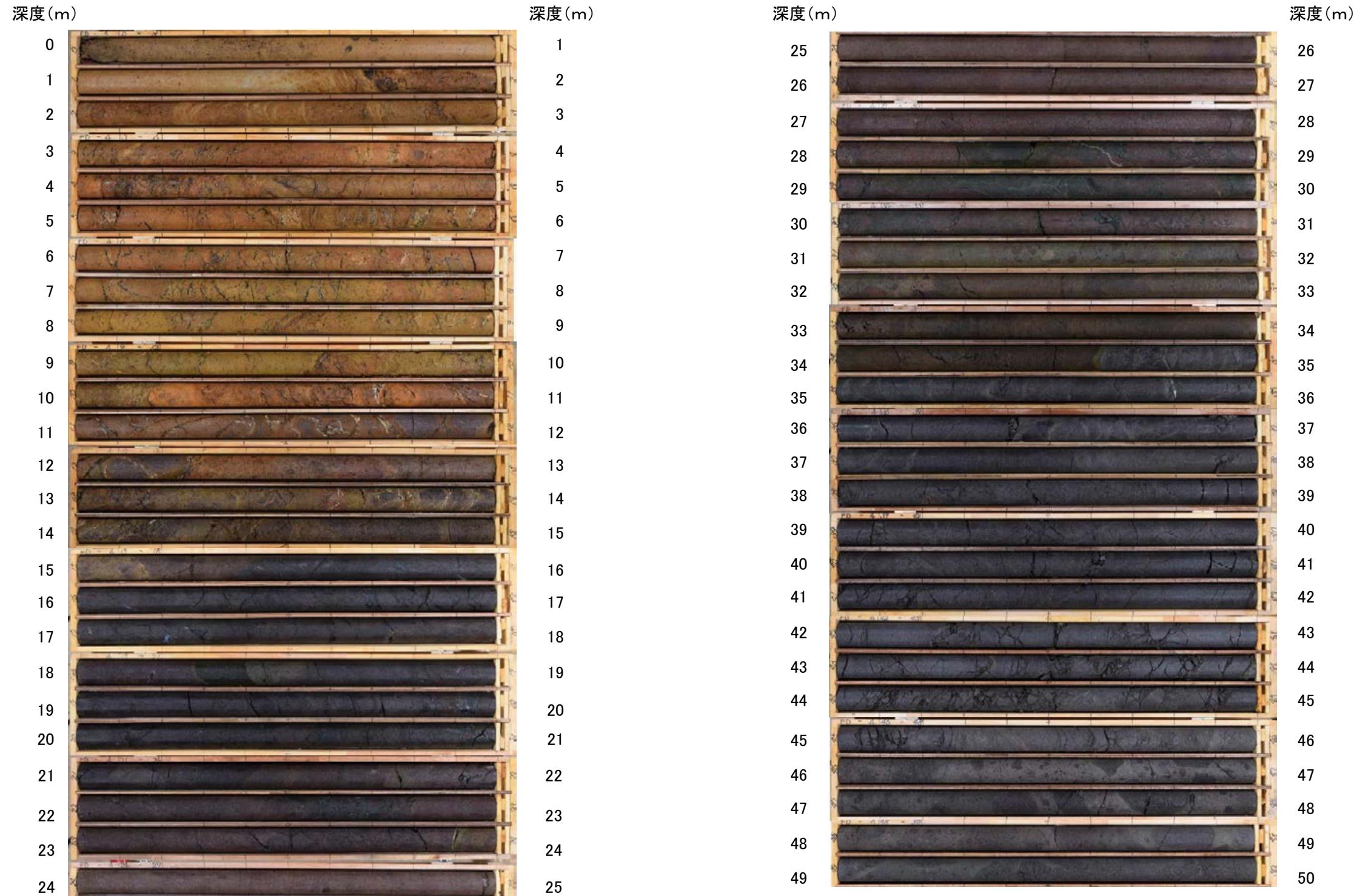
・福浦断層に対応する破碎部は認められない。

コア写真(深度0~60m)

- ①深度21.40~21.56mに厚さ15cmの破碎部。
(N52° E/64° NW)
・・・福浦断層と走向・傾斜が対応しない。また、ルートマップFに対応する破碎部は認められない。
- ②深度38.22~38.24mに厚さ3cmの破碎部。
(N83° E/29° NW)
・・・福浦断層と走向・傾斜が対応しない。また、隣接孔(FD-4)の想定延長位置(深度35.2m付近)に連続しない。
- ③深度41.02~41.39mに厚さ30cmの破碎部。
(N50° E/77° NW)
・・・福浦断層と走向・傾斜が対応しない。また、ルートマップFに対応する破碎部は認められない。

【福浦断層が認められないボーリング孔(FD-4孔)】

FD-4孔(孔口標高38.91m, 掘進長50m, 傾斜45°)



コア写真(深度0~50m)

・福浦断層に対応する破碎部は認められない。

【福浦断層が認められないボーリング孔(FD-5孔)】

FD-5孔(孔口標高37.18m, 掘進長50m, 傾斜45°)



①深度37.50~37.61mに厚さ6.5~7.0cmの破碎部。
(N44° E/68° NW)
...福浦断層と走向・傾斜が対応しない。また、隣接孔
(FD-4孔)の想定延長位置(深度25.8m付近)に連続しない(前頁)。

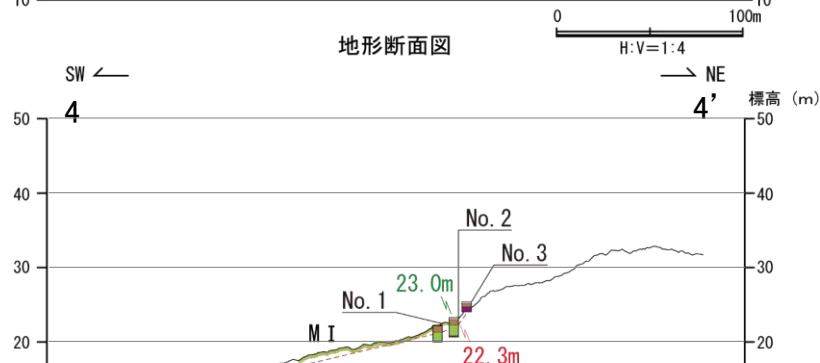
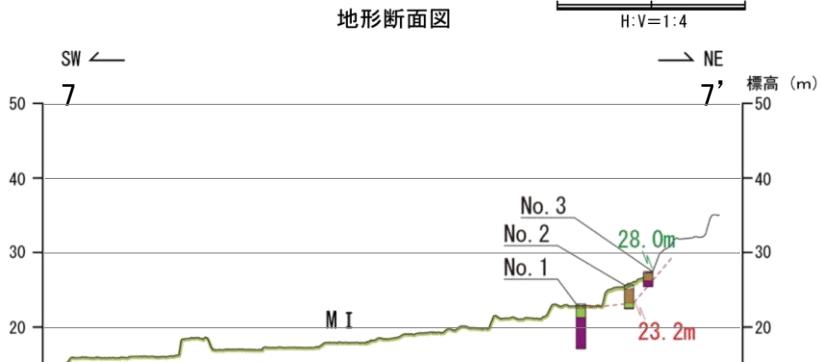
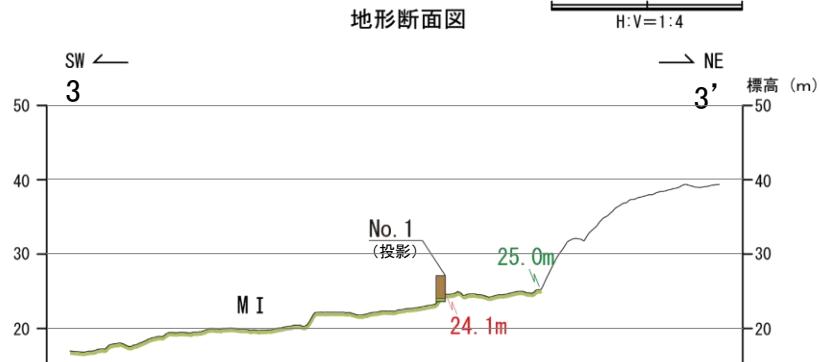
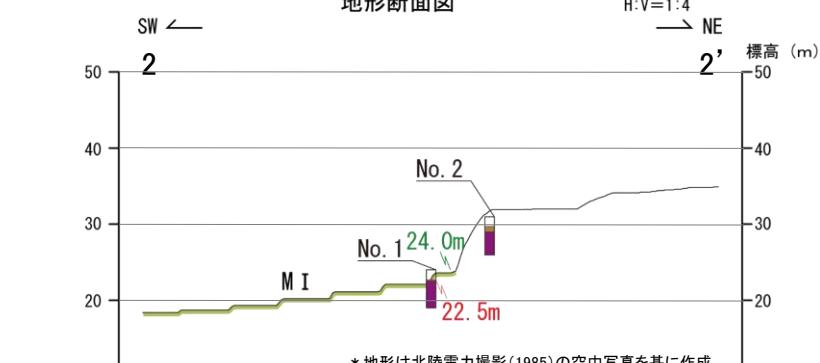
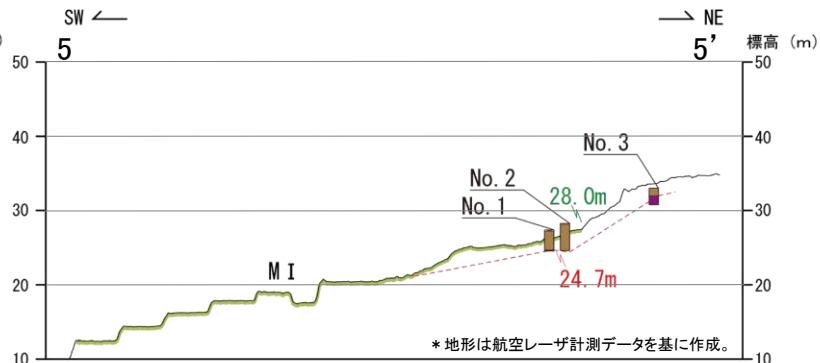
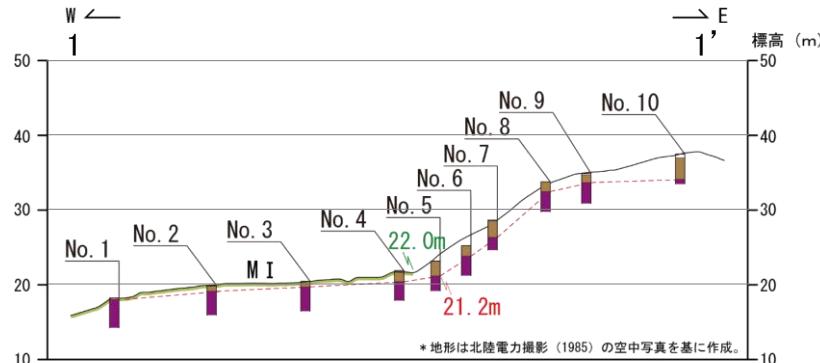
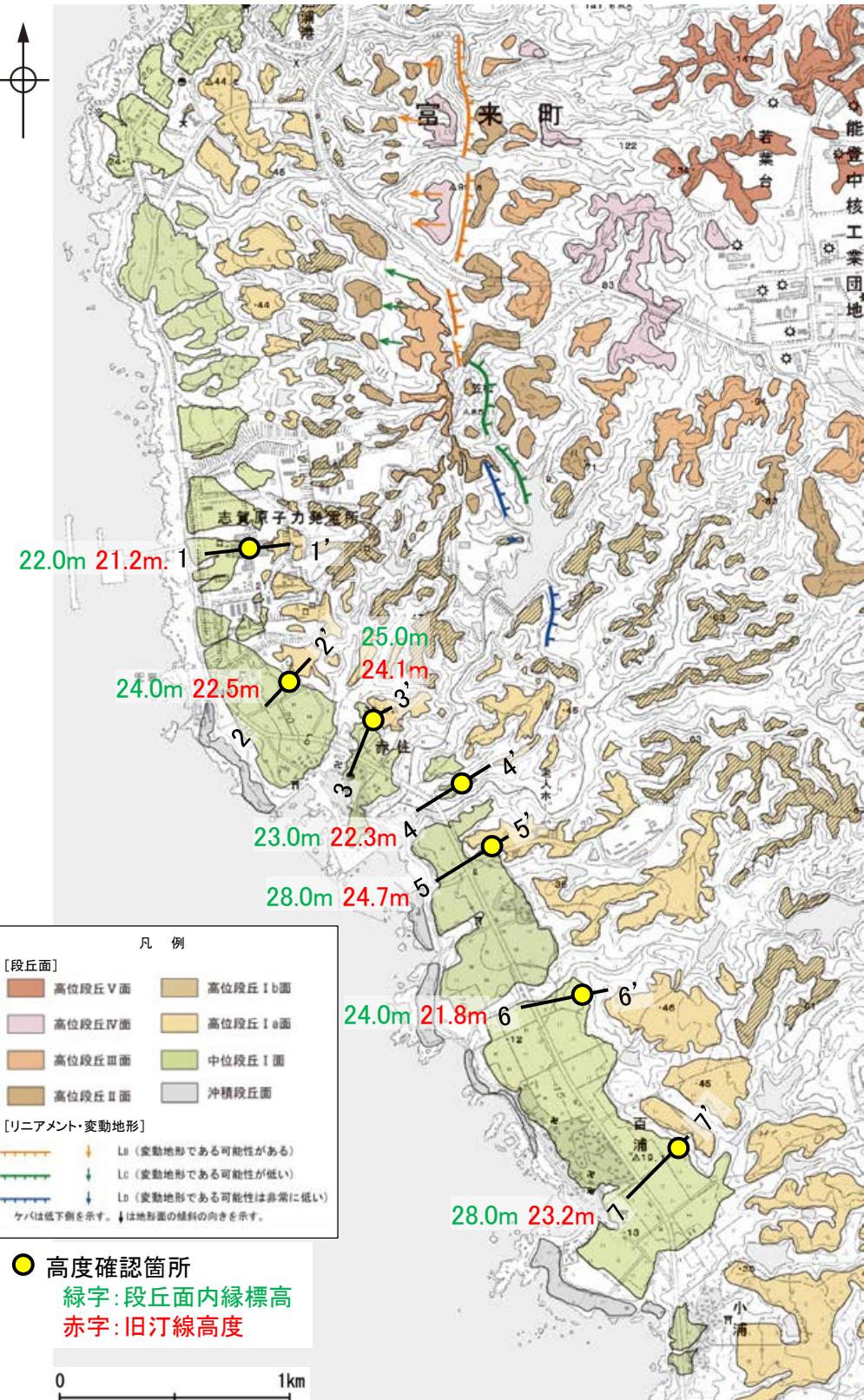
・福浦断層に対応する破碎部は認められない。

コア写真(深度0~50m)

福浦断層(南端)

【中位段丘 I 面旧汀線高度】

○福浦断層の南方延長に分布する中位段丘 I 面の段丘面内縁標高はEL22~28m付近, 旧汀線高度はEL21~25m付近で, ほぼ同じ高度で連続する。

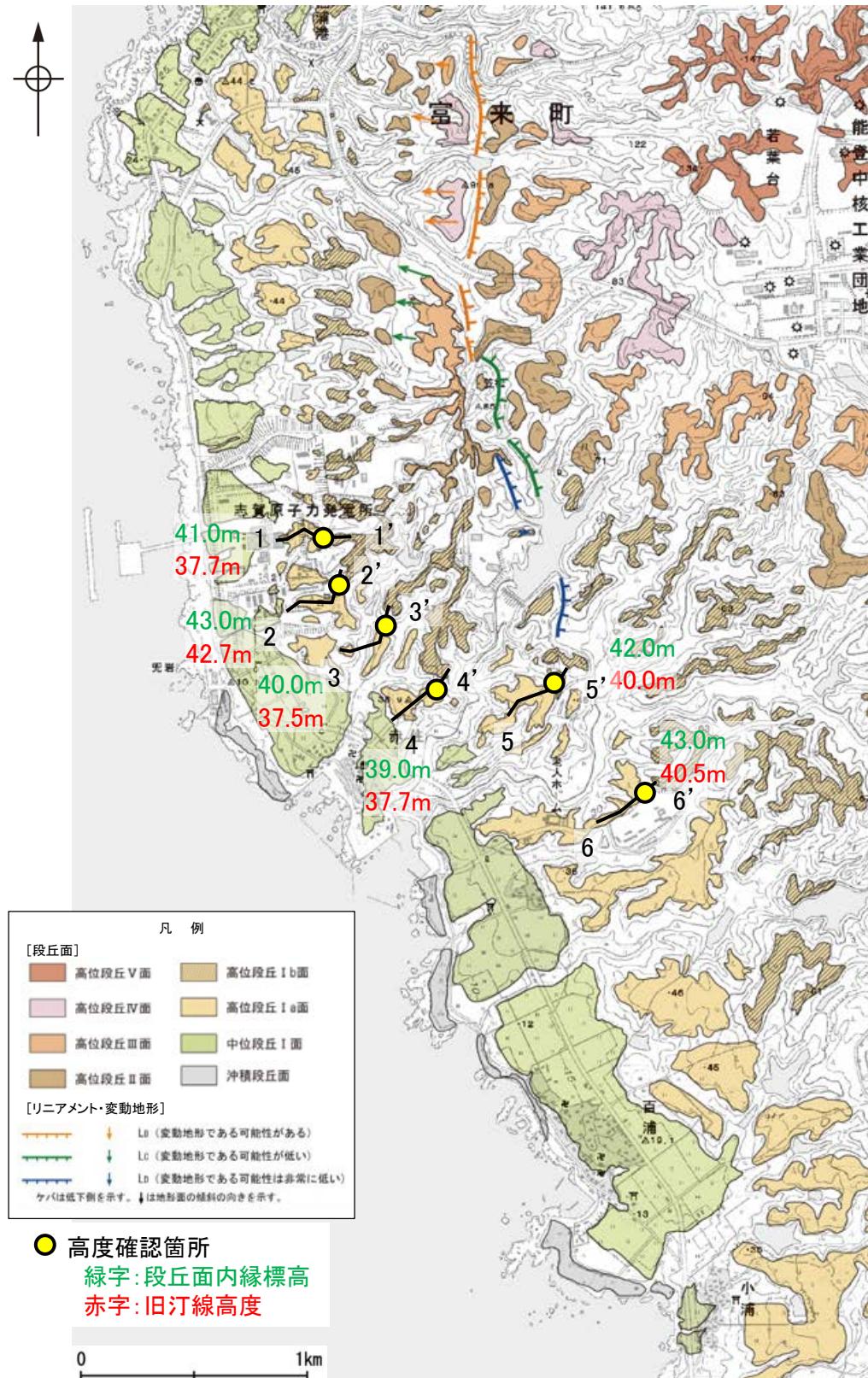


・各地点の柱状図等は補足資料2.2-2 (2)

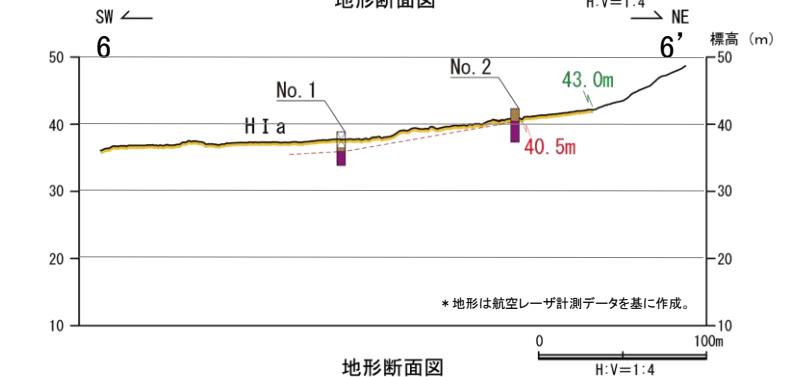
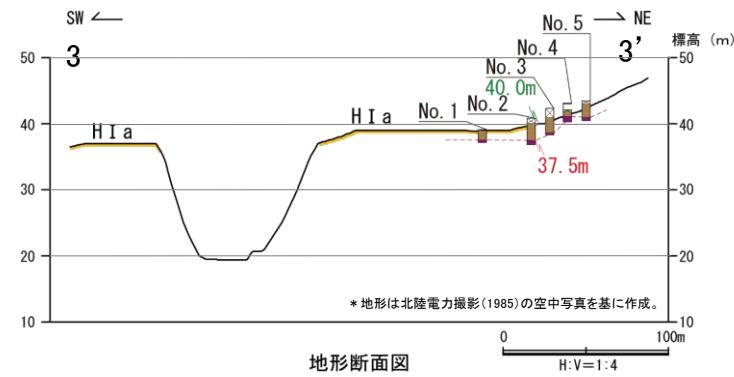
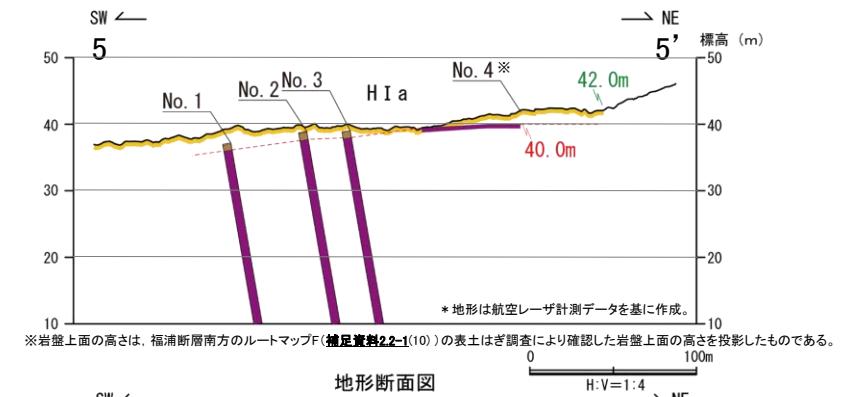
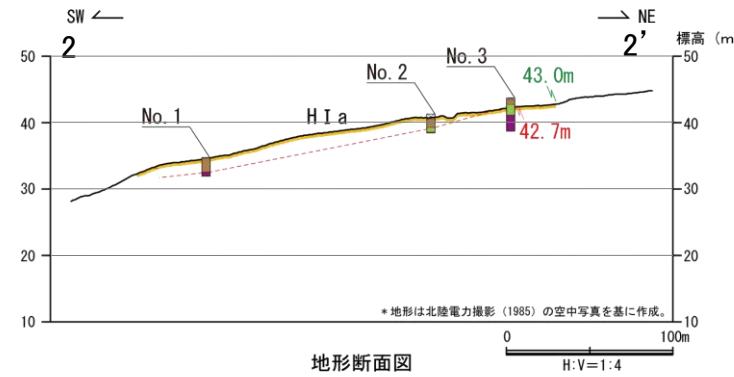
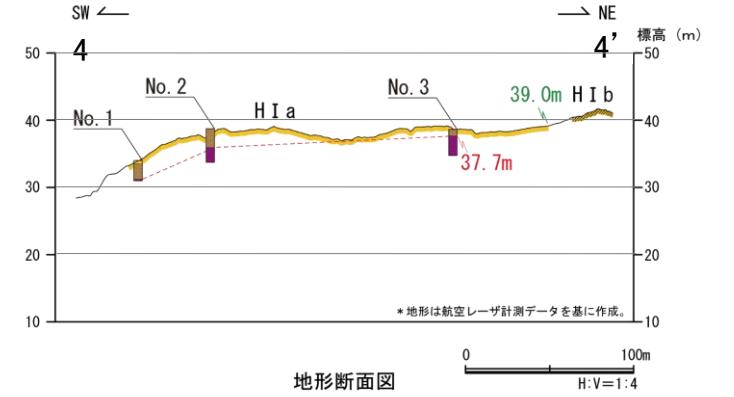
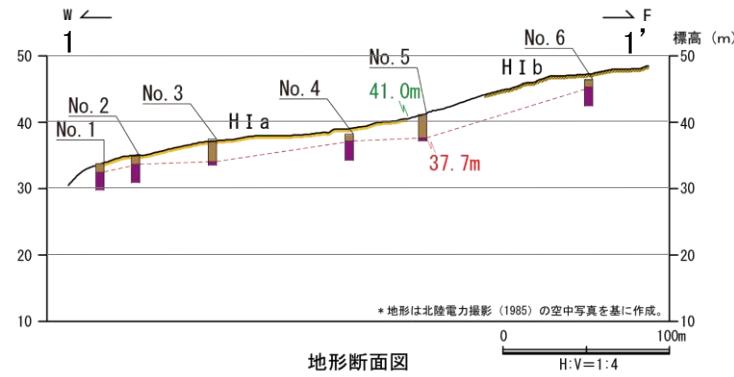
福浦断層(南端)

【高位段丘 I a面旧汀線高度】

○福浦断層の南方延長に分布する高位段丘 I a面の段丘面内縁標高はEL40~43m付近、旧汀線高度はEL37~43m付近で、ほぼ同じ高度で連続する。



位置図



【福浦断層南方延長 反射法地震探査(E,F測線) 測線図】

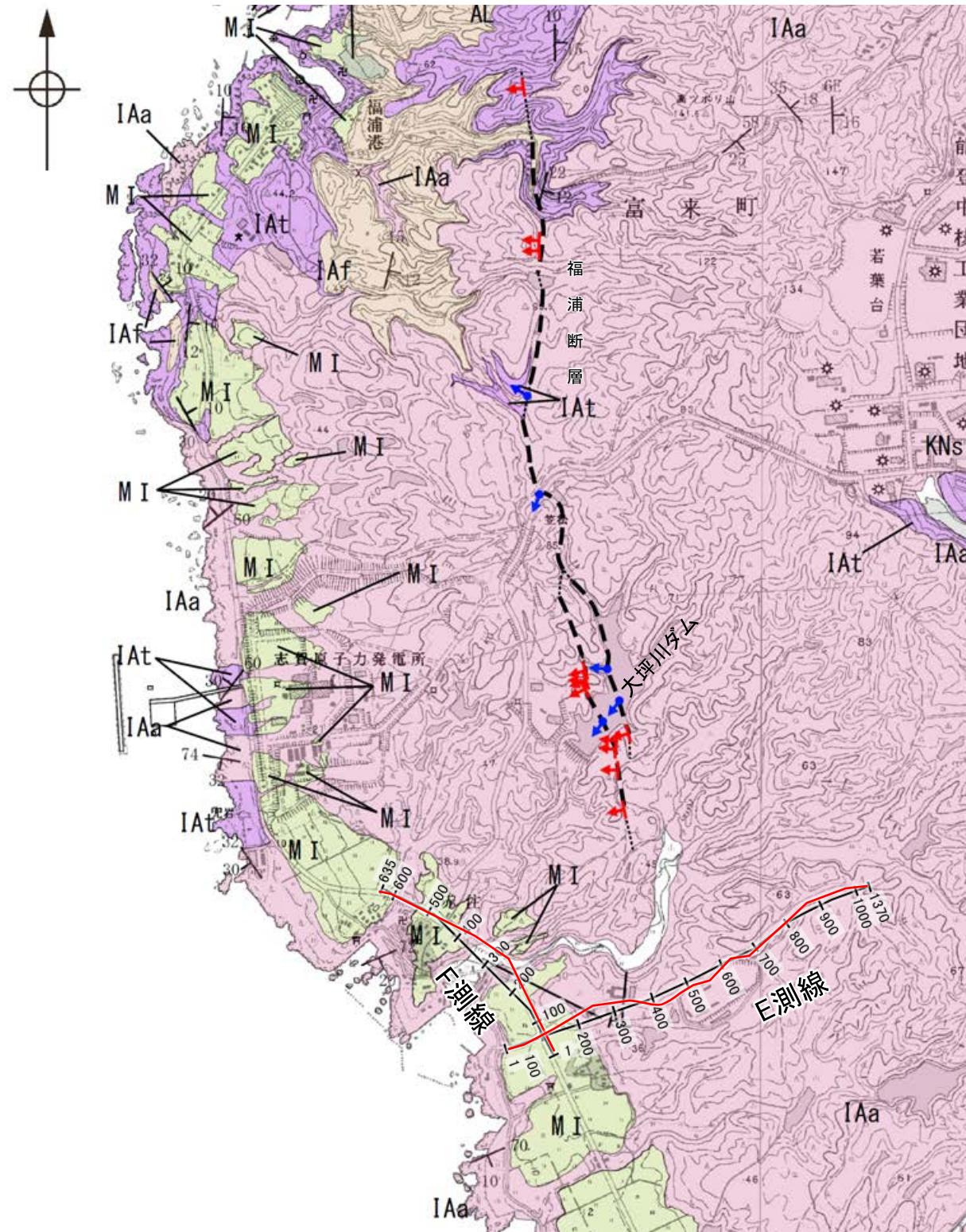
- 福浦断層の南方延長において、反射法地震探査を行った。
- その結果、福浦断層に対応する断層は認められない(次頁以降)。

反射法地震探査 仕様

測線長	約1.7km(E測線) 約1.0km(F測線)
震源	広帯域バイプレータ1台 (スイープ数5回, スイープ周波数8 ~200Hz, スイープ長15s)
発振点間隔	3.125m
受振器	上下動速度計(SG-5, 固有周波数 5Hz, 1個組)
受振点間隔	3.125m
記録系	有線型記録システム(Sercel 428)
サンプリング間隔	0.5ms
記録長	2s
解析CMP間隔	1.5625m

・各測線における深度200m付近の垂直分解能は、
反射波の卓越周波数に基づき、E測線で23m程度、
F測線で22m程度

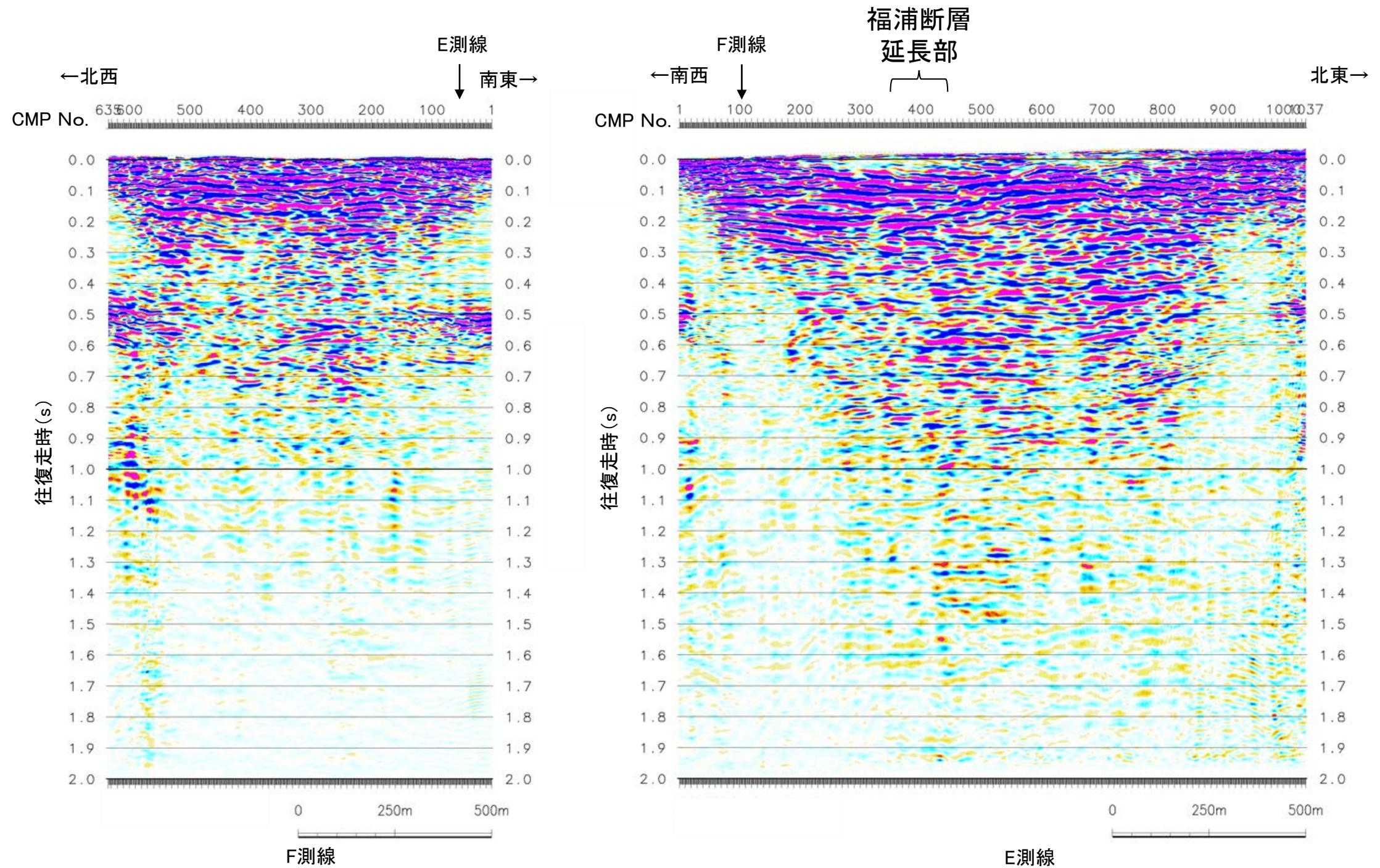
[地質]		地層・岩石名
第四紀 更新世	AL	沖積層
	OF	古期扇状地堆積層
	MI	中段段丘I面堆積層
第三紀 中新世	IAa	別所岳安山岩類 安山岩
	IAt	別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩 (凝灰角礫岩)
	IAf	別所岳安山岩類 安山岩質~ デイサイト質火砕岩 (凝灰岩)



- ▲ : 断層確認位置
- ← : 反射法地震探査での断層確認位置
- : 断層位置
推定区間
- : 反射法地震探査測線
- : 受振測線
- ⊕ : 重合測線(CMP)

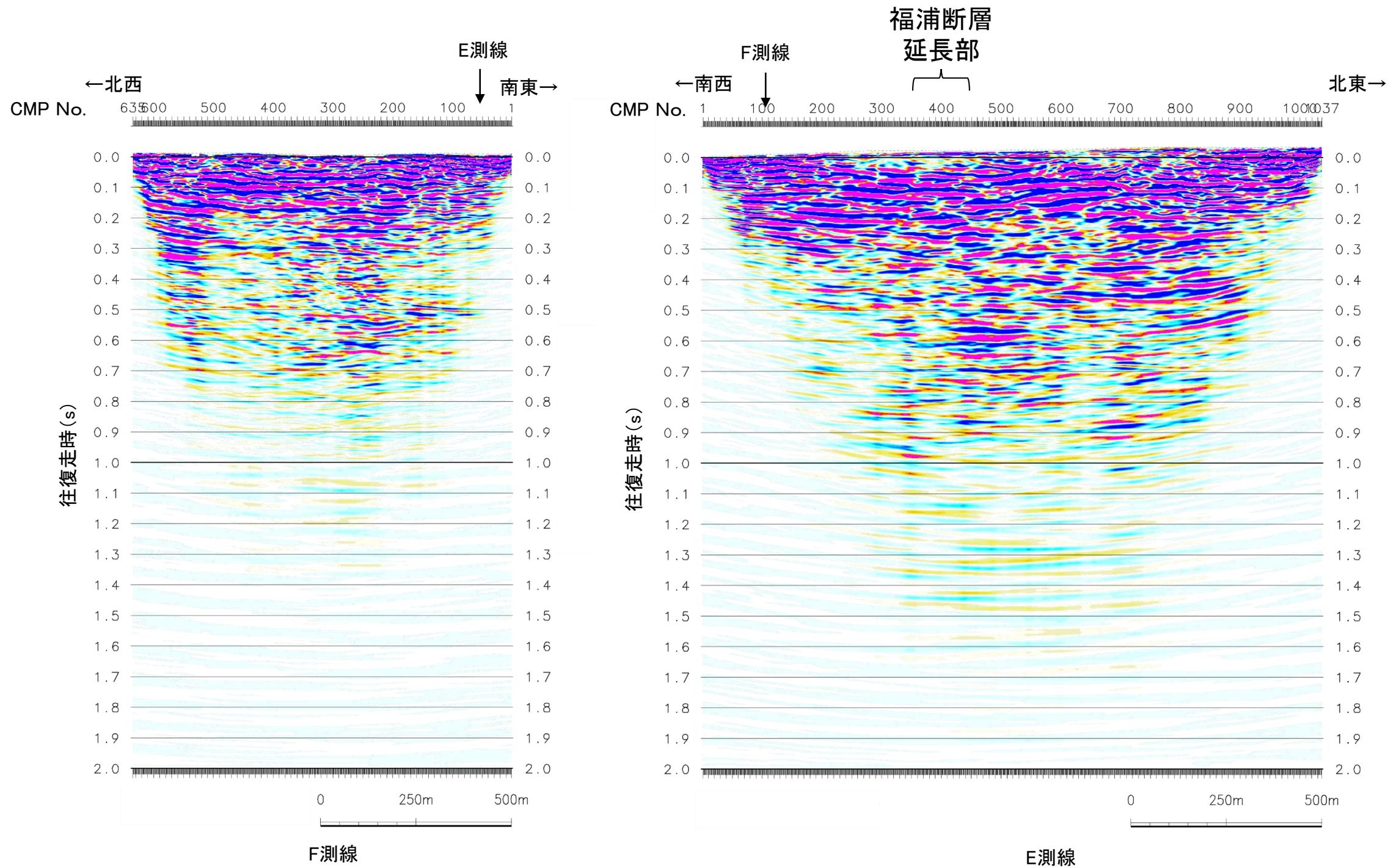
位置図

【時間断面(E,F測線)(マイグレーション前)】



反射法地震探査結果(時間断面 マイグレーション前)

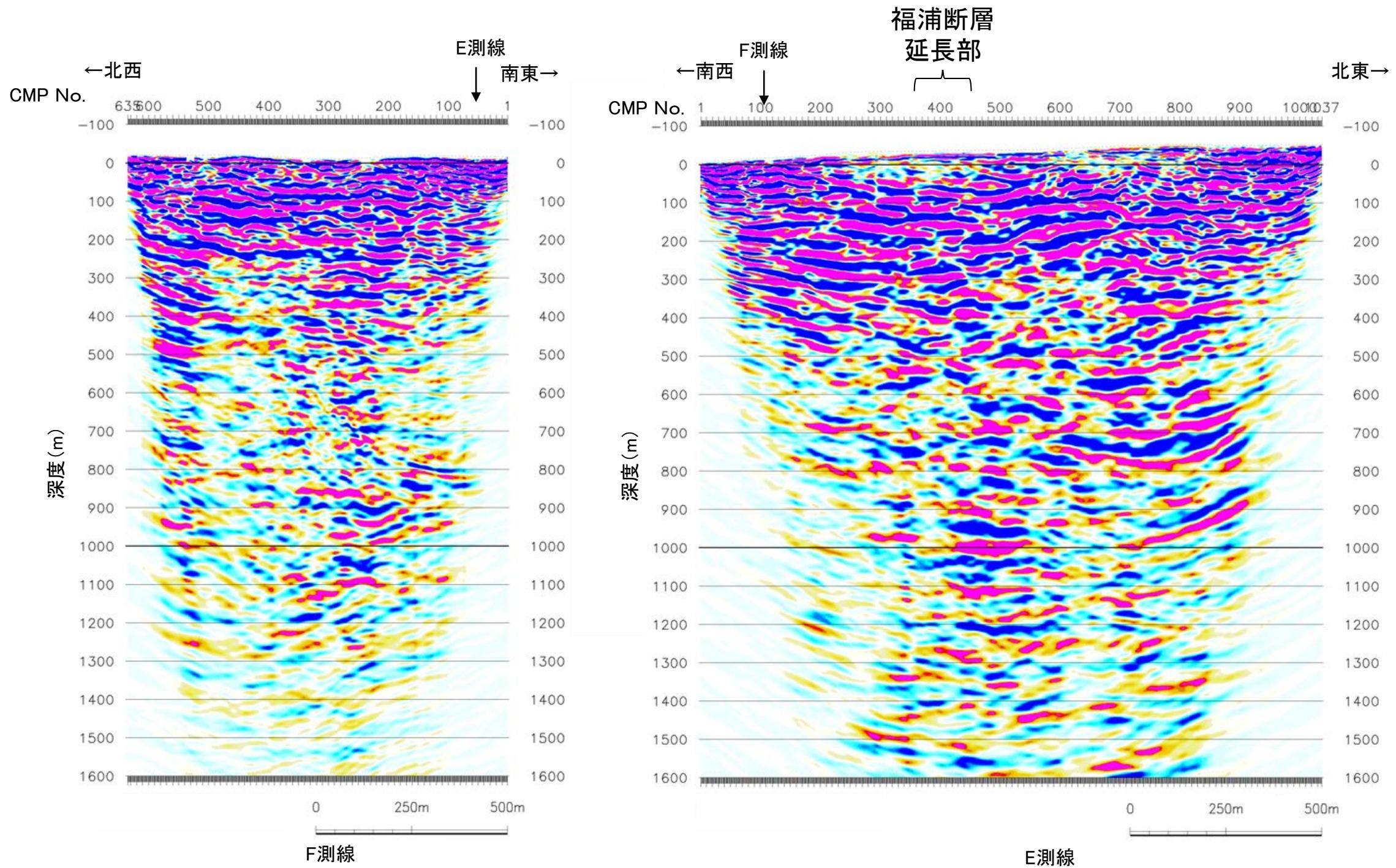
【時間断面(E,F測線)(マイグレーション後)】



反射法地震探査結果(時間断面 マイグレーション後)

【反射法地震探査(E,F測線) 深度断面】

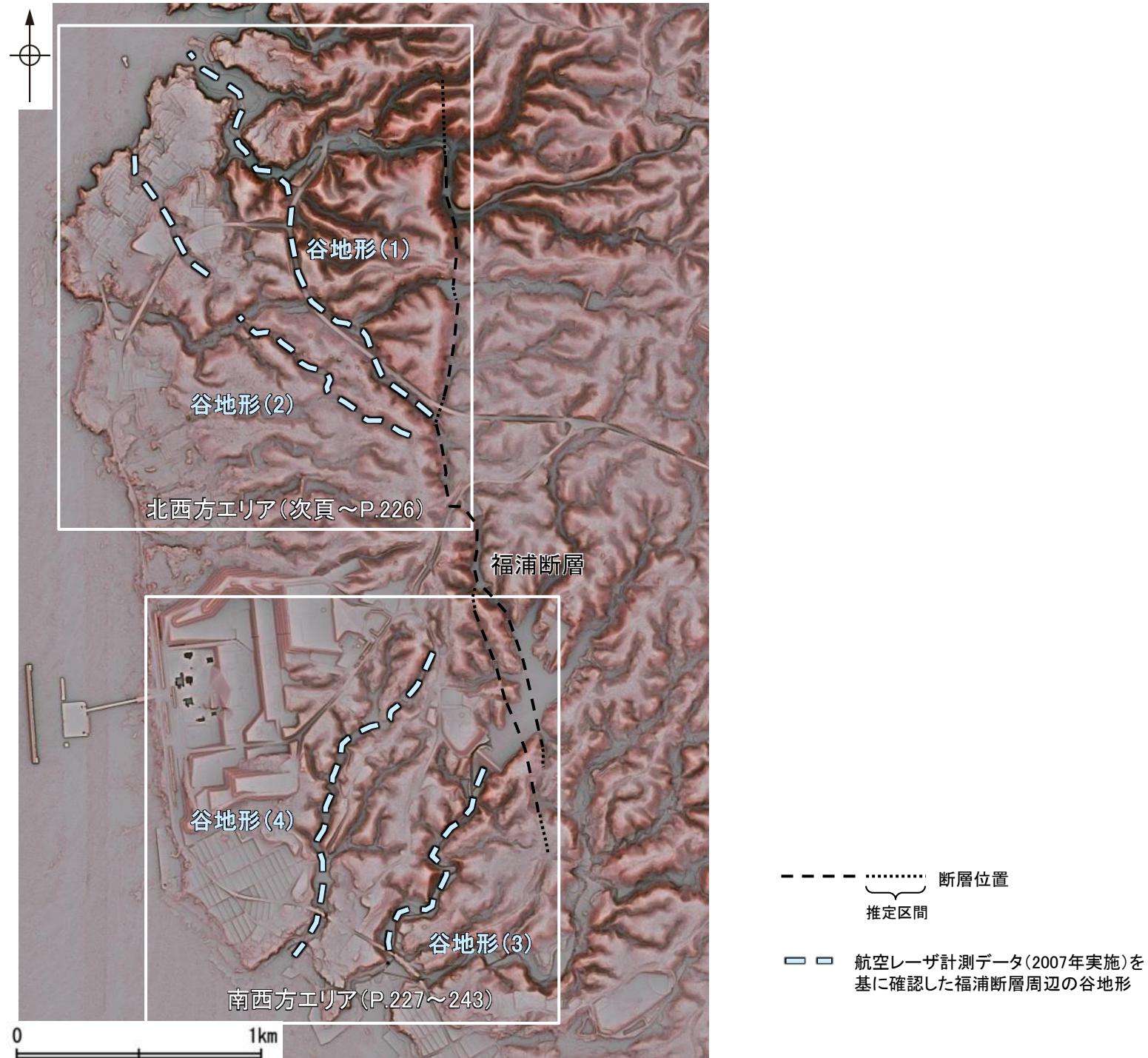
○福浦断層の延長部において、福浦断層を示すような反射面の系統的な乱れや不連続は認められない。



反射法地震探査結果(深度断面)

2.2.1 (8) 福浦断層周辺に認められる谷地形

- 福浦断層は、後期更新世以降の活動が否定できない断層のうちで最も敷地に近い位置に分布することを踏まえ、その分布をより詳細に確認するために、同断層から分岐する断層の存否について確認することとした。
- 下図のとおり、福浦断層に近接していくつかの谷地形が分布しており、同地形にはリニアメント・変動地形は判読されないが、福浦断層から分岐する断層の存否を確認するために、地形調査及び地質調査を実施した。
- 調査は、福浦断層の北西方に分布する2つの谷地形(谷地形(1)、谷地形(2))、南西方に分布する2つの谷地形(谷地形(3)、谷地形(4))を対象に実施した。



赤色立体地図(航空レーザ計測データにより作成)

2.2.1 (8) 福浦断層周辺に認められる谷地形 — 北西方の評価結果 —

○福浦断層の北西方に分布する谷地形(1), (2)において, 福浦断層から分岐する断層の存否を確認するために地形調査及び地質調査を実施した。

谷地形(1)の調査結果

- 谷地形(1)に対応する断層を図示している文献はない。また, 谷地形(1)に対応するリニアメント・変動地形は判読されない(P.212~214)。
- 谷地形(1)を挟んで, 高位段丘Ⅱ面に高度差がない(P.214)。
- 地質調査の結果, 谷地形(1)の沢部には, 広く別所岳安山岩類の安山岩, 安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)及び安山岩質火砕岩(凝灰岩)が分布し, そこに断層は認められない(P.215, 216)。
- 3号風車付近ボーリング調査(FW-1孔)の結果, 谷地形(1)の位置に断層は認められない(P.217~219)。

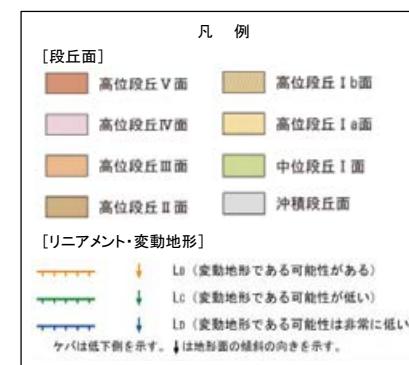
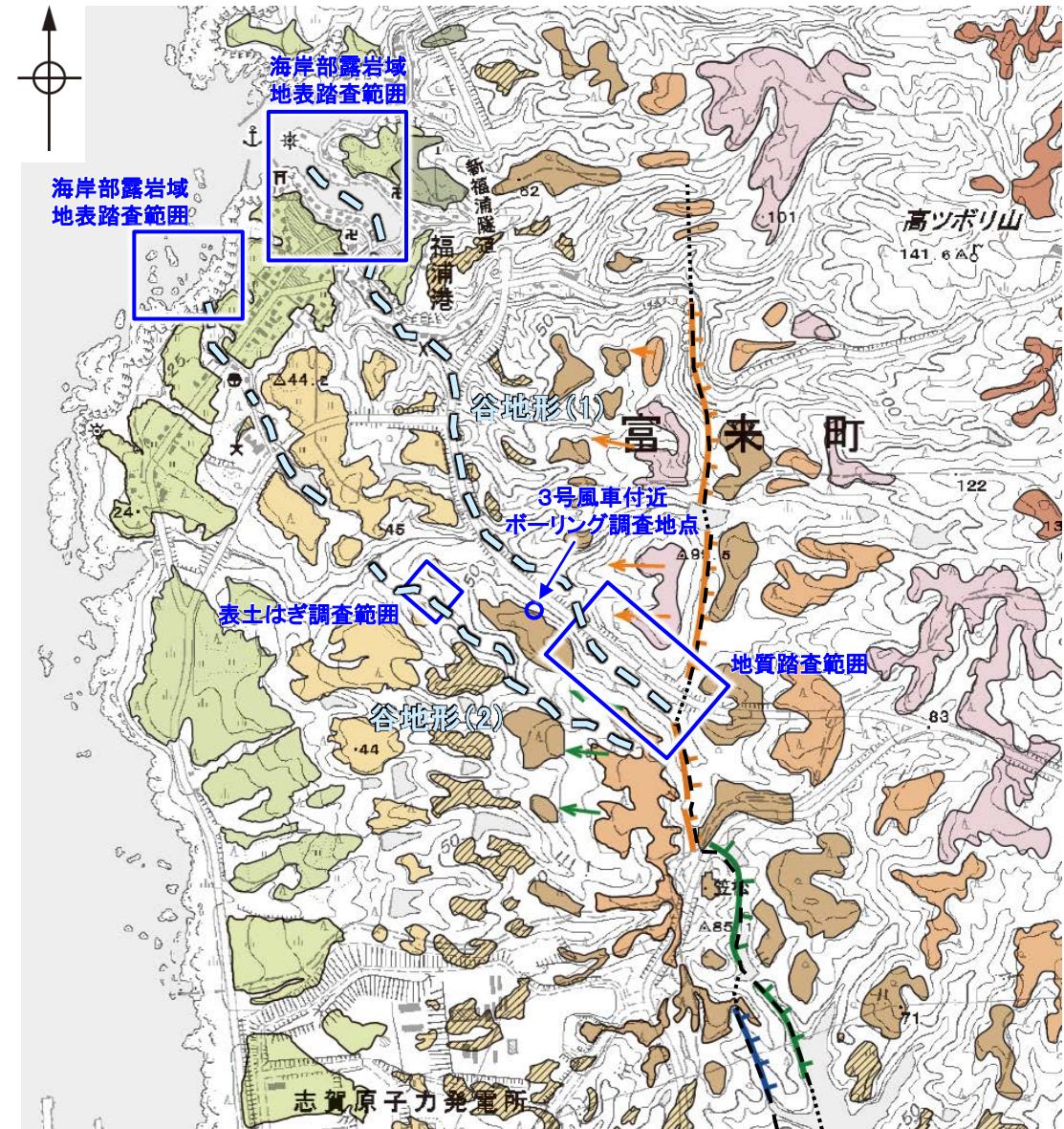
谷地形(1)の位置に断層は認められない。

・なお, 谷地形(1)の延長位置付近の海岸部は, 人工改変により露岩域がほとんど分布しておらず, 断層の有無は確認できない(P.220)。

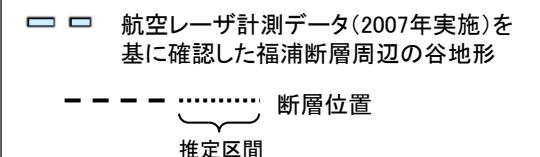
谷地形(2)の調査結果

- 谷地形(2)に対応する断層を図示している文献はない。また, 谷地形(2)に対応するリニアメント・変動地形は判読されない(P.212~214)。
- 谷地形(2)を挟んで, 中位段丘Ⅰ面及び高位段丘Ⅰa面に高度差がない(P.214)。
- 地質調査の結果, 谷地形(2)を横断する露頭には, 広く別所岳安山岩類の安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)が分布し, そこに断層は認められない(P.221, 222)。
- 谷地形(2)の延長位置付近の海岸部露岩域には, 安山岩(均質), 安山岩(角礫質)及び凝灰角礫岩が分布し, 断層は認められない(P.223~226)。

谷地形(2)の位置に断層は認められない。

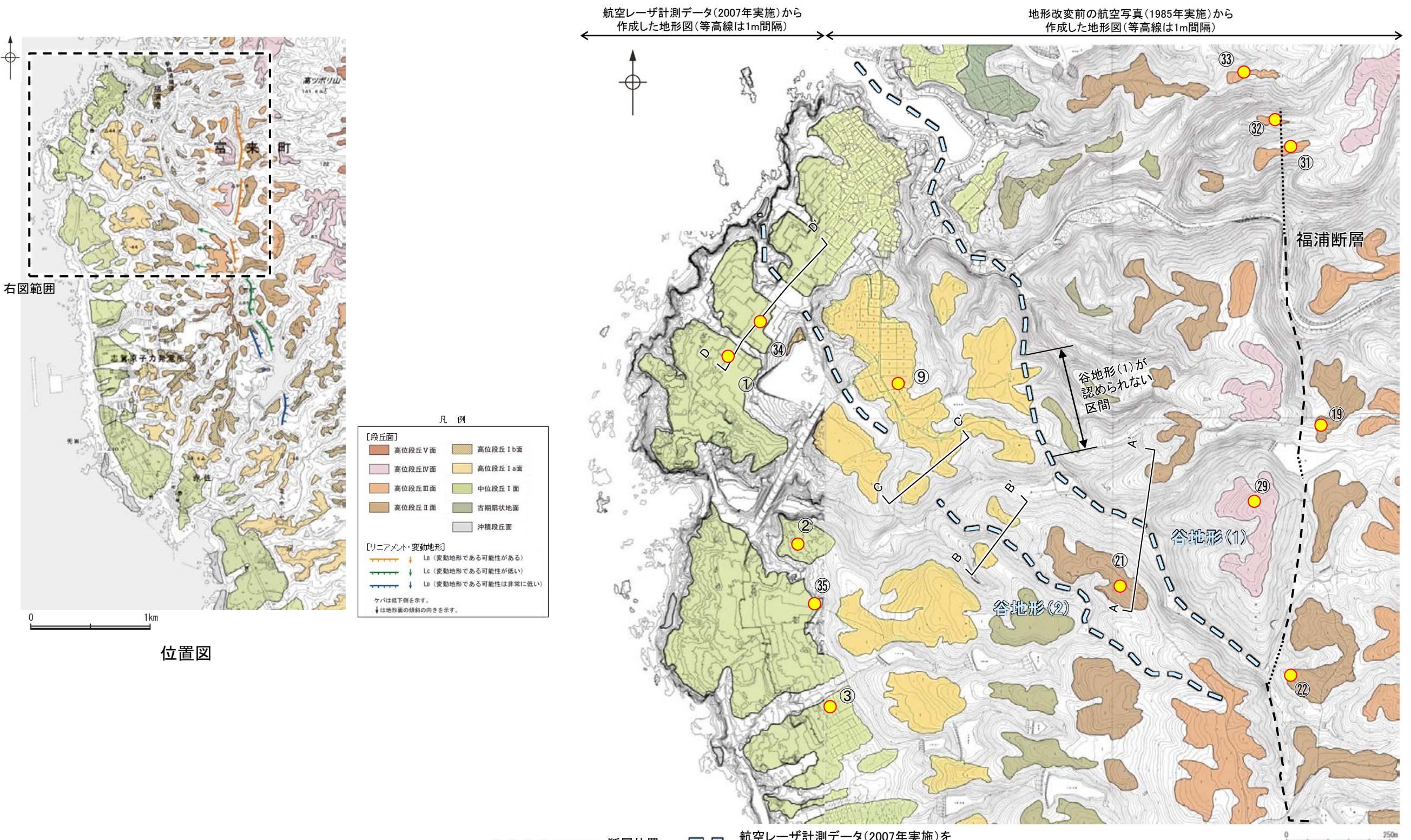


位置図



2.2.1 (8) 福浦断層周辺に認められる谷地形 — 北西方の地形調査 —

- 現在、谷地形(1)沿いに県道が建設されていることから、地形改変前の航空写真(当社撮影(1985), 縮尺8千分の1)を用いて、改変前の地形を確認した。
- 改変前の地形において、谷地形(1)は中央部で連続せず(次頁)、高位段丘 I a面が横断して分布する。
- 谷地形(1)及び谷地形(2)は、直線性に乏しく湾曲して分布する。
- 谷地形(1)を挟んで分布する高位段丘 II 面に高度差がなく、谷地形(2)を挟んで分布する中位段丘 I 面及び高位段丘 I a面に高度差がない(次々頁)。



※: 段丘面調査結果は補足資料2.2-1(1)

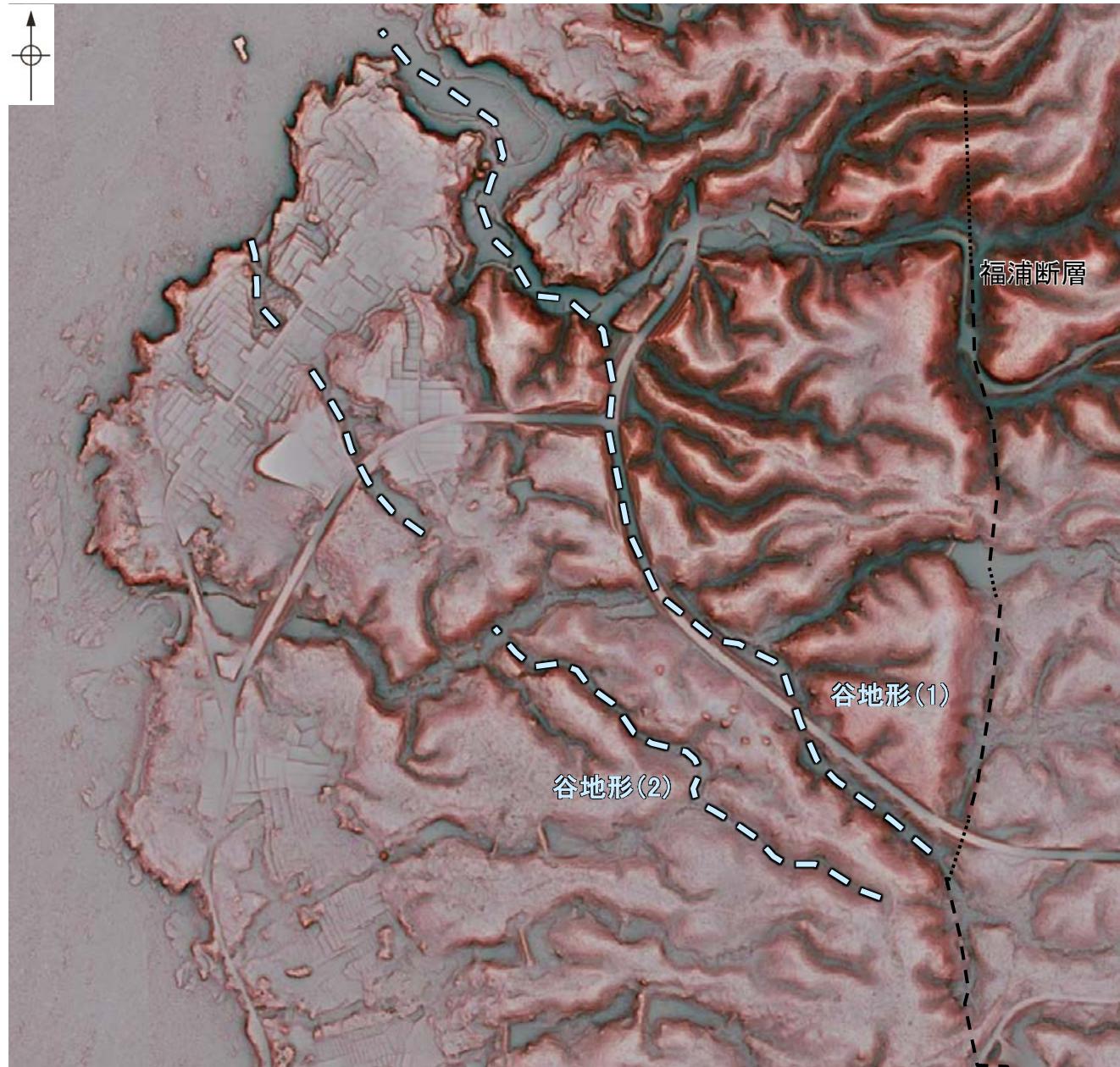
谷地形(1), (2)

【地形改変前後の地形の比較】

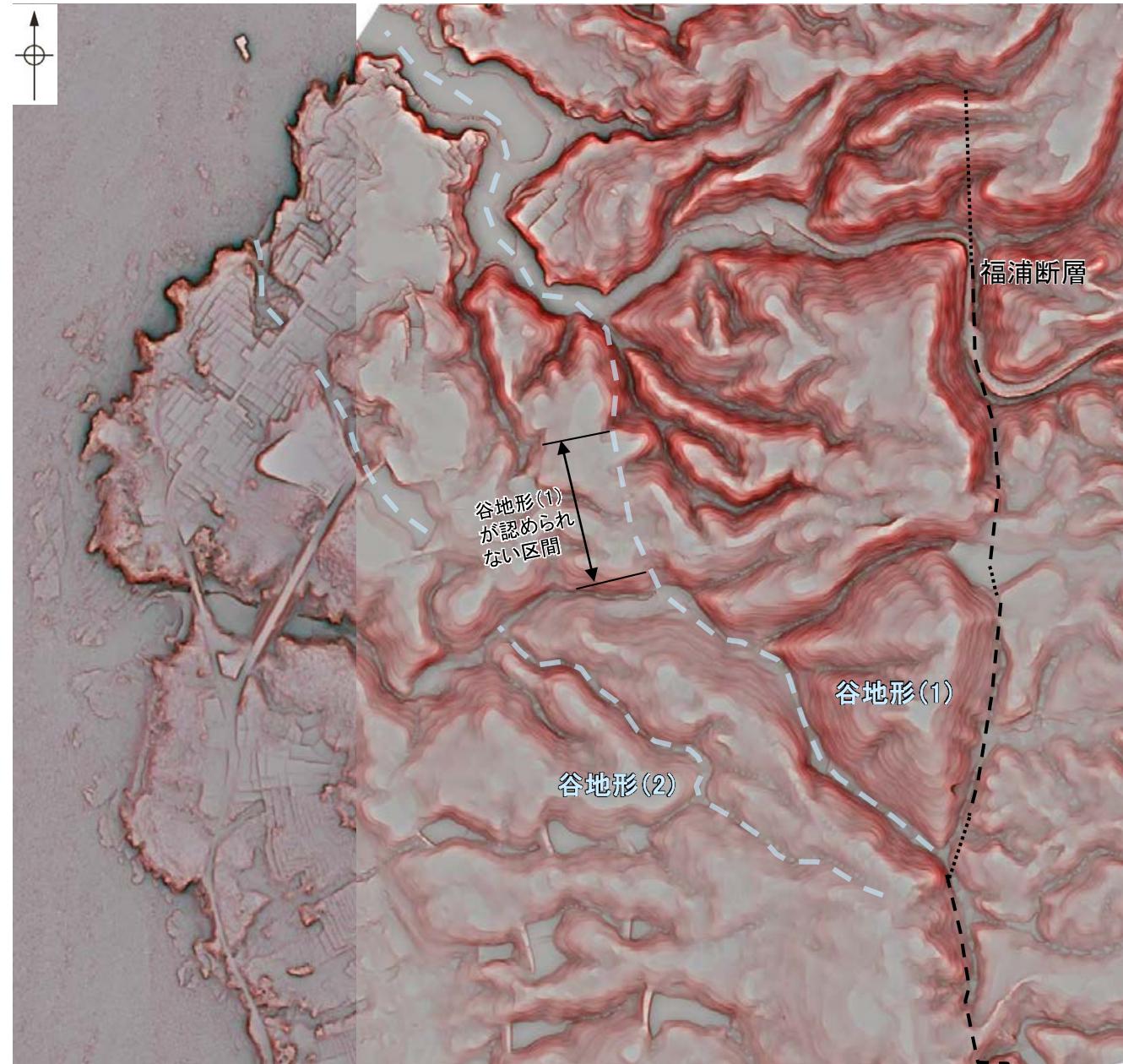
航空レーザ計測データ(2007年実施)から作成した地形図

航空レーザ計測データ(2007年実施)から作成した地形図

地形改変前の航空写真(1985年実施)から作成した地形図



赤色立体地図
(改変後)



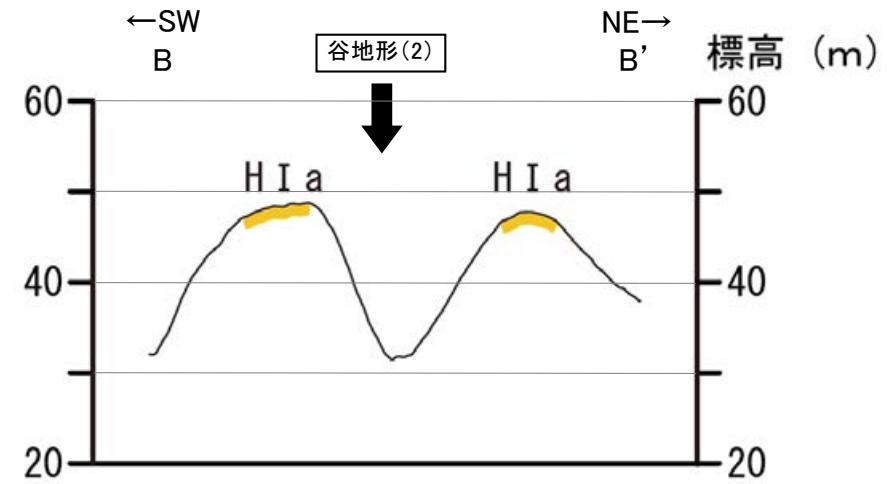
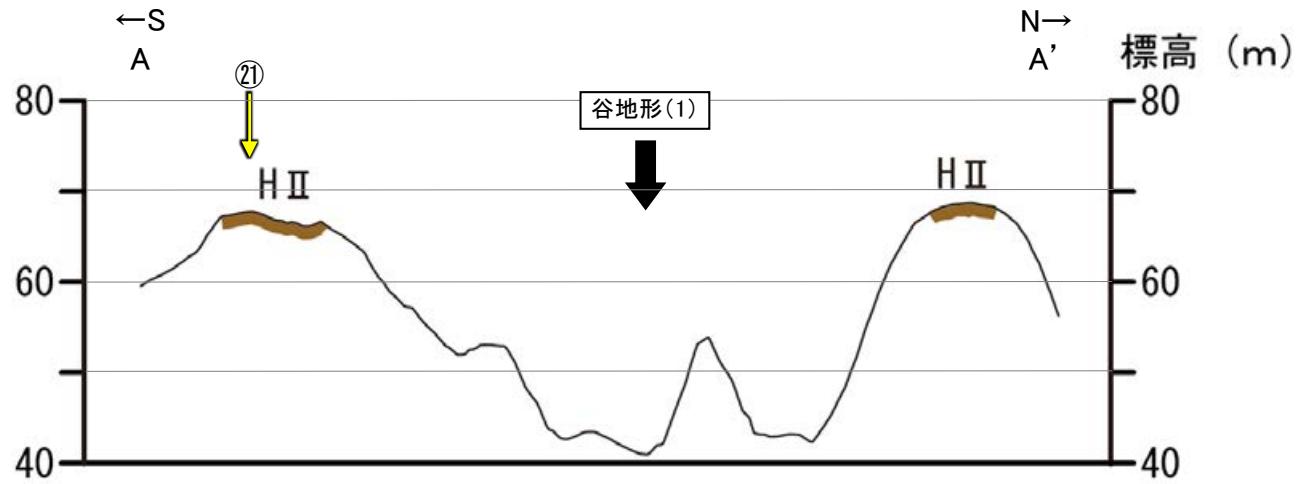
赤色立体地図
(改変前)

--- 断層位置
--- 推定区間
□ □ 航空レーザ計測データ(2007年実施)を
基に確認した福浦断層周辺の谷地形

・地形改変後に実施した航空レーザ計測データ(2007年実施)から作成した赤色立体地図(左図)では県道に沿って谷地形(1)が連続するが、地形改変前の航空写真(1985年実施)から作成した赤色立体地図(右図)で確認したところ、谷地形(1)は中央部で連続しない。

谷地形(1), (2)

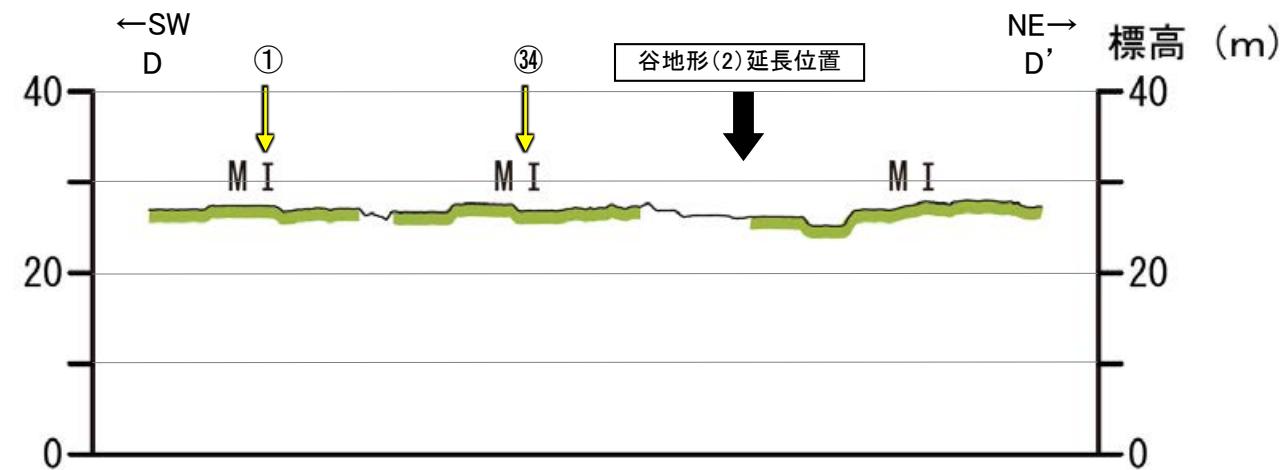
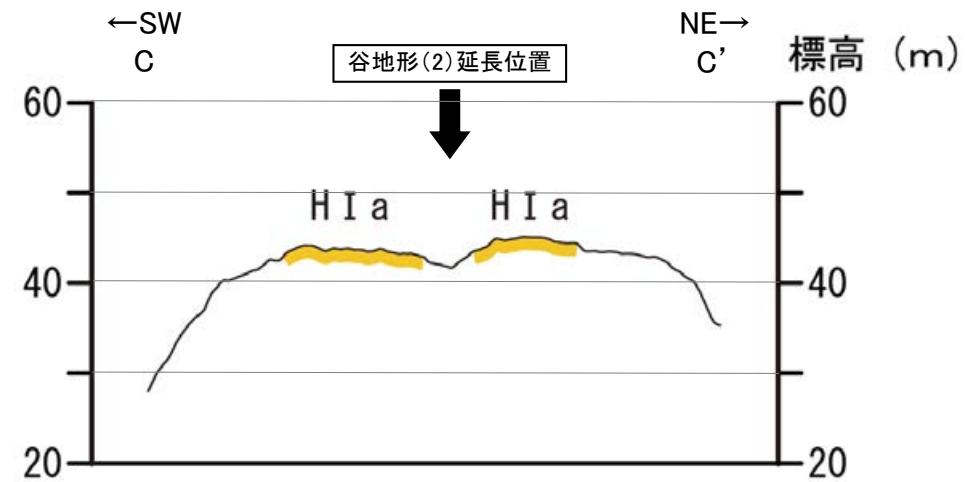
【地形断面図】



凡 例

〔段丘面〕	
H II	高位段丘 II 面
H I a	高位段丘 I a 面
M I	中位段丘 I 面

① : 段丘面調査実施箇所



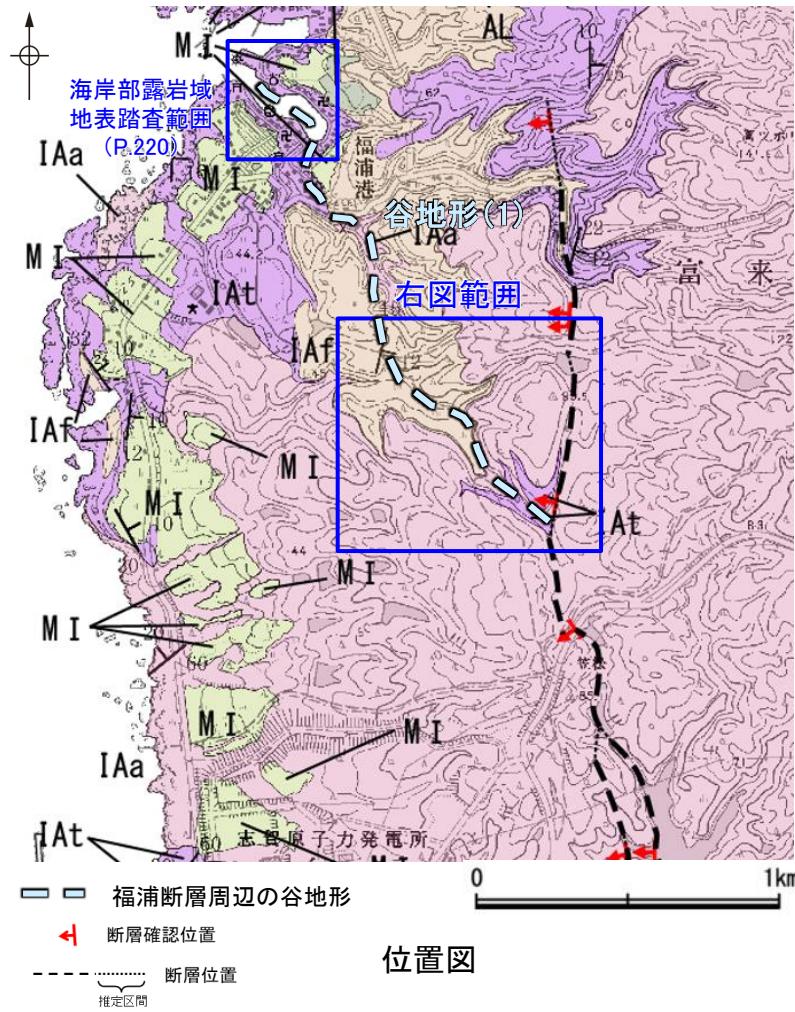
地形断面図 (H:V=1:4)
(航空レーザー計測データにより作成)



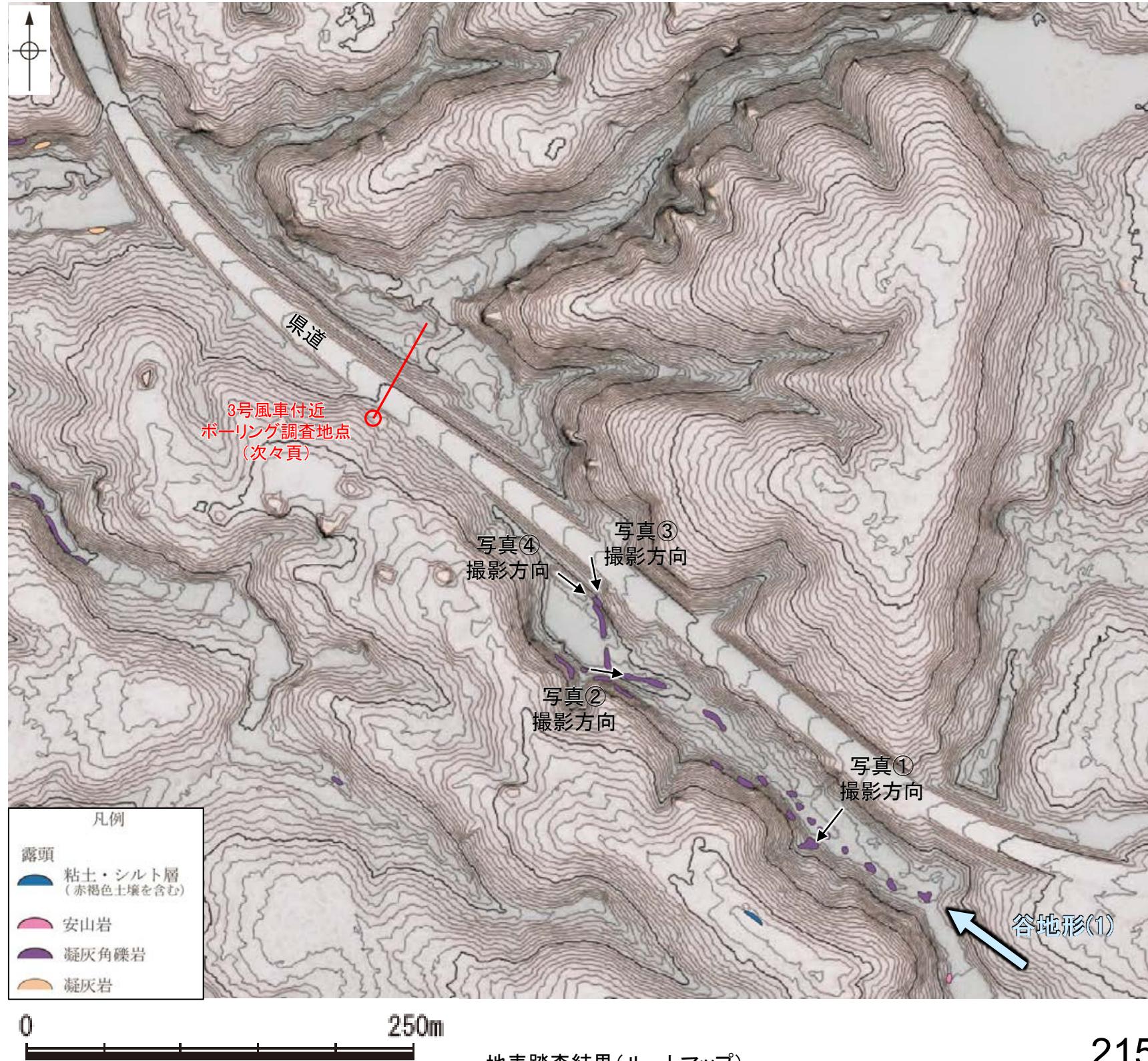
- ・谷地形(1)を挟んで、高位段丘 II 面に高度差がない。
- ・谷地形(2)を挟んで、中位段丘 I 面及び高位段丘 I a面に高度差がない。

2.2.1 (8) 福浦断層周辺に認められる谷地形 —北西方の地質調査(谷地形(1))—

- 谷地形(1)の沢部で広く地表踏査を実施した結果、別所岳安山岩類の安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)が分布し、それらは非破碎であり、断層は認められない。
- 谷地形(1)付近でボーリング調査を実施した結果、谷地形(1)の位置に断層は認められない(次々頁)。
- 以上より、谷地形(1)の位置に断層は認められない。
- なお、谷地形(1)の延長位置付近の海岸部は、人工改変により露岩域がほとんど分布しておらず、断層の有無は確認できない(P.220)。



【地質】		地層・岩石名
新第四紀	完新世	AL 沖積層
	更新世	OF 古期扇状地堆積層
	中世	MI 中位段丘I面堆積層
新第三紀	中新世	IAa 別所岳安山岩類 安山岩
	上新世	IAt 別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)
	中新世	I Af 別所岳安山岩類 安山岩質～ デイサイト質火砕岩(凝灰岩)

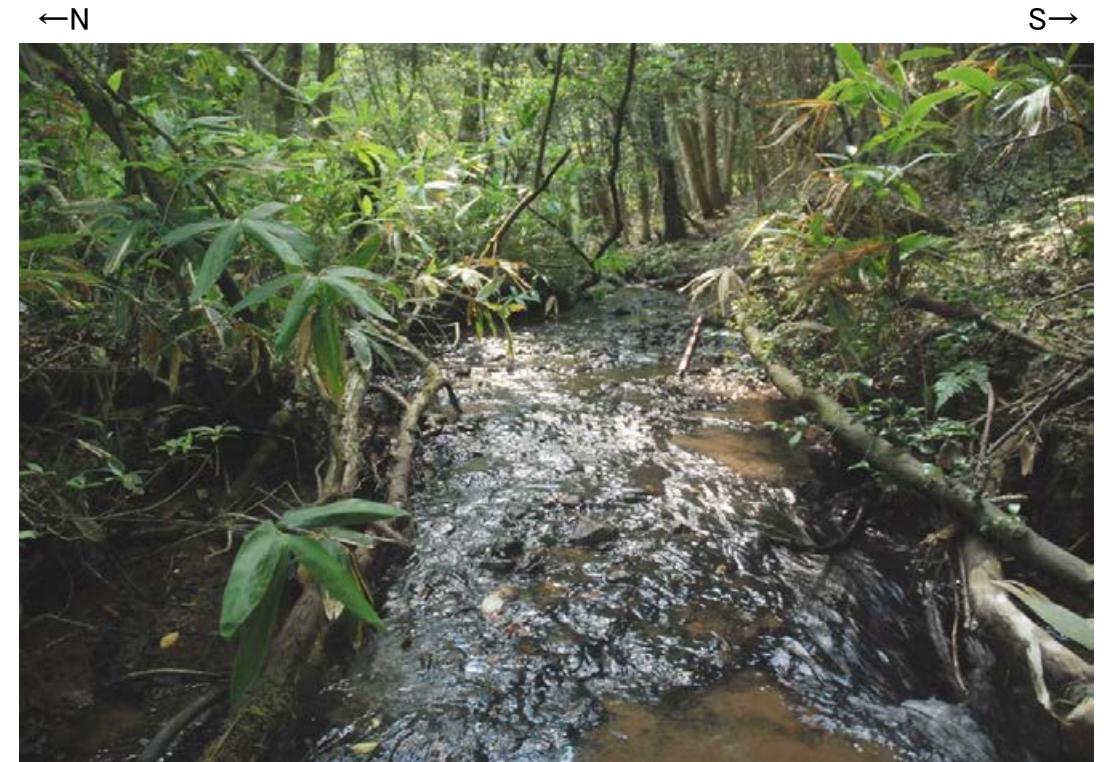


谷地形(1)

【地表踏査写真】



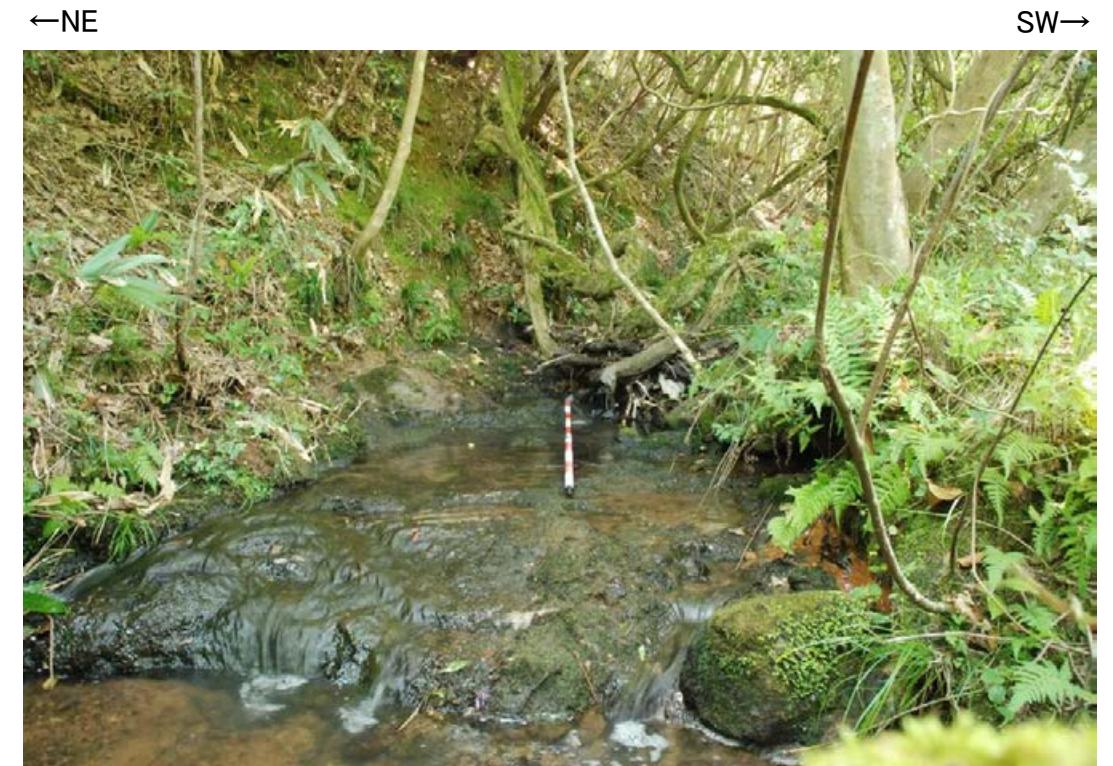
写真①



写真②



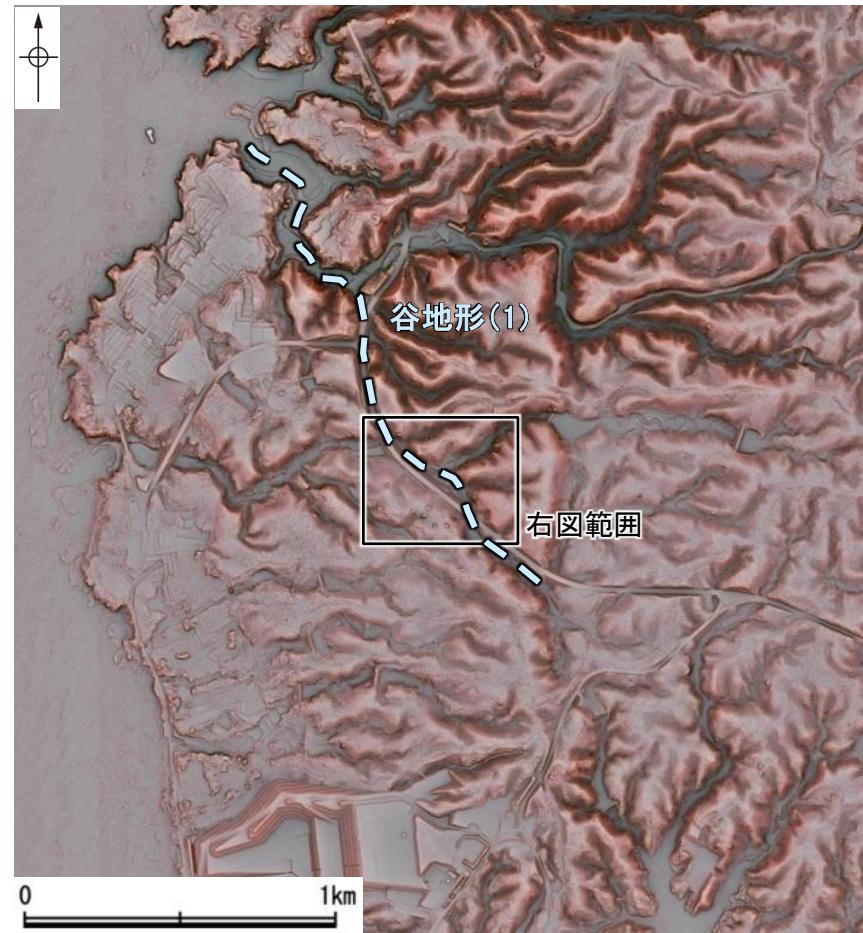
写真③



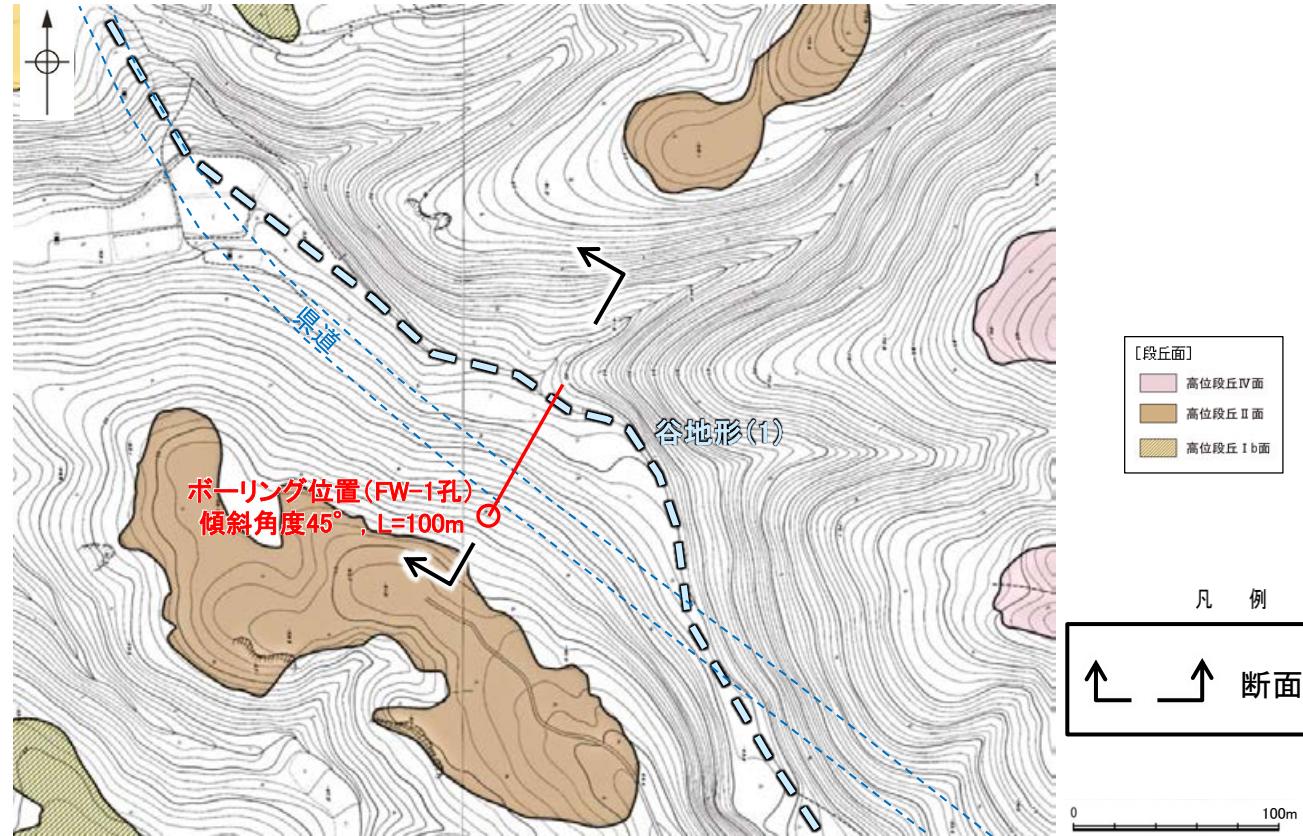
写真④

谷地形(1)

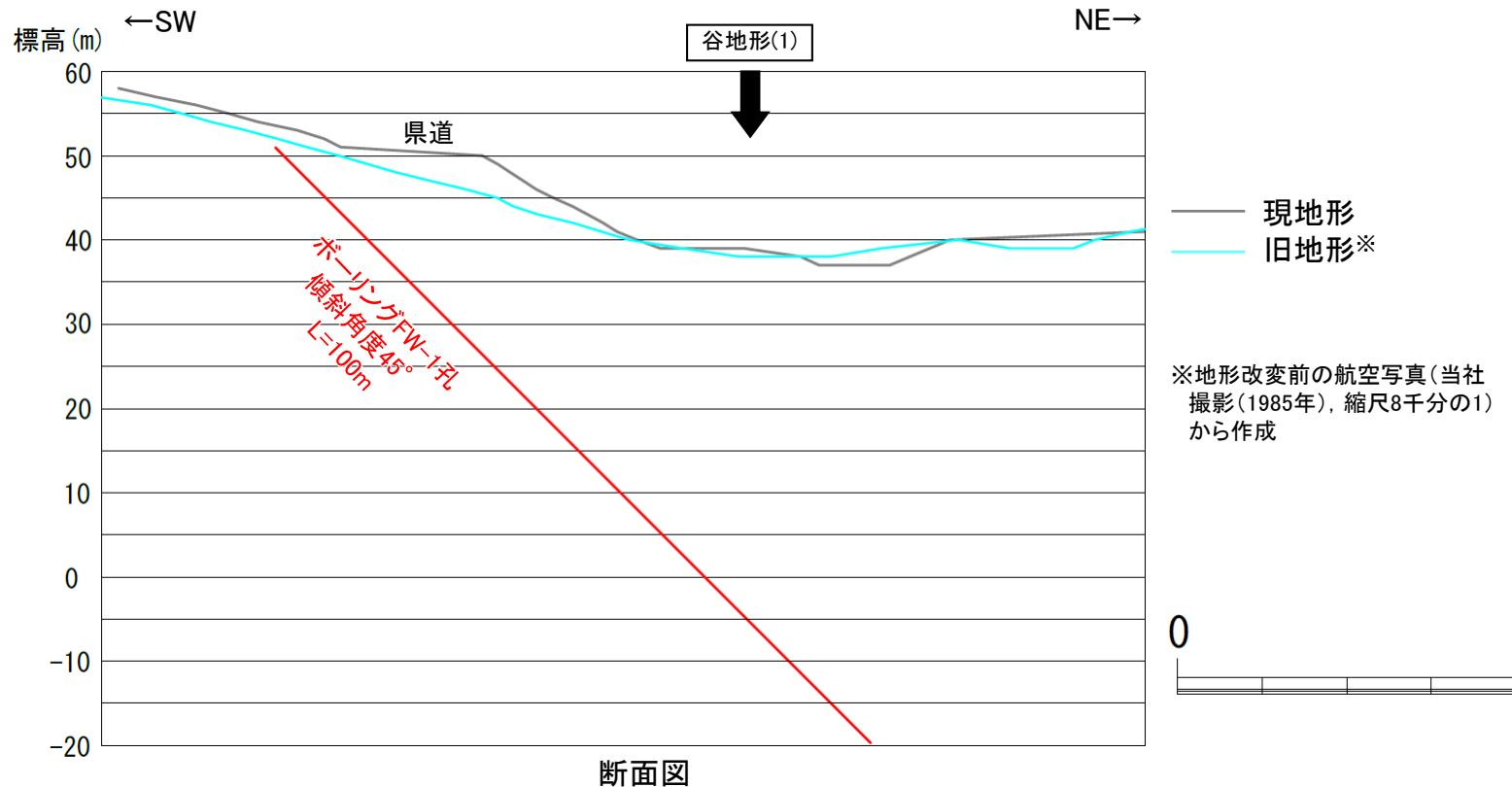
【3号風車付近 ボーリング調査結果】



位置図
(航空レーザ計測データにより作成)



調査位置図(地形改変前の航空写真から作成)

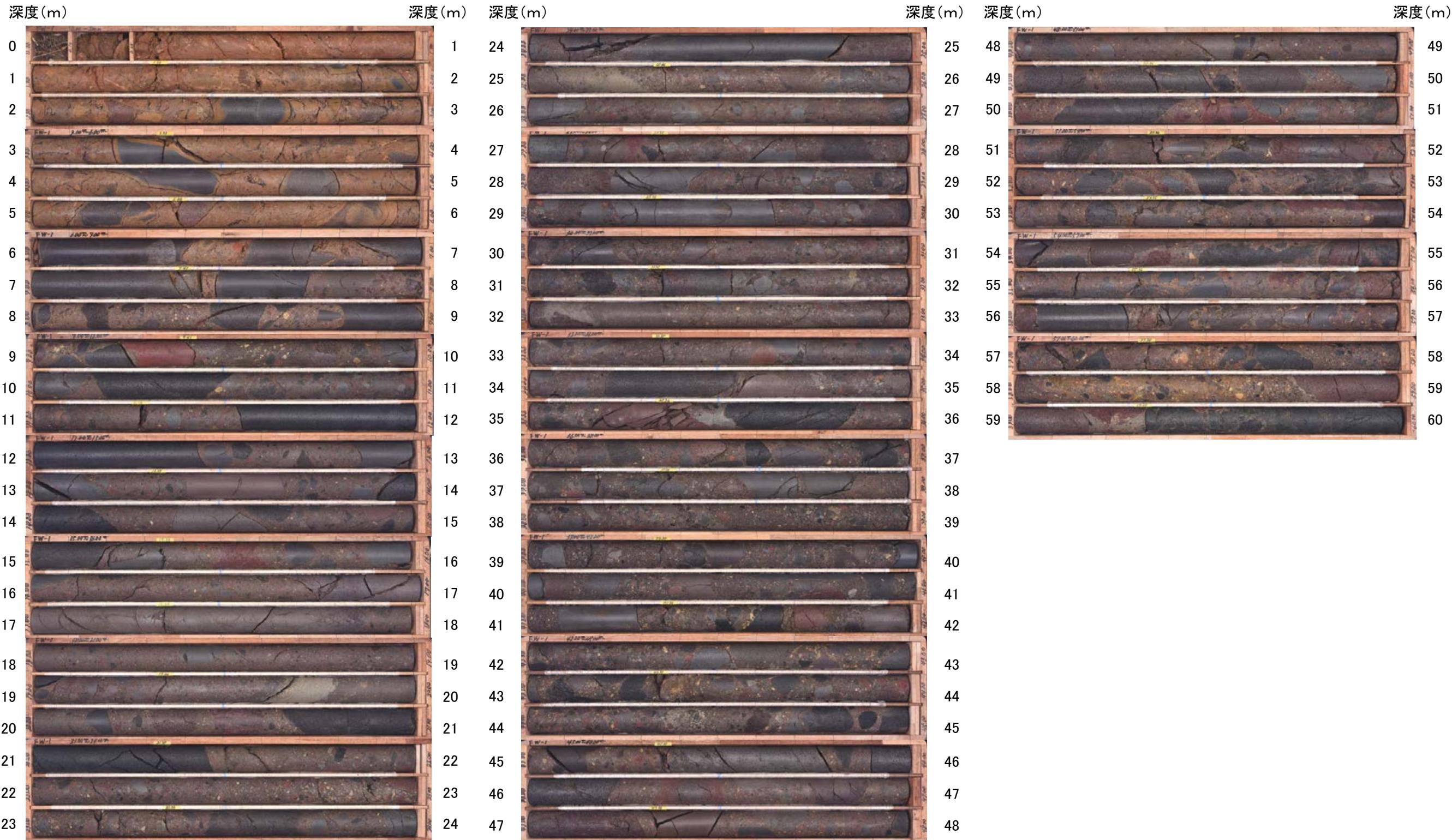


- ・谷地形(1)の位置において福浦断層と連続する西傾斜の断層の有無を確認するため、谷と直交する方向にボーリング調査(FW-1孔)を実施した。
- ・ボーリング調査の結果、谷地形(1)の位置に断層は認められない(次頁, 次々頁)。

谷地形(1)

【FW-1孔 コア写真(1/2)】

FW-1孔(孔口標高50.99m, 掘進長100m, 傾斜45°)

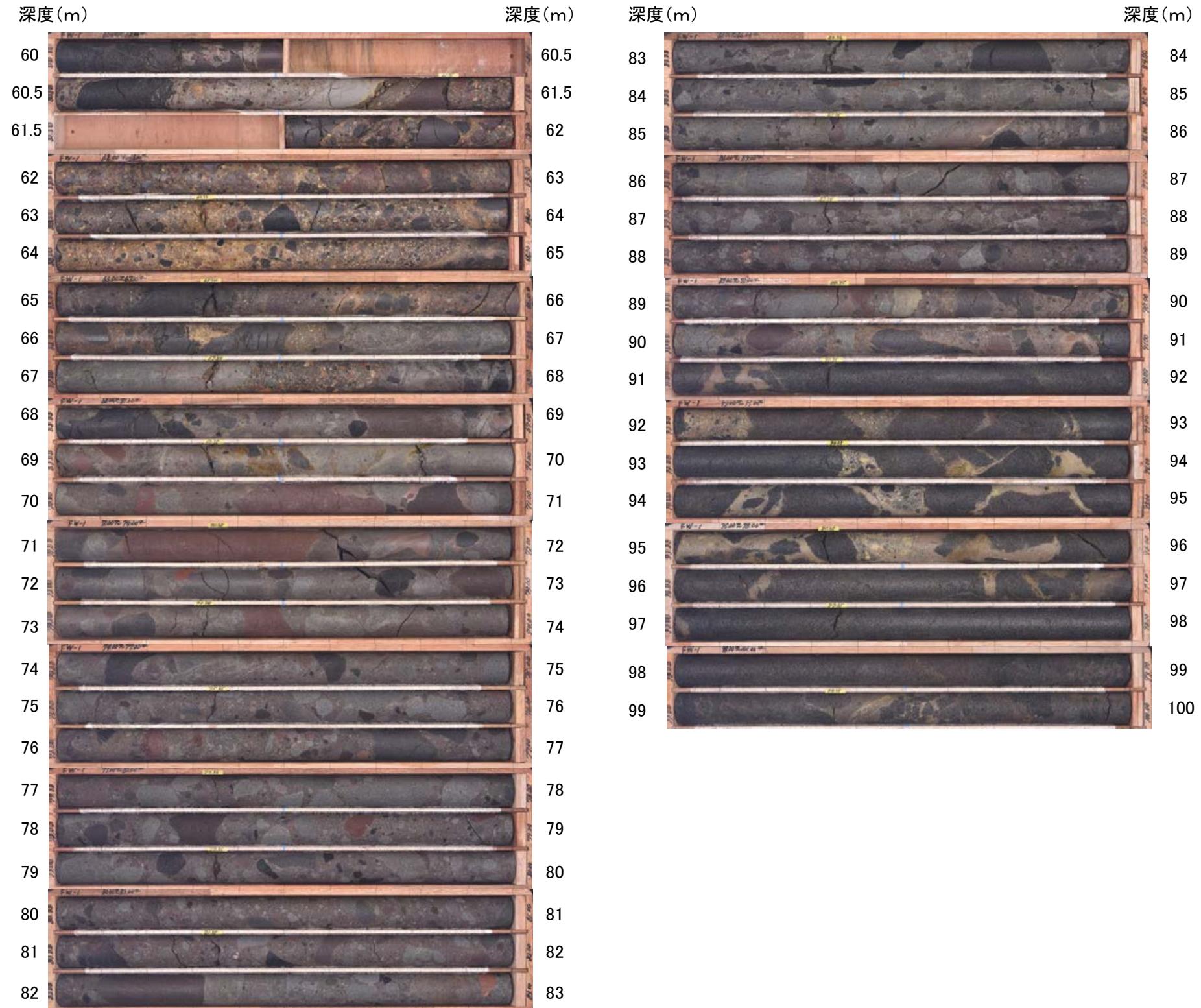


コア写真(深度0~60m)

谷地形(1)

【FW-1孔 コア写真(2/2)】

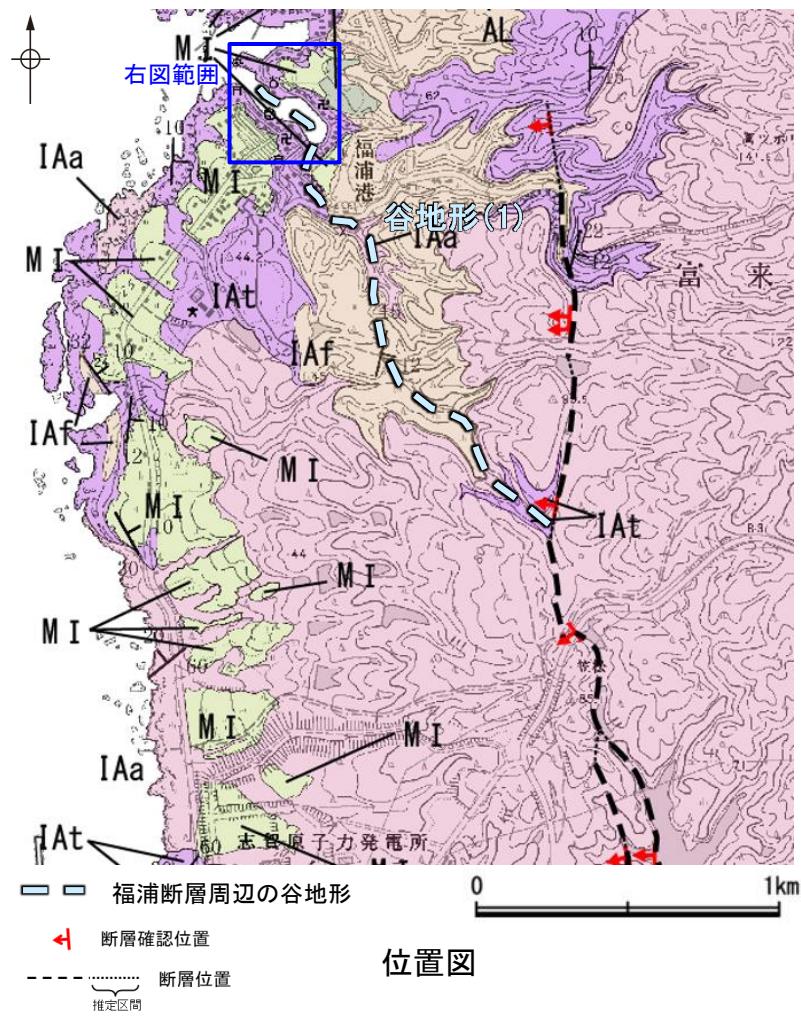
FW-1孔(孔口標高50.99m, 掘進長100m, 傾斜45°)



コア写真(深度60~100m)

谷地形(1)

【海岸部 空中写真】



【地質】

地質時代	地層・岩石名
第四紀 全新世	AL 沖積層
更新世	OF 古期扇状地堆積層
	MI 中位段丘I面堆積層
新第三紀 中新世	IAa 別所岳安山岩類 安山岩
	IAT 別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)
	IATf 別所岳安山岩類 安山岩質～デイサイト質火砕岩(凝灰岩)

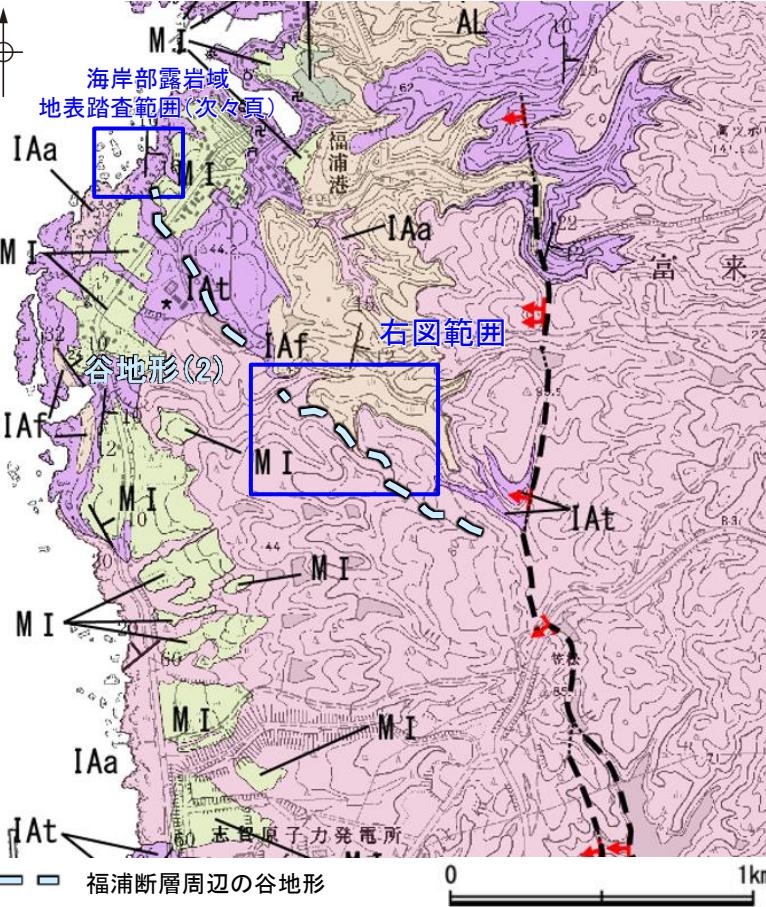


・谷地形(1)の延長位置付近の海岸部は、人工改変により露岩域がほとんど分布しておらず、断層の有無は確認できない。

海岸部露岩域 空中写真
(2012年6月撮影)

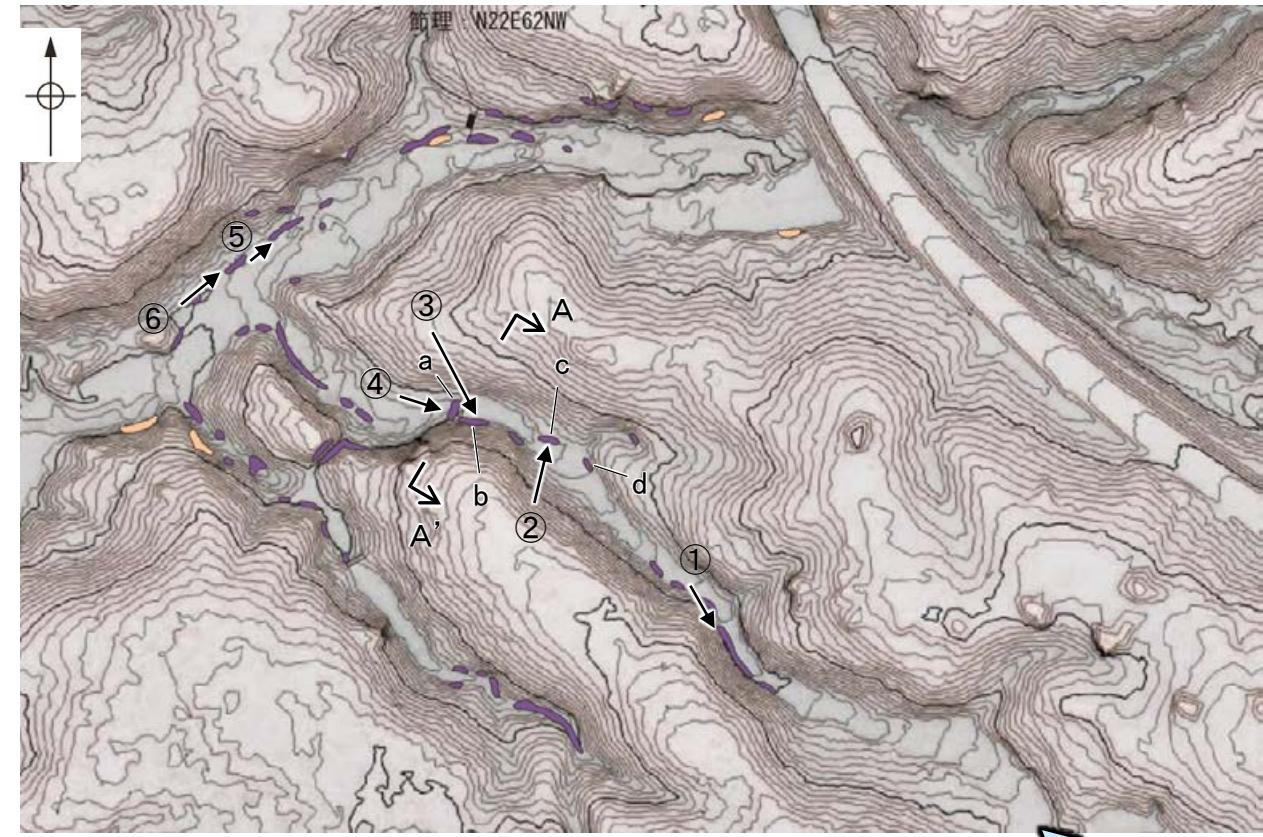
2.2.1 (8) 福浦断層周辺に認められる谷地形 —北西方の地質調査(谷地形(2))—

- 谷地形(2)の沢部で広く地表踏査を実施した結果、堅硬な別所岳安山岩類の安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)及び安山岩質火砕岩(凝灰岩)が分布する。
- 谷地形(2)を横断して表土はぎ調査を実施した結果、別所岳安山岩類の安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)が分布し、それらは非破碎であり、断層は認められない(次頁)。
- 谷地形(2)の延長位置付近の海岸部露岩域で地表踏査を実施した結果、安山岩(均質)、安山岩(角礫質)及び凝灰角礫岩が分布し、断層は認められない(次々頁)。
- 以上より、谷地形(2)の位置に断層は認められない。

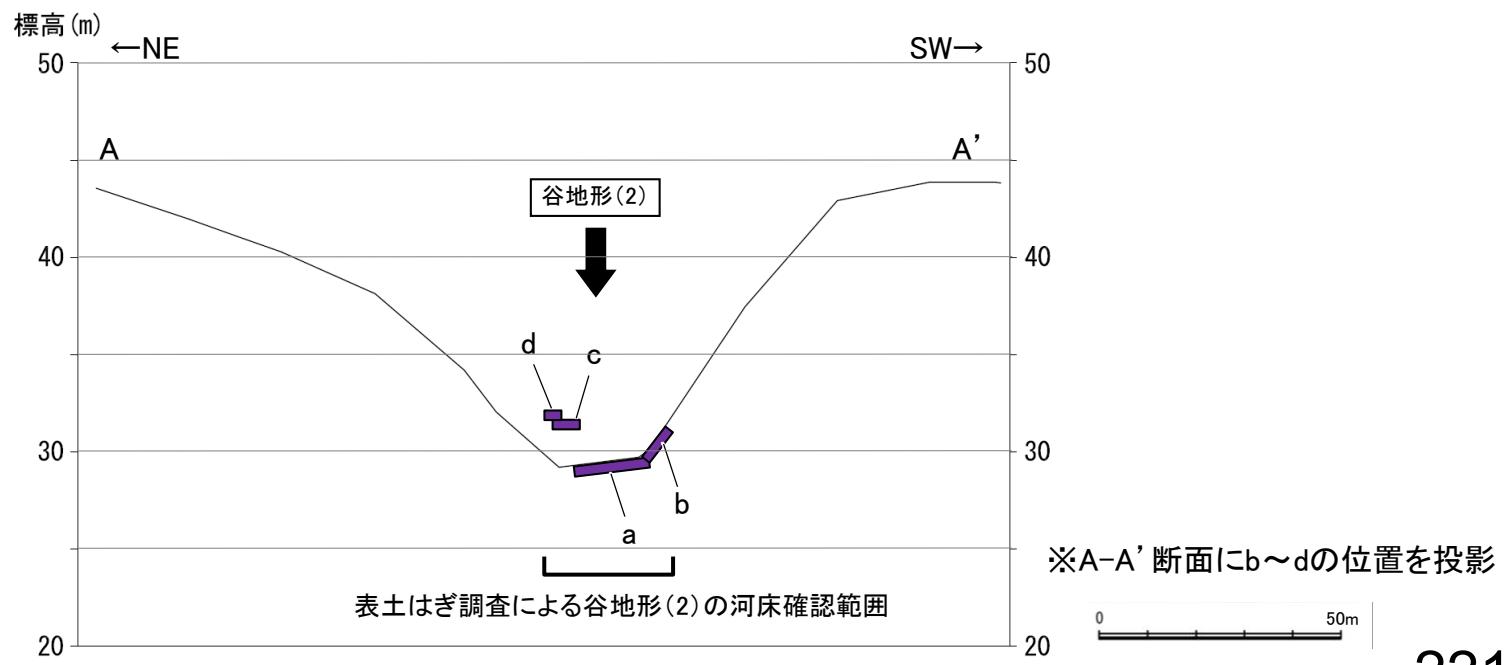


位置図

【地質】		地層・岩石名
第四紀	更新世	AL 沖積層
	更新世	OF 古期扇状地堆積層
	更新世	MI 中位段丘I面堆積層
第三紀	新第三紀	IAa 別所岳安山岩類 安山岩
		IAt 別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)
		IAf 別所岳安山岩類 安山岩質～デイサイト質火砕岩(凝灰岩)



地表踏査結果(ルートマップ) 谷地形(2)



地形断面図※(H:V=1:4)(航空レーザ計測データにより作成)

谷地形(2)

【地表踏査, 表土はぎ調査写真】



写真①



写真②



写真③



写真④



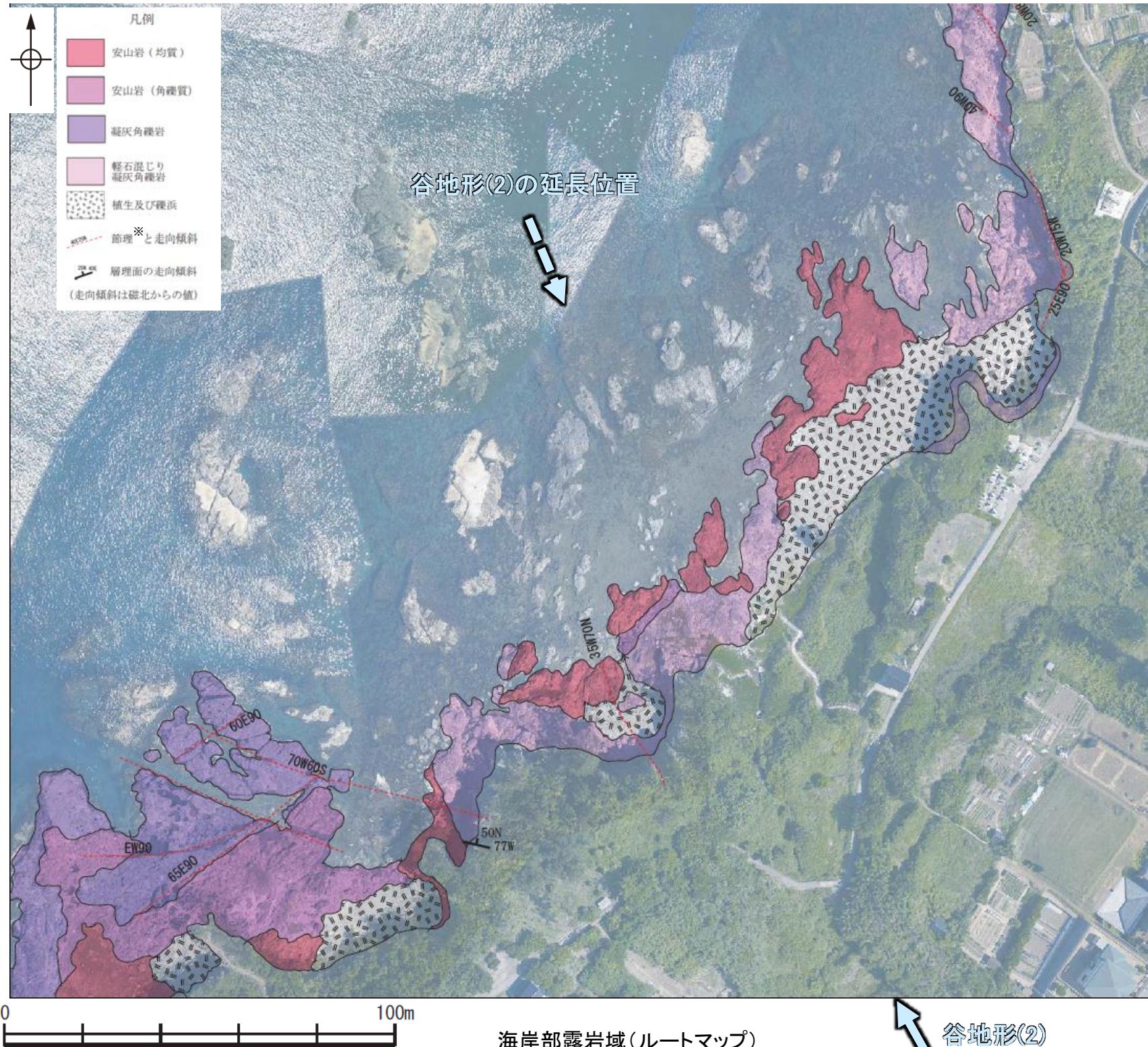
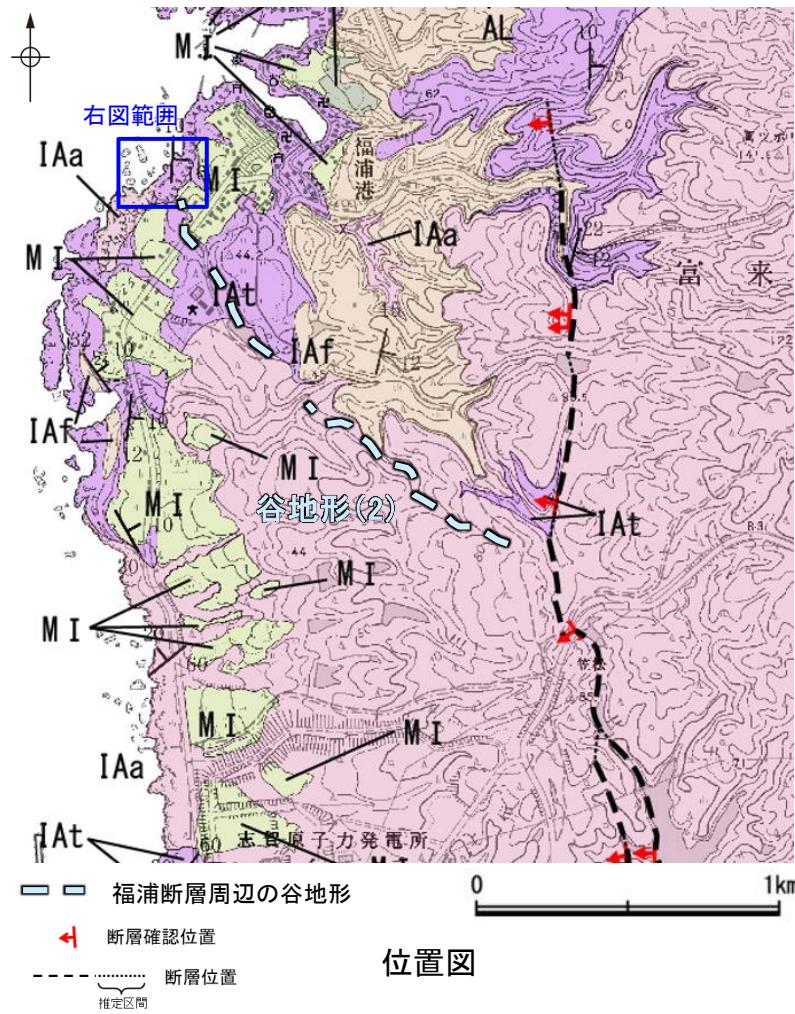
写真⑤



写真⑥

谷地形(2)

【海岸部露岩域 ルートマップ】

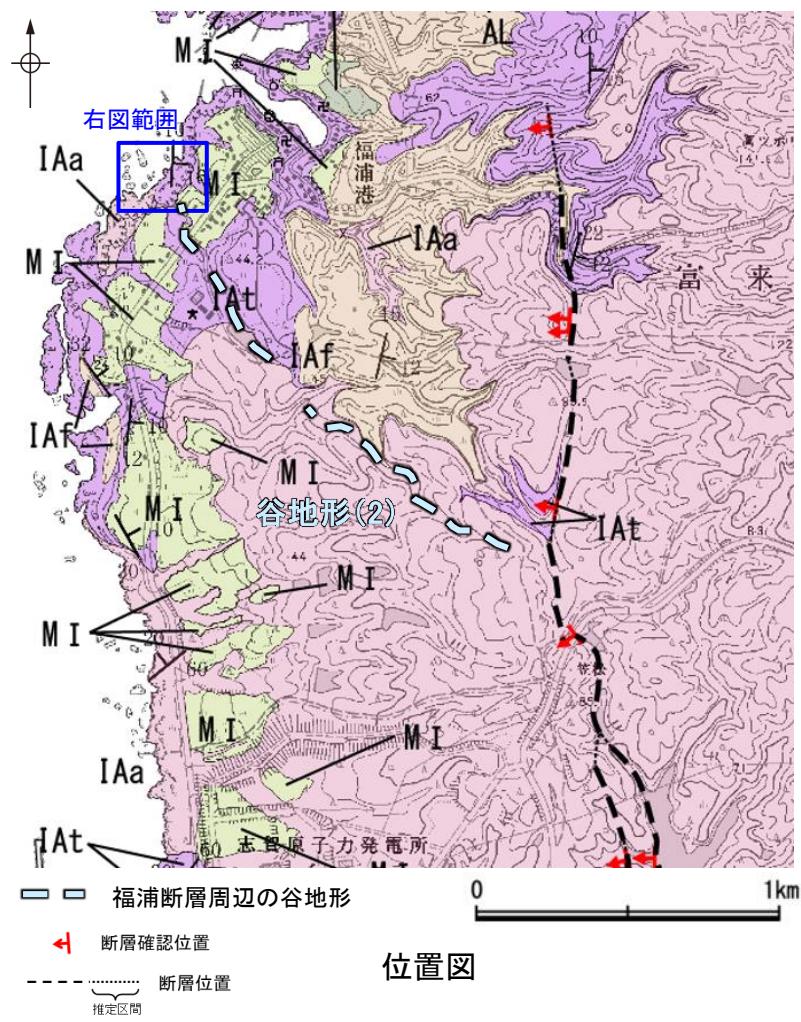


・谷地形(2)の延長位置付近の海岸部露岩域で地表踏査を実施した結果, 安山岩(均質), 安山岩(角礫質)及び凝灰角礫岩が分布し, 断層は認められない。

※比較的連続性のよい節理

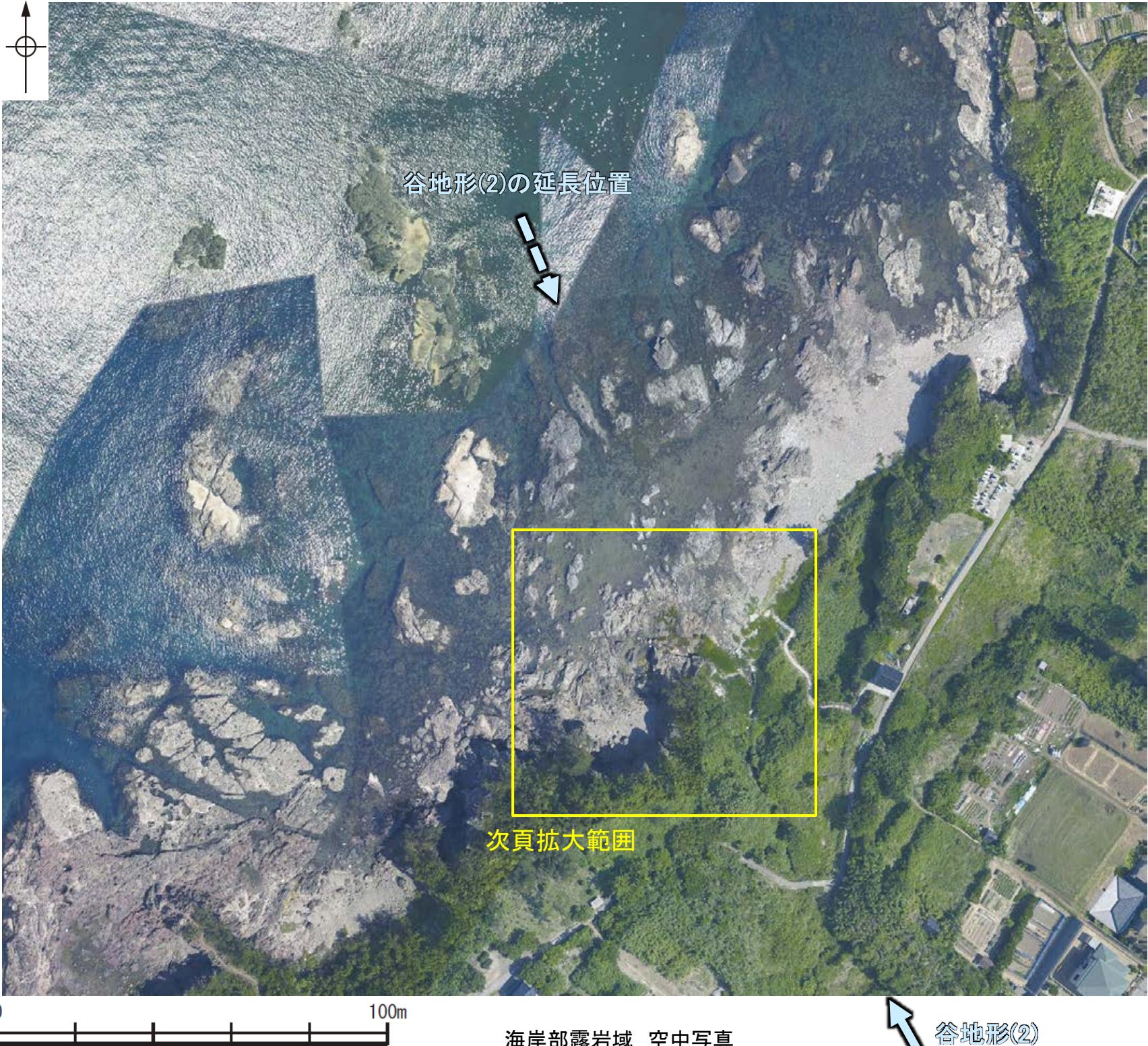
谷地形(2)

【海岸部露岩域 空中写真】



【地質】

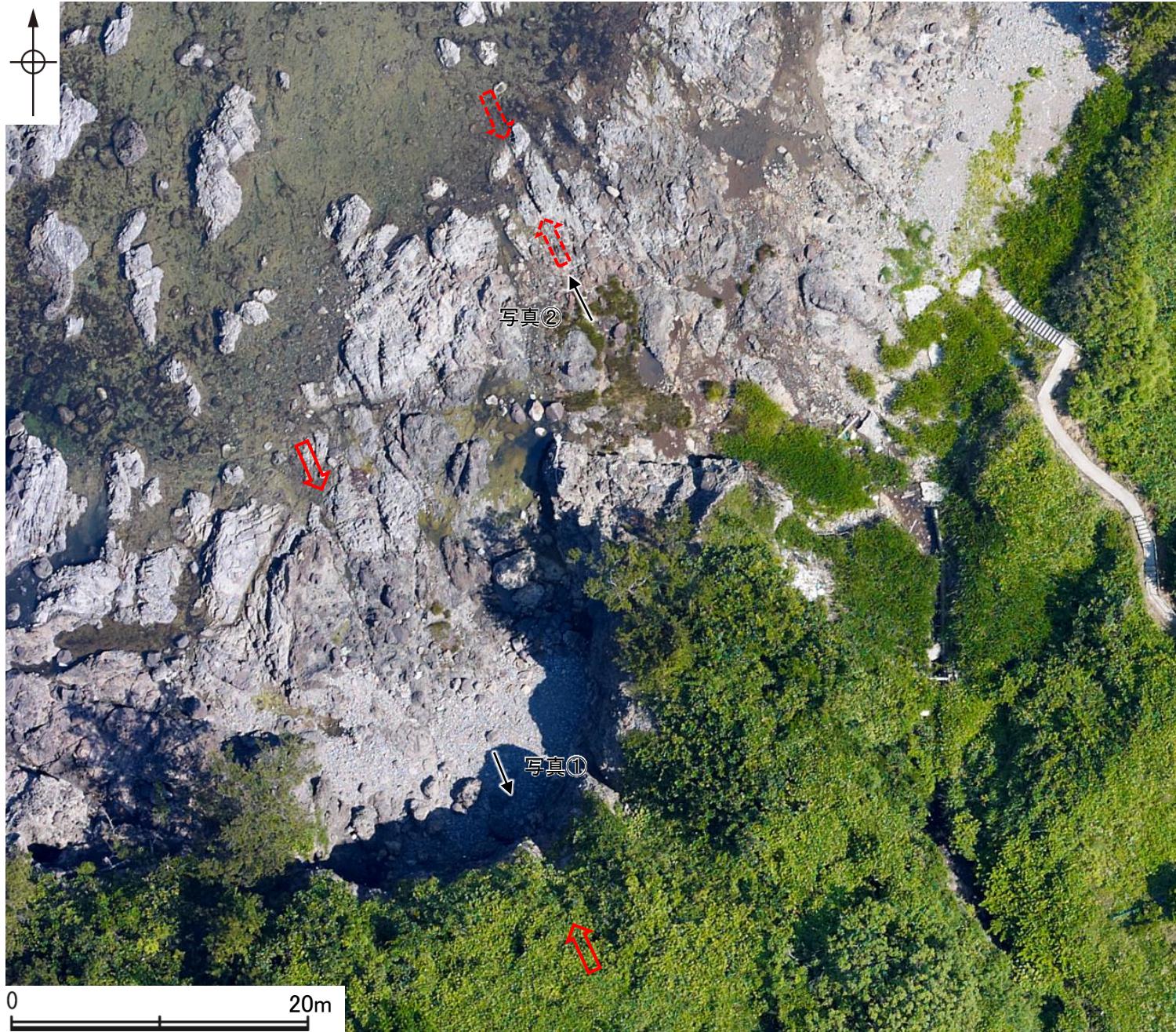
地質時代	新地層の番号	地層・岩石名
第四紀 更新世	AL	沖積層
	OF	古期扇状地堆積層
	MI	中位段丘I面堆積層
第三紀 中新世	IAa	別所岳安山岩類 安山岩
	IAt	別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)
	IAF	別所岳安山岩類 安山岩質~デイサイト質火砕岩(凝灰岩)



谷地形(2)

【海岸部露岩域 拡大写真】

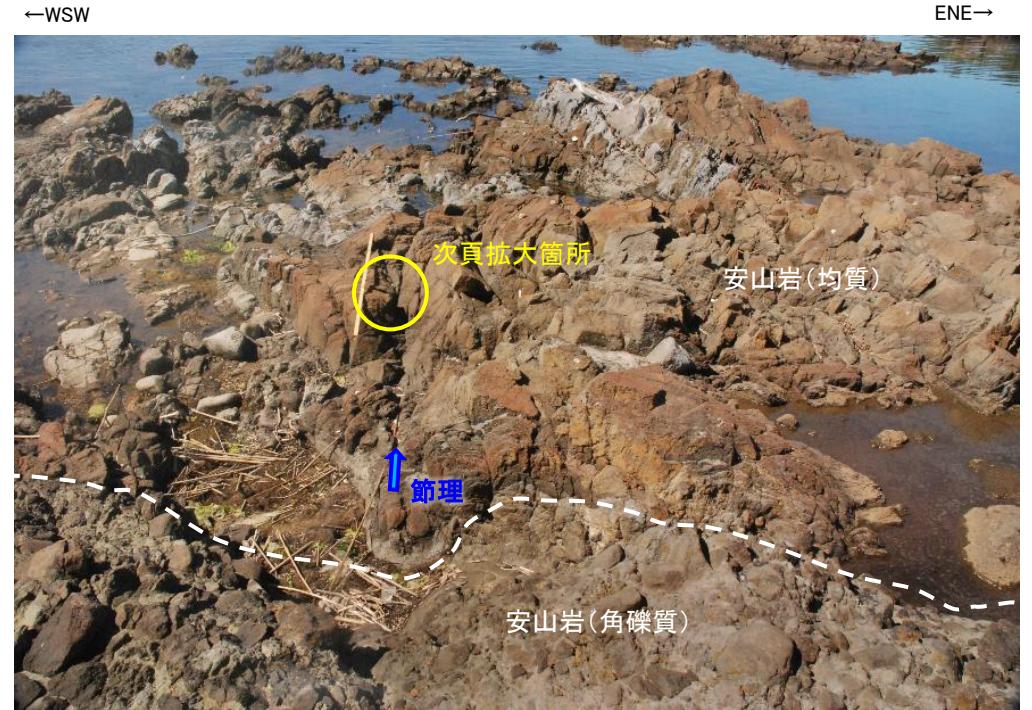
谷地形(2)の延長位置



- 凡例
- 谷地形(2)と走向が調和的な連続性のよい節理
 - 谷地形(2)の延長位置に分布する不連続な節理
 - 写真撮影方向

海岸部露岩域 拡大写真
(2012年6月撮影)

・谷地形(2)と走向が調和的な連続性のよい節理(写真①)に加え、谷地形(2)の延長位置に分布する不連続な節理(写真②)についても、敷地の海岸部露岩域に分布する破碎部(K-2, K-3)との性状比較を実施した(次頁)。



谷地形(2)延長位置 ↑ 写真②
谷地形(2)延長位置の不連続な節理



写真①
谷地形(2)と走向が調和的な連続性のよい節理

谷地形(2)

【節理と破碎部の性状比較】

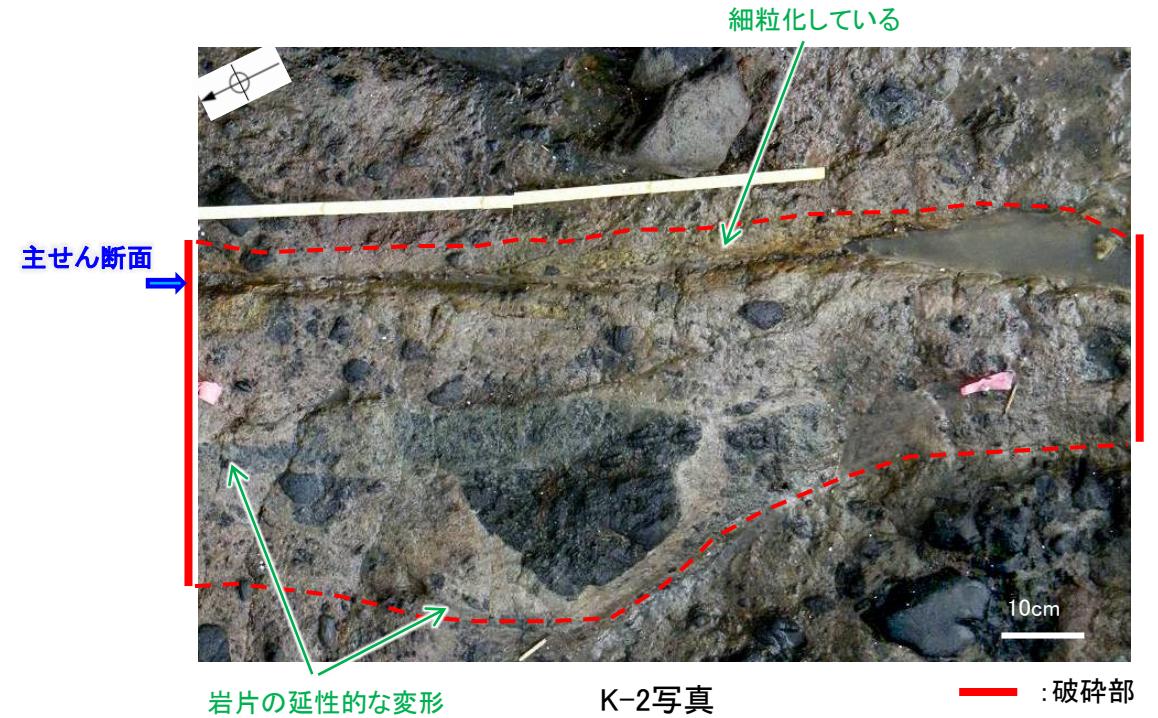
節理

安山岩(均質)中に板状~不規則で不連続な節理が分布し、節理の周辺は細粒化していない



写真②拡大 谷地形(2)延長位置の不連続な節理

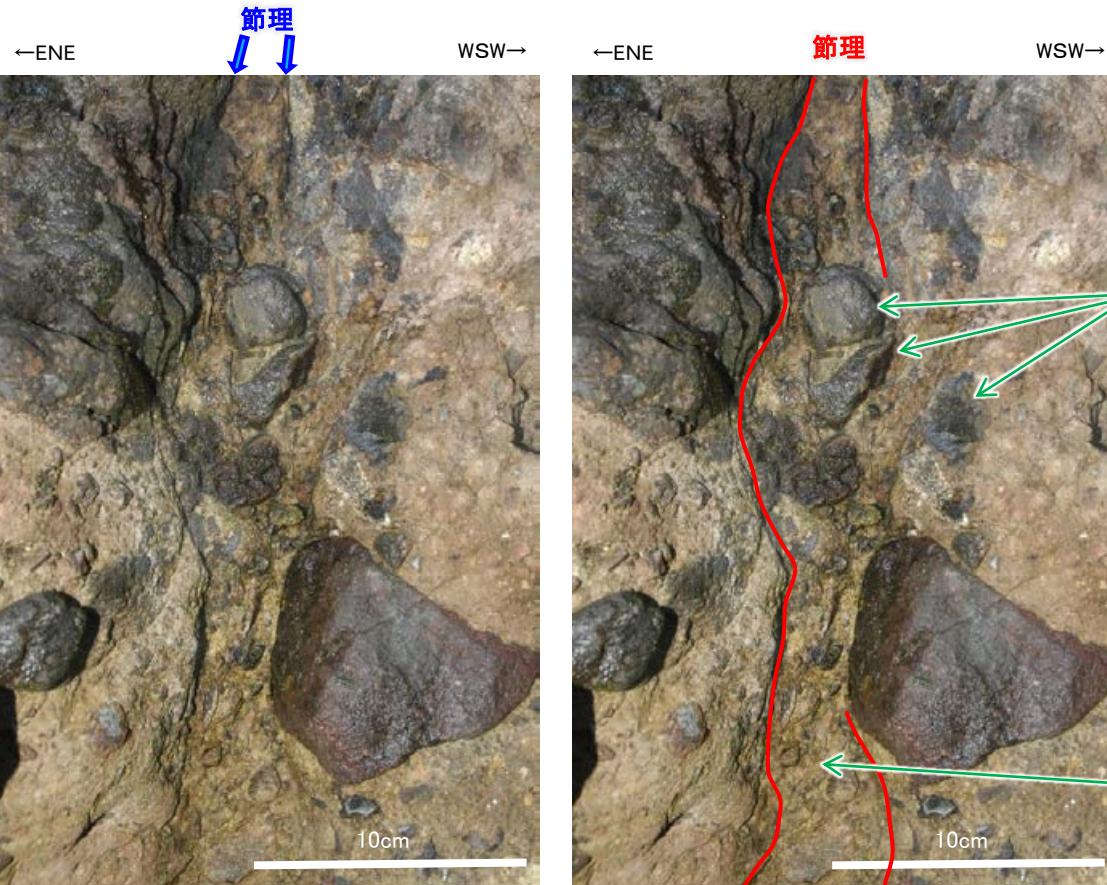
破碎部(敷地内断層の例)※



岩片の延性的な変形

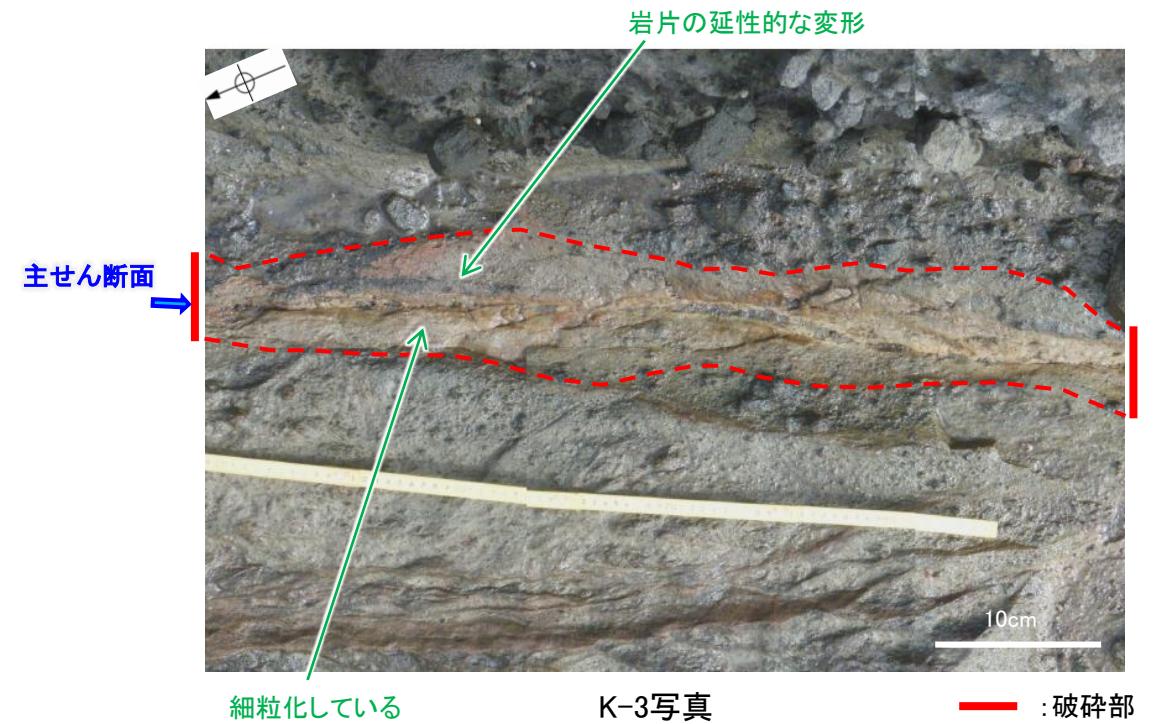
K-2写真

— : 破碎部



岩片に変形は認められない

節理の周辺は細粒化していない



細粒化している

K-3写真

— : 破碎部

※上記破碎部についての詳細は第1121回審査会合 机上配布資料3 参考資料5.10-1(1)-2, 参考資料5.11-1(1)-1

写真①拡大 谷地形(2)と走向が調和的な連続性のよい節理(左:加筆なし, 右:加筆あり)

・節理の周辺が細粒化しておらず、変形構造が認められない。

・主せん断面の周辺が細粒化しており、岩片の延性的な変形などの変形構造が認められる。

2.2.1 (8) 福浦断層周辺に認められる谷地形 — 南西方の評価結果 —

○福浦断層の南西方に分布する谷地形(3), (4)において, 福浦断層から分岐する断層の存否を確認するために地形調査及び地質調査を実施した。

谷地形(3)の調査結果

- 谷地形(3)に対応する断層を図示している文献はない。また, 谷地形(3)に対応するリニアメント・変動地形は判読されない(P.228, 229)。
- 谷地形(3)を挟んで, 中位段丘 I 面及び高位段丘 I a面に高度差がない(P.229)。
- 大坪川下流ボーリング調査(OT-2孔, OT-3孔)の結果, 谷地形(3)の位置に断層は認められない。(P.230~236)
- 地質調査の結果, 谷地形(3)の直進方向に認められる短い谷地形(3')の直上には別所岳安山岩類の安山岩が分布し, そこに断層は認められない(P.237, 238)。

谷地形(3)の位置に断層は認められない。

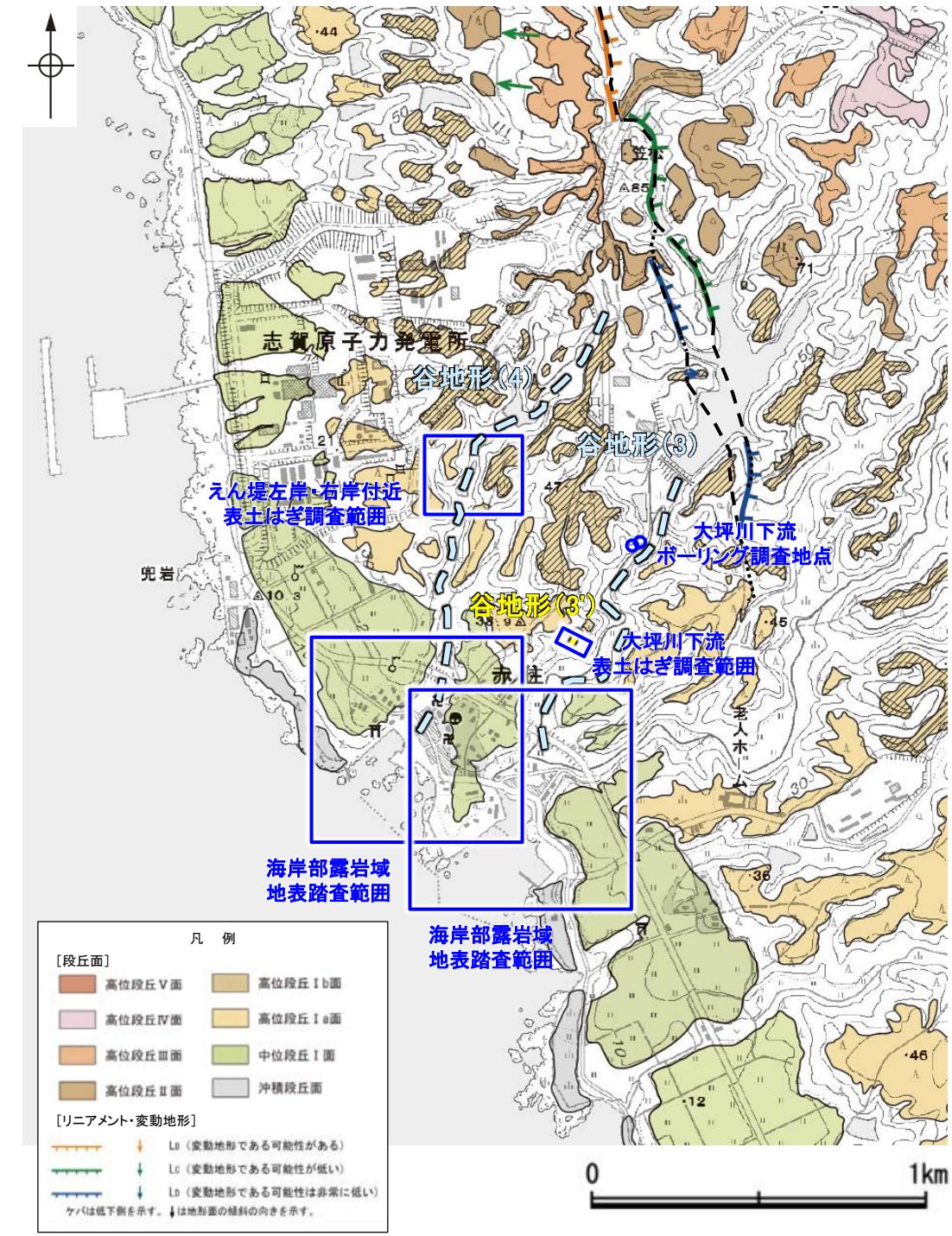
・なお, 谷地形(3)の延長位置付近の海岸部は, 人工改変により露岩域がほとんど分布しておらず, 断層の有無は確認できない(P.239)。

谷地形(4)の調査結果

- 谷地形(4)に対応する断層を図示している文献はない。また, 谷地形(4)に対応するリニアメント・変動地形は判読されない(P.228, 229)。
- 谷地形(4)を挟んで, 中位段丘 I 面及び高位段丘 I a面に高度差がない(P.229)。
- 地質調査の結果, 谷の延長位置を横断する露頭には, 別所岳安山岩類の安山岩及び凝灰角礫岩が連続して分布し, そこに断層は認められない(P.240~242)。

谷地形(4)の位置に断層は認められない。

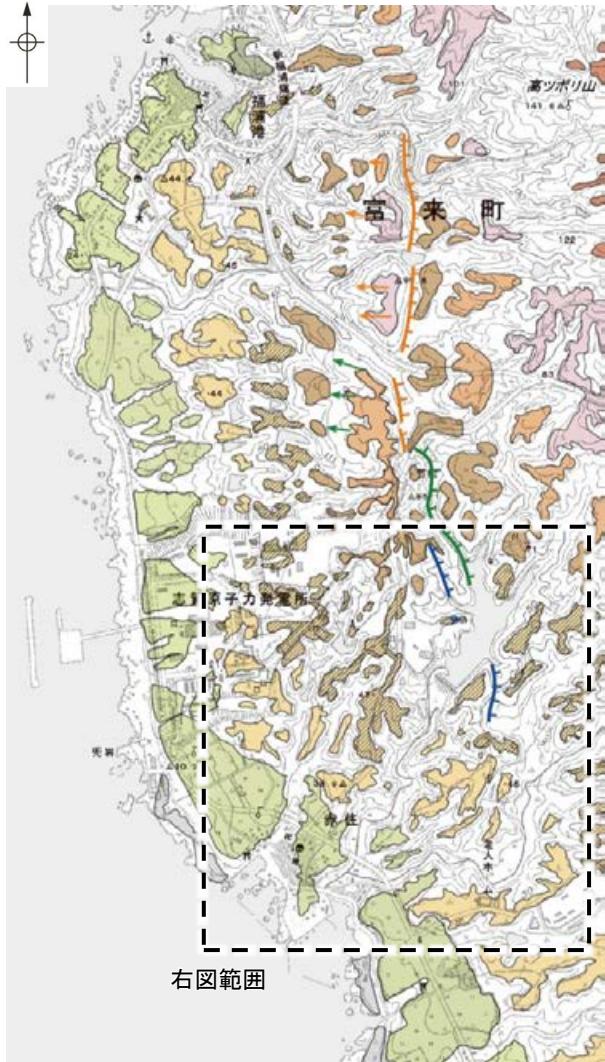
・なお, 谷地形(4)の延長位置付近の海岸部は, 人工改変により露岩域がほとんど分布しておらず, 断層の有無は確認できない(P.243)。



航空レーザ計測データ(2007年実施)を
基に確認した福浦断層周辺の谷地形
位置図
断層位置
推定区間
短い谷地形

2.2.1 (8) 福浦断層周辺に認められる谷地形 — 南西方の地形調査 —

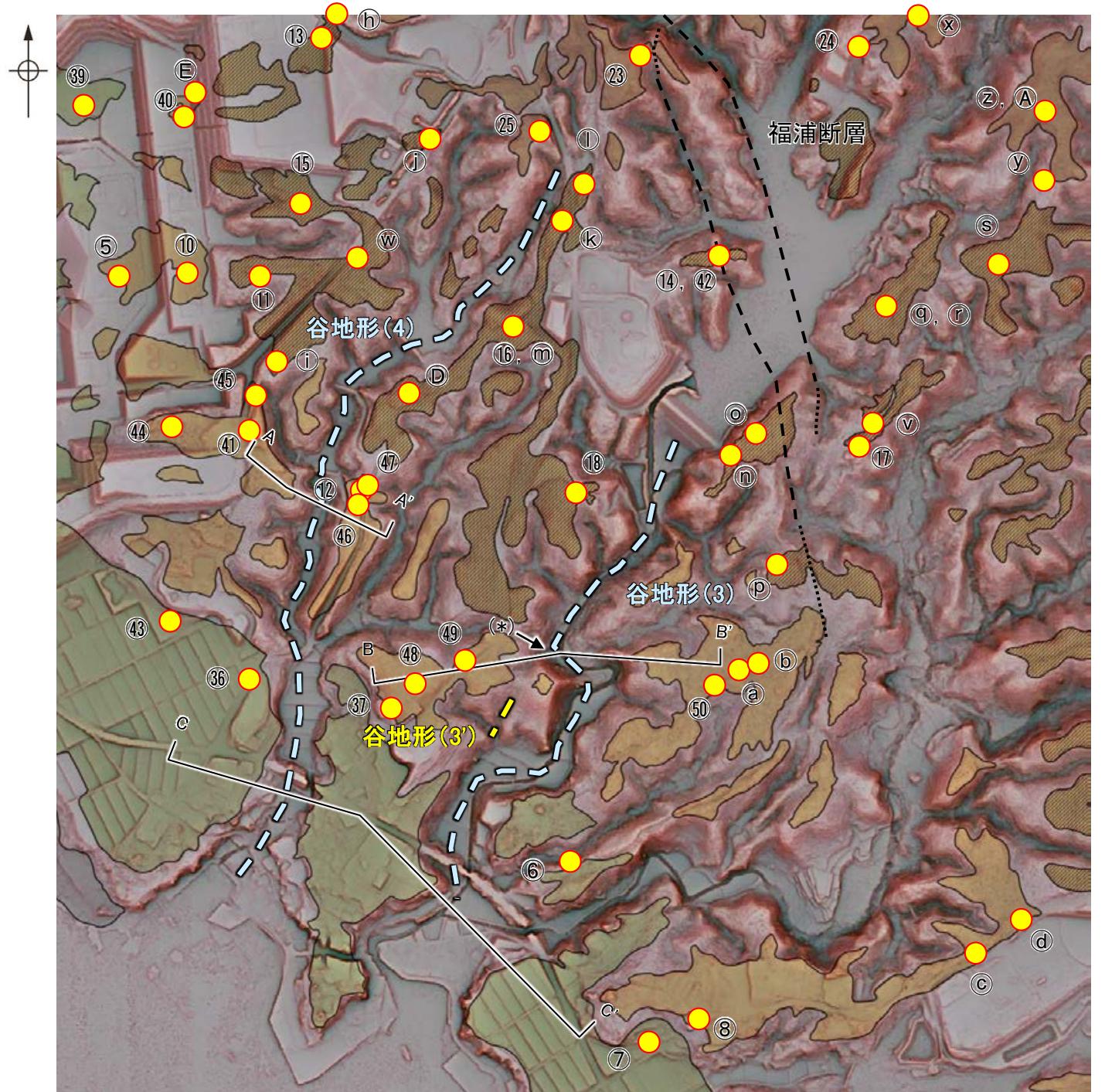
- 谷地形(3)及び谷地形(4)は、直線性に乏しく湾曲して分布する。
- 谷地形(3)は(*)の位置で湾曲するものの、(*)の位置から直進方向に短い谷地形(谷地形(3'))が認められる。
- 谷地形(3)及び谷地形(4)を挟んで分布する中位段丘Ⅰ面及び高位段丘Ⅰa面に高度差がない(次頁)。



位置図

凡例

[段丘面]	
高位段丘Ⅴ面	高位段丘Ⅰb面
高位段丘Ⅳ面	高位段丘Ⅰa面
高位段丘Ⅲ面	中位段丘Ⅰ面
高位段丘Ⅱ面	古期扇状地面
	沖積段丘面
[リニアメント・変動地形]	
↑ (変動地形である可能性がある)	Lb (変動地形である可能性が低い)
↓ (変動地形である可能性が低い)	Lc (変動地形である可能性が非常に低い)
↕ (変動地形である可能性が非常に低い)	
ケバは低下側を示す。 ↓は地形面の傾斜の向きを示す。	



--- 断層位置
----- 推定区間

航空レーザ計測データ(2007年実施)を
基に確認した福浦断層周辺の谷地形
短い谷地形
段丘面調査実施箇所※

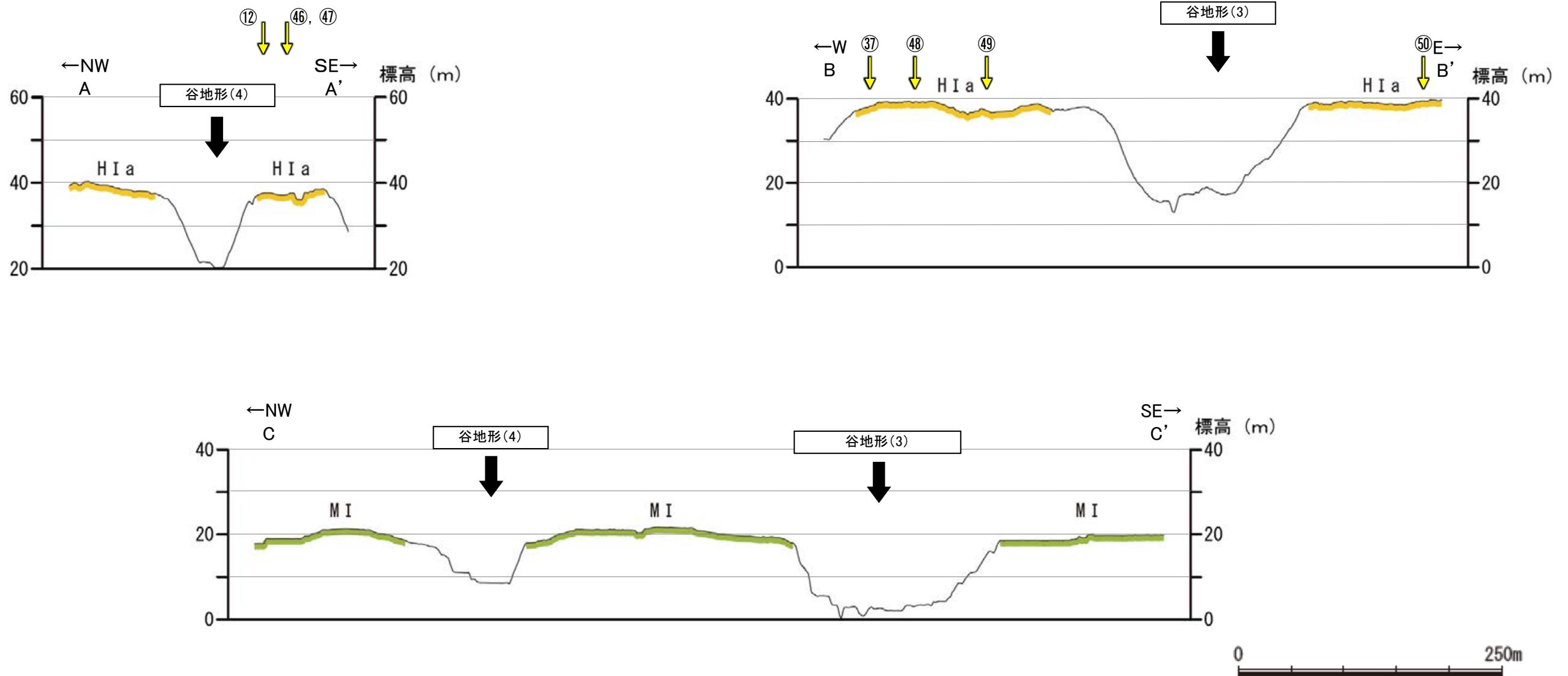
赤色立体地図
(航空レーザ計測データにより作成)

0 250m

※段丘面調査結果は補足資料2.2-1(1)

谷地形(3), (4)

【地形断面図】



地形断面図(H:V=1:4)
(航空レーザ計測データにより作成)

凡例

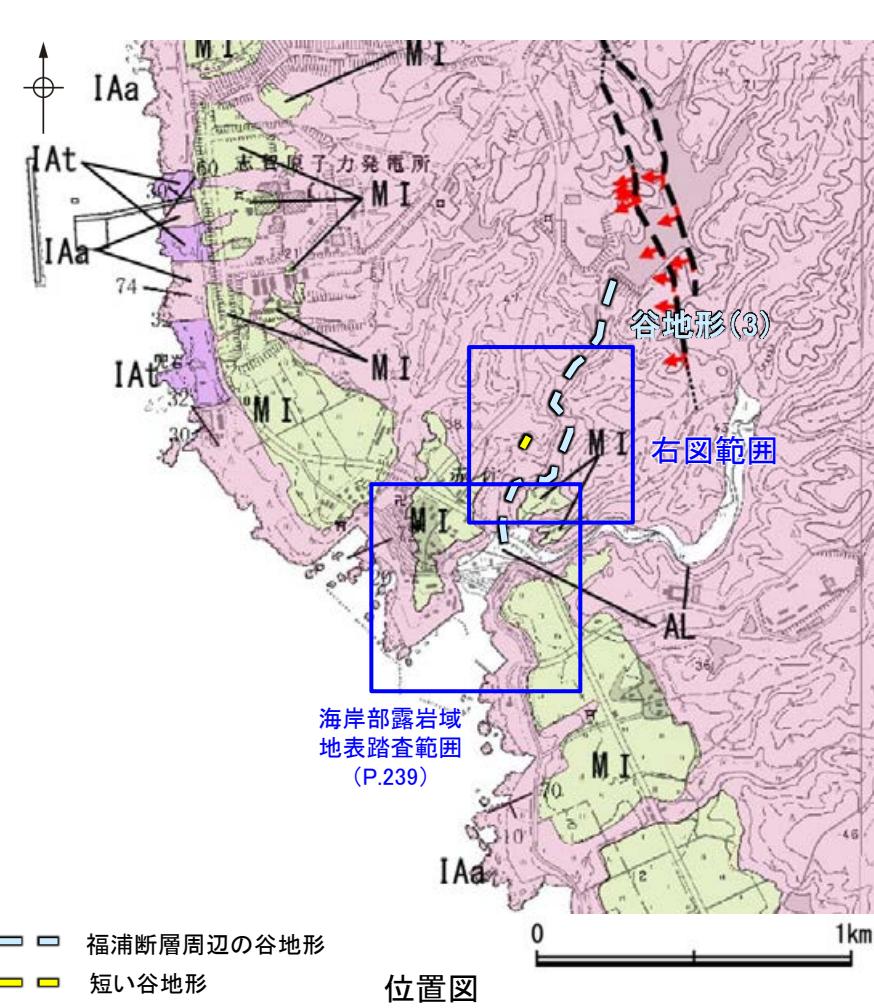
〔段丘面〕	
H I a	高位段丘 I a面
M I	中位段丘 I 面

①
↓ : 段丘面調査実施箇所

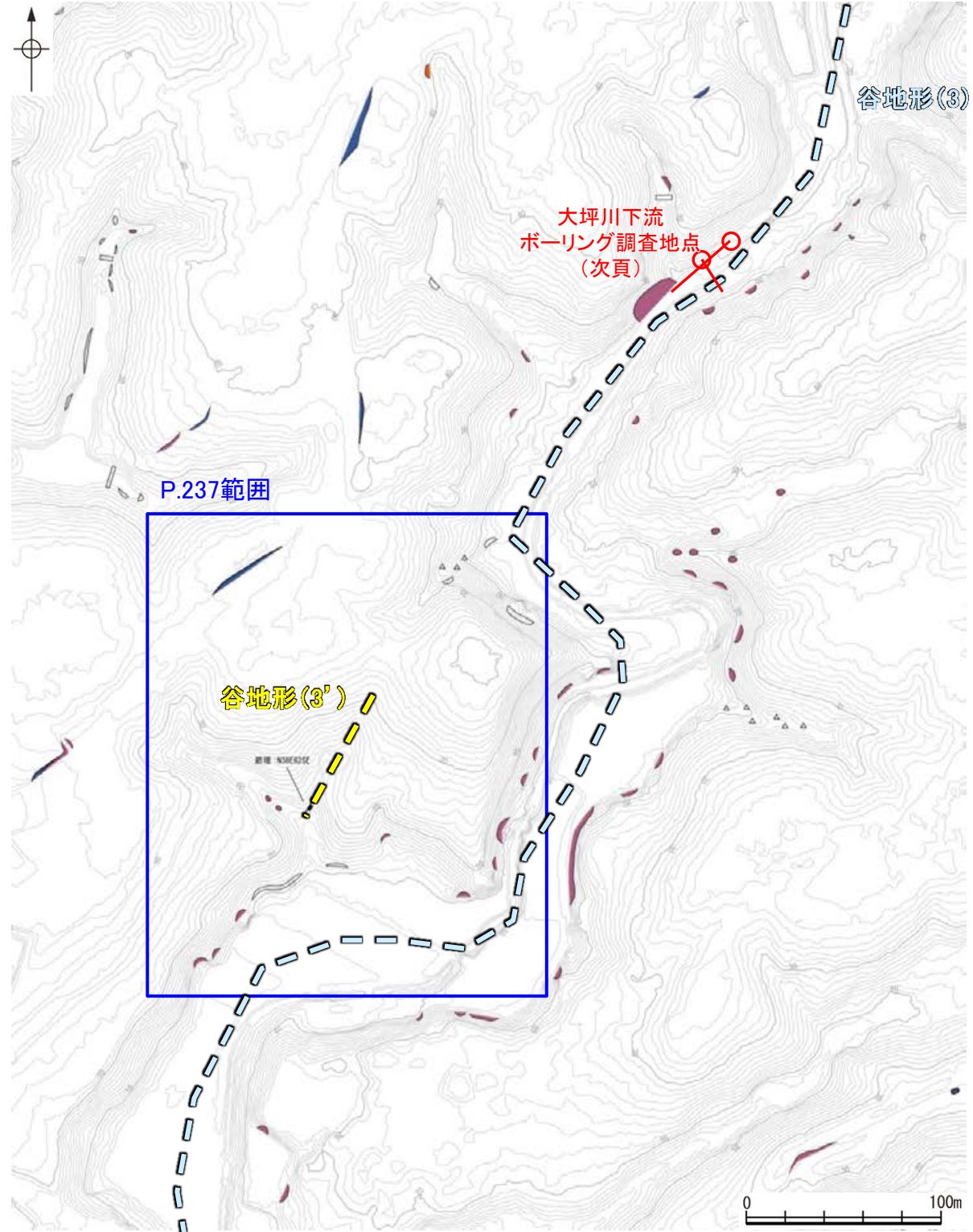
- ・谷地形(3)を挟んで、中位段丘 I 面及び高位段丘 I a面に高度差がない。
- ・谷地形(4)を挟んで、中位段丘 I 面及び高位段丘 I a面に高度差がない。

2.2.1 (8) 福浦断層周辺に認められる谷地形 —南西方の地質調査(谷地形(3))—

- 谷地形(3)の沢部等で地表踏査を実施した結果, 堅硬な別所岳安山岩類の安山岩が分布する。
- ボーリング調査の結果, 谷地形(3)の位置に福浦断層から分岐する断層は認められない(次頁)。
- 谷地形(3')の直上で表土はぎ調査を実施した結果, 別所岳安山岩類の安山岩が分布し, それは非破碎であり, 断層は認められない(P.237, 238)。
- 以上より, 谷地形(3)の位置に断層は認められない。
- なお, 谷地形(3)の延長位置付近の海岸部は, 人工改変により露岩域がほとんど分布しておらず, 断層の有無は確認できない(P.239)。

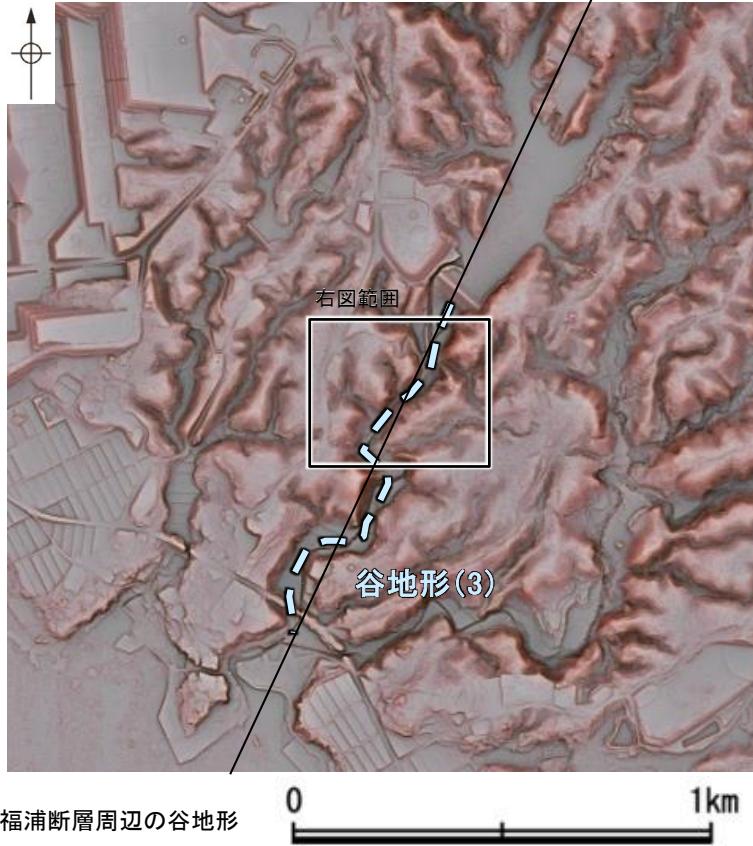


【地質】		地層・岩石名
第 四 紀 新 世	完新世	AL 沖積層
	更新世	OF 古期扇状地堆積層
		MI 中位段丘I面堆積層
新 第 三 紀	岩 層	IAa 別所岳安山岩類 安山岩
		IAt 別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩 (凝灰角礫岩)
		IAt 別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩 (凝灰岩)
		IAt 別所岳安山岩類 安山岩質火砕岩 (凝灰岩)



谷地形(3)

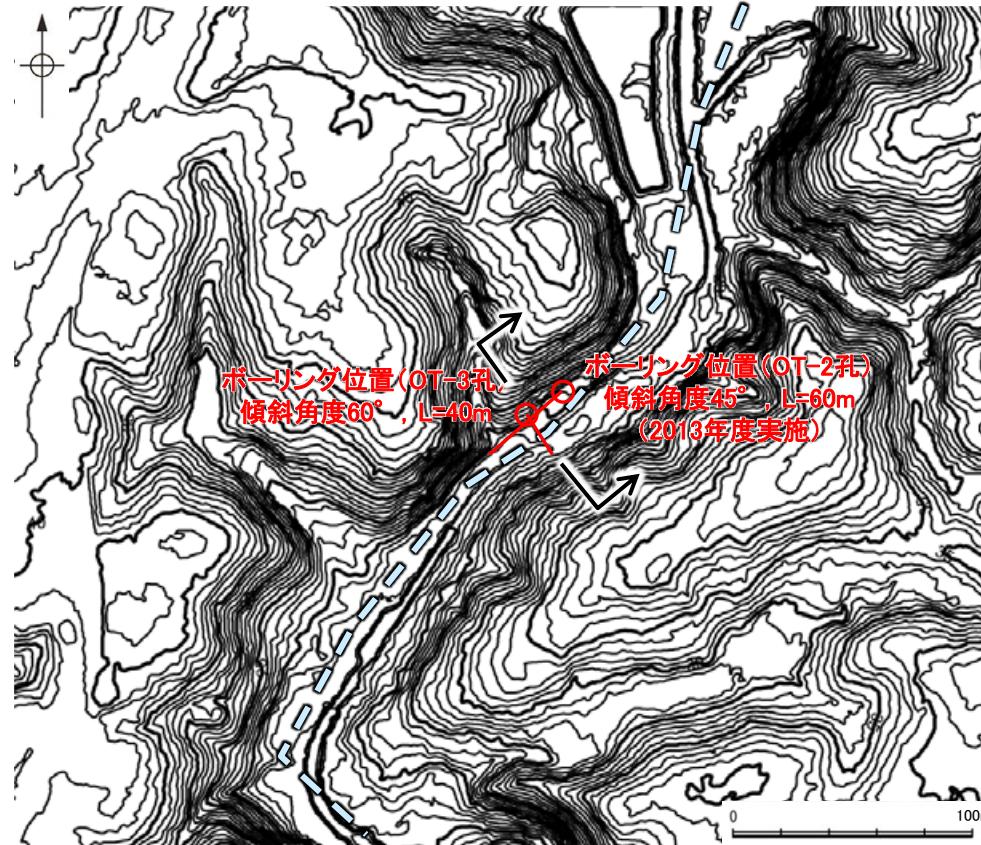
谷地形の方向(N25° E)



位置図

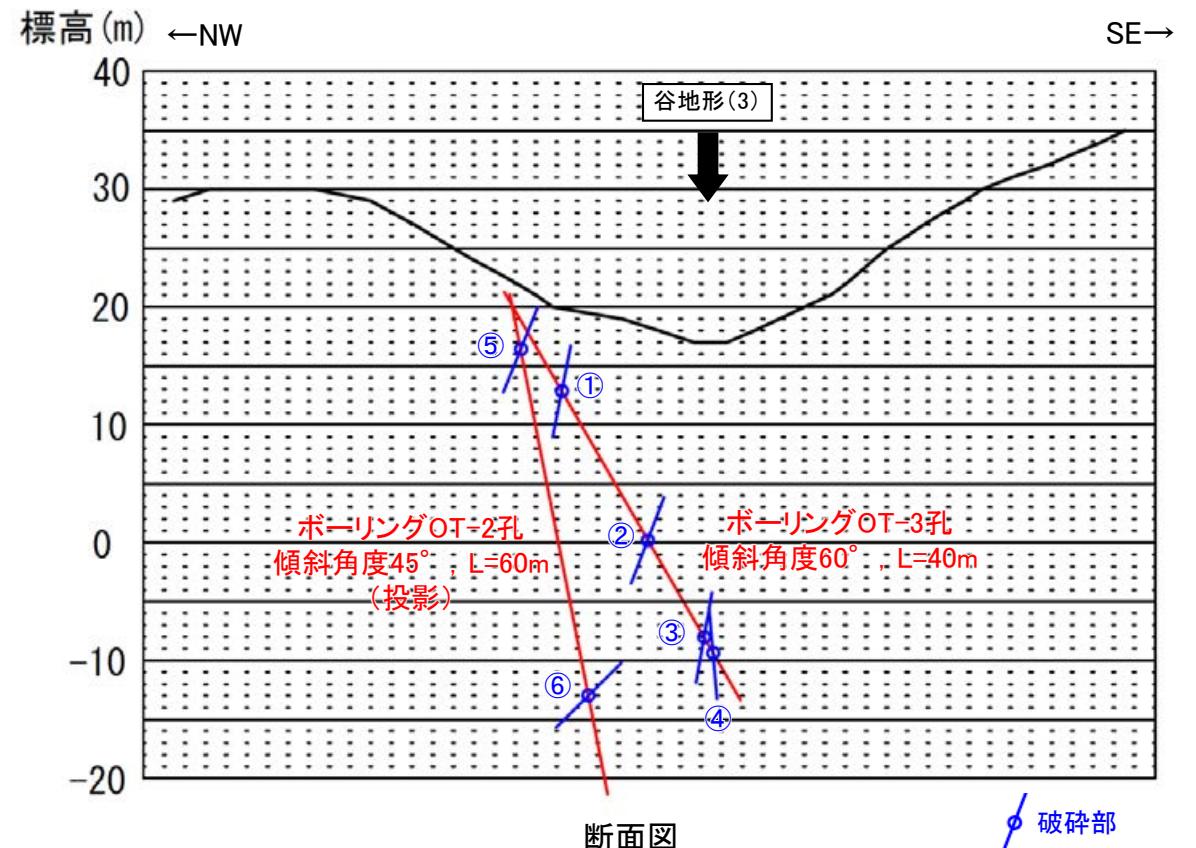
(航空レーザ計測データにより作成)

【大坪川下流 ボーリング調査結果】



調査位置図

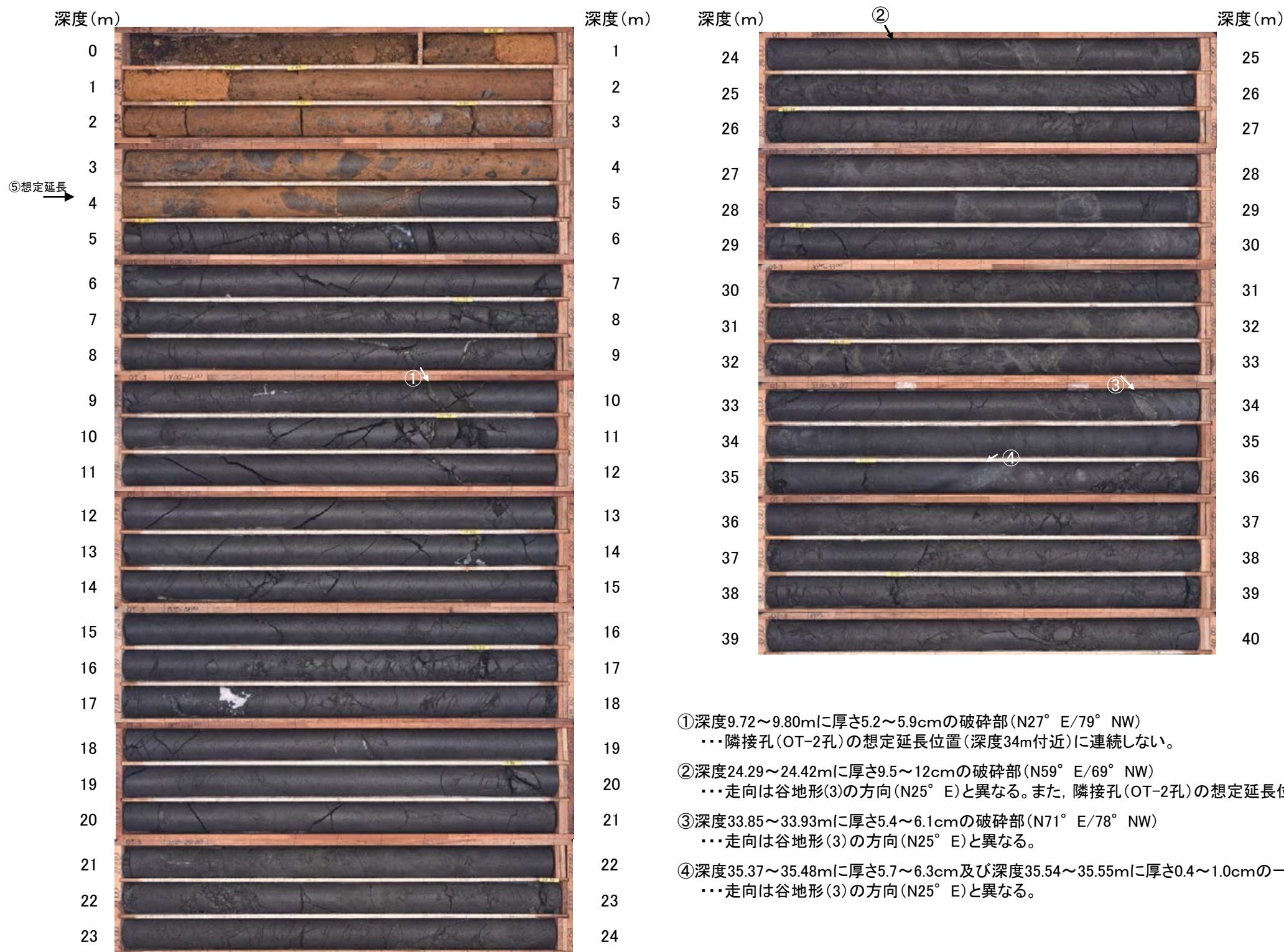
- ・谷地形(3)の位置において福浦断層と同じ傾斜方向である西傾斜の分岐断層の有無を確認するため、谷と直交する方向にOT-3孔、谷と平行な方向にOT-2孔の2本のボーリング調査を実施した。
- ・コア観察の結果、OT-3孔において破砕部が4箇所(①~④)、OT-2孔において破砕部が2箇所(⑤,⑥)確認された。
- ・これらの破砕部①~⑥は、主として固結した破砕部からなり、福浦断層の性状としてみられる厚い未固結な粘土、角礫状破砕部は認められない。
- ・OT-3孔で認められた破砕部①,②は、隣接孔(OT-2孔)の想定延長位置に連続しないことから、連続性に乏しい破砕部である。
- ・OT-3孔で認められた破砕部②,③,④及びOT-2孔で認められた破砕部⑤,⑥は、走向が谷地形(3)の方向(N25° E)とは異なる。
- ・以上より、ボーリング調査の結果、谷地形(3)の位置に福浦断層から分岐する断層は認められないと評価した。



谷地形(3)

【OT-3孔 コア写真】

OT-3孔(孔口標高21.27m, 掘進長40m, 傾斜60°)



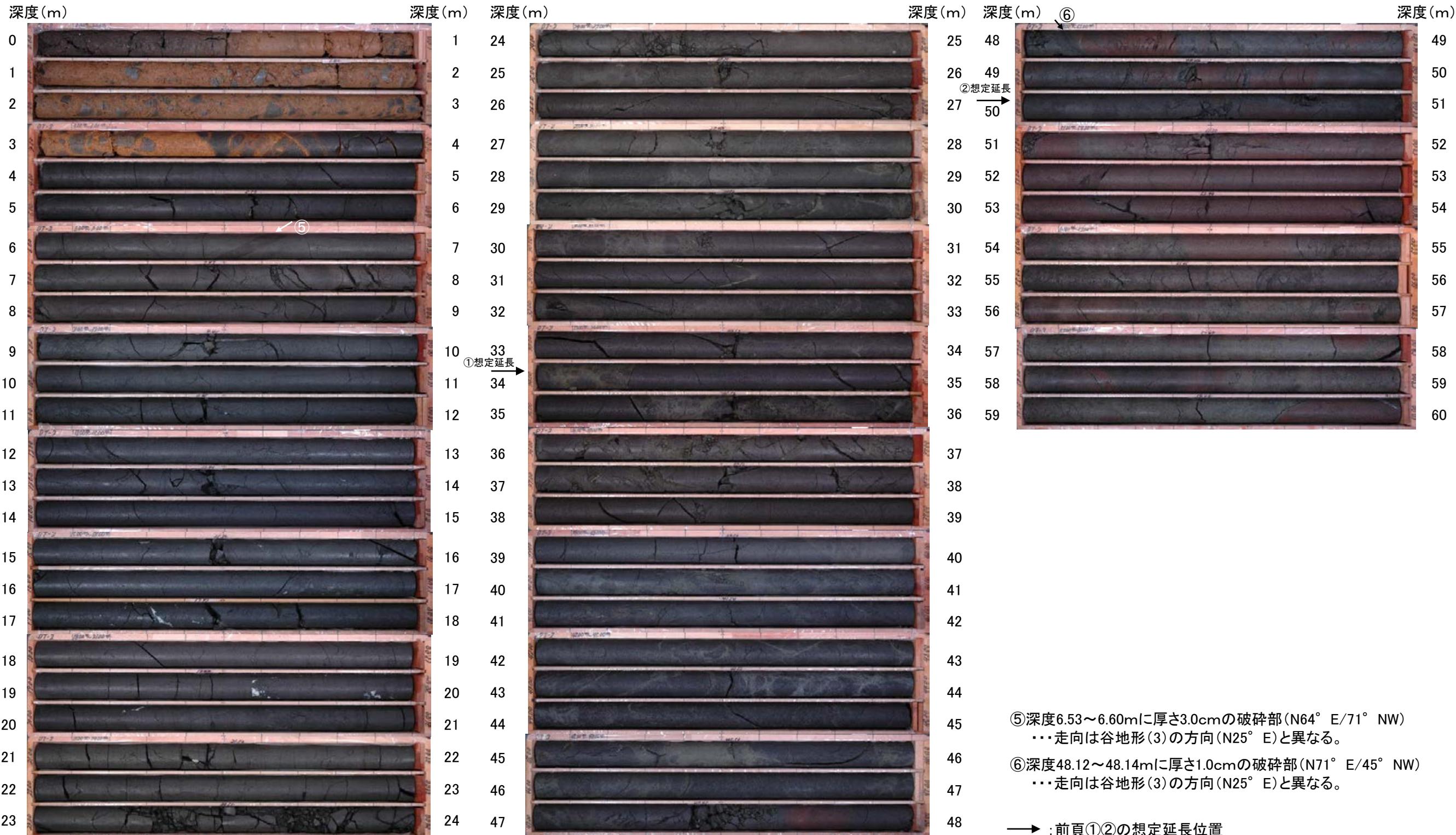
- ① 深度9.72～9.80mに厚さ5.2～5.9cmの破碎部(N27° E/79° NW)
…隣接孔(OT-2孔)の想定延長位置(深度34m付近)に連続しない。
- ② 深度24.29～24.42mに厚さ9.5～12cmの破碎部(N59° E/69° NW)
…走向は谷地形(3)の方向(N25° E)と異なる。また、隣接孔(OT-2孔)の想定延長位置(深度50m付近)に連続しない。
- ③ 深度33.85～33.93mに厚さ5.4～6.1cmの破碎部(N71° E/78° NW)
…走向は谷地形(3)の方向(N25° E)と異なる。
- ④ 深度35.37～35.48mに厚さ5.7～6.3cm及び深度35.54～35.55mに厚さ0.4～1.0cmの一連の破碎部(N77° E/87° SE)
…走向は谷地形(3)の方向(N25° E)と異なる。

コア写真(深度0～40m)

谷地形(3)

【OT-2孔 コア写真】

OT-2孔(孔口標高21.06m, 掘進長60m, 傾斜45°)



- ⑤ 深度6.53~6.60mに厚さ3.0cmの破碎部(N64° E/71° NW)
... 走向は谷地形(3)の方向(N25° E)と異なる。
- ⑥ 深度48.12~48.14mに厚さ1.0cmの破碎部(N71° E/45° NW)
... 走向は谷地形(3)の方向(N25° E)と異なる。

→ : 前頁①②の想定延長位置

コア写真(深度0~60m)

谷地形(3)

【詳細観察(1/3)】

